

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第168集
関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第22集

南蛇井増光寺遺跡Ⅲ

B区・古墳・奈良・平安時代
（本文編）

1994

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団

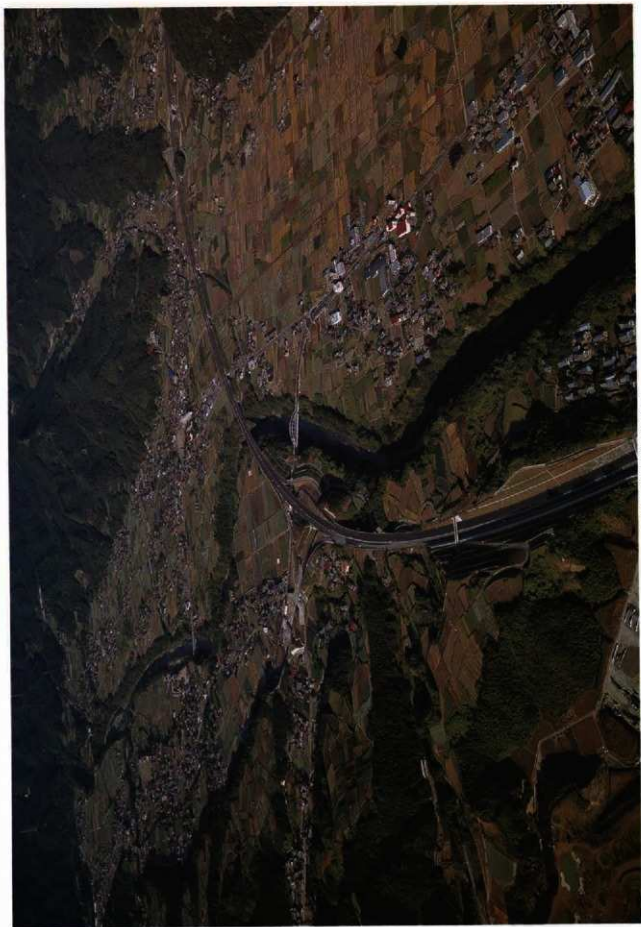
（附）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第168集
関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第22集

南蛇井増光寺遺跡Ⅲ

B区・古墳・奈良・平安時代
（本文編）

1 9 9 4

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団



南蛇井增光寺遺跡航空写真

序

高速自動車道の上信越自動車道は、平成5年3月に開通しました。この建設工事に伴い多くの埋蔵文化財が発掘調査され、記録保存されました。

富岡市南蛇井で調査された南蛇井増光寺遺跡もその一つで、昭和62年10月から平成3年3月までの長期にわたる調査が行われ、縄文時代から平安時代にかけての堅穴住居跡785軒を始め、大量の縄文時代の土壌等が発見、調査されています。中でも弥生時代後期の住居跡は数が多く、鏡川流域のこの時代の研究を進める上で豊富な資料を提供してくれています。

本遺跡については平成3年度より6年計画で報告書作成のための整理作業に入りましたが、調査成果の一部については、既に「南蛇井増光寺遺跡」第1分冊・第2分冊の報告書を刊行しています。今回、これに続いて成果がまとまりましたので、「南蛇井増光寺遺跡」第3分冊の報告書を刊行することにしました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、日本道路公団東京第2建設局、同富岡工事事務所、群馬県教育委員会、富岡市教育委員会、地元関係者の方々から種々、ご指導ご協力を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の歴史を解明する上で広く活用されることを願い序とします。

平成6年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之

例 言

- 1 本書は上信越自動車道建設工事に伴い事前調査された南蛇井増光寺遺跡（事業名称井出遺跡）の発掘調査報告書である。本書は、「南蛇井増光寺遺跡III」、B区古墳～平安時代編で、南蛇井増光寺遺跡の調査結果の分冊の3である。
- 2 南蛇井増光寺遺跡は、群馬県富岡市大字南蛇井字血の池・増光寺、大字中沢字久保界戸・中里地内に所在する。遺跡名は当遺跡の中心を占める小字名増光寺を用いて「南蛇井増光寺遺跡」とした。
- 3 本発掘調査は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。
- 4 実際の発掘調査は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団内に上越線地域埋蔵文化財調査を目的に設置された関越道上越線調査事務所（多野郡吉井町町陽台3-15-8所在）が担当した。
- 5 調査期間及び担当者は以下のとおりである。（（ ）内は当時の職名）
 - (1) 発掘調査 調査期間 昭和62年10月1日～平成3年3月31日
発掘担当者
昭和62年度 依田治雄（専門員）、三浦茂三郎（調査研究員）
昭和63年度 大木紳一郎（主任調査研究員）、小野和之（主任調査研究員）、若林正人（調査研究員）、飯塚 聡（調査研究員）、津金澤吉茂（専門員）
平成元年度 依田治雄、伊藤 肇（主任調査研究員）、若林正人、小野和之、飯塚 聡、桜井美枝（調査研究員）、飯塚卓二（専門員）、新井 仁（調査研究員）、高島英之（調査研究員）、綿貫観次郎（主任調査研究員）、斎藤利昭（調査研究員）、船藤 亨（調査研究員）
平成2年度 依田治雄、伊藤 肇、桜井美枝、小野和之、飯塚 聡、高島英之、飯塚卓二、飛田野 正佳（調査研究員）、亀山幸弘（調査研究員）
 - (2) 整 理 整理期間 平成4年7月1日～平成6年3月31日、整理担当者 伊藤 肇
 - (3) 事 務 常務理事 白石保三郎（昭和61～63年度）、邊見長雄（平成元～4年）、中村英一
事務局長 井上唯雄（昭和61～62年度）、松本浩一（昭和63～平成3年度）、近藤 功
管理部長 大沢秋良（昭和61年度）、田口紀雄（昭和62～平成2年度）、佐藤 勉
調査研究部長 上原啓巳（昭和61～63年度）、神保侑史
課 長 岩丸大作（平成2～3年度）、斎藤俊一
主 任 国定 均、須田朋子、吉田有光
主 事 柳岡良宏、船津 茂、高橋定義
非常勤嘱託 松下 登、土橋まり子
臨時職員 吉田恵子、今井もと子、角田みづほ、松井美智代、塩浦ひろみ、内山佳子
関越道上越線調査事務所
所 長 井上 信（昭和61～63年度）、高橋一夫（平成元～平成2年度）、阿部千明（平成3年4月～11月）、松本浩一（11月～3月兼任）、吉田 肇

総括次長	片桐光一（昭和61～平成元年度）、大沢友治（平成2～3年度）
次 長	原田恒弘（昭和62年度）、徳江 紀（昭和63～平成2年度）
課 長	長谷部達雄（昭和61年度）、鬼形芳夫（昭和63～平成2年度）、依田治雄
庶務課	係長代理 黒沢重樹（昭和61～63年度）、宮川初太郎（平成元～2年度）
主 任	固定 均（昭和63～平成元年度）、笠原秀樹（平成2～3年度）、吉田有光
臨時職員	山崎郁夫、神戸市四郎、松井留男、町田康子、本城美樹、後閑玲子、田中知恵美、高田千恵、吉田登志子、高橋あゆみ

6 報告書作成関係者

編 集 伊藤 肇

本文執筆 伊藤 肇、依田治雄（第1章第1節1）

遺構写真 依田治雄、伊藤 肇、三浦茂三郎、若林正人

保存処理 関 邦一（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団技師）、土橋まり子（非常勤嘱託）、小村浩一（補助員）、樋口一之（補助員）、小沼恵子（補助員）

遺物写真 佐藤元彦（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団技師）

遺物観察 伊藤 肇、新井悦子

整理補助 新井悦子（嘱託員）、手塚ふみ江、長岡和恵、茂木範子、小久保トシ子、水出かおる、藤井文江、角田ひろみ、茂木みさ子、井野和子

委託関係 航空写真 シン航空写真株式会社、国際航業、たつみ写真館

遺構測量、遺構・遺物トレース 株式会社測研

その他 石材鑑定については、群馬県地質研究会飯島静男氏にお願いした。









7 出土遺物・図面・写真類は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターが保管している。

8 報告書作成に当たり、富岡市教育委員会にご教示・ご指導をいただいた。記して謝意を表す次第である。

9 発掘調査従事者

相川よし江、赤尾由市（故人）、赤尾チエノ、浅香重作、浅香法子、浅香春造、阿部千代子、新井英子、新井俊成、飯野幸代、飯野しげ、飯間 操、五十嵐りん、池田泰夫、池田美子、石井るい、磯貝アイ、磯貝千代、井田松寿、市川かず子、市川定吉、市川佐太郎、市川きの子、市川近太郎、井上進一、猪野広吉、今井千枝子、今井鉄夫、岩井英治、岩井英次郎、岩井 稔、岩井幸雄、岩井すみ、岩崎うたの、上原ヨネ、白田秀子、浦野幸子、小島福次、小野沢しづ子、小野沢トヨ子、恩田たけ、加藤静江、神戸キヨ子、神戸好教、木戸幸子、木戸 茂、木戸まみ、木戸ふじ子、久保みち子、黒沢利次、黒沢富美子、小坂廣廣、木暮広起、小柴さよ子、斎藤隆男、斎藤リン、佐々木音吉、佐藤 清、佐藤節子、沢田由夫、佐俣 功、清水富士江、清水よう子、下山あき、神宮一枝、瀬間きみ、高橋栄子、高橋加市、高橋武秀、武田トヨ、武田 巽、田村梅之祐、田村嘉三郎、田村カメ、田村キヨ子、田村 清、田村けさ子、田村たけ、田村仁平、田村ふみ、田中イサミ、津金沢信子、出浦郷助、中野セツ、中野利一、中村保男、広澤幸子、広澤はる、広澤八重子、藤本 弘、古屋慶子、増田道雄、篠きみ子、篠 みつ、松井シズ江、茂木げん子、茂木文次郎、茂木 実、柳沢昭一、山内勝広、横尾幸子、吉岡わか

凡 例

- 1 各遺構実測図の縮尺は次の通りである。
住居跡—1/60、竈・貯蔵穴等付属施設—1/30、掘立柱建物跡—1/60、土坑—1/30とした。又、基準としてスケールを配している。
- 2 遺構実測図に記した断面基準線等は、いずれも海拔標高を表す。
- 3 遺構実測図の方位記号は、座標北を示す。(国土地標IX系)
- 4 遺物実測図の縮尺は、次の通りである。
土器については、環・埴・皿・蓋等1/3、甕・壺・羽釜・甔等1/4、磁石については1/3、紡錘車・土錘・玉類1/2、鉄製品1/2を基本としており、それ以外はその都度縮尺を示した。
- 5 遺構及び遺物実測図中のスクリーン・トーンは下記のことを示す。
(遺構)  焼土  粘土  軽石
(遺物)  灰軸陶器施軸部分  黒色処理部分  燻処理部分
 石器の使用面  土器の磨り面
遺構図面に関しては、必要に応じ遺物分布のドット図を作成したが、シンボルマークは下記のことを示す。
土器 ● 石・石製品 ■ 土製品 ★ 鉄製品 ▲ 炭化材 □
- 6 出土遺物については、遺物観察表を用いて記した。なお遺物番号は、遺物実測図・遺構実測図内遺物番号・遺物観察表遺物番号・写真図版遺物番号に一致する。
- 7 遺物観察表中の色調は、農林水産技術会議事務局監修(財)日本色彩研究所色要監修「新版標準土色帳」1988年度版を使用している。
- 8 住居跡の面積値は、プランメーターで3回計測し、その平均値を用いている。
- 9 報告書中に掲載した第1図は国土地理院1:50,000の地形図「富岡」を使用した。

目 次

巻頭カラー写真図版

序

例 言

凡 例

目 次

挿図目次

表 目 次

写真図版目次

抄 録

第1章 発掘調査の経過

第1節 調査に至る経緯と調査の経過 …………… 依田 治 雄 …… 1

第2節 調査の方法 …………… 伊 藤 肇 …… 4

第3節 基本土層 …………… 伊 藤 肇 …… 5

第2章 周辺の環境

第1節 南蛇井増光寺遺跡周辺の歴史的環境 …………… 伊 藤 肇 …… 6

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 南蛇井増光寺遺跡B区の概要 …………… 伊 藤 肇 …… 8

第2節 住居跡と出土遺物 …………… 伊 藤 肇 …… 12

第3節 掘立柱建物跡と出土遺物 …………… 伊 藤 肇 …… 260

第4節 土坑・集石と出土遺物 …………… 伊 藤 肇 …… 268

第5節 遺構外出土遺物 …………… 伊 藤 肇 …… 279

第4章 ま と め

第1節 検出された遺構について …………… 伊 藤 肇 …… 284

第2節 南蛇井増光寺遺跡B区出土の灰釉陶器について …………… 依田 治 雄・伊 藤 肇 …… 289

第3節 南蛇井増光寺遺跡B区 Gr-31縄文土器について …………… 山 口 逸 弘 …… 299

抄 録

写真図版

付 図

挿 図 目 次

第 1 図	南蛇井増光寺遺跡位置図	1	第 57 図	26・77号住居跡	55
第 2 図	南蛇井増光寺遺跡調査区及びグリッド配置図	4	第 58 図	25号住居跡、出土遺物実測図	56
第 3 図	南蛇井増光寺遺跡基本土層図	5	第 59 図	27号住居跡、竈	57
第 4 図	周辺の遺跡分布図	7	第 60 図	27号住居跡出土遺物実測図	58
第 5 図	1号住居跡	12	第 61 図	30号住居跡	58
第 6 図	1号住居跡竈、出土遺物実測図	13	第 62 図	30号住居跡竈、出土遺物実測図	59
第 7 図	2号住居跡、出土遺物実測図	14	第 63 図	34号住居跡(1)	60
第 8 図	3号住居跡(1)、竈	15	第 64 図	34号住居跡(2)	60
第 9 図	3号住居跡(2)	16	第 65 図	34号住居跡竈、出土遺物実測図(1)	61
第 10 図	3号住居跡出土遺物実測図	16	第 66 図	34号住居跡出土遺物実測図(2)	62
第 11 図	4 A・4 B号住居跡	17	第 67 図	35号住居跡、竈	63
第 12 図	4 A号住居跡出土遺物実測図	18	第 68 図	37号住居跡	64
第 13 図	4 B号住居跡出土遺物実測図	18	第 69 図	37号住居跡出土遺物実測図(1)	65
第 14 図	6号住居跡出土遺物実測図	20	第 70 図	37号住居跡出土遺物実測図(2)	66
第 15 図	83号住居跡出土遺物実測図(1)	20	第 71 図	38号住居跡	67
第 16 図	6・83・84号住居跡、83号住居跡竈	折り込み	第 72 図	38号住居跡竈、出土遺物実測図	68
第 17 図	83号住居跡出土遺物実測図(2)	23	第 73 図	40号住居跡(1)	69
第 18 図	84号住居跡出土遺物実測図	23	第 74 図	40号住居跡(2)	69
第 19 図	7号住居跡	24	第 75 図	40号住居跡竈、出土遺物実測図	70
第 20 図	7号住居跡出土遺物実測図	25	第 76 図	41号住居跡出土遺物実測図(1)	71
第 21 図	8号住居跡	26	第 77 図	41号住居跡出土遺物実測図(2)	72
第 22 図	8号住居跡出土遺物実測図	27	第 78 図	42号住居跡、竈	73
第 23 図	10号住居跡(1)	28	第 79 図	42号住居跡出土遺物実測図	73
第 24 図	10号住居跡(2)	28	第 80 図	43号住居跡	74
第 25 図	10号住居跡竈、出土遺物実測図	29	第 81 図	44号住居跡、出土遺物実測図	75
第 26 図	11号住居跡	29	第 82 図	45号住居跡(1)	76
第 27 図	12号住居跡(1)、竈	31	第 83 図	45号住居跡(2)、竈	76
第 28 図	12号住居跡(2)	32	第 84 図	45号住居跡出土遺物実測図	77
第 29 図	12号住居跡出土遺物実測図(1)	32	第 85 図	46号住居跡	78
第 30 図	12号住居跡出土遺物実測図(2)	33	第 86 図	46号住居跡竈	79
第 31 図	13号住居跡(1)、竈	34	第 87 図	46号住居跡出土遺物実測図	79
第 32 図	13号住居跡(2)	35	第 88 図	47号住居跡(1)	80
第 33 図	13号住居跡出土遺物実測図	35	第 89 図	47号住居跡竈	80
第 34 図	14号住居跡	36	第 90 図	47号住居跡(2)、出土遺物実測図	81
第 35 図	14号住居跡竈、出土遺物実測図	37	第 91 図	48号住居跡	82
第 36 図	15号住居跡、竈	38	第 92 図	49号住居跡	82
第 37 図	15号住居跡出土遺物実測図	39	第 93 図	49号住居跡出土遺物実測図	83
第 38 図	16号住居跡、竈	40	第 94 図	50号住居跡	83
第 39 図	16号住居跡出土遺物実測図	41	第 95 図	50号住居跡出土遺物実測図	84
第 40 図	17号住居跡、竈	42	第 96 図	52号住居跡	84
第 41 図	17号住居跡出土遺物実測図(1)	43	第 97 図	52号住居跡竈、出土遺物実測図	85
第 42 図	17号住居跡出土遺物実測図(2)	44	第 98 図	53号住居跡	86
第 43 図	18号住居跡	45	第 99 図	53号住居跡遺物出土図	87
第 44 図	18号住居跡竈、出土遺物実測図	46	第 100 図	53号住居跡出土遺物実測図	87
第 45 図	19号住居跡、竈	47	第 101 図	54号住居跡、竈	88
第 46 図	19号住居跡出土遺物実測図	47	第 102 図	54号住居跡出土遺物実測図	89
第 47 図	20号住居跡、竈	48	第 103 図	55号住居跡出土遺物実測図	89
第 48 図	20号住居跡出土遺物実測図	48	第 104 図	56号住居跡	90
第 49 図	21号住居跡	49	第 105 図	56号住居跡	91
第 50 図	21号住居跡竈	50	第 106 図	56号住居跡出土遺物実測図	92
第 51 図	24号住居跡(1)	50	第 107 図	57号住居跡、竈、東壁石組	折り込み
第 52 図	24号住居跡(2)、竈	51	第 108 図	57号住居跡出土遺物実測図(1)	95
第 53 図	24号住居跡出土遺物実測図	51	第 109 図	57号住居跡出土遺物実測図(2)	96
第 54 図	25号住居跡	52	第 110 図	58号住居跡、竈	96
第 55 図	25号住居跡出土遺物実測図(1)	53	第 111 図	58号住居跡出土遺物実測図(1)	97
第 56 図	25号住居跡出土遺物実測図(2)	54	第 112 図	58号住居跡出土遺物実測図(2)	98

第1130号	64号住居跡	99	第176号	123号住居跡	152
第114号	64号住居跡出土遺物実測図	100	第177号	125号住居跡、電	153
第115号	65号住居跡出土遺物実測図	100	第178号	125号住居跡出土遺物実測図	154
第116号	65号住居跡	101	第179号	126号住居跡(1)	154
第117号	66号住居跡	102	第180号	126号住居跡(2)、電	155
第118号	66号住居跡電、出土遺物実測図	103	第181号	126号住居跡出土遺物実測図	156
第119号	67号住居跡	104	第182号	127号住居跡	157
第120号	67号住居跡出土遺物実測図(1)	105	第183号	127号住居跡電、出土遺物実測図	158
第121号	67号住居跡出土遺物実測図(2)	106	第184号	128・151号住居跡	折り込み
第122号	68号住居跡	107	第185号	128・151号住居跡出土遺物実測図	161
第123号	68号住居跡電、出土遺物実測図	108	第186号	129号住居跡、電	162
第124号	69号住居跡(1)	109	第187号	129号住居跡出土遺物実測図	163
第125号	69号住居跡(2)	109	第188号	130・131号住居跡	164
第126号	69号住居跡出土遺物実測図	110	第189号	130号住居跡電、130・131号住居跡出土遺物実測図	165
第127号	70号住居跡	111	第190号	133号住居跡(1)、電	166
第128号	70号住居跡出土遺物実測図	112	第191号	133号住居跡(2)	167
第129号	71号住居跡	113	第192号	133号住居跡出土遺物実測図	167
第130号	71号住居跡出土遺物実測図	114	第193号	134・141号住居跡	168
第131号	72号住居跡	114	第194号	134号住居跡	169
第132号	72号住居跡出土遺物実測図(1)	115	第195号	134号住居跡旧電	170
第133号	73号住居跡、出土遺物実測図	115	第196号	134号住居跡新電	170
第134号	74号住居跡	116	第197号	134号住居跡出土遺物実測図	171
第135号	74号住居跡出土遺物実測図	117	第198号	141号住居跡	172
第136号	76号住居跡	118	第199号	141号住居跡電	172
第137号	76号住居跡出土遺物実測図	119	第200号	141号住居跡出土遺物実測図(1)	173
第138号	78号住居跡	120	第201号	141号住居跡出土遺物実測図(2)	174
第139号	78号住居跡電、出土遺物実測図(1)	120	第202号	135号住居跡(1)	175
第140号	78号住居跡出土遺物実測図(2)	121	第203号	135号住居跡電	175
第141号	80号住居跡	122	第204号	135号住居跡(2)	176
第142号	80号住居跡電、貯蔵穴	122	第205号	135号住居跡出土遺物実測図	176
第143号	80号住居跡出土遺物実測図	123	第206号	136号住居跡	177
第144号	81号住居跡出土遺物実測図(1)	124	第207号	136号住居跡電、出土遺物実測図	178
第145号	81号住居跡	124	第208号	137号住居跡	179
第146号	81号住居跡出土遺物実測図(2)	127	第209号	137号住居跡出土遺物実測図	179
第147号	82号住居跡、電	128	第210号	138号住居跡(1)	180
第148号	82号住居跡壙内遺物出土図	129	第211号	138号住居跡(2)	181
第149号	82号住居跡出土遺物実測図	129	第212号	138号住居跡電	181
第150号	88・89号住居跡	130	第213号	138号住居跡出土遺物実測図(1)	182
第151号	88・89号住居跡出土遺物実測図	131	第214号	138号住居跡出土遺物実測図(2)	183
第152号	90・91・92号住居跡	132	第215号	139号住居跡(1)	184
第153号	92号住居跡電、ビット	133	第216号	139号住居跡(2)	184
第154号	91・92号住居跡出土遺物実測図	135	第217号	139号住居跡電	185
第155号	93号住居跡	136	第218号	139号住居跡出土遺物実測図(1)	185
第156号	93号住居跡出土遺物実測図	137	第219号	139号住居跡出土遺物実測図(2)	186
第157号	94号住居跡	138	第220号	140号住居跡	187
第158号	95号住居跡	139	第221号	140号住居跡電、出土遺物実測図	188
第159号	95号住居跡出土遺物実測図	139	第222号	142号住居跡	189
第160号	100号住居跡	140	第223号	142号住居跡電	190
第161号	100号住居跡出土遺物実測図	141	第224号	142号住居跡出土遺物実測図	191
第162号	102号住居跡(1)	142	第225号	143号住居跡出土遺物実測図(1)	192
第163号	102号住居跡(2)	142	第226号	143号住居跡、電	折り込み
第164号	102号住居跡電、出土遺物実測図(1)	143	第227号	143号住居跡出土遺物実測図(2)	195
第165号	102号住居跡出土遺物実測図(2)	144	第228号	144号住居跡	196
第166号	103号住居跡	144	第229号	144号住居跡電	197
第167号	103号住居跡電、出土遺物実測図	145	第230号	144号住居跡出土遺物実測図(1)	197
第168号	109号住居跡、電、貯蔵穴	146	第231号	144号住居跡出土遺物実測図(2)	198
第169号	109号住居跡出土遺物実測図	147	第232号	145号住居跡(1)	199
第170号	110号住居跡	148	第233号	145号住居跡電	199
第171号	110号住居跡旧電、新電	149	第234号	145号住居跡(2)	200
第172号	110号住居跡出土遺物実測図	150	第235号	145号住居跡出土遺物実測図(1)	201
第173号	117号住居跡	150	第236号	145号住居跡出土遺物実測図(2)	202
第174号	117号住居跡電	151	第237号	146号住居跡	203
第175号	117号住居跡出土遺物実測図	151	第238号	146号住居跡電	204

第239回	146号住居跡出土遺物実測図	204
第240回	147号住居跡	205
第241回	147号住居跡電、出土遺物実測図	206
第242回	148号住居跡	207
第243回	148号住居跡電	208
第244回	148号住居跡出土遺物実測図	208
第245回	149号住居跡(1)	209
第246回	149号住居跡電内遺物出土図、電	209
第247回	149号住居跡(2)	210
第248回	149号住居跡出土遺物実測図(1)	210
第249回	149号住居跡出土遺物実測図(2)	211
第250回	150号住居跡(1)、電	211
第251回	150号住居跡(2)	212
第252回	150号住居跡出土遺物実測図	213
第253回	152号住居跡(1)、電	214
第254回	152号住居跡(2)	215
第255回	152号住居跡出土遺物実測図	215
第256回	153号住居跡	216
第257回	153号住居跡電	217
第258回	153号住居跡出土遺物実測図	217
第259回	154号住居跡	218
第260回	154号住居跡電、貯蔵穴	219
第261回	154号住居跡出土遺物実測図	220
第262回	155・156・173号住居跡	221
第263回	156号住居跡電	222
第264回	156号住居跡電	222
第265回	156・156号住居跡出土遺物実測図	223
第266回	173号住居跡出土遺物実測図	224
第267回	157号住居跡	224
第268回	157号住居跡電、貯蔵穴	225
第269回	157号住居跡出土遺物実測図	226
第270回	158号住居跡	227
第271回	158号住居跡電、出土遺物実測図	228
第272回	159号住居跡	229
第273回	159号住居跡電、出土遺物実測図	229
第274回	160号住居跡	230
第275回	160号住居跡電、出土遺物実測図	231
第276回	161号住居跡	232
第277回	163号住居跡(1)	233
第278回	163号住居跡(2)	234
第279回	163号住居跡電	235
第280回	163号住居跡出土遺物実測図(1)	235
第281回	163号住居跡出土遺物実測図(2)	236
第282回	165号住居跡、出土遺物実測図	237
第283回	167号住居跡(1)	238
第284回	167号住居跡(2)	238
第285回	167号住居跡電、出土遺物実測図	239
第286回	169号住居跡	240
第287回	169号住居跡電	241
第288回	169号住居跡出土遺物実測図(1)	241
第289回	169号住居跡出土遺物実測図(2)	242
第290回	170号住居跡	243
第291回	170号住居跡電	243

第292回	170号住居跡出土遺物実測図	244
第293回	171号住居跡	244
第294回	171号住居跡電、出土遺物実測図	245
第295回	172号住居跡	246
第296回	172号住居跡電	247
第297回	172号住居跡出土遺物実測図	247
第298回	175号住居跡(1)	248
第299回	175号住居跡(2)	248
第300回	175号住居跡電	249
第301回	175号住居跡出土遺物実測図(1)	249
第302回	175号住居跡出土遺物実測図(2)	250
第303回	176号住居跡	251
第304回	176号住居跡出土遺物実測図	252
第305回	177号住居跡	253
第306回	177号住居跡電、出土遺物実測図	254
第307回	180号住居跡	255
第308回	180号住居跡電、出土遺物実測図	256
第309回	182号住居跡(1)	257
第310回	182号住居跡(2)	257
第311回	182号住居跡電、出土遺物実測図(1)	258
第312回	182号住居跡出土遺物実測図(2)	259
第313回	1号竪立柱建物跡	260
第314回	2・3号竪立柱建物跡	261
第315回	2号竪立柱建物跡出土遺物実測図	262
第316回	4号竪立柱建物跡	263
第317回	5号竪立柱建物跡、出土遺物実測図	264
第318回	6号竪立柱建物跡	265
第319回	7号竪立柱建物跡	266
第320回	8号竪立柱建物跡	267
第321回	4・24・25号土坑	268
第322回	24・25号土坑出土遺物実測図	269
第323回	1・2号土坑	272
第324回	3・5・8・10号土坑	273
第325回	11~13号土坑	274
第326回	14~16・19~21号土坑	275
第327回	22・23・26号土坑	276
第328回	11・13・20・26号土坑出土遺物実測図	277
第329回	2号甕石	278
第330回	2号甕石出土遺物実測図	278
第331回	グリッド出土遺物実測図(1)	279
第332回	グリッド出土遺物実測図(2)	280
第333回	グリッド出土遺物実測図(3)	281
第334回	グリッド出土遺物実測図(4)	282
第335回	グリッド出土遺物実測図(5)	283
第336回	古墳~平安時代遺構分布図	285
第337回	灰釉陶器出土住居分布図	290
第338回	灰釉陶器集成図(1)	291
第339回	灰釉陶器集成図(2)	292
第340回	灰釉陶器集成図(3)	293
第341回	共存の在地土器(1)	296
第342回	共存の在地土器(2)	297
第343回	Gr-31縄文土器実測図	299

表 目 次

第1表	周辺主要遺跡一覧表	6
第2表	南虹井増光寺遺跡発掘調査一覧表	8
第3表	古墳時代住居跡一覧表	287
第4表	奈良時代住居跡一覧表	287

第5表	平安時代住居跡一覧表	288
第6表	[灰釉陶器出土住居跡]土器片一覧表	289
第7表	灰釉陶器観察表	293~294

写真図版目次

- P L 1 航空写真 南蛇井増光寺遺跡全景
P L 2 航空写真 南蛇井増光寺遺跡全景
P L 3 航空写真 南蛇井増光寺遺跡全景
P L 4 1~4A・4B・4C号住居跡、24号土坑
P L 5 4A・4B・6・83号住居跡
P L 6 83・6~8号住居跡
P L 7 10~12号住居跡
P L 8 13・14号住居跡
P L 9 14・15号住居跡
P L 10 16・17号住居跡
P L 11 17・18号住居跡
P L 12 19~21・24号住居跡
P L 13 24・25号住居跡
P L 14 26・77・27・30号住居跡
P L 15 30・34・35号住居跡
P L 16 35・37・38号住居跡
P L 17 38・40~42号住居跡
P L 18 43~45号住居跡
P L 19 45~48号住居跡
P L 20 49・50号住居跡
P L 21 52・53号住居跡
P L 22 54~56号住居跡
P L 23 56~58号住居跡
P L 24 58・64~67号住居跡
P L 25 67~70号住居跡
P L 26 70~73号住居跡
P L 27 74・78号住居跡
P L 28 78・80号住居跡
P L 29 80・81号住居跡
P L 30 82号住居跡
P L 31 82・86~92号住居跡
P L 32 90・92~95号住居跡
P L 33 100・102号住居跡
P L 34 102・103・109・110号住居跡
P L 35 110・117・123・125号住居跡
P L 36 125・126号住居跡
P L 37 127~129号住居跡
P L 38 129~131・133・138・180号住居跡
P L 39 134・141号住居跡
P L 40 134号住居跡
P L 41 134・141・135号住居跡
P L 42 135~137号住居跡
P L 43 138・139号住居跡
P L 44 139・140・142号住居跡
P L 45 142~144号住居跡
P L 46 144~146号住居跡
P L 47 147~149号住居跡
P L 48 149・150号住居跡
P L 49 151・152号住居跡
P L 50 153~155号住居跡
P L 51 155・156・173・157号住居跡
P L 52 157・158号住居跡
P L 53 158~161号住居跡
P L 54 163号住居跡
P L 55 165・167・169号住居跡
P L 56 169~171号住居跡
P L 57 171・172・175号住居跡
P L 58 175・176号住居跡
P L 59 176・177・180号住居跡
P L 60 182号住居跡
P L 61 1~3号獨立柱建物跡
P L 62 2~6・7号竪立柱建物跡
P L 63 6・8号竪立柱建物跡、1~3号土坑
P L 64 4・5・10~13号土坑
P L 65 14~16・20~22号土坑
P L 66 23~26号土坑、2号集石
P L 67 1・3・4A・4B・6号住居跡出土遺物
P L 68 7・8・10・12号住居跡出土遺物
P L 69 13~16号住居跡出土遺物
P L 70 16・17号住居跡出土遺物
P L 71 17~19号住居跡出土遺物
P L 72 20・24・25号住居跡出土遺物
P L 73 26・27・30号住居跡出土遺物
P L 74 30・34・37号住居跡出土遺物
P L 75 37・38・40号住居跡出土遺物
P L 76 41・44・45号住居跡出土遺物
P L 77 46・47・49・50・52・53号住居跡出土遺物
P L 78 53~56号住居跡出土遺物
P L 79 56~58号住居跡出土遺物
P L 80 58・64・66・67号住居跡出土遺物
P L 81 67~70号住居跡出土遺物
P L 82 70~72・74・76・78号住居跡出土遺物
P L 83 78・80号住居跡出土遺物
P L 84 81・82号住居跡出土遺物
P L 85 82~84・88号住居跡出土遺物
P L 86 89・91~93・95号住居跡出土遺物
P L 87 100・102・103・109・110号住居跡出土遺物
P L 88 117・125~127号住居跡出土遺物
P L 89 128~131・133・134号住居跡出土遺物
P L 90 134~138号住居跡出土遺物
P L 91 138~140号住居跡出土遺物
P L 92 141号住居跡出土遺物
P L 93 142~144号住居跡出土遺物
P L 94 144~146号住居跡出土遺物
P L 95 146~150号住居跡出土遺物
P L 96 150~154号住居跡出土遺物
P L 97 155~158・160号住居跡出土遺物
P L 98 160・163号住居跡出土遺物
P L 99 167・169~172号住居跡出土遺物
P L 100 172・173・175・176号住居跡出土遺物
P L 101 176・177・180・182号住居跡出土遺物
P L 102 182号住居跡、2号獨立、11・13・20・24号土坑出土遺物
P L 103 25・26号土坑、2号集石、グリッド出土遺物
P L 104 グリッド出土遺物
P L 105 グリッド出土遺物
P L 106 グリッド出土遺物

抄 録

1 遺 跡 の 概 略

本遺跡は、群馬県富岡市大字南蛇井字血の池・増光寺、大字中沢字久保界戸・中里地内に所在する。発掘調査は、昭和62年10月1日から開始され、平成3年3月をもって終了した。

遺跡は富岡市の南西、銅川左岸の段丘上に広がる平坦面に位置し、調査前には桑・こんにゃく等の畑地として利用されていた。発掘調査により、縄文・弥生・古墳・奈良・平安、各時代の住居跡を初めとして、縄文時代の配石遺構、多数の土坑群、弥生時代の方形周溝墓、中・近世の大溝、掘立柱建物跡、土坑などが検出され、銅川流域有数の規模を誇る大複合遺跡であることが判明した。

2 遺 構 数 量

種 別	時代	数 量	備 考
住 居 跡	縄文時代	約 72	縄文時代前期～後期、敷石住居跡も含む。
	弥生時代	約 185	弥生時代中期4軒、弥生時代後期181軒検出。
	古墳～平安時代	約 535	古墳時代の住居跡は殆どが後期のものである。
掘立柱建物跡	古代～中世	約 44	B経石を含むものと含まないものがある。
周 溝 墓	弥生時代	約 2	2基とも方形周溝墓と思われる。
土 坑	縄文時代～近世	約 1430	縄文時代のものが多い。
埋 壙	縄文～弥生時代	約 6	縄文時代・弥生時代
中 世 古 墓	中世	1	瀬戸系の四耳壺を伴う。
		約 20	中世の大溝を含む。
この他、配石遺構・集石遺構・道路状遺構・井戸・ピット等を含む。			

◎本報告書は、上記のうちB区古墳時代～平安時代の竪穴住居跡130軒、土坑21基、掘立柱建物跡8棟、集石1基等を対象としている。

3 ま と め

縄文時代 前期黒浜期から後期福之内式期にかけての竪穴住居跡、配石遺構、土坑、埋壙等が検出されている。中期末から後期の敷石住居も比較的良好な遺存状態で検出されている。銅川流域での縄文時代の集落址の調査例は少なく大変貴重な調査例といえる。出土遺物としては、縄文土器の他に硬玉大珠、独鈷石、石棒等があげられる。

弥生時代 弥生時代の竪穴住居跡は中期4軒、後期181軒が検出されている。後期の住居跡としては県内でも最大規模を誇る大集落であったことが窺える。その他に、方形周溝墓、埋壙、土坑等が検出されている。出土遺物としては、弥生土器の他に石包丁、磨製石鏃、土製勾玉、扁平片刃石斧等があげられる。

古墳時代～奈良・平安時代 古墳時代には後期を中心に多数の竪穴住居跡が検出されている。奈良・平安に至ってもこの傾向は続き大規模な集落が展開される。掘立柱建物跡も検出されている。

中・近世 箱葉形の大溝が検出され青磁片が出土している。また、瀬戸系の四耳壺を伴う中世古墓、道路状遺構、掘立柱建物跡等が検出されている。

以上、本遺跡は縄文時代前期から中・近世に至る遺構が複雑に重複して存在する複合遺跡としての性格を持ち、今後当地における地域史研究を進めるうえで大変重要な遺跡であるといえる。

第1章 発掘調査の経過

第1節 調査に至る経緯と調査の経過

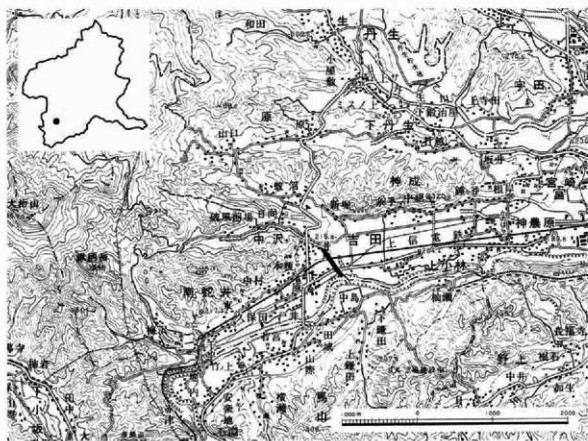
1 発掘調査に至る経緯

関越自動車上越線は首都圏と上信越地方を結ぶ高速自動車道国道として、日本道路公団東京第二建設局によって建設される。起点を東京都練馬として新潟県上越市まで総延長280km(内練馬～藤岡間は関越自動車道新海線と併用)である。今回建設される藤岡インター～佐久間は約67kmで群馬県藤岡市(5.6km)、吉井町(6.3km)、甘栗町(4.3km)、富岡市(11.6km)、妙義町(2.5km)、松井田町(19.5km)、下仁田町(5.3km)、長野県佐久市(11.9km)の各市町を通過する。

群馬県藤岡市～長野県佐久市間の基本計画は昭和47年に策定され、同54年建設大臣により日本道路公団が施行命令を受けている。同56年群馬県藤岡市・吉井町・甘栗町・富岡市・下仁田町(東部)・松井田町(東部)、同57年松井田町(西部)・下仁田町(西部)・長野県佐久市までの路線が発表された。

関越自動車道上越線全体にかかる埋蔵文化財の取り扱い及び調査経過は次のとおりである。

昭和49年度 藤岡市～下仁田町間に存在する埋蔵文化財について、群馬県教育委員会は県企画部幹線交通課に対し文化財保護法の遵守、国・県・市町村の指定文化財をさけること、文化財に関係する事



第1図 南蛇井増光寺遺跡位置図

第1章 発掘調査の経過

項は県教委文化財保護課と協議すること等の考え方を示した。

昭和55年度 県教委文化財保護課は路線通過地周辺の埋蔵文化財包蔵地の調査を行い、その結果は同年3月藤岡～松井田間、同年11月松井田～下仁田間について、「関越自動車道上越線関連公共事業調査報告書」として群馬県（企画部交通対策課）より報告された。

昭和59年度 建設工事の具体化に伴い、路線内の埋蔵文化財についてより具体的な調査の依頼が道路公団より県教育委員会にあり、県教委文化財保護課は包蔵地の詳細分布調査を行った。

昭和60年度 県教育委員会は分布調査の結果、包蔵地を濃い分布地・淡い分布地・試掘調査を必要とする地域に区分し、発掘調査必要面積を約100万㎡と想定して、55遺跡を認定した。（後の試掘により52遺跡に変更）そして、埋蔵文化財発掘調査にかかる基本方針を次のように策定した。

- ① 発掘調査終了年度を昭和66年度末（平成2年度末）とする。
- ② 群馬県埋蔵文化財調査事業団を中核機関とし、対応できない部分に調査会方式を導入、関係市町村には進捗状況を考慮しながら協力を求める。
- ③ 事業団の出張所（上越線調査事務所）を開設し、整理作業も併せ行う。
- ④ 機関別対応面積は次のとおりである。

埋文事業団 約76万㎡ 富岡市以東を受け持つ。面積は変動の可能性あり。

調査会 約22万㎡ 妙義町・下仁田町・松井田町。面積は変動の可能性あり。

なお、調査実施方法は次のとおりである。

日本道路公団東京第二建設局は群馬県教育委員会に調査の依頼を行い、年度毎に委託契約を締結する。県教育委員会はそれを受け、群馬県埋蔵文化財調査事業団及び、各遺跡調査会等に再委託のかたちで委託契約を締結し、調査を実施する。

昭和61年度 4月、埋文事業団上越線調査事務所を吉井町南陽台3-15-8に設置し、4班15人体制で発足する。以降、6班22人体制（昭62）、9班36人体制（昭63）、12班45人体制（平成）、12班45人体制（平2）。平成2年度までに一部を残し発掘調査は終了した。整理作業は昭和63年度より平行して実施していたが、平成3年度からはほとんど整理作業のみとなり、平成8年度終了予定である。

2 南蛇井増光寺遺跡の調査の経過

南蛇井増光寺遺跡は、鍋川の下位段丘上に位置し、南は鍋川を比高差約30mの段丘崖で臨み、北は中沢川に至る広大な範囲に広がっている。遺跡の名称は、遺跡地の中心部を占める小字名増光寺を用い南蛇井増光寺遺跡とした。中沢川の北側には、東に伸びる舌状台地上に中沢平賀界戸遺跡が続いている。

南蛇井増光寺遺跡の調査実面積は、約29,000㎡にわたり、調査地域はほぼ全面に大変密に遺構の存在が認められた。

昭和62年に入ると、本遺跡の鍋川橋梁部分にかかる埋蔵文化財の先行調査問題が持ちあがり、保護課・事業団・公団との協議の結果、10月より調査が開始されることになった。調査対象地域は、国道254号線から鍋川の段丘崖に至るB区南半部及び側道部4,000㎡であり、昭和63年2月19日をもって終了した。昭和63年度には、その北方へ広がる遺跡地への調査が計画され、昭和63年9月にまず国道以北の全域（南蛇井増光寺遺跡～中沢平賀界戸遺跡）で試掘調査を行った後、国道以北・上信電鉄以南を調査対象地（南蛇井増光寺遺跡C区）として、11月1日から本調査を開始し、平成元年3月31日まで調査を行った。62・63年度二度にわたる調査の結果から当初の予想をはるかに上回る縄文時代前期から平安時代に至る大集落を中心とする遺構群が

検出され、他の調査区においても集落の旺盛なる展開が予想された。この結果、平成元年度には、4班体制で対応することとなり、I班は国道南(B区)、中沢川の南岸(E区)、を調査区とした。II班は国道北側(C区)を主として担当したが、12月から約2か月間はIII班と合同で上信電鉄南側を調査した。III班は国道から上信線に至る工用道路と上信線南側(DS区)を主として担当し、平成2年1月～2月にかけて上信線北側(E区)の調査を実施した。IV班は4月～10月にかけて上信線北側(DN区)と上信線から中沢川に至る工用道路調査を実施した。平成2年度も調査は継続して行われた。I班は、主に中沢平賀界戸遺跡(F～I区)を担当し、10月より一部C区の応援に入ったが、調査は2月末で終了した。II班は4月～5月までIII班と合同でDS区の調査を行った。5月からはC区の調査に戻り、8月末以降はIII班と合同で調査を行い、10月以降一部I班の応援を得て2月末で調査を終了した。III班は4月～1月末までDS区、4月末～9月初までE区、8月末～3月初までC区の調査を行い、3月初に調査を終了した。

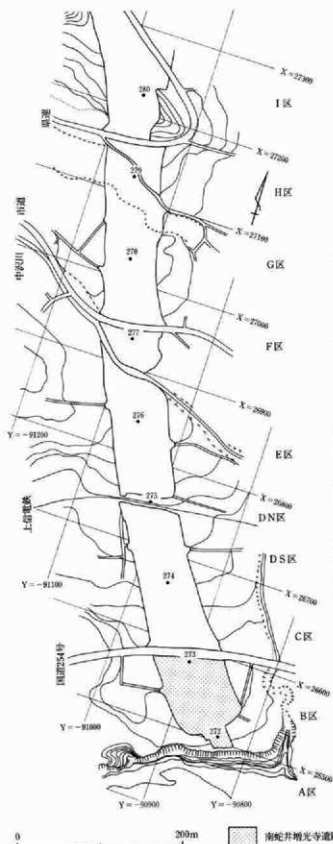
南蛇井増光寺遺跡・中沢平賀界戸遺跡の整理は、膨大な資料の蓄積があり、短期間の整理作業では終了できないことから平成3年度より毎年継続して行うこととし、2班体制で開始された。整理事業は調査区毎、時代別に行うことを基本として、最終整理で全体をまとめることとしている。今年度は、B区のみ古墳～平安時代の住居跡、土坑、掘立柱建物跡等を報告する。なお、国道254号線の北側に位置するB区については、整理の都合上C区の中で取り扱うこととした。

3 B区発掘調査の経過

南蛇井増光寺遺跡B区の第1次発掘調査は1988年10月1日より開始された。調査対象は鏡川に架かる橋梁建設工事のための橋脚部分と、その工用進入路部分、合わせて約4,000㎡である。当初は3か月という調査期間が設定されたが、遺構の検出数が多く、重複等で調査も困難を極め、1989年2月19日に至り、調査を終了した。第2次調査は1990年4月7日より調査を開始した。調査対象は第1次調査区から国道254号線に至る4,600㎡である。12月8日に全調査を終了した。

4 整理作業の経過

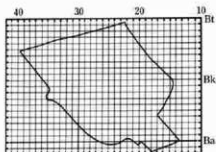
南蛇井増光寺遺跡の整理作業は発掘調査時の調査区毎に行うことを基本とした。B区の整理作業は平成3年度から5年度にかけて3か年で実施された。その間平成4年12月にはB区縄文・弥生時代編「南蛇井増光寺遺跡I」を刊行し、平成6年3月25日には古墳～奈良・平安時代編「南蛇井増光寺遺跡III」を刊行した。



第2節 調査の方法

グリッド設定法

南蛇井増光寺遺跡と中沢平賀界戸遺跡は南北に細長く並び、その総距離は約800mにおよんでいる。建設用測量杭のSTANo272~280がほぼ両遺跡の調査範囲に該当する。調査区の区割りは、国家座標に乗る形で軸線を設定し、グリッドの呼称は両遺跡を通してできるようにした。調査原点は、南蛇井増光寺遺跡南西部、国家座標の $X=26,500, Y=-90,900$ の地点とし、ここを基準に5m四方のグリッドを設定した。南北ラインは、Ba、Bb、Bc……Ca、Cb、Cc……とアルファベットの太文字と小文字併記とし、100mで太文字が5mで小文字が変わるものとした。東西ラインは0、1、2……10、11、12とアラビア数字を使用し、5mで数字が変わるものとした。そして、Ba-15グリッドのように、南北、東西の順で併記し、グリッドの呼称とした。各グリッドの呼称は南東隅のポイント名をもってそのグリッドを表すものとした。大文字標記の100m毎の大グリッドを南からA区、B区、C区……H区、I区として発掘調査時の調査区名称とした。



第2図 南蛇井増光寺遺跡調査区及びグリッド配置図

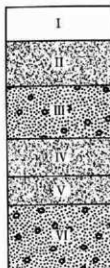
第3節 基本土層

南蛇井増光寺遺跡B区は、鍋川左岸の下位段丘上に位置している。調査区内の地形は比較的平坦であるが、北から南に向かって緩やかに傾斜している。遺跡の南端は鍋川と接し、比高差30mの段丘崖となっている。遺跡は北西から流れ下る中沢川が谷あいから押し出した礫を多量に含む堆積土の上に広がっている。B区の基本土層は表土層（耕作土）、粘質褐色土、黒褐色砂礫層、茶褐色土、暗黄褐色粘質土、黄褐色粘質土、礫層となる。表土の耕作土の堆積は薄く、これを除去すると褐色の粘質土が現れる。しかし、地点により地形形成過程の微妙な違いを見せており、北西部分の一部では褐色粘質土の堆積がほとんど認められず、砂礫層が厚く堆積し、遺構確認面においても広い範囲で観察できる。遺跡の東側では褐色粘質土の層が比較的厚く堆積し、広範囲に広がっている。

本遺跡の基本土層は以下に示すとおりである。

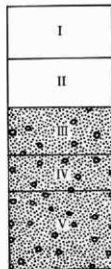
B区南東部（第1次調査）

- 第I層 茶褐色土 小砂利を多量に含む耕作土。しまり弱い。厚さは10～30cmほどである。
- 第II層 褐色土 粘質土。厚さは30cmほどである。
- 第III層 黒褐色土 こぶし大の礫を含む砂礫層。厚さは10～70cmほどである。
- 第IV層 暗黄褐色の粘質土。厚さは5～30cmほどである。
- 第V層 黄褐色の粘質土。厚さは10～20cmほどである。
- 第VI層 褐色土 おおぶらな礫を含む。



B区北半部（第2次調査）

- 第I層 茶褐色土 耕作土、厚さは30～40cmである。
- 第II層 黒褐色土 小砂利を含み、比較的バサバサしている。厚さは20～40cmである。
- 第III層 黒褐色土 こぶし大の礫を含む。厚さは20～40cmである。
- 第IV層 黒褐色土 こぶし大～人頭大の円礫を含む。厚さは10～30cmである。
- 第V層 黄褐色土 こぶし大～人頭大の円礫を含む砂礫層。



第3図 南蛇井増光寺遺跡基本土層図

第2章 周辺の環境

第1節 南蛇井増光寺遺跡周辺の歴史的環境

本遺跡周辺の地理的環境及び歴史的環境については「南蛇井増光寺遺跡Ⅰ」の中で詳細に記されており、また、本遺跡と関連づけられる南蛇井古墳群については「南蛇井増光寺遺跡Ⅲ」に詳しい。本報告書では、本遺跡の所在する南蛇井地区を中心とする地域の古墳時代以降の歴史的環境について外観して見たい。

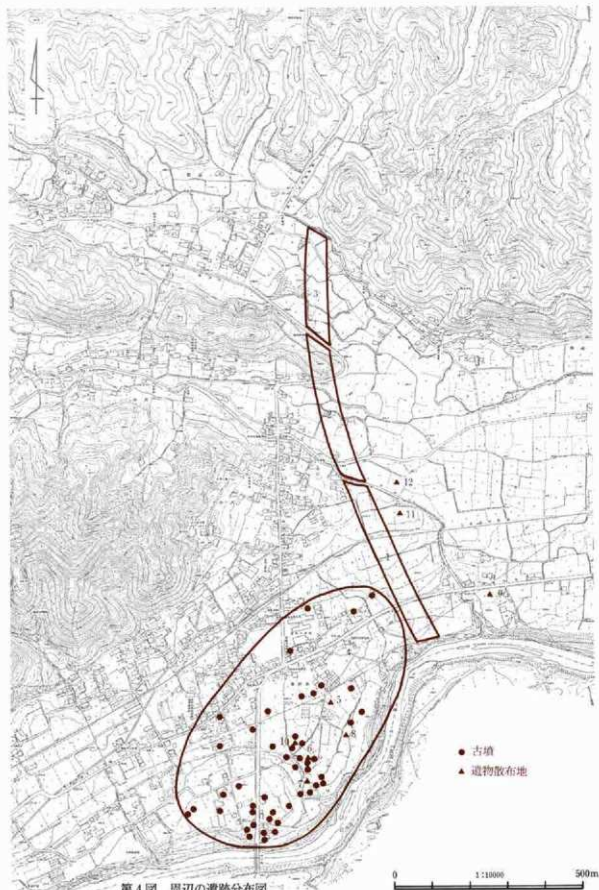
古墳時代 本遺跡地では、この時代の住居跡が200軒以上検出されている。前期・中期の住居跡はほとんど認められず、後期のものが圧倒的に多い。この集落に伴う墓域は、本遺跡の南西方向に所在する南蛇井古墳群が当てられよう。古墳群は鍋川の下位段丘面に占地するが、鍋川が蛇行しており、何段かの小段丘地形が発達している。古墳はこれら的小段丘全面にみられる。現在判明する古墳の数は52基にのぼるが墳丘が削平され、その痕をとどめていないものも多い。昭和113年の「上毛古墳総覧」によれば、墳丘が30m以上の古墳5基はいずれも段丘上部に分布し、低い小段丘面には小型の古墳が密集する傾向が窺える。一部発掘調査の結果から本古墳群は6世紀後半に築造されはじめ7世紀代まで続いたものと思われる。中沢川を境に本遺跡に接する中沢平賀界戸遺跡でも古墳時代の集落が検出されている。このうち5軒は古墳時代中期のもので、注目される。また、さらに北側に位置する前畑遺跡では、古墳時代中期を中心とする集落が検出されている。

奈良・平安時代 本遺跡では、古墳時代に続いて大規模な集落が展開される。覆土中にB軽石を含む掘立柱建物跡も検出されている。中沢平賀界戸遺跡でも、住居数が大きく増減することなく継続的につくられている。また、同遺跡では、中沢川の北側で浅間噴出のB軽石下の小規模な水田遺構も調査されている。前畑遺跡でも小規模な集落が検出されている。

中近世 本遺跡では、箱葉研形の大溝・中世古墓・道路状遺構等が検出されている。その他の中近世の遺構としては、中沢平賀界戸遺跡で中世墳墓・竪穴状遺構・近世礎石建物跡・墓墳等が検出されている。また、山崎一氏の「群馬県古城皇址の研究」によると中沢平賀界戸遺跡は平賀城跡とされているが調査の結果、関連性のある遺構は検出されなかった。

第1表 周辺主要遺跡一覧表

No	遺跡名	所在地	調査年度	遺跡の概要	文献
1	南蛇井増光寺遺跡	富岡市南蛇井	昭和62～平成2年度	縄文時代前期～平安時代の集落を中心とする複合遺跡である。検出された竪穴建物跡は約785軒(古墳時代以降526軒)を数えることができる。	「南蛇井増光寺遺跡Ⅰ」1992年及び本書所収
2	中沢平賀界戸遺跡	富岡市中沢	平成元～2年度	中沢川を境に南蛇井増光寺遺跡の北側に位置する。竪穴建物跡154軒(古墳～平安138軒)を検出。他に中世墳墓・近世墓溝・近世礎石建物跡等検出。	「年報」10 1991年 群馬県埋蔵文化財調査事業団
3	前畑遺跡	富岡市既宮	昭和63年度	中沢平賀界戸遺跡の北側に位置する。古墳時代中期を主体とした集落跡。他に奈良～平安住居跡・掘立柱建物跡等を検出。	「前畑遺跡」1992年 富岡市遺跡調査会
4	南蛇井古墳群	富岡市南蛇井		下仁田町に入る直前の国道254号の周辺部に占地。鍋川の下位段丘面。現在52基が確認できる。	
5	富岡市南蛇井	富岡市南蛇井		国道254号南。鍋川左岸段丘上。土器断片散布。	
6	富岡市南蛇井	富岡市南蛇井		国道254号南。鍋川左岸段丘上。土器断片・須恵器散布。	「群馬県遺跡古墳目録」
7	富岡市南蛇井	富岡市南蛇井		国道254号東。鍋川左岸段丘上。土器断片散布。	〃
8	富岡市南蛇井	富岡市南蛇井		鍋川左岸段丘上の縁辺部。土器断片・須恵器断片散布。	〃
9	富岡市南蛇井	富岡市南蛇井		国道254号南。中沢川左岸。土器断片散布。	〃
10	富岡市南蛇井	富岡市南蛇井		国道254号南。鍋川左岸段丘上。土器断片断片散布。	〃
11	富岡市中沢	富岡市中沢		中沢川右岸。増光寺遺跡東方。土器断片・須恵器断片散布。分布調査	
12	富岡市中沢	富岡市中沢		中沢川左岸。中沢平賀界戸遺跡東。土器・須恵器散布。分布調査	



第4図 周辺の遺跡分布図

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 南蛇井増光寺遺跡B区の概要（古墳～平安時代）

本遺跡は便宜上100mの大区画で南からA～E区に区分している。本報告書対象地のB区は、A区が測量上のことでわずかに遺跡地にかかるだけなので実質的に本遺跡中最も南の地区となる。南側は鍋川によって削られた比高差約30mの浸食崖で区切られ、北側は国道254号線によって区切られた面積約8,600㎡の区画となっている。この区画はほぼ平坦であるが、南側に向かって、わずかに傾斜をもっている。

検出された遺構は竪穴住居跡が主で、縄文時代前期～平安時代にかけて合わせて177軒が検出されている。その内訳は、縄文時代10軒、弥生時代38軒、古墳時代53軒、奈良時代31軒、平安時代36軒、時期不明10軒である。竪穴住居跡は調査区の中央にやや集中する傾向が窺え、重複も多くかなり濃密な分布を呈している。調査区の北西部には隠層が広がり、住居跡の分布は少ない。縄文時代と弥生時代の住居跡については、「南蛇井増光寺遺跡1」の中で報告済みであり、今回は古墳時代～平安時代の遺構を中心に報告する。

古墳時代の竪穴住居跡は、調査区の中央部を中心に53軒が検出されている。すべて後期のもので、その他の時代の住居跡は検出されていない。住居規模は4～6mの正方形または長方形を主体とするが、81号住居跡のように一辺が7mを超える大型住居跡も数軒検出されている。かまどは北壁に作られている例がほとんどで、東壁に設置されるのは数軒である。

奈良時代の竪穴住居跡は31軒が検出されており、調査区の中央部より南側に集中して分布する傾向が窺える。住居規模は5m前後となり、6mを超える住居跡は数少ない。かまどの位置は北壁が多く、東壁に設置される例は数少ない。

平安時代の竪穴住居跡は調査区全体に散在し、36軒が検出されている。住居規模は、さらに小型化し3～4mの間に集中する傾向が窺える。かまどの位置は東壁に設置されるものがほとんどである。

その他の遺構としては、掘立柱建物跡8基、土坑21基、菓石1基が検出されている。

今回の報告は、古墳時代から平安時代の遺構が中心である。

本報告書中の遺構の概略は以下の通りである。（第2表）

第2表 南蛇井増光寺遺跡報告遺構一覧表

B区住居跡一覧表（古墳時代～平安時代）

住居No	位置(グリッド)	平面形	規模(m)	面積(m ²)	壁高(cm)	主軸方位	かまド	貯蔵穴	柱穴	周溝	備	考
1	Ba-15・16	長方形	4.00×4.35	17.03	42	N-12°-W	北	—	○	—		
2	Ba-13・14	—	—	—	20	—	—	—	—	—		
3	Ba・Bb-15	長方形	4.41×4.11	16.05	26	N-1°-W	北	—	—	—		
4 A	Bb・Bc-16	正方形	2.58×2.49	(6.61)	18	—	—	—	—	—		
4 B	Bb-16	長方形	4.00×3.60	(13.74)	15	—	—	—	—	—		
6	At・Ba-17～19	正方形	9.12×9.39	(73.48)	60	N-29°-W	北	—	—	—	管玉	
7	Ba-19	長方形	3.90×4.50	(15.49)	60	N-100°-E	東	—	—	—		
8	Bb・Bc-18	長方形	4.44×3.90	17.02	36	N-5°-W	北	—	—	—		
10	Ba・Bb-20	長方形	4.30×3.93	16.88	33	N-29°-W	北	—	—	—		
11	Bc-20	正方形	4.74×4.92	23.30	34	—	—	—	—	—		
12	Bc・Bd-16・17	長方形	3.51×4.92	17.60	35	N-82°-E	東	○	○	—	灰桶皿	

第1節 南蛇井増光寺遺跡B区の概要

住居№	位置(グリッド)	平面形	規模 (m)	面積(m ²)	壁高(cm)	主軸方位	カマド	貯蔵穴	柱穴	周溝	備考
13	Bd-18	正方形	4.92×4.80	22.51	30	N-17°-W	北	○	○	—	刀子
14	Ba-22・23	—	6.45× ?	—	72	N-26°-W	北	○	○	—	
15	Ba-23	長方形	3.15×2.79	8.17	36	N-21°-W	北	—	—	—	火打金
16	At-23・24	—	4.90× ?	—	34	N-14°-W	北	○	○	—	
17	Ba-24	長方形	3.84×4.17	14.78	33	N-21°-W	北	—	○	—	
18	At-25	長方形	3.00×2.46	(7.48)	22	N-10°-W	北	—	—	—	
19	Ba-26	正方形	3.65×3.75	13.40	26	N-92°-E	東	—	—	—	灰輪埵
20	At-25・26	—	2.79× ?	—	11	N-15°-W	北	—	—	—	
21	Ba-26・27	正方形	3.90× ?	—	28	N-30°-W	北	○	—	—	
24	Be-26	正方形	3.30×3.21	10.42	28	N-101°-E	東	○	—	○	
25	Be・Bf-26・27	長方形	4.80×5.55	27.18	68	N-7°-W	北	—	○	—	
26	Bd-23・24	長方形	5.55×4.05	21.74	60	N-31°-W	北	—	○	—	
27	At-20	—	—	—	39	N-91°-E	東	—	—	—	灰輪埵
30	Bf・Bg-19・20	長方形	3.00×3.78	10.80	30	N-79°-E	東	—	—	—	灰輪埵・磁石
34	Bg-16	長方形	3.51×3.15	9.93	32	N-64°-E	東	○	○	—	
35	Bh-17・18	正方形	3.75×3.45	12.44	32	N-82°-E	東	—	○	—	
37	Bh-18・19	長方形	4.80×4.35	19.90	60	N-11°-W	北	—	○	—	
38	Bi-19・20	正方形	5.25×5.25	25.71	42	N-25°-W	北	—	○	—	磁石
40	Bb-17	長方形	3.75×4.50	(16.91)	32	N-75°-E	東	—	—	—	
41	At-24・25	—	3.90× ?	—	26	—	—	—	—	—	鉄製紡錘車・灰輪埵
42	Ba・Bb-27	正方形	3.90×3.96	14.17	33	N-60°-E	東	—	○	—	
43	Bb-26	正方形	3.36×3.21	(10.37)	18	N-65°-E	東	—	○	—	
44	Ba・Bb-25・26	長方形	3.45×3.90	13.74	24	N-78°-E	東	—	—	—	
45	Ba・Bb-25	長方形	3.45×3.15	10.54	21	N-101°-E	東	—	—	—	黒書
46	Bb-24	正方形	4.40×4.19	17.07	32	N-17°-W	北	—	○	—	
47	Be・Bf-24	長方形	3.45×4.11	13.47	45	N-88°-E	東	—	—	—	灰輪埵・小煎岩
48	Be-22・23	—	—	—	6	—	—	—	—	—	
49	Bj-19	正方形	3.30×3.51	10.95	60	N-76°-E	東	—	—	—	灰輪埵
50	Bj-18	正方形	3.15×3.30	10.25	32	N-76°-E	東	—	—	—	
52	Bi・Bj-20	長方形	3.45×3.69	11.06	39	N-73°-E	東	—	—	—	灰輪埵
53	Bi-19・20	長方形	4.86×4.20	20.40	48	N-13°-W	北	—	○	—	
54	Bi-18・19	長方形	3.68×3.78	11.53	36	N-62°-E	東	—	—	—	
55	Bh-21・22	長方形	3.60×4.08	13.95	21	N-6°-W	北	—	—	—	
56	Bd・Be-22・23	長方形	5.10×4.90	20.20	69	N-28°-W	北	—	○	—	
57	Bi-22・23	長方形	4.86×5.90	28.61	48	N-16°-W	北	—	○	—	灰輪埵3
58	Bh-22・23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
64	Bb・Bc-15・16	正方形	4.65×3.90	15.63	32	N-4°-W	北	—	○	—	
65	Bc・Bd-17・18	長方形	?×3.84	(17.72)	31	—	—	—	○	—	
66	Be・Bf-24	長方形	4.89×4.50	(21.33)	21	N-5°-E	北	—	—	—	磁石
67	Bi-19	正方形	4.56×4.65	(20.08)	54	N-1°-W	北?	○	○	—	磁石・白玉
68	Ba・Bb-16・17	—	—	—	24	N-20°-W	北	—	—	—	
69	Bg-20・21	正方形	3.36×3.24	11.33	52	N-23°-W	北?	—	—	—	
70	Bj-17・18	正方形	4.50×4.80	19.23	39	N-28°-W	北?	—	○	—	
71	Bf・Bg-19・20	長方形	4.90×4.35	20.21	60	N-27°-W	北	—	○	—	炭化材多い
72	Bg・Bh-25	正方形	4.14×4.41	(17.75)	—	N-75°-E	東	—	—	—	
73	Bc-15	—	—	—	28	—	—	—	—	—	
74	Bi・Bj-18・19	正方形	5.10×5.10	26.43	66	N-25°-W	北?	—	○	—	
76	Bh・Bi-20	正方形	4.50×4.50	(19.73)	44	N-19°-W	—	—	○	—	
77	Bd・Be-23・24	長方形	4.80×4.20	(20.52)	—	—	—	—	—	—	
78	Bi・Bm-17・18	長方形	4.90×4.10	19.99	14	N-34°-W	北	—	○	—	
80	Bg・Bh-25・26	長方形	5.40×3.70	(23.18)	48	N-13°-W	北	○	—	—	
81	Bm・Ba-18・19	正方形	7.95×7.96	65.01	30	N-9°-W	北	○	○	—	
82	Bo-20	長方形	4.14×3.60	14.33	36	N-17°-W	北	○	○	—	
83	As・At-17・18	長方形	7.59×8.58	(69.30)	54	N-29°-W	北	—	○	—	
84	At・Ba-18・19	正方形	5.19×5.34	(27.48)	—	N-20°-W	北	—	—	—	
88	Bk-15	—	—	—	18	—	—	—	—	—	
89	Bj・Bk-15・16	—	—	—	22	—	—	—	○	—	
90	Bi・Bm-16・17	—	—	—	23	—	—	—	○	—	多量の炭化材
91	Bm-17	—	—	—	33	—	—	—	—	—	
92	Bk・Bi-16	—	—	—	—	—	—	—	○	—	
93	Bj・Bk-16・17	正方形	5.40×5.70	30.06	15	N-16°-W	北?	—	○	—	

第3章 検出された遺構と遺物

住居№	位置(グリッド)	平面形	規模(m)	面積(m ²)	壁高(cm)	主軸方位	カマド	貯蔵穴	柱穴	周溝	備 考
94	Bi・Bj-18・19	正方形	5.40×5.16	(28.55)	15	—	—	—	○	—	
95	Be・Bf-24	長方形	4.35×3.21	(14.57)	44	N-26°W	—	—	○	—	施
100	Be-24・25	—	4.00×?	—	30	—	—	—	○	—	多量の炭化材
102	Bp-26・27	正方形	3.45×3.45	11.49	24	N-85°E	東	○	—	○	灰輪皿・須恵村
103	Bp-26・27	長方形	3.00×3.60	11.01	31	N-87°E	東	○	—	—	
109	Bm-29	長方形	3.66×4.44	16.14	30	N-76°E	東	○	—	—	
110	Bm-33・34	長方形	4.50×4.05	18.54	42	N-4°W	北・東	—	○	○	刀子
117	Bn・Bo-36	正方形	3.15×3.36	(10.50)	12	N-94°E	東	○	—	—	
123	Bm-35	—	—	—	—	—	—	—	北	—	
125	Bi・Bj-27	長方形	2.85×3.96	11.13	26	N-79°E	東	—	—	—	灰輪小皿
126	Bk-29	正方形	3.90×3.75	13.33	20	N-73°E	東	○	—	—	灰輪皿・須恵村口
127	Bi-30・31	長方形	3.06×4.40	13.04	36	N-86°E	東	—	—	—	
128	Be-29・30	—	—	—	—	—	—	—	東	—	灰輪皿
129	Bg・Bh-29・30	長方形	3.45×3.78	14.07	36	N-89°E	東	○	—	—	
130	Bg-30・31	正方形	4.23×4.50	18.71	32	N-13°W	北	○	○	—	
131	Bg-31	—	? × 4.00	—	22	—	—	—	—	—	
133	Bg-29	長方形	? × 3.78	—	27	N-7°W	北	—	—	—	土鐘
134	Bf・Bg-28・29	正方形	6.30×6.06	37.22	54	N-79°E	東・北	○	○	—	土鐘
135	Bg・Bh-28	長方形	4.71×5.80	(25.77)	36	N-86°E	東	—	—	—	
136	Bi・Bj-25・26	正方形	3.00×3.00	8.62	30	N-60°E	東	○	—	—	
137	Bj-25	長方形	3.15×4.20	12.51	18	N-78°E	東	—	—	—	灰輪皿2
138	Bg-29	長方形	5.55×4.30	(23.90)	45	N-82°E	東	○	—	○	灰輪皿3・墨書
139	Bj・Bk-26	長方形	3.90×4.50	16.38	45	N-73°E	東	○	—	—	墨書・灰輪皿・土鐘
140	Bk・Bl-29・30	長方形	5.25×5.75	30.18	48	N-12°W	北	○	○	—	
141	Bf・Bg-28・29	—	—	—	50	N-79°E	東	○	—	—	鉄鏝
142	Bh・Bi-26・27	長方形	4.50×5.50	23.89	27	N-10°W	北	○	○	—	
143	Bl~Bn-20・21	長方形	7.35×6.87	49.81	30	N-9°W	北	—	—	—	紡錘車・磁石
144	Bk・Bl-20・21	長方形	4.02×3.36	12.98	40	N-11°W	北	—	—	—	磁石
145	Bg・Bh-26・27	正方形	5.79×5.49	30.03	45	N-4°W	北	○	○	○	磁石
146	Bl-22	正方形	4.35×4.41	17.50	17	N-21°W	北	—	○	—	
147	Bj・Bk-22・23	正方形	4.56×4.80	21.26	27	N-14°W	北	—	○	—	
148	Bi・Bj-23~25	長方形	5.85×6.30	35.71	30	N-7°W	北	○	○	—	
149	Bl・Bj-27・28	正方形	5.10×4.98	26.17	33	N-10°W	北	—	—	—	
150	Bi・Bj-30	長方形	—	—	33	N-20°W	北	—	○	—	
151	Bd~Bf-29・30	長方形	6.30×6.70	(54.35)	62	N-95°W	西?	—	○	—	
152	Bk-24	長方形	3.63×4.60	17.08	17	N-102°E	東	○	—	—	灰輪皿・丸玉
153	Be-23	正方形	3.69×3.45	12.20	25	N-160°E	東	○	—	○	
154	Bm-22・23	正方形	5.43×5.10	26.68	38	N-14°W	北	○	○	○	
155	Bn-24	長方形	3.72×3.30	(11.13)	25	N-82°W	東	—	—	—	灰輪皿
156	Bm・Bn-24	正方形	3.42×3.36	10.26	30	N-93°E	東	○	—	○	
157	Be-21・22	長方形	3.51×4.41	14.96	12	N-85°E	東	○	—	—	灰輪皿・壺・壺
158	Bl・Bm-26・27	長方形	6.80×6.30	41.30	24	N-4°W	北	○	○	—	
159	Bh-24	長方形	3.00×3.45	10.05	21	N-83°E	東	—	—	—	
160	Bj-25	長方形	4.83×3.51	(15.86)	24	N-22°W	北	○	—	—	丸玉・磁石
161	Bj-23	—	? × 5.19	—	10	N-4°W	—	—	—	—	
163	Bl-23・24	正方形	4.65×4.80	22.04	42	N-24°W	北	○	—	—	土製紡錘車
165	Bk-26・27	長方形	3.09×4.20	12.62	34	N-78°E	—	○	—	—	
167	Bl-26・27	長方形	4.05×3.20	12.30	46	N-17°W	北	○	—	—	
169	Bo・Bn-21	長方形	4.80×4.35	19.65	40	N-9°W	北	○	—	—	
170	Bk-26	長方形	3.15×4.35	13.45	34	N-77°E	東	—	—	—	
171	Bn-22・23	長方形	3.51×3.00	10.03	27	N-100°E	東	—	—	—	
172	Bn・Bo-23	長方形	4.00×3.60	14.25	52	N-3°W	北	○	—	—	
173	Bm・Bn-24・25	長方形	5.28×3.96	20.34	27	N-96°E	—	—	—	—	
175	Bj・Bk-25	長方形	3.45×3.66	(9.19)	26	N-18°W	北	—	—	—	
176	Bk-24・25	長方形	6.15×7.05	(42.61)	33	N-15°W	—	○	○	—	紡錘車
177	Bj-21・22	長方形	4.05×3.12	(13.28)	30	N-9°W	北	○	—	—	白玉
180	Bg-29・30	正方形	4.02×4.17	(16.48)	42	N-27°W	北	○	○	○	
182	Bn・Bo-25	長方形	4.20×3.89	15.73	35	N-27°W	北	○	—	—	

B区掘立柱建物跡一覧表

掘立柱建物跡No.	位置(グリッド)	規模(m)	主軸方位	形状	重複関係	備考
1	Bo-34・35	4.60×3.60	N-85°-E	長方形	4号掘立柱建物跡	遺物なし。
2	Bf-31	3.30×1.90	N-40°-E	長方形	3号掘立柱建物跡	土器破片散点。
3	Bf-30・31	3.40×2.50	N-80°-E	長方形	2号掘立柱建物跡	遺物なし。
4	Bo-34・35	5.00×3.80	N-83°-E	長方形	1号掘立柱建物跡	遺物なし。
5	Bg-26・27	3.50×3.00	N-80°-E	—	142・145号住	土器破片散点。
6	Bj・Bk-30・31	5.00×4.00	N-65°-E	長方形	—	北及び西側外縁にも柱列、付属施設か。
7	Bj-29	3.30×3.40	N-36°-W	長方形	11号土坑	遺物なし。
8	Bj-21	2.50×2.30	N-73°-E	正方形	177号住	遺物なし。

B区土坑・集石一覧表

土坑No.	位置(グリッド)	平面形	規模(m)	深さ(cm)	重複関係	備考
4	Bo-29	楕円形	1.78×1.43	34	—	縄文前期土器片検出。
24	Ba-13	—	—	—	2号住居内に構築。	底面近くで弥生時代中期の大型の壺型土器検出。
25	At-25・26	—	—	—	20号住居内に構築。	稲圧痕の残る弥生時代中期の壺型土器を検出。
1	Br-29	楕円形	1.55×0.93	20	—	—
2	Bq-29	楕円形	1.42×1.29	18	—	遺物なし。
3	Bq-29	長方形	1.88×1.44	31	—	遺物なし。
5	Bo-28	楕円形	1.43×0.90	16	—	遺物なし。
8	Bp-23	正方形	1.12×1.10	24	南壁で小ピットと重複	遺物なし。
10	Bp-25	楕円形	0.87×0.52	11	—	遺物なし。
11	Bj-29	楕円形	2.72×2.00	22	7号掘立と重複	土器器環2・壺1・須恵器環1検出。
12	Bm-21	楕円形	0.77×0.58	35	143号住居と重複	遺物なし。
13	Bj-23	楕円形	1.25×0.78	21	161号住居と重複	須恵器環1・羽釜1
14	Bk-21	楕円形	1.48×0.62	28	—	遺物なし。
15	Bo-24	円形	0.77×0.75	35	—	遺物なし。
16	Bo-24	楕円形	1.00×0.78	34	—	遺物なし。
19	Bc-17	円形	0.88×0.84	12	—	遺物なし。
20	Bq-21	長方形	1.64×1.20	13	60号住と重複	須恵器環2・灰釉埴1
21	Bq-21	長方形	1.54×0.90	14	—	遺物なし。
22	Bc-16	円形	0.96×0.90	29	64号住と重複	遺物なし。
23	Ba-15	楕円形	0.91×0.52	18	—	遺物なし。
26	Bd-18	—	—	—	13号住と重複	土器器環4・台付壺2・壺2
2号集石	Bm-30	不整形	3.00×1.60	—	—	1.30m×0.70mの塊土面。須恵器環3・土器器環1

第2節 住居跡と出土遺物

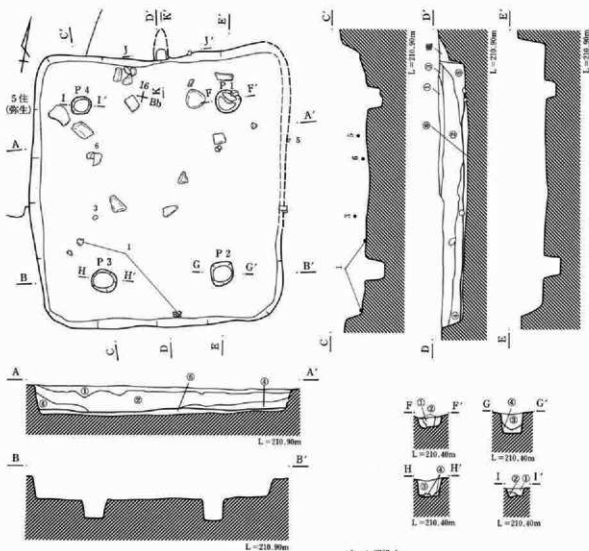
B-1号住居跡 (第5・6図、P.L.4・67)

位置 Ba-15・16グリッド 床面積 17.03m² 主軸方位 N-12'-W

重複 なし。

規模と形状 東西4.00m・南北4.35mを測る長方形を呈する。

埋没土 黄色土の小ブロックを多量に含む黄褐色土を主体とする。



- ① 暗茶褐色土。しまり良く、小礫を含む。
- ② 黄褐色土。多量の黄色土ブロックと少量の浮石を含む。
- ③ ②層に似るが、黄色土ブロックが多い。
- ④ 茶褐色土。少量の黄色土ブロックを含む。
- ⑤ 茶褐色土。焼土を多量に含み、少量の黄色土ブロックが混入。
- ⑥ 暗黄褐色土。地山の黄褐色土に少量の黒色土が混入。

ピット埋没土

- ① 暗褐色土。小礫・黄褐色粒を含む。
- ② 暗褐色土。地山の砂質土に若干の礫が混入。
- ③ 黒褐色土。少量の焼土・炭化物・黄褐色粒を含む。
- ④ 暗黄褐色土。地山の黄褐色土ブロックを混入。粘性あり、しまりなし。

第5図 1号住居跡

床面 確認面からの壁高は最大で42cmを測る。壁面はやや外傾気味に立ち上がる。掘り方をもち、貼り床を施す。地山の黄褐色土に少量の黒色土が混じりあった暗黄褐色土で充填されている。掘り方底面はほぼ平であった。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

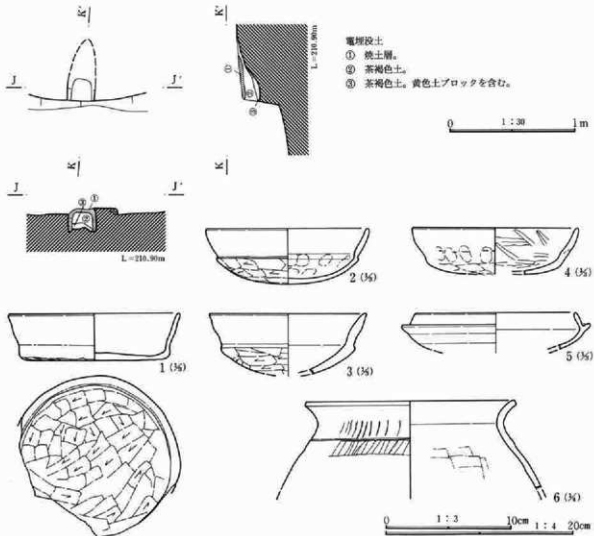
柱穴 住居プランのほぼ対角線上に4基の支柱穴を検出することができた。

No.	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	40cm	41cm	40cm	34cm
下端長径	28cm	31cm </td <td>32cm</td> <td>24cm</td>	32cm	24cm
深さ	20cm	34cm	28cm	27cm

出土遺物 遺物は量・種類ともにやや少なく、散在して出土している。須恵器坏1点(5)の他に土師器坏4点(1~4)・甕1点(6)を図化することができた。

竈 北壁中央付近で検出された。残存状態が非常に悪く、煙道の掘り方が僅かに残るのみである。燃焼部は破壊されており、詳細は不明である。煙道部は煙道幅22cm・煙道長48cmを測る。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第6図 1号住居跡竈、出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-2号住居跡(第7図、PL4)

位置 Ba-13・14グリッド。錦川の段丘崖が間近にせまる調査区の最南端に位置する。

床面積 不明。 **主軸方位** 不明。

重複 24号土坑(弥生時代)の上部を切って構築している。検出部は少なく、住居の大半は調査区外となっている。

規模と形状 調査範囲が大変限られており、規模・形状ともに不明である。

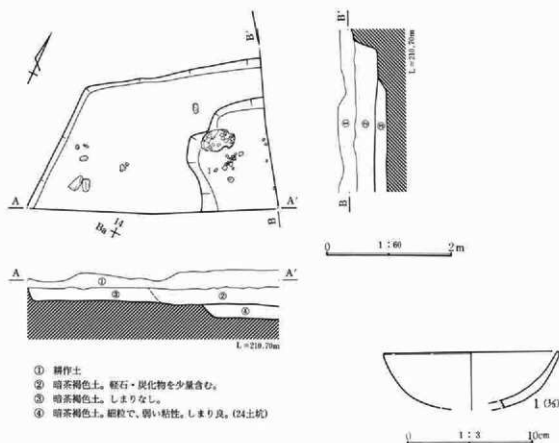
床面 確認面からの壁高は最大で20cmを測る。西側の平坦面が床面と考えられる。地山の粘質黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 不明。 **周溝** 不明。 **柱穴** 不明。

出土遺物 遺物は極めて少ない。図化可能な遺物は、土師器坏1点(1)のみである。

竈 不明。

調査所見 調査時には2号住の単独住居として調査しているが、整理を進める中で西側の平坦面の遺物及び東側の掘り込み部に散在する遺物と東側の掘り込み内でまともって検出された大型の壺形土器の間に大きな時期差があることが判明した。大型の壺形土器は弥生時代中期の所産と思われる。これらのことから、東側の深い掘り込み部を住居と同一遺構とするより別遺構ととらえた方が妥当であると考え、整理時に新たに24号土坑として処理することにした。住居部分の遺物は極めて少なく、図化できた遺物も覆土中のものであるため、時期は明瞭ではない。奈良時代か。



第7図 2号住居跡、出土遺物実測図

B-3号住居跡 (第8~10図, P L 4・67)

位置 調査区の南端Ba・Bb-15グリッドに位置する。床面積 16.05㎡ 主軸方位 N-1°-W
重複 なし。

規模と形状 東西4.41m・南北4.11mを測るやや歪んだ長方形を呈する。

埋没土 上層はB軽石の混入が多く、下層は黄色土混じりの暗茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で26cmを測る。掘り方を持ち、貼り床が認められる。地山の黄褐色土に黒色土を混入した暗黄褐色土を充填して床面としている。掘り方には6基のピットが検出されている。

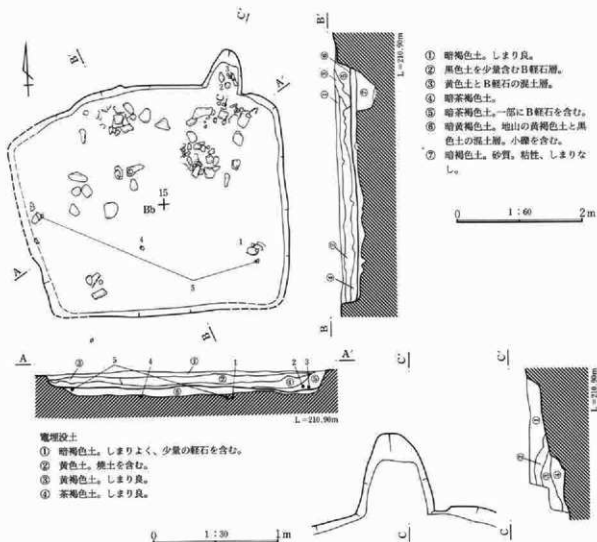
貯蔵穴 掘り方で6基のピットが検出されているが、いずれも位置的に貯蔵穴とするには疑問が残る。

周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 遺物量は比較的少なく、竈周辺を中心に分布する。図化可能な遺物は須恵器高台付埴土3点(1~3)・小型埴土1点(4)・土師器壺1点(5)の5点である。

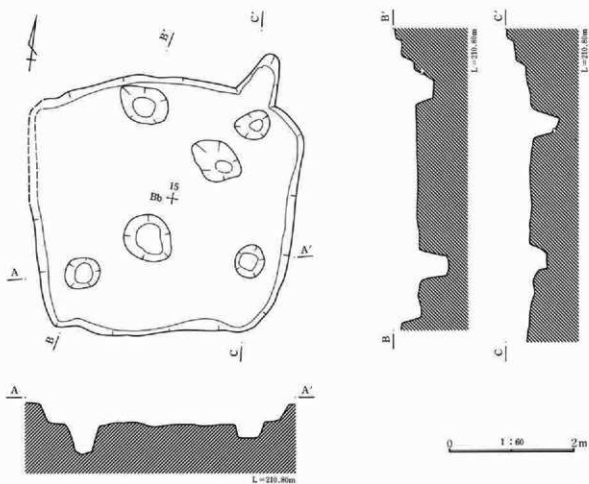
竈 北壁の東よりで検出された。焚口幅54cm・奥行80cmを測る。竈内から須恵器高台付埴土2点(2・3)が検出された。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。

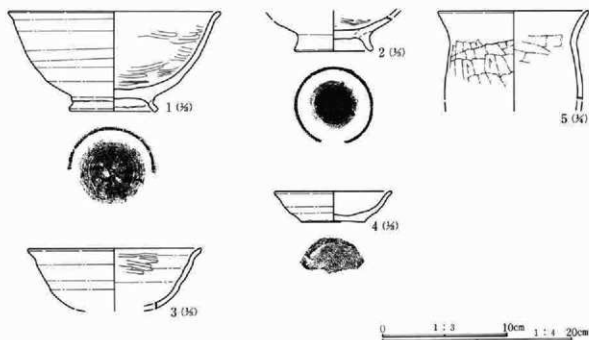


第8図 3号住居跡(1)、竈

第3章 検出された遺構と遺物



第9図 3号住居跡(2)



第10図 3号住居跡出土遺物実測図

B-4 A号住居跡 (第11・12図、P.L 4・5・67)

位置 Bb・Bc-16グリッド 床面積 (6.61m²) 主軸方位 不明。

重複 4 B号住・64号住・5号住と重複。いずれよりも新しい。

規模と形状 他住居との重複等で平面プランの確認は困難を極めた。西壁及び南壁は4 B住との重複部に当たりプランも不明瞭である。残存部の形状から東西2.58m・南北2.49mを測る小型の正方形を呈する住居跡と考えられる。

埋没土 軽石・焼土粒を多く含むしりの良い暗茶褐色土を主体とする。

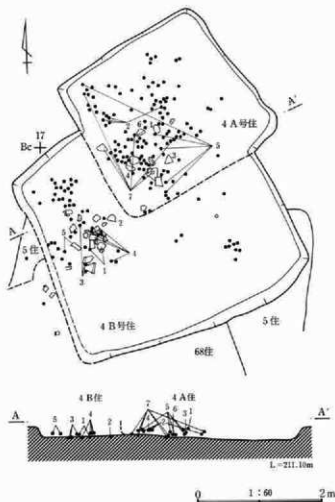
床面 確認面からの壁高は最大で18cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 遺物は覆土中のものが多く、住居ほぼ全面に散乱して検出された。図化可能な遺物は土師器坏3点(1~3)・鉢1点(4)・壺3点(5~7)の7点である。

竈 不明、痕跡を含めて検出することができなかった。

調査所見 調査時には4 B号住とあわせて1軒の単独住居として調査している。しかしながら、住居プランや遺物の接合関係をみると、1軒の住居とするには無理があることから、整理段階で4 A・4 Bの番号を新たに設け、重複住居として取り扱うこととした。出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第11図 4 A・4 B号住居跡

B-4 B号住居跡 (第11・13図、P.L 4・5・67)

位置 Bb-16グリッド 床面積 (13.74m²)

主軸方位 不明。

重複 4 A号住・5号住・64号住・68号住と重複。4 A号住よりも古く、5号住・64号住・68号住より新しい。

規模と形状 他住居との重複により平面プランは不明瞭であるが、残存部の形状から東西4.00m・南北3.60mを測る長方形を呈するものと推定される。

床面 確認面からの壁高は最大で15cmを測ることができる。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

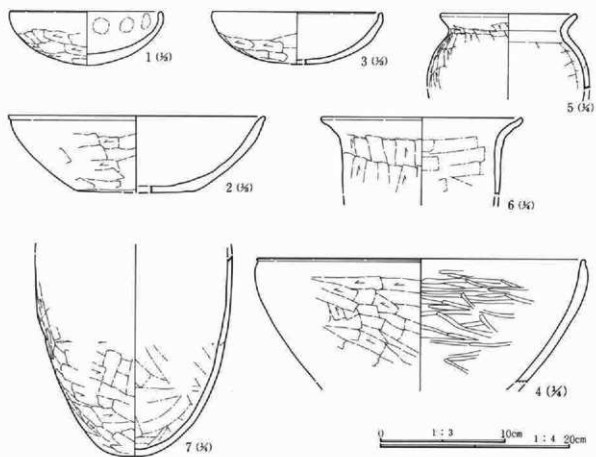
貯蔵穴 なし。周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 遺物は少なく、西壁周辺に集中して検出されている。図化可能な遺物は土師器坏2点(1・2)・鉢1点(3)・壺2点(4・5)の5点である。

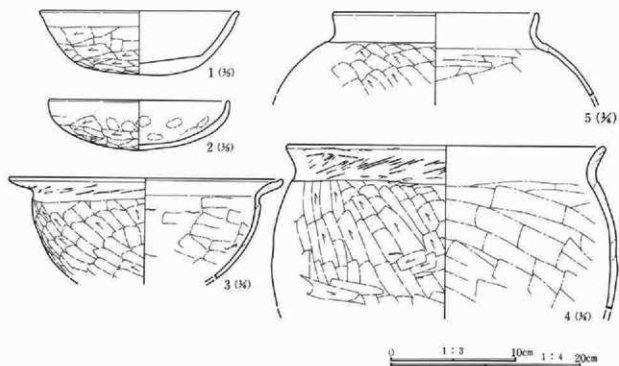
竈 不明、痕跡を含めて検出することができなかった。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。

第3章 検出された遺構と遺物



第12図 4 A号住居跡出土遺物実測図



第13図 4 B号住居跡出土遺物実測図

B-6号住居跡（第14・16図、P L 5・6・67）

位置 At・Ba-17~19グリッド 床面積 (73.46㎡) 主軸方位 N-29°-W

重複 7号住・83号住・84号住と重複、いずれよりも古い。3軒の住居に大半を切られているため、残存部は非常に少ない。

規模と形状 重複部が多く、プランの確認は困難を極めた。北壁・西壁は明瞭な立ち上がりを確認することができず、残存部も少ないことから平面プランもやや不明瞭である。残存部の形状から東西9.12m・南北9.39mを測るたいへん大型の住居跡である。平面形は正方形を呈する。

床面 確認面からの壁高は最大で60cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 不明。周溝 なし。

柱穴 住居の大半は83号住との重複部にあたり、83号住居内に多数のピットが検出されているが、いずれの住居に所属するか明瞭ではない。

出土遺物 遺物は竈内に集中して検出されている。図化可能な遺物は土師器環2点(1・2)・小型壺2点(3・4)・小型壺2点(5・6)、珪質頁岩製の管玉1点(7)の7点である。

竈 北壁の中央やや東よりで検出された。残存状況は悪く、規模等の詳細は不明である。袖石に板状の砂岩を用いた左袖部のみが残存する。竈内より環1点(1)・小型壺2点(3・4)が検出されている。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

B-83号住居跡（第15~17図、P L 5・6・85）

位置 As・At-17・18グリッド 床面積 (59.30㎡) 主軸方位 N-29°-W

重複 6号住・84号住と重複。6号住よりも新しい。84号住との新旧は調査時には84号住が新しいとしているが、遺物も混在しており明瞭ではない。

規模と形状 東西7.59m・南北8.58mを測る長方形を呈する。

床面 確認面からの壁高は最大で54cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。周溝 なし。

柱穴 住居内より20数基のピットが検出されているが、6号住のプランと大きく重複しており、いずれの住居に所属するか明瞭ではない。西壁際に7基の小ピットがほぼ一直線上に並んで検出された。

出土遺物 遺物は比較的多いが、種類に乏しい。住居の北東隅にやや集中する傾向が窺えるが、住居のほぼ全面に散乱して検出されている。図化可能な遺物は土師器環5点(1~5)・壺8点(8~15)、須恵器環2点(6・7)の15点である。

竈 北壁の中央やや東よりにあり、残存状況は比較的良好であった。焚口幅65cm・奥行65cmを測る。煙道部の残りも比較的良好で煙道幅27cm・煙道長140cmを測る。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。

B-84号住居跡（第16・18図、P L 85）

位置 At・Ba-18・19グリッド 床面積 (27.48㎡) 主軸方位 N-20°-W

重複 7号住・6号住・83号住と重複。7号住に住居の北半を切られ、6号住の北西部を切って構築している。83号住との新旧関係は明瞭ではない。

規模と形状 重複により平面プランは不明瞭であるが、僅かな残存部から東西(5.19m)・南北5.34mを測る

第3章 検出された遺構と遺物

正方形を呈するものと推定される。

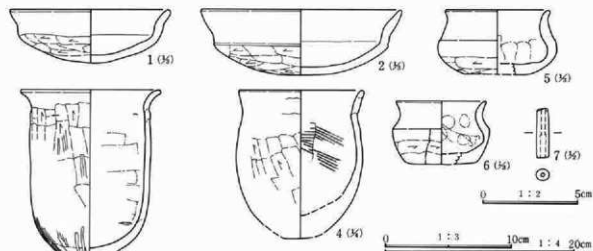
床面 調査資料が乏しく壁高・床面の状態ともに不明である。

貯蔵穴 不明。 **周溝** 不明。 **柱穴** 不明。

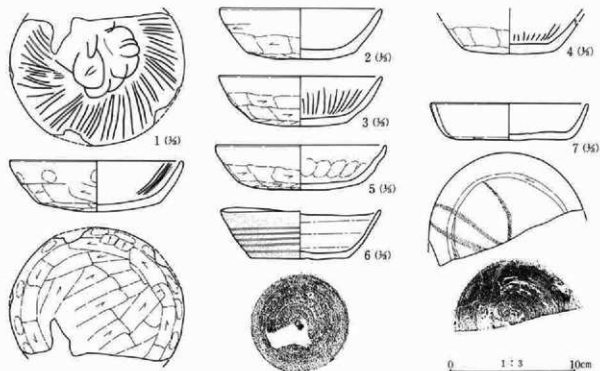
出土遺物 遺物は極めて少なく、いずれも覆土中からの出土である。83号住と混在しており、本住居に帰属するものかどうか不明瞭である。図化可能な遺物は土師器坏1点(1)・甕2点(3・4)、須恵器坏1点(2)の4点である。

竈 住居の北側で検出された焼土の痕跡が竈に相当するものと思われる。7号住に破壊されたものと思われ、形状をとどめていない。

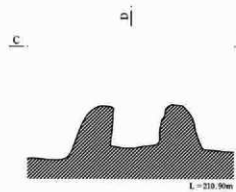
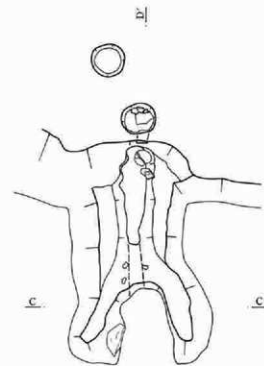
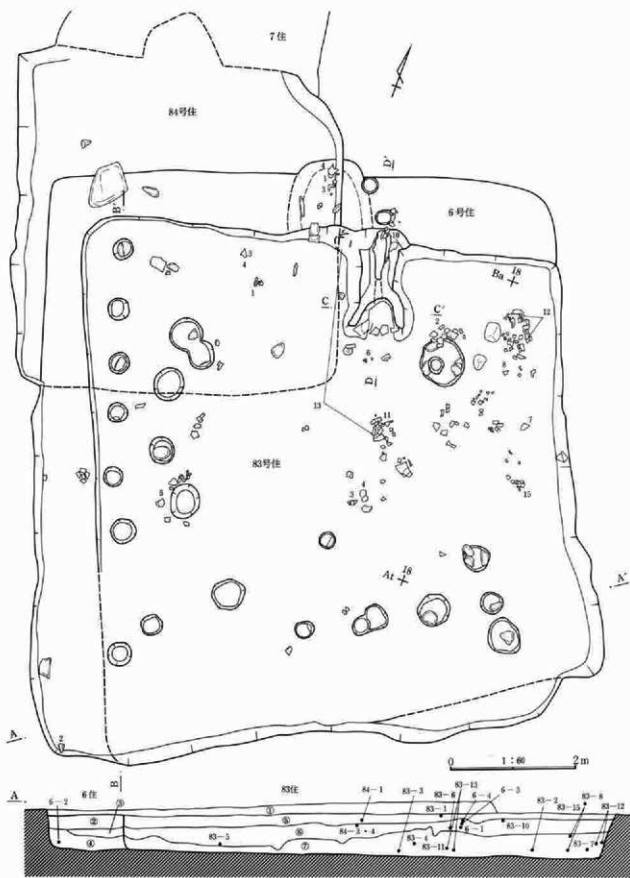
調査所見 83号住と遺物が混在しており時期を限定するのは難しい。奈良時代か。



第14図 6号住居跡出土遺物実測図

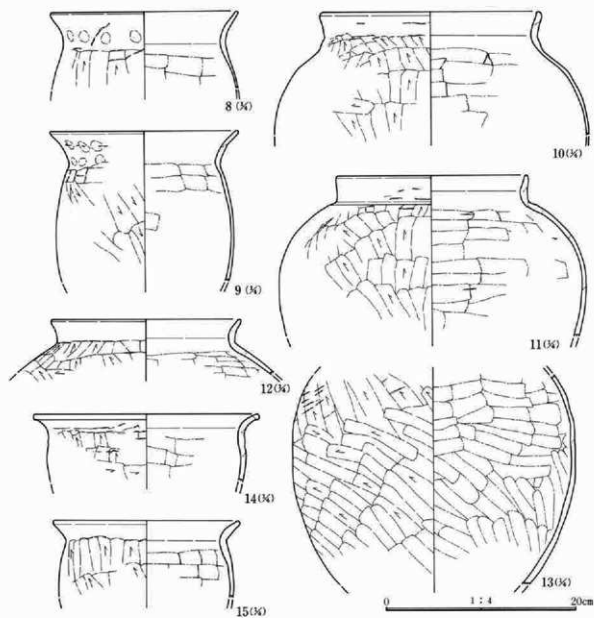


第15図 83号住居跡出土遺物実測図(1)

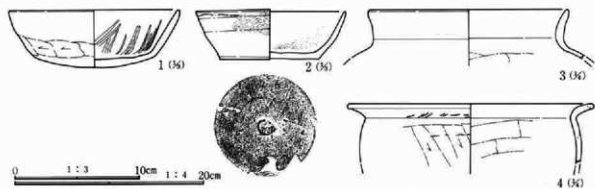


- 6住・83住
- ① 灰黒色土。多量の軽石と黄褐色粒を含む。粘性あり。
 - ② 灰黒色土。多量の軽石と小礫を含む。
 - ③ 黒褐色土。軽石・黄褐色土ブロック・炭化物を含む。粘性あり。
 - ④ 暗黄褐色土。多量の黄褐色土・炭化物・軽石を含む。
 - ⑤ 灰黒色土。軽石・黄褐色粒を含む。粘性あり。
 - ⑥ 黒褐色土。軽石・炭化物・黄褐色粒を含む。粘性あり。
 - ⑦ 暗褐色土。軽石・黄褐色粒とやや多めの炭化物を含む。粘性あり。

第16図 6・83・84号住居跡、83号住居跡電



第17図 83号住居跡出土遺物実測図(2)



第18図 84号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-7号住居跡 (第19・20図, P.L 6・68)

位置 Ba-19グリッド 床面積 (15.49㎡) 主軸方位 N-100°-E

重複 6号住・84号住居跡の覆土を切って構築される。

規模と形状 他住居との重複でプランの確認は困難を極めた。南壁は6号住・84号住の覆土にあたり、明瞭な差が認められず掘り過ぎてしまった。東西3.90m・南北(4.50m)を測る歪んだ長方形を呈する。

埋没土 上層はB軽石を多量に含む、下層は黄色土ブロックを含む茶褐色土を主体とする。

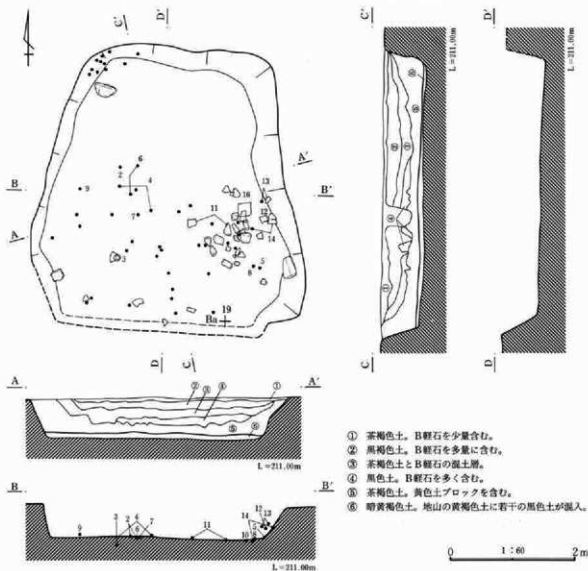
床面 確認面からの壁高は最大で60cmを測る。掘り方があり、貼り床が認められる。掘り方内は暗黄褐色土を充填して床面としている。掘り方底面はほぼ平坦である。

貯蔵穴 なし。周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 比較的多くの遺物が検出された。土師器土釜3点(10~12)、須恵器環2点(1・2)・高台付埴1点(3)・小型埴6点(4~9)・羽釜2点(13・14)が検出されている。

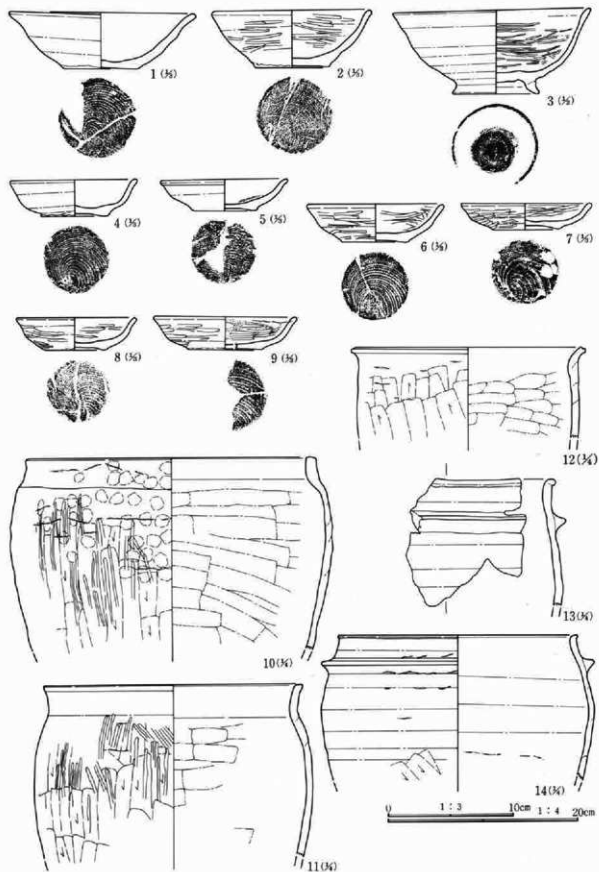
竈 東壁の南隅で検出された。残存状況は悪く、掘り方のみが残る。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第19図 7号住居跡

第2節 住居跡と出土遺物



第20图 7号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-8号住居跡 (第21・22図、P.L 6・68)

位置 Bb・Bc-18グリッド 床面積 17.02㎡ 主軸方位 N-5°-W

重複 なし。

規模と形状 東西4.44m・南北3.90mを測る長方形を呈する。

埋没土 しまりの良い黄色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で36cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

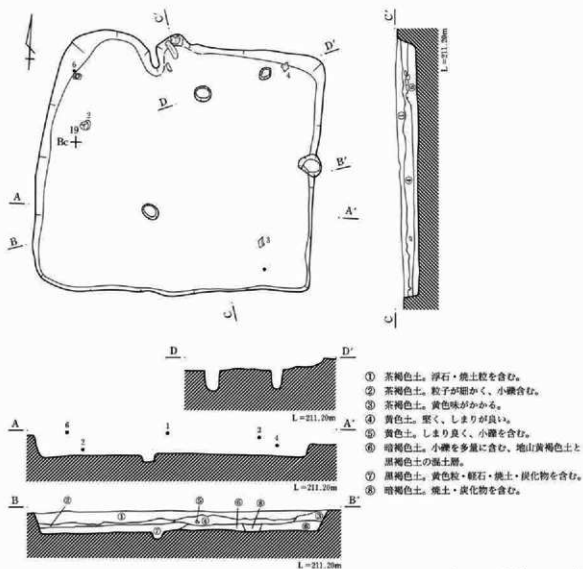
貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 3基の小ピットが検出されたが、柱穴に相当するものとは思われない。

出土遺物 遺物量は少なく、散在して出土している。図化可能な遺物は土師器環2点(1・2)・長胴壺2点(3・4)、石製品等の石器2点(5・6)の6点である。

竈 北壁の中央やや西よりで検出された。残存状況が悪く、詳細は不明である。

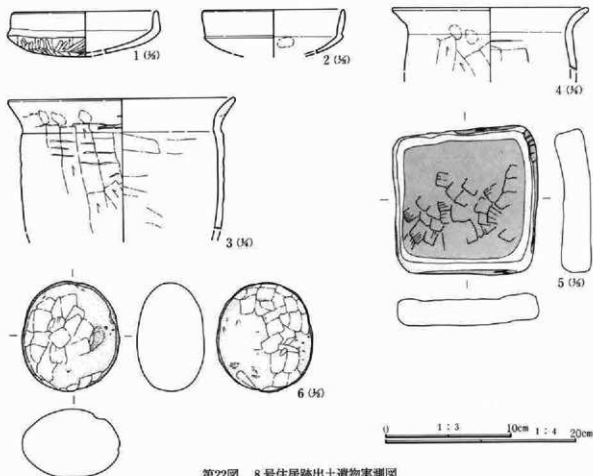
調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第21図 8号住居跡

0 1:60 2m

第2節 住居跡と出土遺物



第22図 8号住居跡出土遺物実測図

B-10号住居跡 (第23~25図、P.L.7・68)

位置 Ba・Bb-20グリッド 床面積 16.88㎡ 主軸方位 N-29°-W

重複 なし。

規模と形状 東西4.50m・南北3.93mを測るやや歪んだ長方形を呈する。

埋没土 暗褐色土と黄褐色土の混土層を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で33cmを測ることができる。壁面はやや外傾気味に立ち上がる。掘り方があり、貼り床を施している。掘り方内には黄褐色土と黒色土混じりの黒褐色土を充填して床面としている。掘り方調査では数基の小ピットと住居中央に径170cm・深さ25cm程のほぼ円形を呈する床下土坑が検出されている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

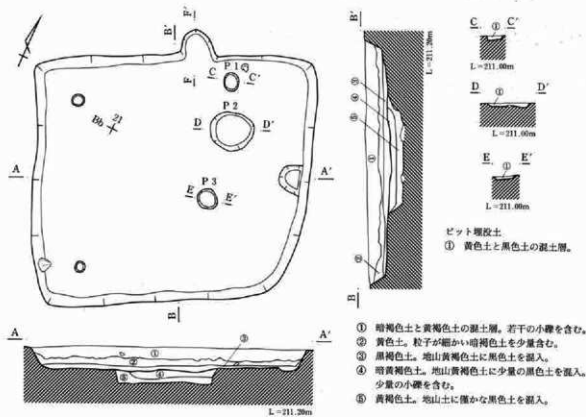
柱穴 数基の小ピットが検出されているが掘り込みも浅く柱穴とするには疑問が残る。

出土遺物 遺物は極めて少なく、図化できたのは北壁際で検出された土師器杯1点(1)のみである。

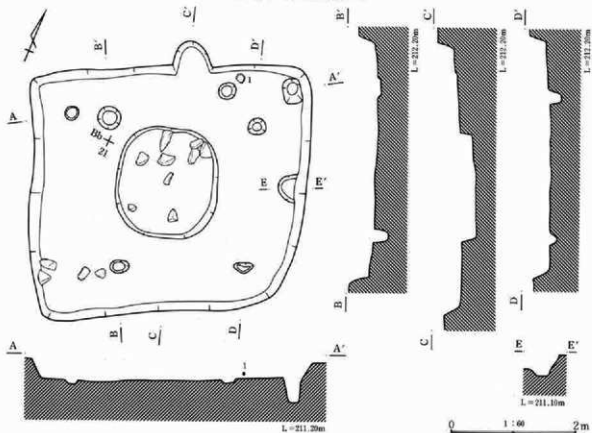
竈 北壁の中央やや東よりで検出された。残存状態は不良である。規模は焚口幅48cm・奥行46cmを測る。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

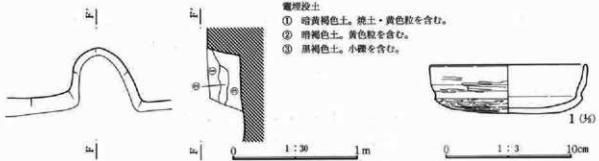
第3章 検出された遺構と遺物



第23図 10号住居跡(1)



第24図 10号住居跡(2)



第25図 10号住居跡竈、出土遺物実測図

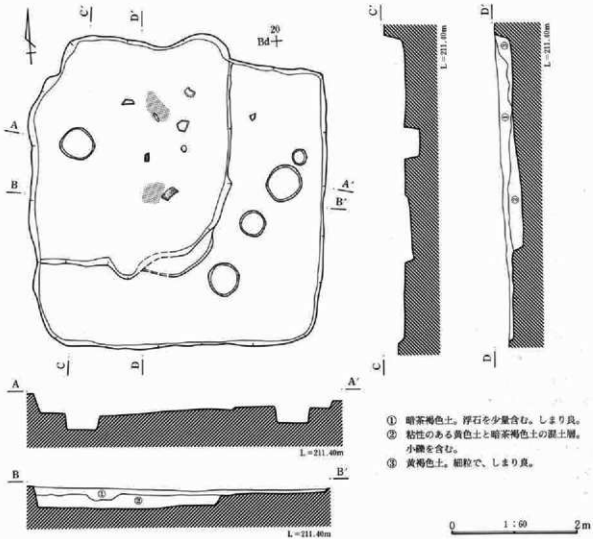
B-11号住居跡 (第26図、P L 7)

位置 Bc-20グリッド 床面積 23.30㎡ 主軸方位 不明。

重複 なし。

規模と形状 東西4.74m・南北4.92mを測るほぼ正方形を呈する。

埋没土 黄色土と暗茶褐色土の混土层を主体とする。



第26図 11号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

床面 確認面からの壁高は最大で34cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面には段差があり、西側の一面が3cm～18cm程深く掘り込まれている。深い掘り込み部には炭化材・焼土・熱を受け赤化した砂岩などが床面から浮いた状態で散在して出土している。

貯蔵穴 なし。 **周溝** なし。

柱穴 5基のピットが検出されているが、規則的な配列は認められなかった。

出土遺物 遺物は破片を含めて検出することができなかった。

竈 不明、痕跡を含めて検出することができなかった。

調査所見 調査時には住居跡として調査しているが、竈・貯蔵穴等の住居に伴う施設が検出されていないこと、住居プランも不明瞭で遺物も破片を含めてまったく検出されていないこと等を考慮すると住居跡とするには疑問が残る。住居状遺構とすべきかもしれない。

B-12号住居跡 (第27～30図、P L 7・68)

位置 Bc・Bd-16・17 **床面積** 17.60㎡ **主軸方位** N-82°-E

重複 33号住・65号住と重複。両住居の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西3.51m・南北4.92mを測る歪んだ長方形を呈する。

埋没土 炭化物粒・焼土粒・B軽石を少量含む茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で35cmを測る。掘り方があり、貼り床を施している。掘り方を充填した黒色土混じりの暗黄褐色土が張り床である。床面はほぼ平坦である。掘り方では電前の掘り込みを含めて6基のピットが検出されている。

貯蔵穴 掘り方調査で検出された電右脇の径70cm・深さ16cmの円形を呈するピットが貯蔵穴に相当するものと思われる。

周溝 なし。

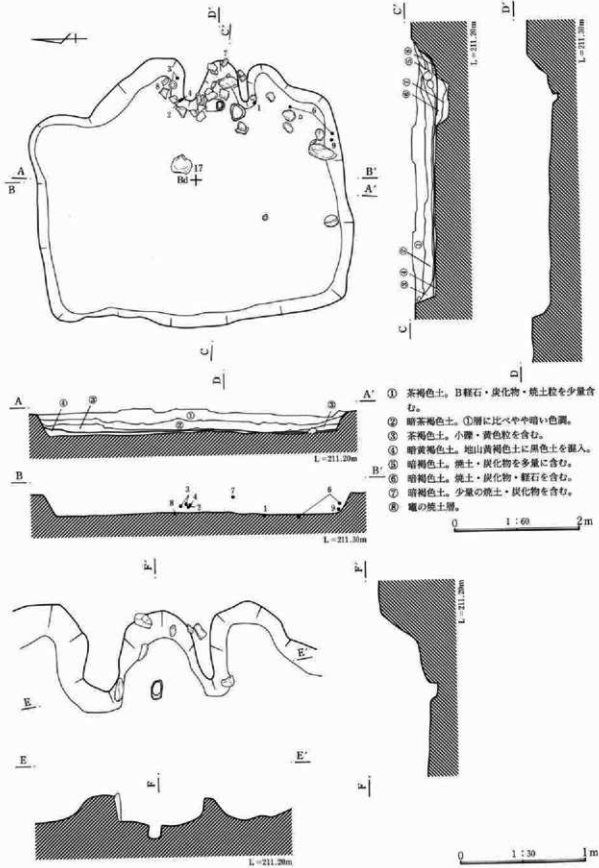
柱穴 4基の小ピットが検出されている。

No.	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	28cm	34cm	34cm	30cm
下端長径	14cm	30cm	28cm	24cm
深 さ	52cm	38cm	34cm	29cm

出土遺物 遺物は電周辺に集中して検出された。須恵器坏1点(1)・高台付埴1点(2)・羽釜2点(7・8)、灰軸陶器高台付皿1点(3)・高台付埴2点(4・5)、土師器甕1点(6)、磨石1点(9)の9点が検出されている。

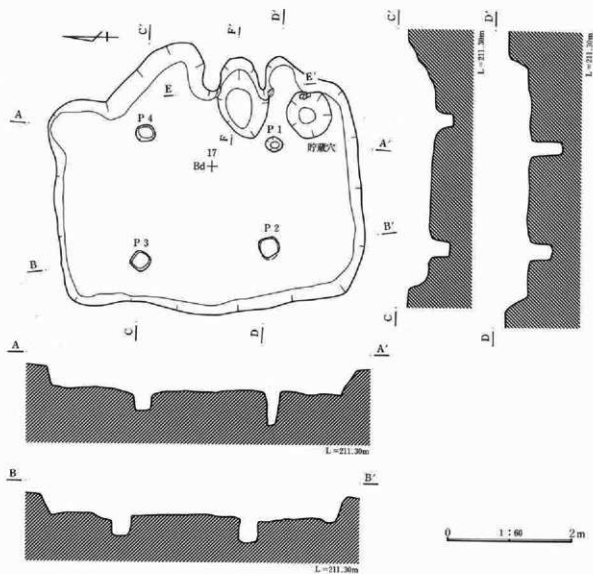
竈 東壁の中央やや南よりで検出された。焚口幅70cm・奥行75cmを測る。左袖石は残っていたが右袖石は検出されなかった。竈周辺には竈に使用されたと思われる石材が散在していた。また、支柱石抜きとり痕・右袖石抜きとり痕と思われる小ピットが検出されている。竈の左袖付近から須恵器埴(2)・羽釜(8)、灰軸陶器皿(3)・埴(4)が、右袖付近より須恵器坏(1)が、奥壁上部より羽釜(7)が検出されている。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。

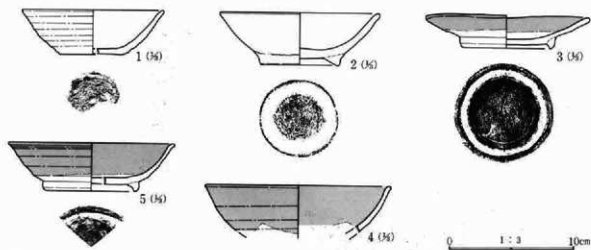


第27図 12号住居跡(1)、甕

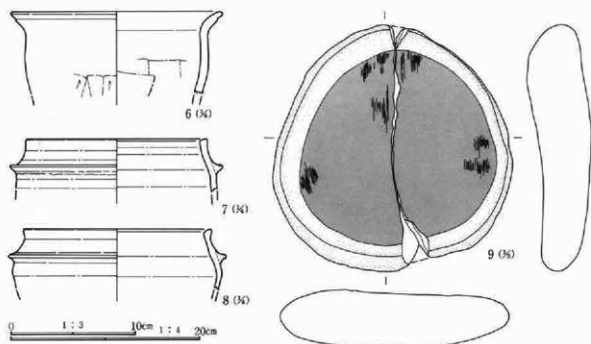
第3章 検出された遺構と遺物



第28図 12号住居跡(2)



第29図 12号住居跡出土遺物実測図(1)



第30図 12号住居跡出土遺物実測図(2)

B-13号住居跡(第31～33図、P.L.8・69)

位置 Bd-18グリッド 床面積 22.51㎡ 主軸方位 N-17-W

重複 住居の南東隅を26号土坑によって切られている。

規模と形状 東西4.92m・南北4.80mを測るほぼ正方形を呈する。

埋没土 埋没土中に多量の円礫を混入する。

床面 確認面からの壁高は最大で30cmを測る。地山の裸混じりの黄色土を掘り込んで床面としている。住居の中央から北半にかけて、床面から覆土上層まで300点を越える大小の円礫が集中して検出された。南壁沿いには石の分布はすくない。

貯蔵穴 住居の北東隅で検出された。楕円形を呈し、規模は長軸100cm・短軸84cm・深さ37cmを測ることがができる。覆土中より、ほぼ完形の甕が検出された。

周溝 なし。

柱穴 6基のピットが検出されている。P1～P4の4基が支柱穴と思われる。

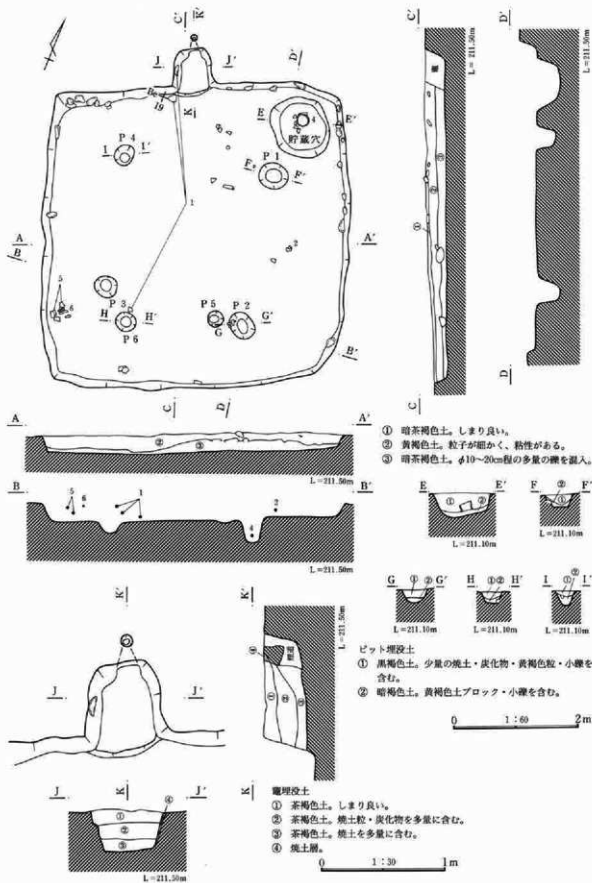
No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
上端長径	46cm	42cm	32cm	34cm	26cm	36cm
下端長径	25cm	22cm	17cm	15cm	14cm	20cm
深 さ	20cm	21cm	17cm	22cm	18cm	14cm

出土遺物 遺物は散乱して検出された。図化可能な遺物は土師器環3点(1～3)・甕1点(4)、須恵器甕1点(5)、鉄製品刀子1点(6)の6点である。

竈 北壁の中央付近にあり、焚口幅51cm・奥行70cmを測る。

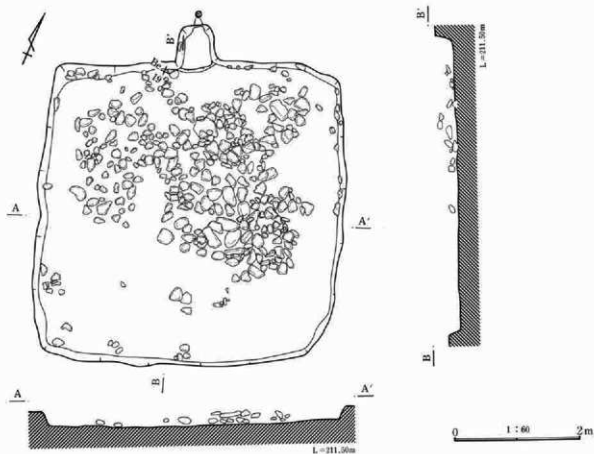
調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

第3章 検出された遺構と遺物

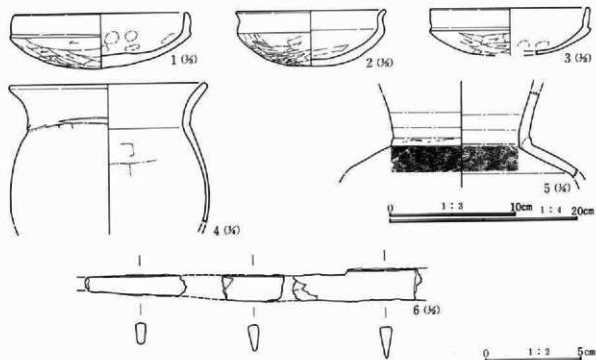


第31図 13号住居跡(1)、竈

第2節 住居跡と出土遺物



第32図 13号住居跡(2)



第33図 13号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-14号住居跡 (第34・35図、P.L. 8・9・69)

位置 Ba-22・23グリッド 床面積 不明 主軸方位 N-26°-W

重複 なし。住居の南半は調査区外である。

規模と形状 東西6.45m・南北2.80m+αを測る。検出部が少なく形状は不明である。

埋没土 焼土・軽石・炭化物・黄色粒を含む暗黒褐色土及び黒褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で72cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

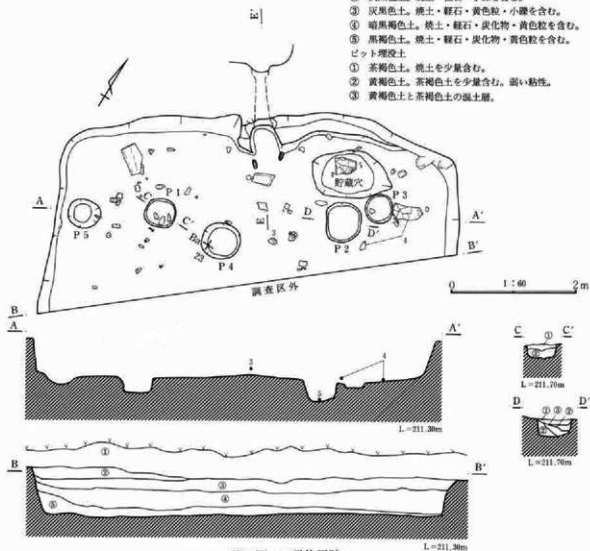
貯蔵穴 電右脇にあり、長軸132cm・短軸74cm・深さ53cmを測る楕円形を呈する。貯蔵穴上部より、ほぼ完形の土師器壺1点(5)が出土している。

周溝 なし。

柱穴 5基のピットが検出されている。P1・P2の2基が支柱穴と思われる。

No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
上端長径	50cm	62cm	46cm	57cm	50cm
下端長径	46cm	52cm </td <td>39cm</td> <td>48cm</td> <td>30cm</td>	39cm	48cm	30cm
深 さ	22cm	29cm	36cm	17cm	11cm

- ① 表土。
- ② 灰黒色土。焼土・軽石・小礫を含む。
- ③ 灰黒色土。焼土・軽石・黄色粒・小礫を含む。
- ④ 暗黒褐色土。焼土・軽石・炭化物・黄色粒を含む。
- ⑤ 黒褐色土。焼土・軽石・炭化物・黄色粒を含む。
- ピット埋没土
- ① 茶褐色土。焼土を少量含む。
- ② 黄褐色土。茶褐色土を少量含む。弱い粘性。
- ③ 黄褐色土と茶褐色土の混土層。

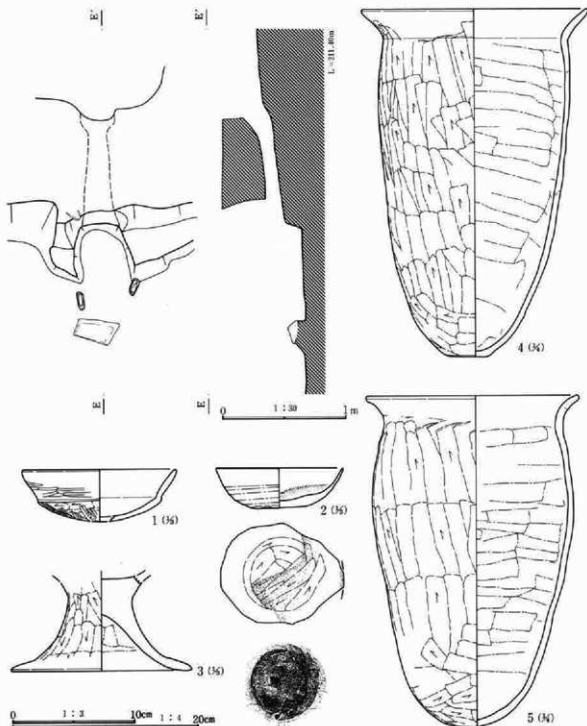


第34図 14号住居跡

出土遺物 遺物は量・種類ともに少なく、散在して出土している。土師器長胴甕2点(4・5)・高環1点(3)・環1点(1)、須恵器環1点(2)が検出されている。

竈 北壁のほぼ中央にあり、残存状態は比較的良好であった。竈前部に天井石の崩落と思われる熱を受け赤化した板状の砂岩が検出された。規模は焚口幅40cm・奥行42cmである。煙道はトンネル状に残り、先端部で15号住に切られている。煙道幅は24cm、煙道長は70cmを測ることができる。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第35図 14号住居跡竈、出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-15号住居跡 (第36・37図, P.L.9・69)

位置 Ba-23グリッド 床面積 8.17㎡ 主軸方位 N-21°-W

重複 なし。

規模と形状 東西3.15m・南北2.79mを測る小型の住居跡である。平面形は長方形を呈する。

埋没土 軽石を多く含む黄褐色土を主体とする。

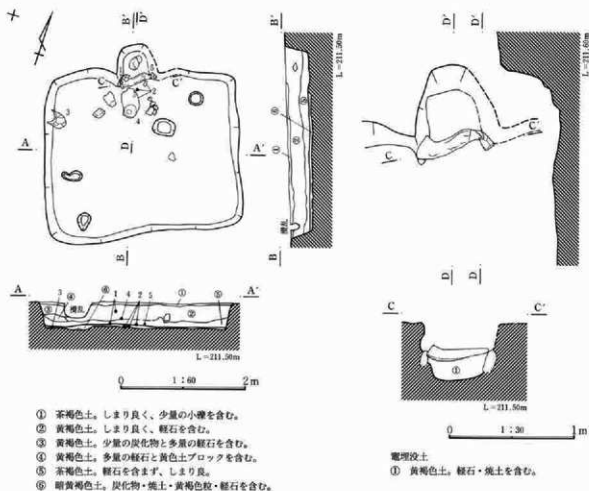
床面 確認面からの壁高は最大で36cmを測る。掘り方があり、貼り床を施す。掘り方内は暗黄褐色土で充填されている。掘り方底面からは小ピット4基が検出されている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。 柱穴 なし。

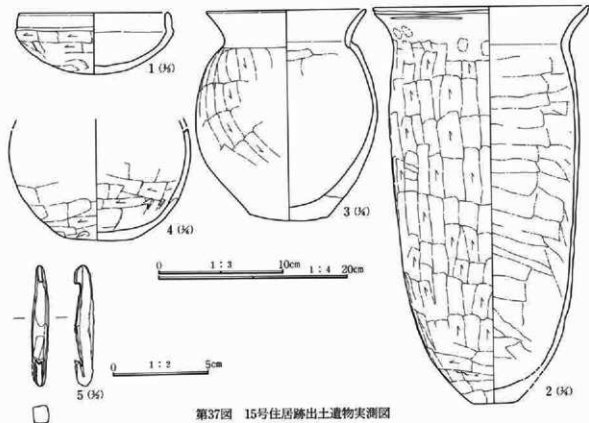
出土遺物 遺物は竈前部に集中する傾向が窺える。土器器臺3点(2~4)・坏1点(1)、火打金1点(5)が検出された。

竈 北壁の中央付近にあり、焚口幅51cm・奥行72cmを測る。両袖石と崩落した天井石が残存するが、右袖部は調査時に掘り過ぎてしまった。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第36図 15号住居跡、竈



第37図 15号住居跡出土遺物実測図

B-16号住居跡 (第38・39図、P.L10・69・70)

位置 At-23・24グリッド 床面積 不明。 主軸方位 N-14°-W

重複 なし。住居の東半は調査区外である。

規模と形状 規模は東西4.90m・南北2.60m+ α を測る。

埋没土 円礫・黄色粒・砂粒を混入する黄褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で34cmを測る。地山の粘質黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 竈の右脇、住居の北東隅で検出された。規模は長軸90cm・短軸66cm・深さ24cmを測り、楕円形を呈する。

周溝 なし。

柱穴 位置的にはやや疑問もあるがP1・P2の2基が主柱穴になるものと思われる。他の2基は調査区外にあるものと思われ検出することができなかった。

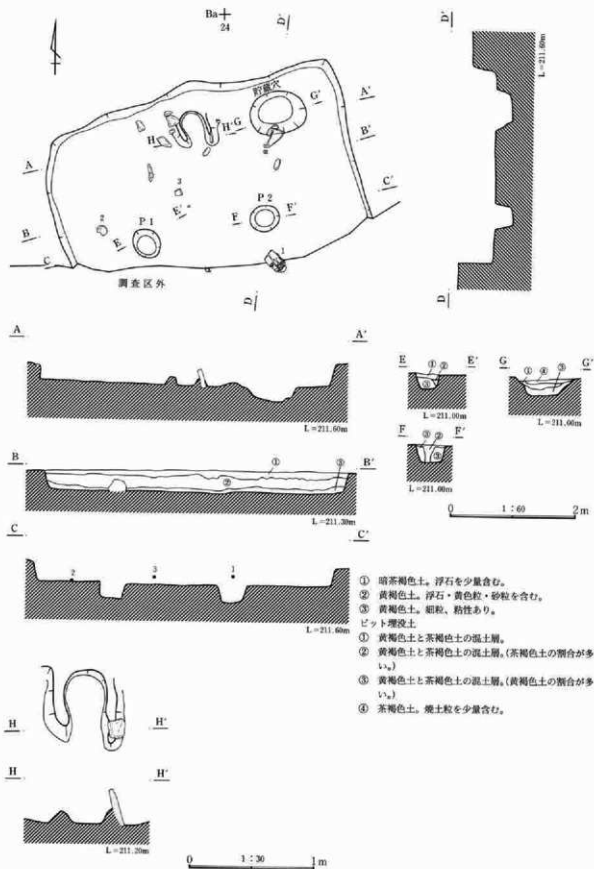
No.	P 1	P 2
上端長径	48cm	48cm
下端長径	32cm	30cm
深さ	26cm	28cm

出土遺物 遺物は量・種類ともに少なく、散在して出土している。図化可能な遺物は竈3点(1~3)のみであった。

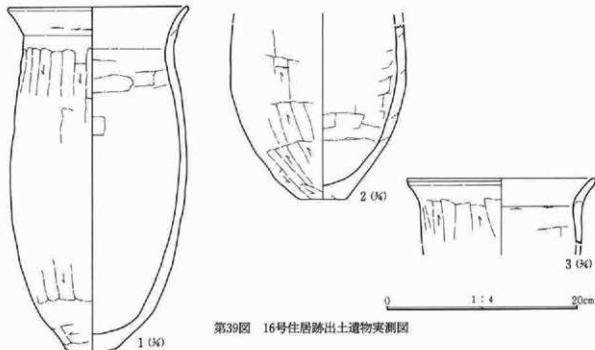
竈 北壁の中央付近にあり、焚口幅31cm・奥行60cmを測る。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

第3章 検出された遺構と遺物



第38図 16号住居跡、竈



第39図 16号住居跡出土遺物実測図

B-17号住居跡 (第40~42図、P L 10・11・70・71)

位置 Ba-24グリッド 床面積 14.78㎡ 主軸方位 N-21°-W

重積 北壁の一部を小土坑によって切られている。

規模と形状 東西3.84m・南北4.17mを測る長方形を呈する。

埋没土 軽石・炭化物を少量含み、黄色粒の混入の多い茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で33cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面付近に炭化材が散在することから焼失家屋の可能性が考えられる。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 5基のビットが検出されているがP 1~P 3の3基が主柱穴になるものと思われる。4本柱構造になるものと推定されるが残りの1基は検出することができなかった。

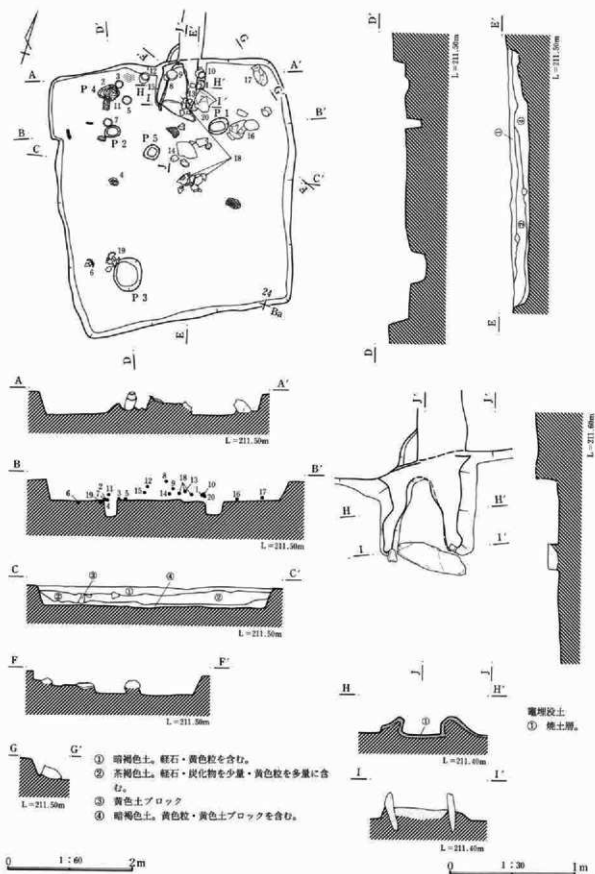
No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
上端長径	33cm	25cm	52cm	31cm	28cm
下端長径	24cm	17cm	40cm	22cm	16cm
深 さ	21cm	27cm	24cm	5cm	10cm

出土遺物 遺物量は比較的多く、遺存率も良好で、ほとんどが完形に近いものである。遺物は竈周辺を中心に分布する傾向が窺え、床面付近からの出土が多い。図化可能な遺物は土師器坏9点(1~9)・小型甕5点(10~14)・長胴甕5点(15~19)・甕1点(20)の20点である。竈の左脇からは2点の小型甕が重なった状態で検出されている。

竈 北壁の中央付近にあり、焚口幅43cm・奥行62cmを測る。袖は住居内に張り出しているが残存状態は悪く下部を残すのみである。両袖内面は火熱を受け赤褐色を呈していた。袖石も残存しており、天井石が両袖石の間に崩落していた。石材は天井石、袖石ともに板状の砂岩を使用している。煙道部は後世の耕作溝によって破壊されており、詳細は不明である。

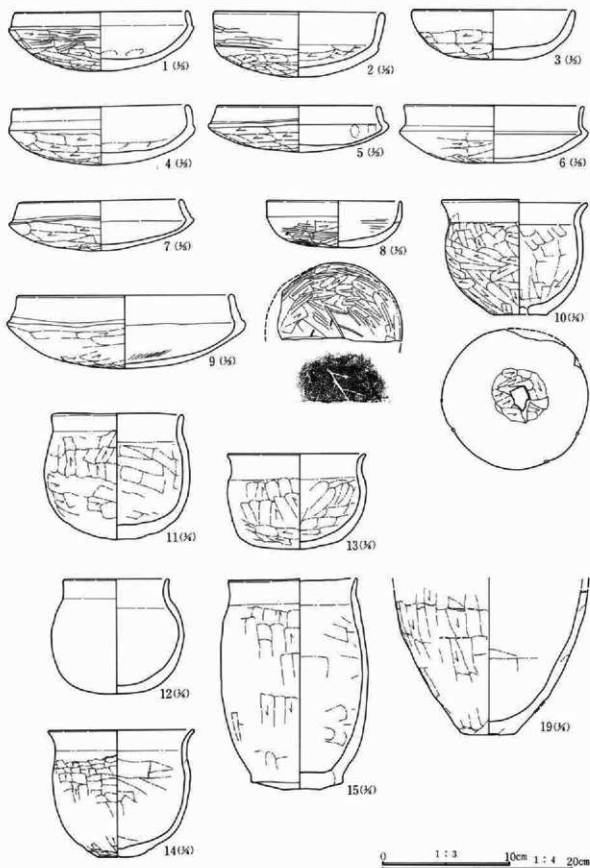
調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

第3章 検出された遺構と遺物



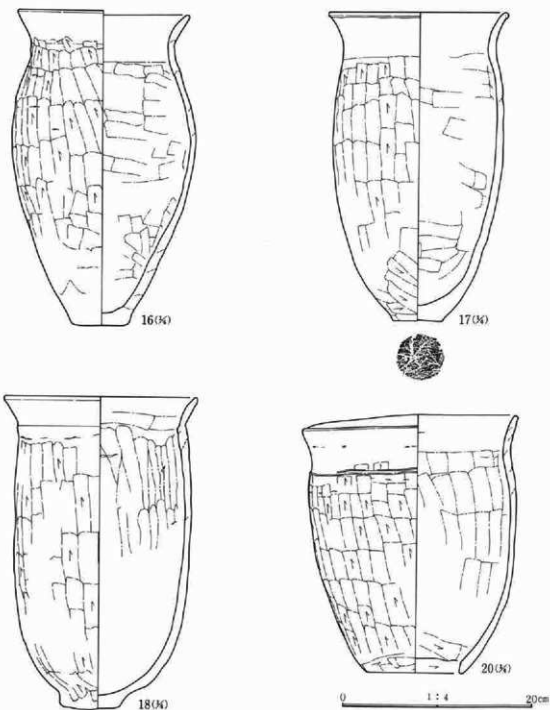
第40図 17号住居跡、電

第2節 住居跡と出土遺物



第41图 17号住居跡出土遺物実測图(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第42図 17号住居跡出土遺物実測図(2)

B-18号住居跡 (第43・44図、P.L11・71)

位置 At-25グリッド 床面積 (7.48㎡) 主軸方位 N-10°-W

重複 41号住 (平安) と重複、南壁を切られる。

規模と形状 東西3.00m・南北2.46mを測る長方形を呈する。

埋没土 埋没土中に多量の円礫を含む。

床面 住居中央から西側にかけて70点余りの大小の石が集中して検出された。確認面からの壁高は最大で22

cmを測る。地山の粘質黄色土を掘り込んで床面としている。

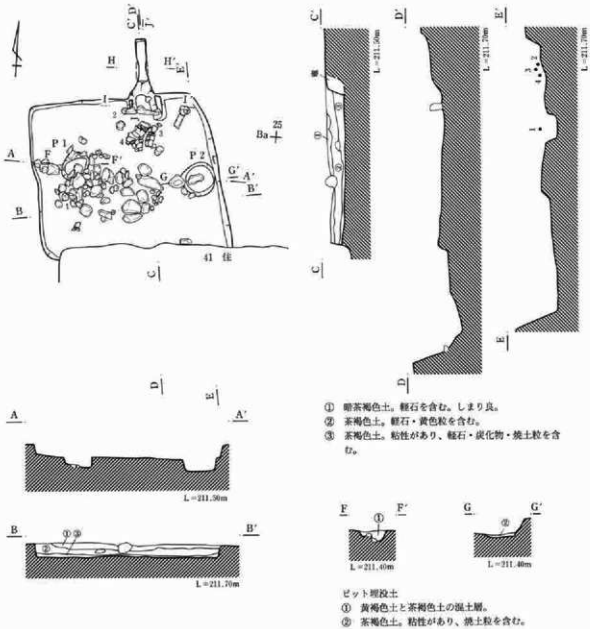
貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 2基のピットが検出されたが、柱穴に相当するものは認められなかった。

出土遺物 遺物は竈前に集中する傾向が窺える。量的には少なく、土師器環2点(1・2)・皿形環1点(3)・長胴甕1点(4)の4点を図化することができた。

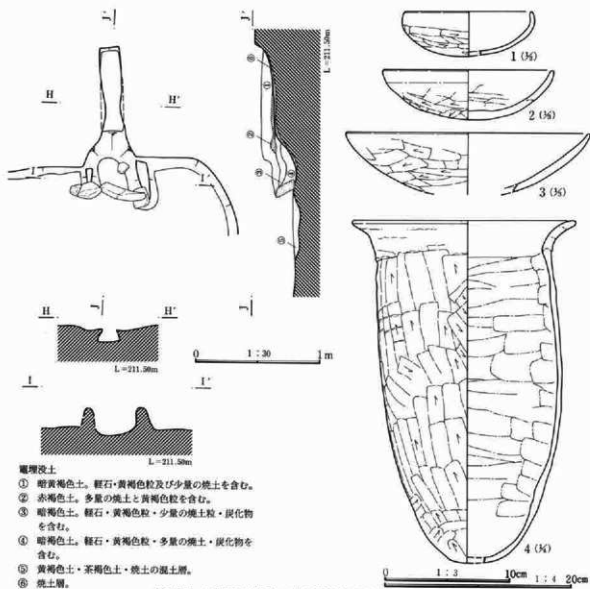
竈 北壁の中央やや東よりにあり、残存状況は比較的良好であった。両袖石を明瞭に残し、竈内には割れた天井石が崩落していた。焚口幅35cm・奥行55cm・煙道幅16cm・煙道長65cmを測る。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第43図 18号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第44図 18号住居跡竈、出土遺物実測図

B-19号住居跡 (第45・46図、P.L12・71)

位置 Ba-26グリッド 床面積 13.40㎡ 主軸方位 N-93°-E

重複 44号住と重複、44号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西3.65m・南北3.75mを測る正方形を呈する。

床面 確認面からの壁高は最大で26cmを測る。掘り方があり、貼り床が施されている。黄色粒を含む黄褐色土を踏み固めて床面としており、概ね平坦である。掘り方には住居のほぼ中央で検出された長軸114cm・短軸100cm・深さ26cmを測る円形の土坑を含めて、3基のピットが検出されている。

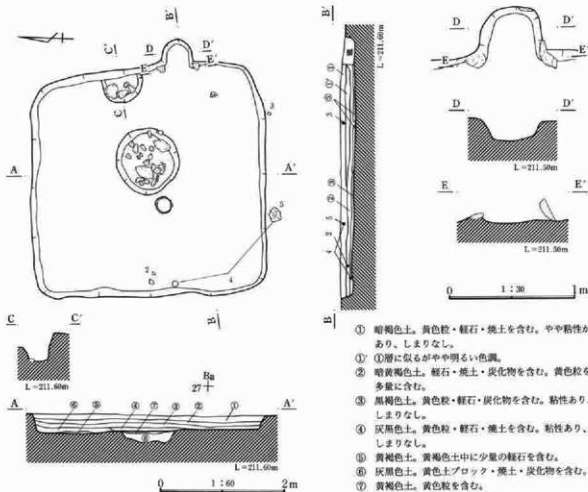
貯蔵穴 なし。 周溝 なし。 柱穴 なし。

出土遺物 遺物量は少なく、散乱して検出されている。須恵器環1点(1)・高台付埴1点(2)・短頸甕1点(4)・羽釜1点(5)、灰軸陶器高台付埴1点(3)の5点を図化することができた。

竈 東壁の中央やや南よりで検出された。焚口幅40cm・奥行46cmを測る。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。

第2節 住居跡と出土遺物



第45図 19号住居跡、竈

① 暗褐色土。黄色粒・軽石・焼土を含む。やや粘性があり、しまりなし。

①' ①層に似るがやや明るい色調。

② 暗黄褐色土。軽石・焼土・炭化物を含む。黄色粒を多量に含む。

③ 黒褐色土。黄色粒・軽石・炭化物を含む。粘性あり、しまりなし。

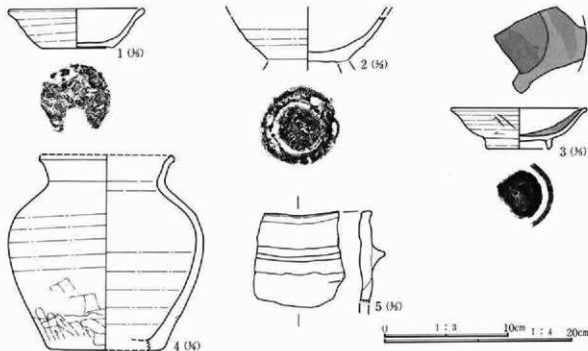
④ 灰黒色土。黄色粒・軽石・焼土を含む。粘性あり、しまりなし。

⑤ 黄褐色土。黄褐色土中に少量の軽石を含む。

⑥ 灰黒色土。黄色土ブロック・焼土・炭化物を含む。

⑦ 黄褐色土。黄色粒を含む。

⑧ 黄褐色土。軽石・小礫を含む。



第46図 19号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-20号住居跡 (第47・48図、P.L12・72)

位置 At-25・26グリッド 床面積 不明。 主軸方位 N-15°-W

重複 住居内の東側で25号土坑(弥生中期)が重複。住居の南半は調査区外であり、竈を含む北半部のみを調査している。

規模と形状 東西2.79m・南北1.40m+ α を測る。平面形は不明である。

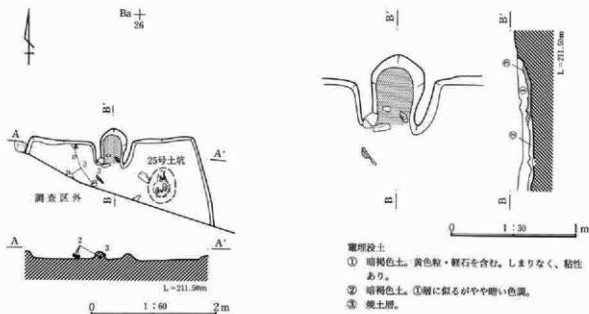
床面 掘り込みは浅く、確認面からの壁高は僅かに5cm~11cmである。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 不明。 周溝 不明。 柱穴 不明。

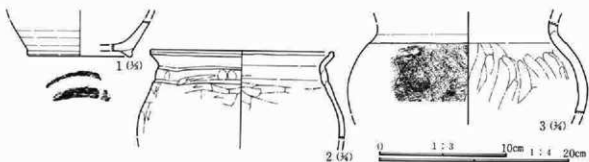
出土遺物 遺物は極めて少なく、須恵器高台付埴1点(1)・甕1点(3)、土師器甕1点(2)を図化したのみである。

竈 北壁の中央付近にあり、焚口幅34cm・奥行60cmを測る。

調査所見 調査時には1軒の住居として調査しているが、住居の東部にまともな検出された土器は本住居とは時期が異なる弥生中期のものであり、住居内に土坑状の別遺構があったものと推定される。弥生中期の土器については整理時に新たに25号土坑として処理することにした。本住居は、出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第47図 20号住居跡、竈



第48図 20号住居跡出土遺物実測図

B-21号住居跡 (第49・50図、P L12)

位置 Ba-26・27グリッド 床面積 不明。 主軸方位 N-30°-W

重複 19号住と重複。東南隅を切られている。住居の西側は調査区外である。

規模と形状 規模は東西3.90m+α・南北(4.00m)を測る。調査範囲が限定されており、東南部に重複があることから住居プランは不明瞭であるが残存部の形状からほぼ正方形を呈するものと思われる。

埋没土 円礫を含む茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で28cmを測る。地山の粘質黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 住居の北東隅で検出された直径48cm・深さ35cmの円形を呈するピットが貯蔵穴に相当するものと思われる。

周溝 なし。

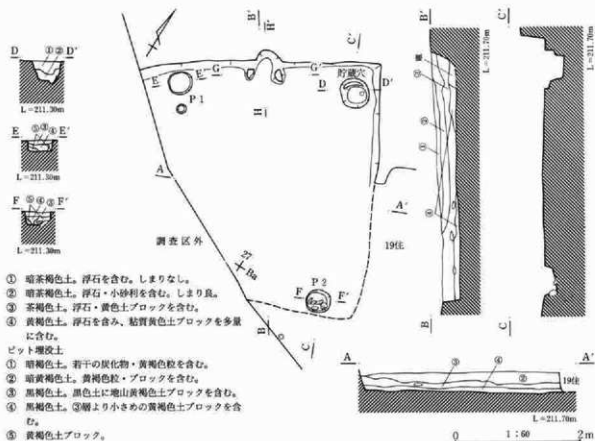
柱穴 2基のピットが検出されているが位置的には主柱穴とするには疑問が残る。

No.	P 1	P 2
上端長径	37cm	40cm
下端長径	33cm	32cm
深さ	17cm	21cm

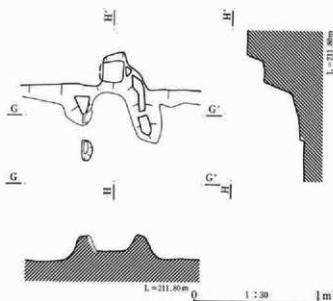
出土遺物 遺物は極めて少なく、小破片のみで、図化可能なものは検出されなかった。

竈 北壁の中央付近にあり、幅46cm・奥行52cmを測る。

調査所見 調査資料が乏しく時期は不明である。



第49図 21号住居跡



第50図 21号住居跡電

B-24号住居跡 (第51~53図、P L 12・13・72)

位置 Be-26グリッド 床面積 10.42㎡

主軸方位 N-101°-E 重複 25号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西3.30m・南北3.21mを測る隅丸正方形を呈する。

埋没土 軽石・小礫を含む暗茶褐色土及び黄色粒・小礫を含む茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で28cmを測る。掘り方があり、貼り床を施している。

床面を構築している土は小礫混じりの暗黄褐色土を主体としている。掘り方にはピット3基が検出されている。北側は25号住との重複で不明瞭である。

貯蔵穴 電の右脇、住居の東南隅で検出された。規模は径90cm・深さ16cmを測り、ほぼ円形を呈する。

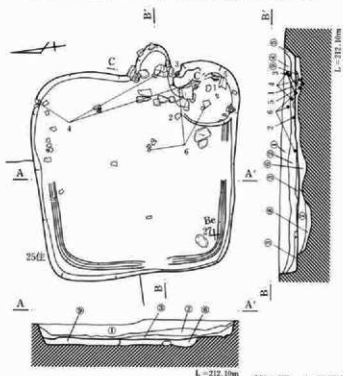
周溝 東壁を除いた壁下で検出された。幅11cm・深さは僅かに3cm程で、残存状況は悪い。

柱穴 なし。

出土遺物 遺物は電・貯蔵穴付近を中心に分布している。図化可能な遺物は須恵器大型甕1点(6)・高台付埴1点(1)・埴2点(2・3)・土師器壺2点(4・5)の6点である。

覆 東壁の中央やや南よりで、検出された。焚口幅46cm・奥行55cmを測る。

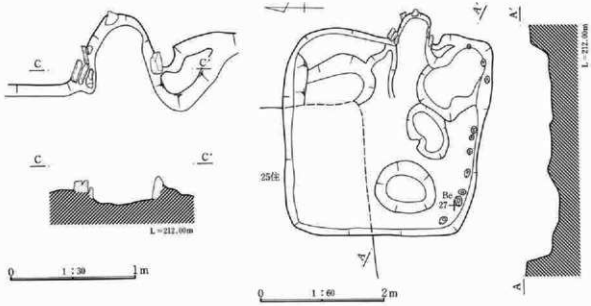
調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と考えられる。



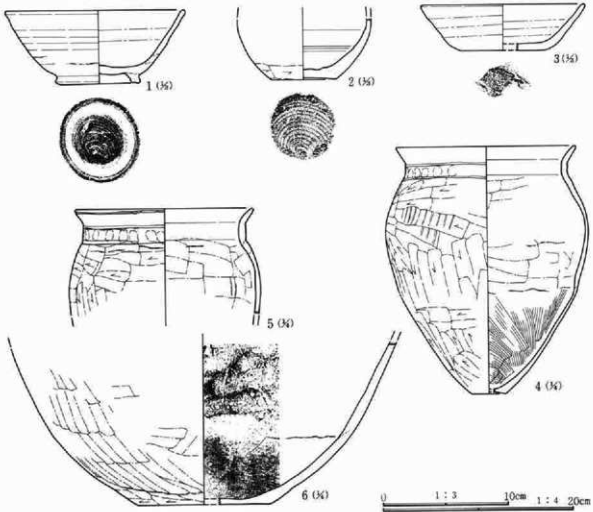
- ① 暗茶褐色土。軽石・小礫を含む。
- ② 茶褐色土。黄色粒・小礫を含む。強い粘性あり。
- ③ 粘質黄色土と茶褐色土の混土層。
- ④ 黄褐色土。焼土・黄色粒を含む。
- ⑤ 褐色土。焼土・炭化物を含む。
- ⑥ 暗黄褐色土。小礫・黄褐色粒を含む。粘性あり、しまりなし。
- ⑦ 黒褐色土。小礫・軽石を含む。粘性あり、しまりなし。
- ⑧ 黒褐色土。焼土・炭化物を含む。粘性あり、しまりなし。
- ⑨ 黒褐色土。少量の焼土・黄褐色粒・小礫を含む。

第51図 24号住居跡(1)

第2節 住居跡と出土遺物



第52図 24号住居跡(2)、竈



第53図 24号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-25号住居跡 (第54~56図、P L13・72)

位置 Be・Bf-26・27グリッド 床面積 27.18㎡ 主軸方位 N-7°-W

重複 東南隅を24号住に切られている。

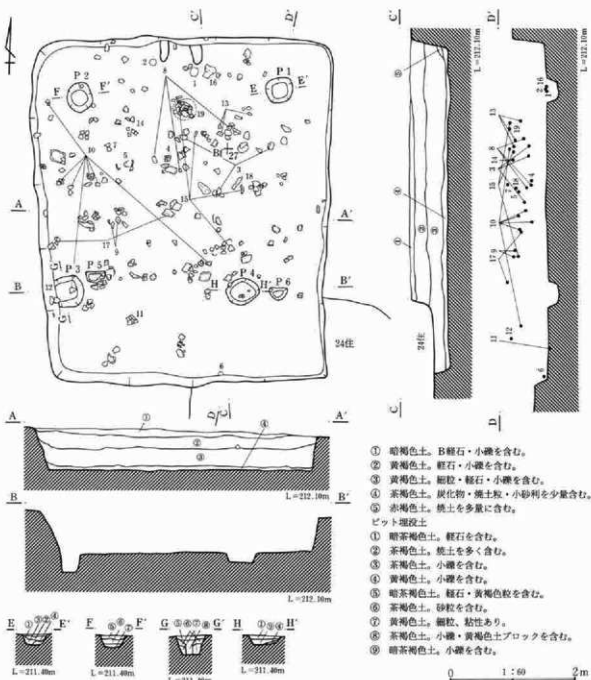
規模と形状 東西4.80m・南北5.55mを測るやや縦長の長方形を呈する。

埋没土 細粒でしまりの良い黄褐色土を主体とする。住居北半部の埋没土中に多量の円礫が検出されている。

床面 確認面からの壁高は最大で68cmを測る。住居の北半部の埋没土中には大小の礫が多量に検出された。

跡除去後の床面は概ね平坦である。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。



第54図 25号住居跡

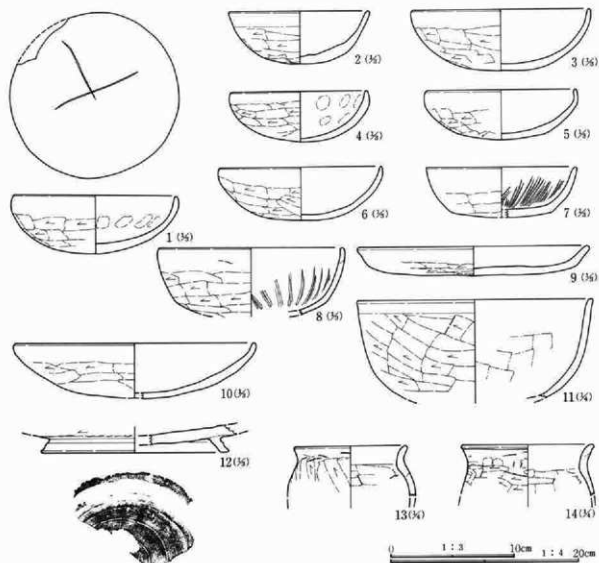
柱穴 P1・P2・P4の3基は主柱穴になるものと思われる。4本柱構造になるものと思われるが、西壁際で検出されたP3は位置的に主柱穴とするのはやや疑問がある。

No	P1	P2	P3	P4	P5	P6
上端長径	44cm	44cm	49cm	52cm	45cm	27cm
下端長径	29cm	28cm	29cm	40cm	25cm	15cm
深さ	17cm	18cm	30cm	14cm	—	—

出土遺物 遺物は住居の全面に散乱して検出され、特定の場所への集中は認められなかった。床面付近の遺物は極めて少なく、床面から大きく浮いた状態で多量に検出されている。残存率は比較的高く、種類も豊富である。土師器杯8点(1～8)・皿形杯2点(9・10)・小型壺2点(13・14)・壺5点(15～19)・鉢1点(11)の他に、須恵器盤1点(12)の19点が検出されている。

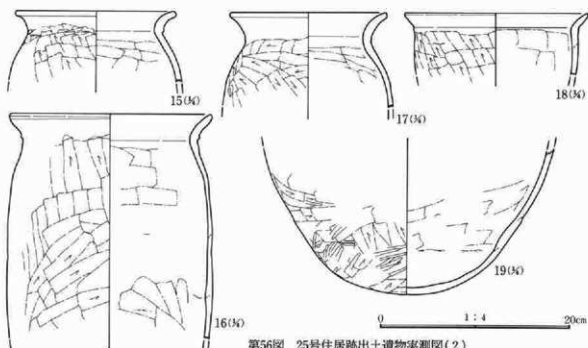
竈 残存状況は非常に悪く痕跡に近い。北壁のほぼ中央付近に竈下部と思われる僅かな高まりと、床面上の狭い範囲に焼土が確認されたにすぎない。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第55図 25号住居跡出土遺物実測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第56図 25号住居跡出土遺物実測図(2)

B-26号住居跡 (第57・58図、P L14・73)

位置 Bd-23・24グリッド 床面積 21.74㎡ 主軸方位 N-31°-W

重複 22号住・77号住を切って構築している。

規模と形状 東西5.55m・南北4.05mを測る長方形を呈する。

埋没土 黄色粒・軽石を含む茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で60cmを測る。掘り方があり、貼り床を施す。軽石・焼土混じりの茶褐色土を充填して床面を構築している。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 P1～P4の4基が主柱穴と思われる。

No.	P1	P2	P3	P4
上端長径	50cm	36cm	30cm	39cm
下端長径	40cm	24cm	26cm	30cm
深さ	18cm	18cm	14cm	18cm

出土遺物 遺物は竈の右脇及び左脇を中心に分布する傾向が窺える。図化可能な遺物は土師器杯3点(1～3)・鉢1点(4)・小型壺1点(5)・長胴壺2点(6・7)の7点である。

竈 北壁の中央やや西よりで検出された。両袖は住居内に張り出し、袖石及び崩落した天井石が残存する。焚口幅55cm・奥行67cm・煙道幅14cm・煙道長95cmを測る。また、北壁中央やや東よりの壁面に竈の煙道部と思われる焼土痕が検出されている。本住居に関連するものと思われ、竈の造り替えが考えられる。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

B-77号住居跡 (第57図、P L14)

位置 Bd・Be-23・24グリッド 床面積 (20.52㎡) 主軸方位 不明。

重複 26号住に住居の大半を切られ、残存部は少ない。

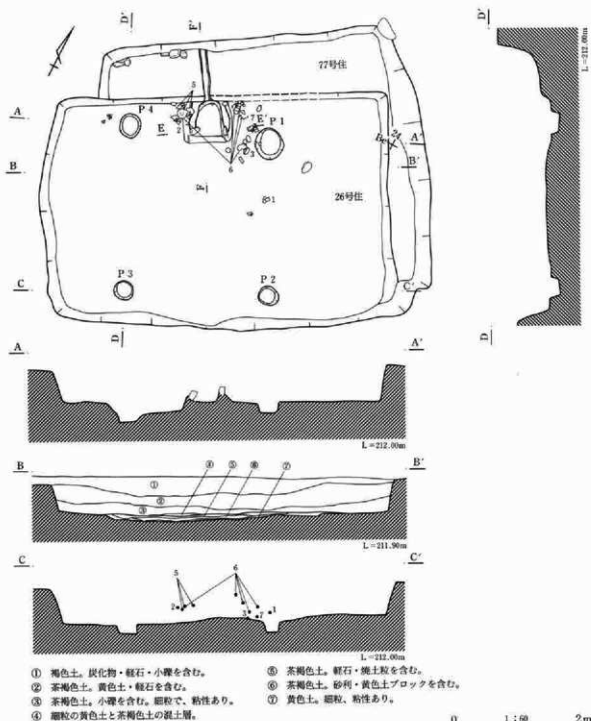
規模と形状 僅かな残存部から東西4.80m・南北4.20mを測る長方形を呈するものと推定される。

床面・貯蔵穴・周溝・柱穴 いずれも不明である。

出土遺物 住居の大半を26号住に切られていることから、遺物は希薄で図化可能な遺物は検出されなかった。

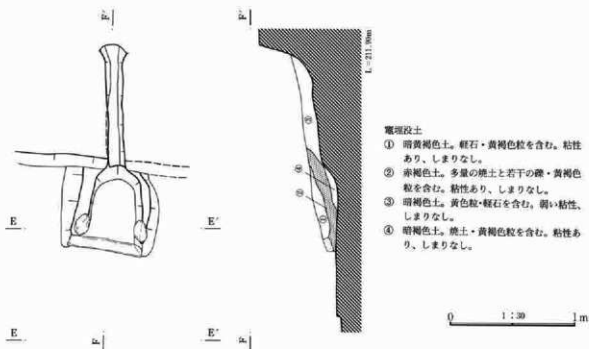
竈 不明。

調査所見 重複部が多く、26号住に大半を切られているため、住居に伴う施設・遺物ともに検出することができず構築時期等も不明である。



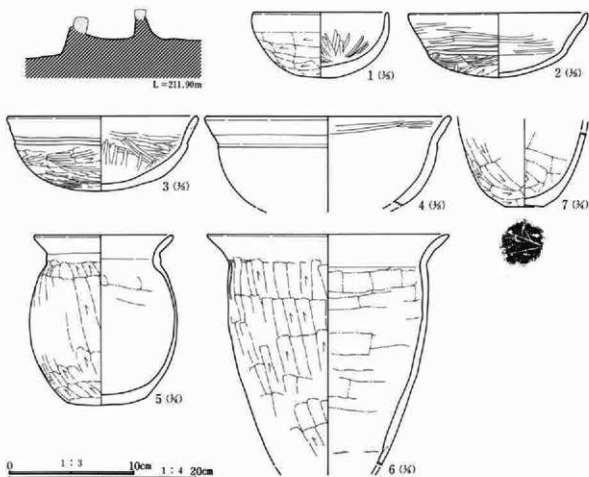
第57図 26・77号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



電埋設土

- ① 暗黄褐色土。軽石・黄褐色粒を含む。粘性あり、しまりなし。
- ② 赤褐色土。多量の焼土と若干の軽石・黄褐色粒を含む。粘性あり、しまりなし。
- ③ 暗褐色土。黄色粒・軽石を含む。弱い粘性、しまりなし。
- ④ 暗褐色土。焼土・黄褐色粒を含む。粘性あり、しまりなし。



第58図 26号住居跡竈、出土遺物実測図

B-27号住居跡 (第59・60図, P L 14・73)

位置 At-20グリッド 床面積 不明。 主軸方位 N-91'-E

重複 なし。住居の大半は調査区外である。

規模と形状 大半が調査区外であるため、住居の規模・形状ともに詳細は不明である。

埋没土 焼土粒・炭化物を含むやや粘性のある茶褐色土を主体とする。

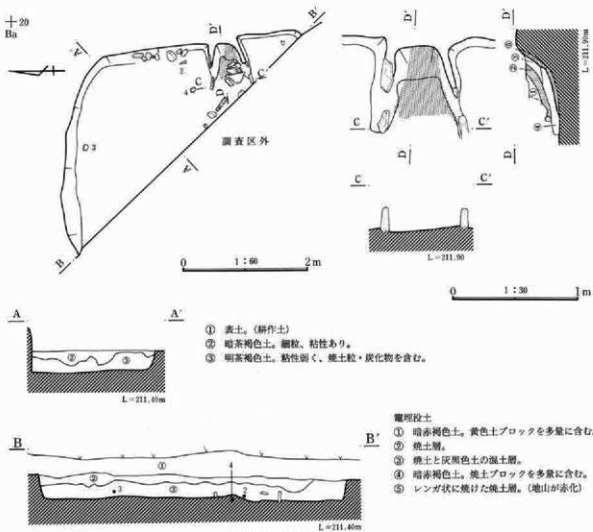
床面 確認面からの壁高は最大で39cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。検出された床面は概ね平坦である。

貯蔵穴 不明。 周溝 不明。 柱穴 不明。

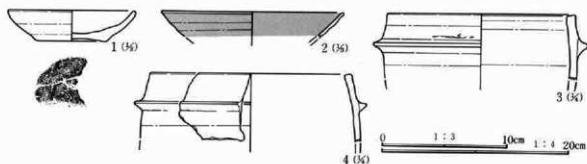
出土遺物 遺物量は少なく、散在して出土している。図化可能な遺物は、須恵器小型坏1点(1)・羽釜破片2点(3・4)、灰軸陶器高台付埴1点(2)の4点である。

竈 東壁のやや南よりで検出された。焚口幅60cm・奥行70cmを測る。両袖には板状の砂岩を用いた袖石が明瞭に残り、竈周辺には竈に使用されたと思われる石材が散乱していた。燃焼部は広い範囲にわたって熱を受け赤化していた。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第59図 27号住居跡、竈



第60図 27号住居跡出土遺物実測図

B-30号住居跡 (第61・62図, P.L.14・15・73・74)

位置 Bf・Bg-19・20グリッド 床面積 10.80㎡ 主軸方位 N-79°-E

重複 71号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西3.00m・南北3.78mを測る長方形を呈する。

埋没土 しまり良い茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で30cmを測る。住居の北半は地山の黄褐色土を掘り込んで床面としているが、南半は71号住の覆土となっている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。 柱穴 なし。

出土遺物 遺物量は比較的多く、竈周辺及び住居の東南部を中心に分布している。須恵器環6点(1~6)・高台付埴1点(7)・小型壺1点(11)・羽釜1点(10)、灰釉陶器高台付埴1点(8)、土師器壺1点(9)、鉄釘2点(13・14)、凝灰質砂岩の砥石1点(12)の14点を図化することができた。

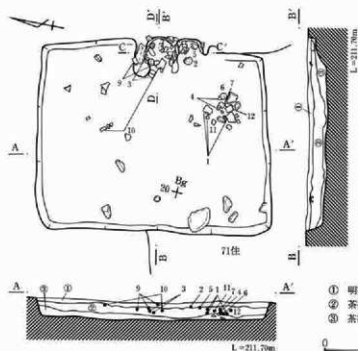
竈 東壁のほぼ中央付近で、2基の竈が検出されており、造り替えが行われたものと思われる。残存状態が悪く切り合い関係はやや不明瞭であるが、両袖が残ること等を考慮すると、廃棄時には左側の竈が使用さ

れていたものと推定される。

旧竈 東壁の中央やや南よりに位置する。残存状態は悪く、焚口幅45cm・奥行46cmを測る。竈内より須恵器環2点(2・5)が検出されている。

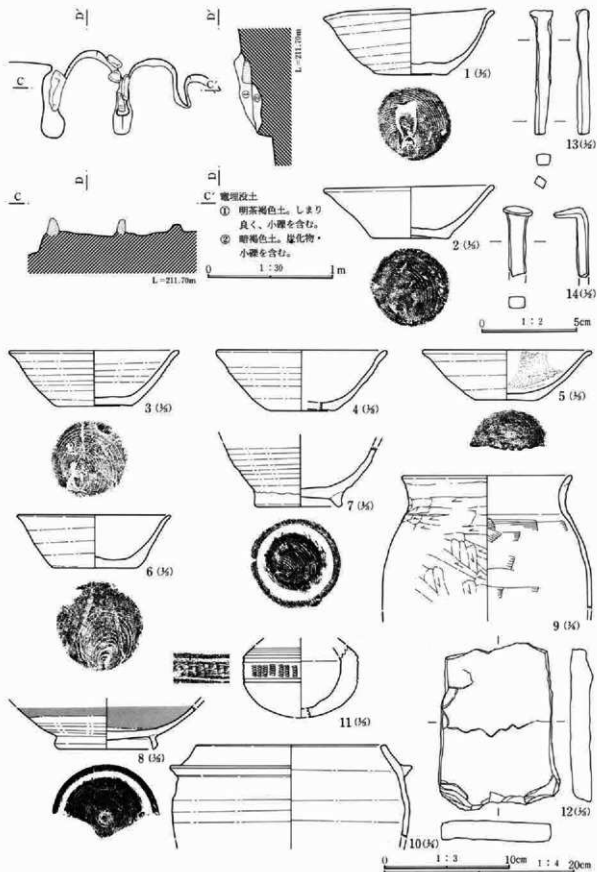
新竈 東壁のほぼ中央に位置する。焚口幅46cm・奥行50cmを測る。両袖が残存する。竈内より須恵器環1点(3)・羽釜1点(10)、土師器壺1点(9)が検出されている。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と考えられる。



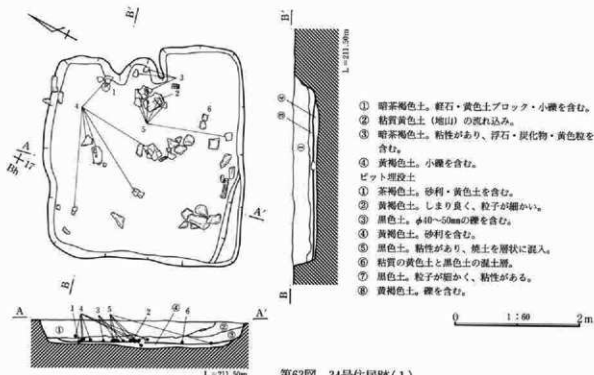
第61図 30号住居跡

- ① 明茶褐色土。しまり良く、小礫を含む。
- ② 茶褐色土。焼土粒・炭化物・浮石を含む。
- ③ 茶褐色土。しまり良く、粒子が細かい。

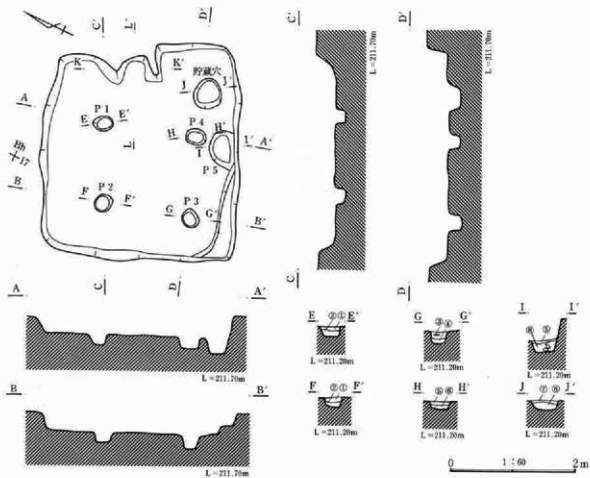


第62図 30号住居跡電、出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物



第63図 34号住居跡(1)



第64図 34号住居跡(2)

B-34号住居跡 (第63~66図、P L15・74)

位置 Bg-16グリッド 床面積 9.93㎡ 主軸方位 N-64'-E

重複 なし。

規模と形状 東西3.51m・南北3.15mを測る比較的小型の住居跡である。形状は長方形を呈する。

埋没土 軽石・黄色土ブロック・小礫を含む暗茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で32cmを測る。貼り床があり、雑混じりの黄褐色土を床面としている。

貯蔵穴 住居の東南隅で検出された径48cm、深さ15cmを測るほぼ円形のピットが貯蔵穴に相当するものと思われる。

周溝 なし。

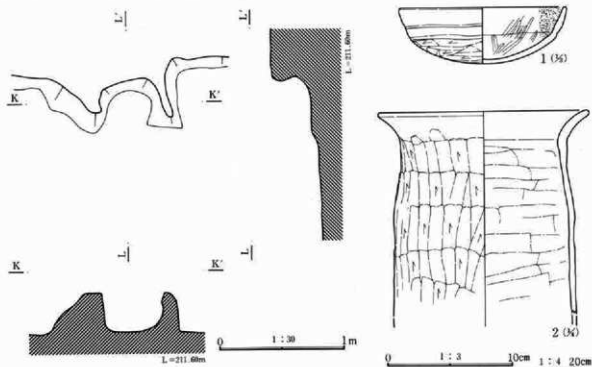
柱穴 P1~P4の4基が主柱穴になるとと思われる。

No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
上端長径	32cm	30cm	30cm	32cm	58cm
下端長径	24cm	23cm	22cm	26cm	46cm
深さ	16cm	15cm	13cm	20cm	18cm

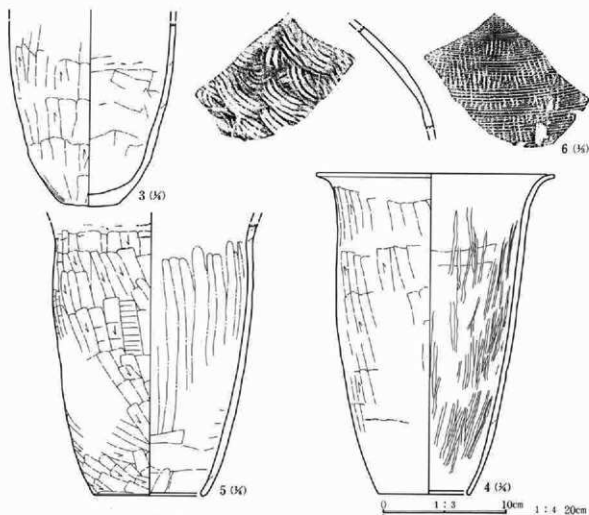
出土遺物 遺物量は余り多くないが、比較的残存率の良いものが多い。遺物は竈周辺にやや集中する傾向が窺える。須恵器壺1点(6)、土師器長胴壺2点(2・3)・甕2点(4・5)・坏1点(1)の6点を図化することができた。

竈 東壁の中央付近で検出された。残存状況はたいへん悪く、住居内に張り出した袖部が僅かに残るのみである。焚口幅46cm・奥行38cmを測る。竈前から長胴壺2点・甕1点が左袖脇からは完形の坏1点が検出されている。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第65図 34号住居跡竈、出土遺物実測図(1)



第66図 34号住居跡出土遺物実測図(2)

B-35号住居跡 (第67図、P L15・16)

位置 Bh-17・18グリッド 床面積 12.44㎡ 主軸方位 N-82°-E

重複 なし。

規模と形状 東西3.75m・南北3.45mを測るほぼ隅丸正方形を呈する。

埋没土 礫を多く含むしまりのない暗茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で32cmを測る。地山の砂礫層を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 P1～P4の4基が主柱穴に相当するものと思われる。

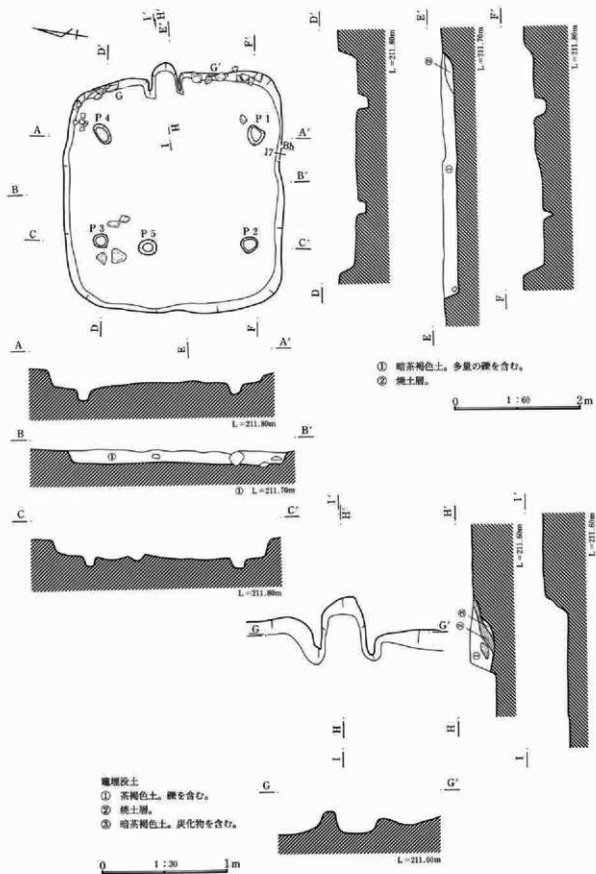
No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
上端長径	30cm	28cm	22cm	36cm	28cm
下端長径	22cm	22cm	16cm	26cm	15cm
深 さ	18cm	17cm	17cm	17cm	6cm

出土遺物 遺物は極めて少なく、いずれも小破片のみで、図化可能な遺物は検出されなかった。

竈 東壁の中央付近で検出された。焚口幅45cm・奥行51cmを測る。

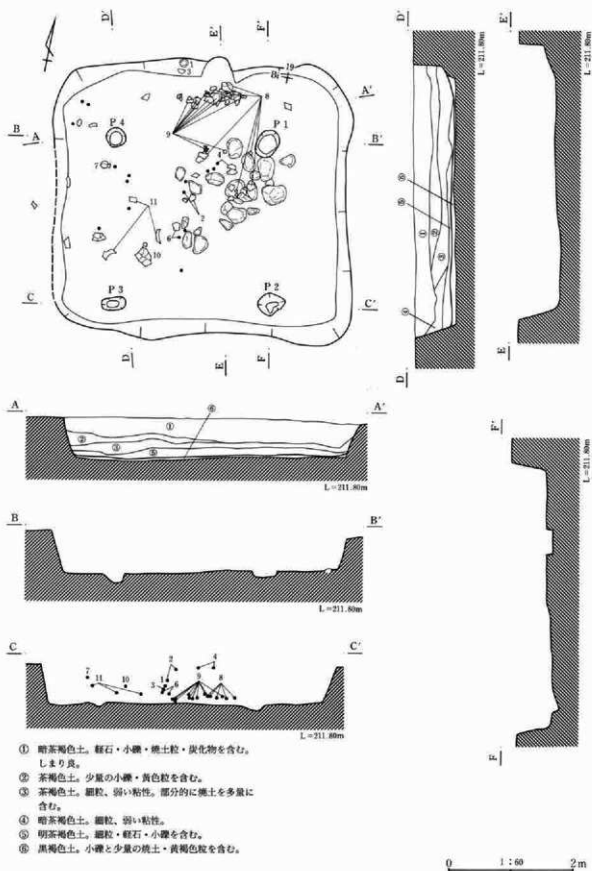
調査所見 遺物量は極めて少なく、時期を限定できる遺物は出土していない。

第2節 住居跡と出土遺物



第67図 35号住居跡、竈

第3章 検出された遺構と遺物



第68図 37号住居跡

B-37号住居跡 (第68~70図、P.L16・74・75)

位置 Bh-18・19グリッド 床面積 19.90㎡ 主軸方位 N-11'-W

重複 なし。

規模と形状 東西4.80m・南北4.35mを測る長方形を呈する。

埋没土 しまりの良い茶褐色土を主体とする。下層は部分的に焼土を多く含む。

床面 確認面からの壁高は最大で60cmを測る。掘り方があり、貼り床を施している。小礫及び少量の焼土・黄褐色粒を含む黒褐色土を充填して床面を構築している。掘り方の底面は概ね平坦である。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

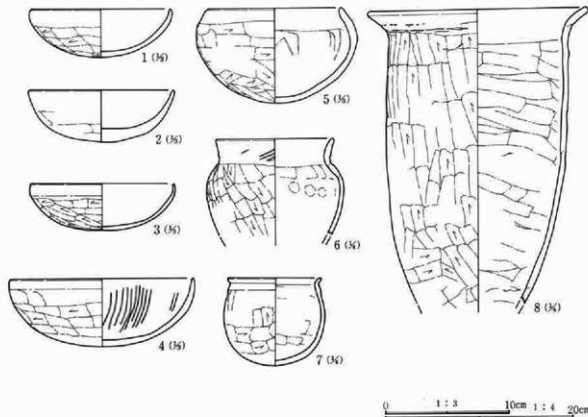
柱穴 4基のピットが検出されているが、掘り込みも浅く主柱穴とするにはやや疑問が残る。

No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	45cm	44cm	38cm	30cm
下端長径	32cm	18cm	19cm	22cm
深さ	11cm	10cm	6cm	14cm

出土遺物 遺物は竈周辺にやや集中する傾向が窺えるが、住居全面に散乱して検出された。図化可能な遺物は土師器環4点(1~4)・埴1点(5)・小型甕2点(6・7)・壺4点(8~11)の11点である。

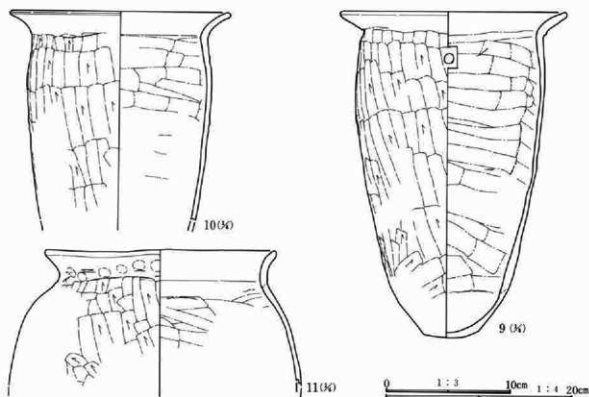
竈 北壁の中央付近で検出された。焚口幅55cm・奥行36cmを測るが、残存状況は悪く痕跡に近い。竈の前方より壺2点が検出されている。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第69図 37号住居跡出土遺物実測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第70図 37号住居跡出土遺物実測図(2)

B-38号住居跡 (第71・72図、PL16・17・75)

位置 Bi-19・20グリッド 床面積 25.71㎡ 主軸方位 N-25°-W

重複 69号住・76号住と重複。いずれよりも新しい。

規模と形状 一辺5.25m程の正方形を呈する。

埋没土 軽石・小礫を含む暗茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で42cmを測る。地山の粘質黄色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 大小5基のピットが検出されている。P1・P3・P5の3基が主柱穴になるものと思われる。4本柱構造になるものと思われるが北東部の1基は検出されなかった。

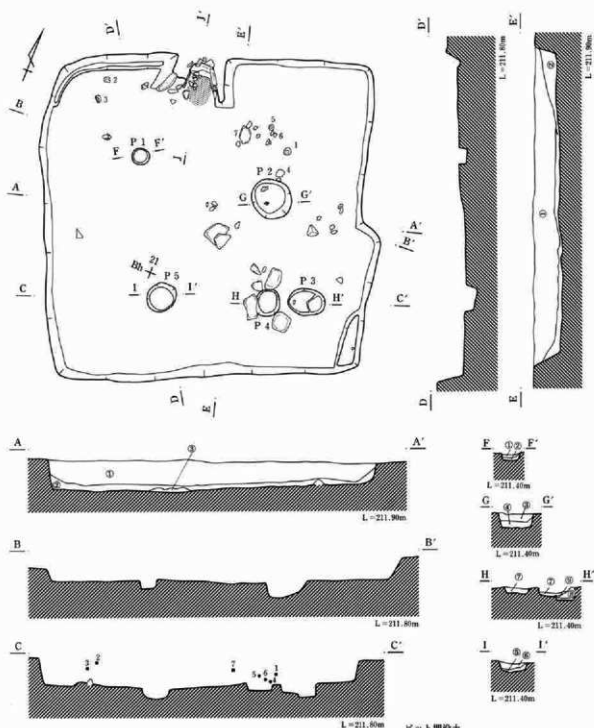
No.	P1	P2	P3	P4	P5
上端長径	28cm	66cm	60cm	46cm	50cm
下端長径	22cm	49cm	46cm	37cm	38cm
深さ	12cm	23cm	20cm	10cm	16cm

出土遺物 遺物は量・種類ともに少なく、いずれも床面からやや浮いた状態で、散乱して検出されている。

土師器坏3点(1~3)・甕1点(6)、須恵器蓋2点(4・5)、凝灰質砂岩の砥石1点(7)の7点を図化することができた。

竈 北壁の中央やや西よりで検出された。残存状況は比較的良く、両袖の内側面には板状の砂岩が使用されている。焚口幅50cm・奥行70cmを測る。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



- ① 暗茶褐色土。軽石・小礫を含む。しまり負。
- ② 茶褐色土。黄色粒・小礫を含む。粘性あり。
- ③ 黄色土。粘性あり。

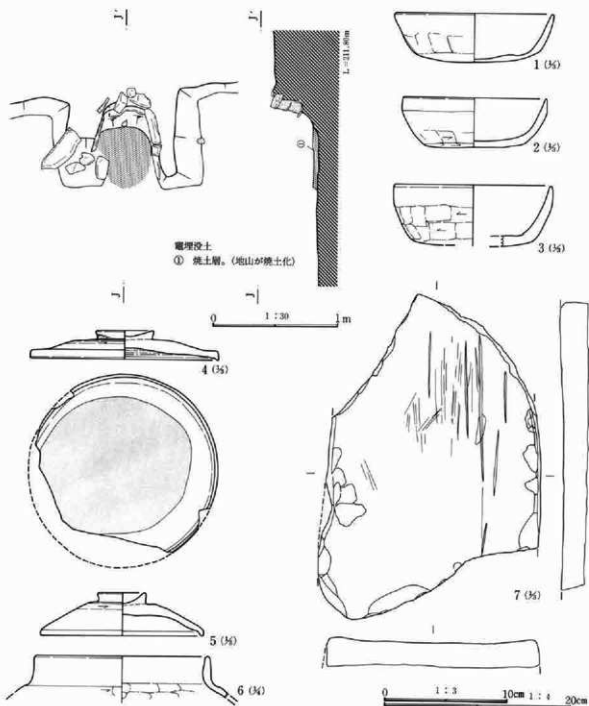
ビット埋没土

- ① 黄褐色土。細粒。暗褐色土を少量含む。
- ② 黄褐色土。細粒。小礫を微量含む。
- ③ 茶褐色土。小砂利を含む。
- ④ 茶褐色土。砂利を多く含む。
- ⑤ 暗茶褐色土。黄褐色土ブロックを含む。
- ⑥ 暗茶褐色土。粘質黄色粒を含む。
- ⑦ 暗茶褐色土。軽石・焼土粒を少量含む。
- ⑧ 暗茶褐色土。焼土粒をブロック状に含む。
- ⑨ 黄褐色土。暗茶褐色土を含む。

0 1:60 2m

第71図 38号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第72図 38号住居跡竈、出土遺物実測図

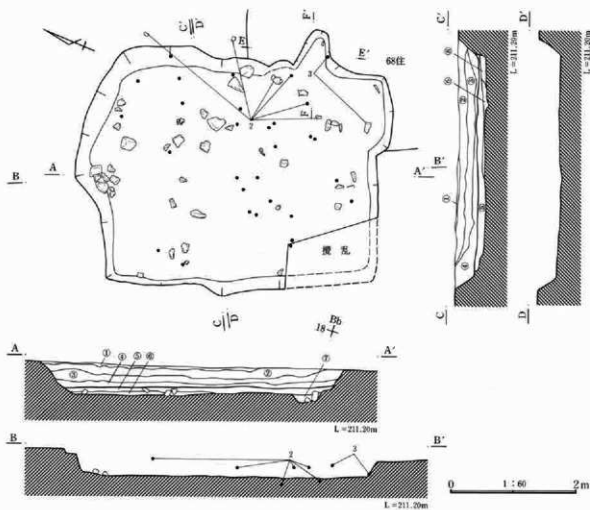
B-40号住居跡 (第73~75図、P.L17・75)

位置 Bb-17グリッド 床面積 (16.91㎡) 主軸方位 N-75°-E

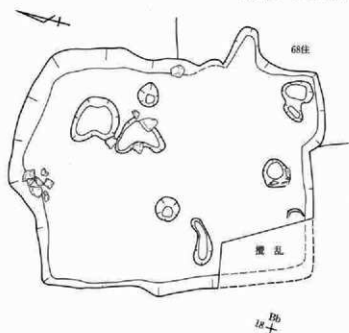
重複 68号住の覆土を切って構築している。南西隅は後世の攪乱によって切られている。

規模と形状 東西3.75m・南北4.50mを測るやや重んだ長方形を呈する。南西隅は攪乱によってプランが不明瞭である。

埋没土 小礫を含む茶褐色土を主体とする。上層にはB軽石を含む暗茶褐色土が堆積していた。



第73図 40号住居跡(1)



第74図 40号住居跡(2)

- ① 暗褐色土。粒子が細かい。
- ② 暗茶褐色土。目軽石を含む。
- ③ 暗茶褐色土。粒子が細かく、小礫を含む。
- ④ 茶褐色土。しまりよく、黄色砂粒を含む。
- ⑤ 黒褐色土。少量の焼土・木炭片・黄褐色粒を含む。粘性あり、しまりなし。
- ⑥ 黒褐色土。少量の焼土・炭化物を含む。黄褐色粒を部分的に多量に混入する。色調は一律ではない。粘性あり、しまりなし。
- ⑦ 黒褐色土。焼土・炭化物を含む。⑤層に比べ黄褐色粒をやや多く含む。
- ⑧ 暗黄褐色土。地山の黄褐色土に少量の焼土・炭化物・黒色土を含む。

第3章 検出された遺構と遺物

床面 確認面からの壁高は最大で32cmを測る。掘り方があり、貼り床を施している。掘り方内には少量の焼土・炭化物・黄褐色粒を含む黒褐色土で充填されている。掘り方底面には大小8基のビットが確認され、凹凸が認められる。

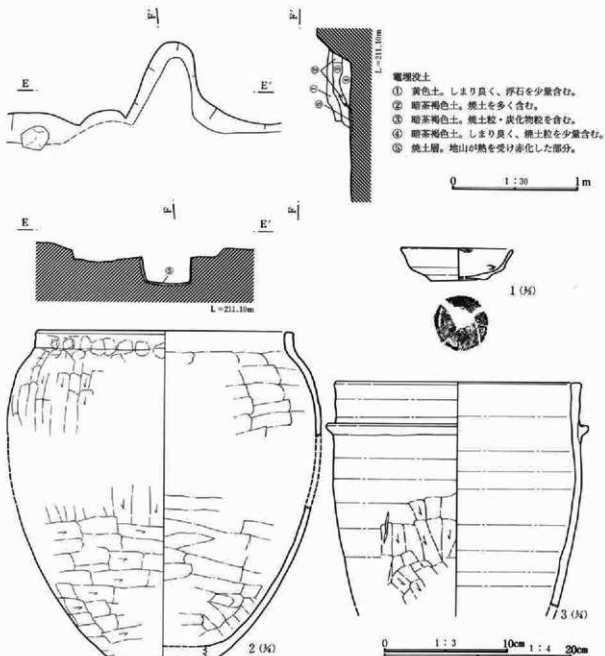
貯蔵穴 掘り方には8基のビットが確認されているが、貯蔵穴に相当するものは明確ではない。

周溝 なし。 **柱穴** なし。

出土遺物 遺物は覆土中のものが多く散在して出土している。図化可能な遺物は、須恵器小型環1点(1)・羽釜1点(3)、土師器土釜1点(2)の3点である。

竈 東壁の南よりで検出された。焚口幅50cm・奥行60cmを測る。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第75図 40号住居跡竈、出土遺物実測図

B-41号住居跡 (第76・77図、P.L17・76)

位置 At-24・25グリッド 床面積 不明。 主軸方位 不明。

重複 18号住の南壁の上部を切つて構築している。住居の南半は調査区外である。

規模と形状 東西3.90m・南北2.00m+αを測る。調査区外にかかる部分が多く形状は不明である。

埋没土 浮石・小礫を含む、黄色土混じりの黄褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で26cmを測る。西側がやや高く、東に向かって緩やかに傾斜している。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

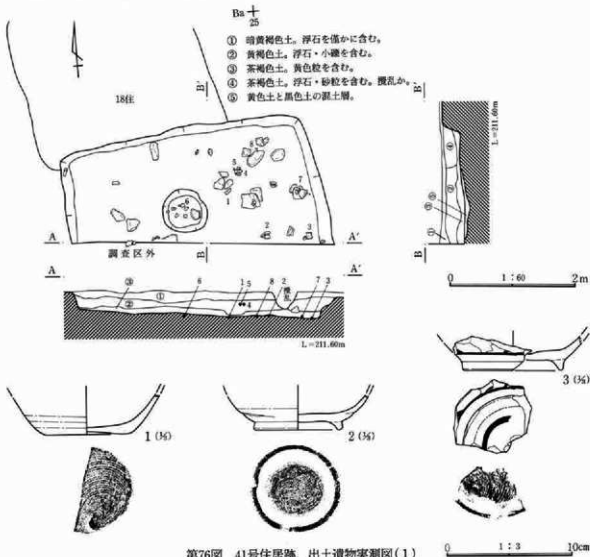
貯蔵穴 不明。 周溝 不明。

柱穴 不明。住居のほぼ中央に径70cm・深さ10cm程の土坑が検出されている。

出土遺物 遺物は床面付近のものが多く、散在して出土している。須恵器坏1点(1)・高台付坏2点(2・3)・有環長頸瓶1点(7)、灰釉陶器高台付皿1点(4)・高台付皿1点(5)、土師器壺1点(6)、鉄製紡錘車1点(8)が検出されている。灰釉陶器の坏(4)には底部の中心部にヘラ記号が認められる。

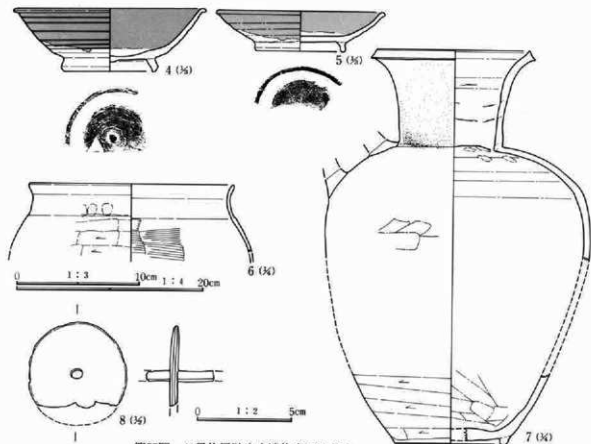
竈 竈は調査区外に所在するものと思われ検出されなかった。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第76図 41号住居跡、出土遺物実測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第77図 41号住居跡出土遺物実測図(2)

B-42号住居跡 (第78・79図、P L17)

位置 Ba・Bb-27グリッド 床面積 14.17㎡ 主軸方位 N-60°-E

重複 なし。

規模と形状 東西3.90m・南北3.96mを測る。平面形はほぼ正方形を呈する。

埋没土 軽石を含む黄色土・黒色土の混土層を主体とする。住居北半の上層にはB軽石を含む黒色土の堆積が認められた。

床面 確認面からの壁高は最大で33cmを測る。貼り床が施されている。小礫・黄褐色粒子を含む暗褐色土を踏み固めて床面としている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 P1～P4の4基が主柱穴になるものと思われる。

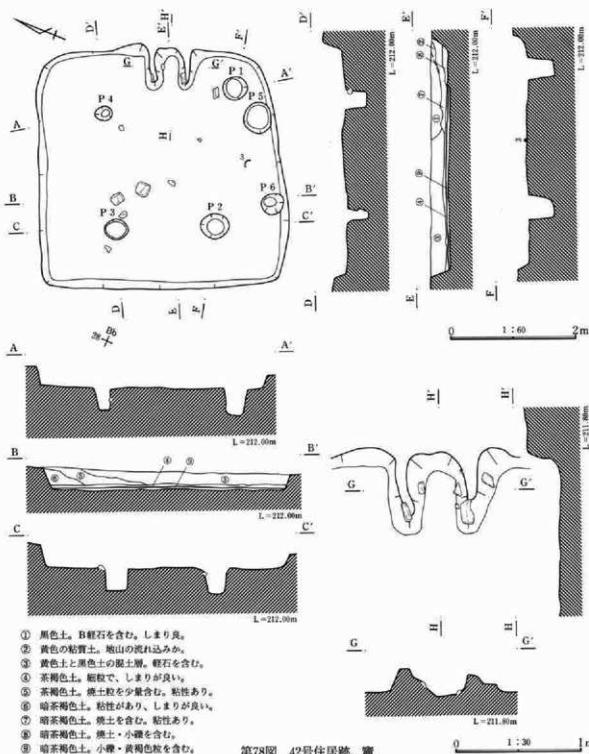
No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
上端長径	39cm	46cm	38cm	27cm	49cm	36cm
下端長径	30cm	26cm	32cm	13cm	36cm	19cm
深 さ	40cm	40cm	36cm	34cm	11cm	35cm

出土遺物 遺物量は極めて少なく、散乱して検出されている。図化可能な遺物は土師器杯2点(1・2)・壺1点(3)の3点である。

竈 東壁の中央やや南よりで検出された。焚口幅37cm・奥行65cmを測る。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

第2節 住居跡と出土遺物



第78図 42号住居跡、竈



第79図 42号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-43号住居跡 (第80図、P.L.18)

位置 Bb-26グリッド 床面積 (10.37㎡) 主軸方位 N-65°-E

重複 44号住・45号住に住居の北半を切られ、残存部は2分の1程である。

規模と形状 東西3.36m・南北3.21mを測る正方形を呈する。

埋没土 軽石・黄褐色粒と若干の焼土を含む暗褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で18cmを測る。地山の黄色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 不明。周溝 なし。

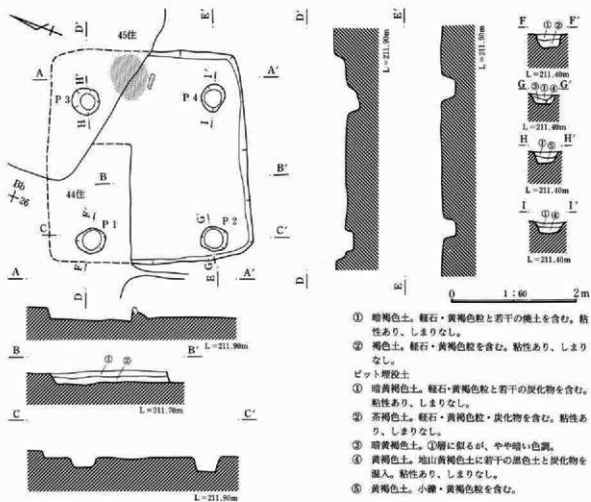
柱穴 P1~P4の4基が主柱穴と思われる。

No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	43cm	43cm	48cm	44cm
下端長径	28cm	30cm	32cm	26cm
深さ	18cm	16cm	20cm	20cm

出土遺物 遺物は極めて少なく、いずれも小破片のみで図化可能なものは検出されなかった。

竈 東壁の北よりで、右袖の一部と考えられる袖石を伴う僅かな高まりと焼土面が検出された。45号住を構築の際に大半を破壊されたものと思われる詳細については不明である。

調査所見 時期を限定できる遺物は検出されなかった。



- ① 暗褐色土。軽石・黄褐色粒と若干の焼土を含む。粘性あり、しまりなし。
 ② 赤褐色土。軽石・黄褐色粒を含む。粘性あり、しまりなし。
 ビット埋没土
 ① 暗黄褐色土。軽石・黄褐色粒と若干の炭化物を含む。粘性あり、しまりなし。
 ② 赤褐色土。軽石・黄褐色粒・炭化物を含む。粘性あり、しまりなし。
 ③ 暗黄褐色土。①層に似るが、やや暗い色調。
 ④ 黄褐色土。地山黄褐色土に若干の黒色土と炭化物を混入。粘性あり、しまりなし。
 ⑤ 黄褐色土。小礫・黄褐色粒を含む。

第80図 43号住居跡

B-44号住居跡 (第81図、P.L18・76)

位置 Ba・Bb-25・26グリッド 床面積 13.74㎡ 主軸方位 N-78°-E

重複 19号住・45号住に住居の一部を切られ、43号住の北半部を切って構築している。

規模と形状 東西3.45m・南北3.90mを測る長方形を呈する。

埋没土 小礫・黄褐色粒・軽石を含む暗褐色土を主体とする。

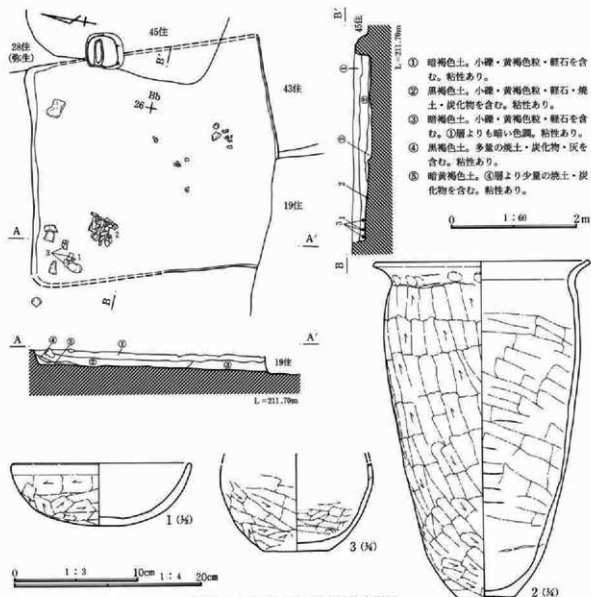
床面 確認面からの壁高は最大で24cmを測る。地山の黄色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 遺物は極めて少ない。図化可能な遺物は土師器坏1点(1)・壺2点(2・3)の僅かに3点に過ぎない。

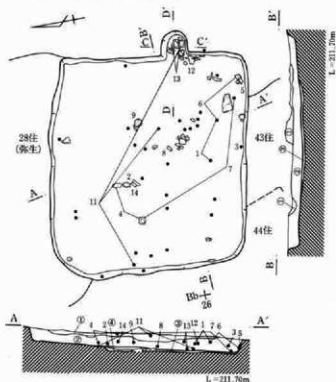
竈 東壁の北よりで検出された高さ5cm程の焼土混じりの低い高まりが竈部と考えられる。45号住を構築する際に破壊されたものと考えられ詳細を把握することはできない。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



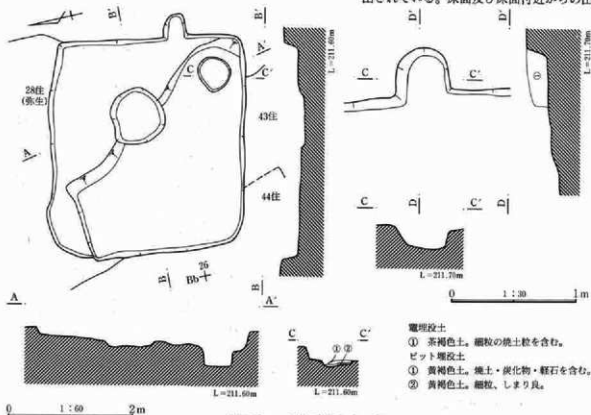
第81図 44号住居跡、出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物



- ① 茶褐色土。細粒、しまり貝。
 ② 暗茶褐色土。軽石・炭化物を含む。しまり貝。
 ③ 茶褐色土。粘質。黄褐色土ブロックを含む。
 ④ 黄褐色土。細粒。

第82図 45号住居跡(1)



B-45号住居跡 (第82~84図、P L
 18・19・76)

位置 Ba・Bb-25グリッド

床面積 10.54㎡

主軸方位 N-101°-E

重複 28号住・43号住・44号住の覆土を切っ
 て構築している。

規模と形状 東西3.45m・南北3.15mを測
 る長方形を呈する。

埋没土 軽石・炭化物を含む良くしまった
 暗茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で21cmを測
 る。掘り方があり、貼り床を薄く施す。掘
 り方内には小礫混じりの黄褐色土を充填し
 ている。掘り方の底面からは大小2基の
 ビットが検出されている。

貯蔵穴なし。周溝なし。

柱穴なし。

出土遺物 遺物は住居の全面に散乱して検
 出されている。床面及び床面付近からの出

埋没土

① 茶褐色土。細粒の焼土粒を含む。

ビット埋没土

① 黄褐色土。焼土・炭化物・軽石を含む。

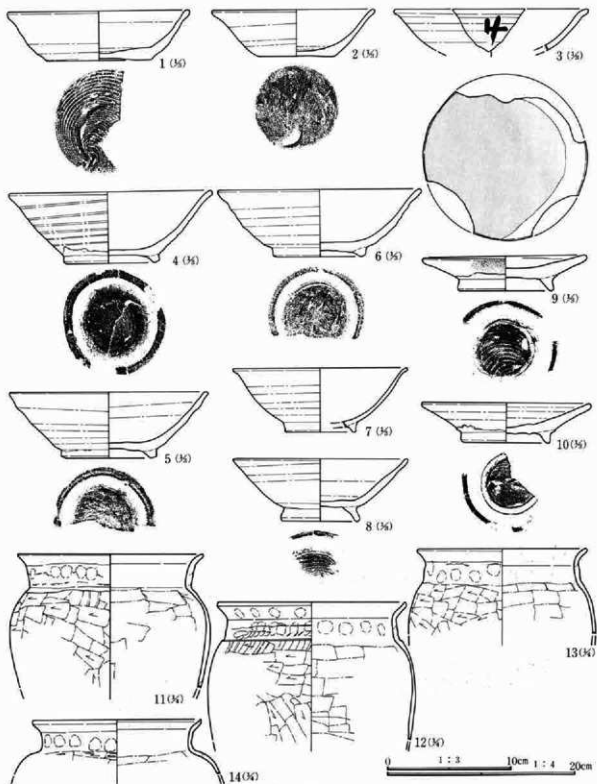
② 黄褐色土。細粒、しまり貝。

第83図 45号住居跡(2)、電

土が多い。量・種類ともに多くの遺物が検出されている。土師器甕4点(11~14)、須恵器环3点(1~3)・高台付埴5点(4~8)・高台付皿2点(9・10)の14点を図化することができた。

竈 東壁の南よりで検出された。焚口幅36cm・奥行40cmを測る。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第84図 45号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-46号住居跡 (第85~87回, P.L19・77)

位置 Bb-24グリッド 床面積 17.07㎡ 主軸方位 N-17°-W

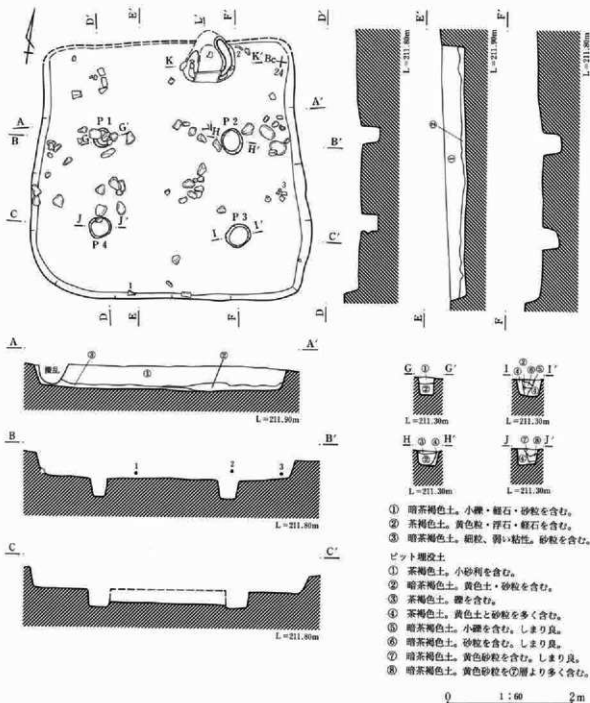
重複 22号住と重複。22号住の北東隅を切って構築している。

規模と形状 東西4.40m・南北(4.10m)を測るほぼ正方形を呈する。

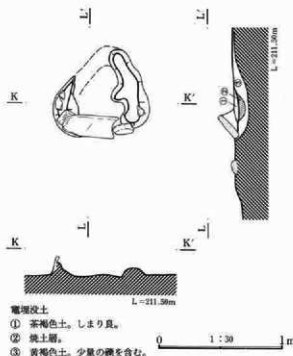
埋没土 小礫・軽石・砂粒を含む暗茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で32cmを測る。地山の粘質黄色土を掘り込んで床面としている。

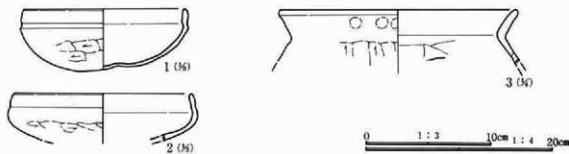
貯蔵穴 なし。 周溝 なし。



第85図 46号住居跡



第86図 46号住居跡画



第87図 46号住居跡出土遺物実測図

B-47号住居跡 (第88~90図、P.L.19・77)

位置 Be・Bf-24グリッド 床面積 13.47㎡ 主軸方位 N-88°-E

重複 66号住・95号住・96号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西3.45m・南北4.11mを測る長方形を呈する。

埋没土 焼土粒・炭化物・小礫を含む暗茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で45cmを測る。掘り方があり、貼り床を施している。小礫と焼土を若干含む灰黒色土を踏み固めて床面としている。掘り方底面は住居中央及び北壁下に大小のピットが検出され凹凸が認められる。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。 柱穴 なし。

出土遺物 遺物は少なく、散在して出土している。図化可能な遺物は須恵器高台付埴4点(1~4)、灰釉陶器高台付埴1点(5)・小瓶1点(6)の6点であった。

竈 東壁の中央やや北よりで検出された。焚口幅52cm・奥行62cmを測る。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。

柱穴 P1~P4の4基が主柱穴に相当するものと思われる。

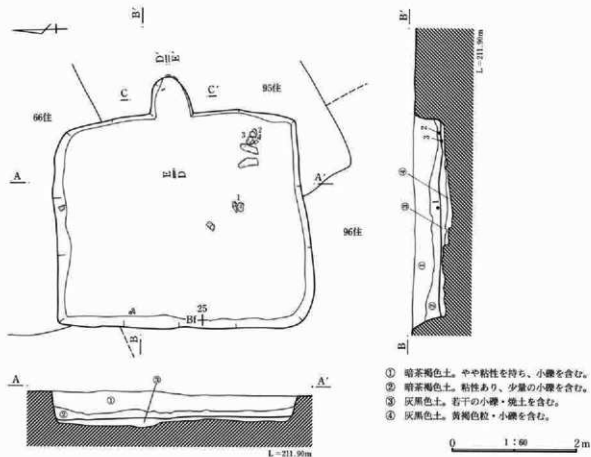
No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	30cm	40cm	40cm	35cm
下端長径	22cm	34cm	32cm	30cm
深さ	30cm	28cm	26cm	26cm

出土遺物 遺物は量・種類ともに少ない。土師器埴2点(1・2)・壺口縁部片1点(3)を図化したに過ぎない。

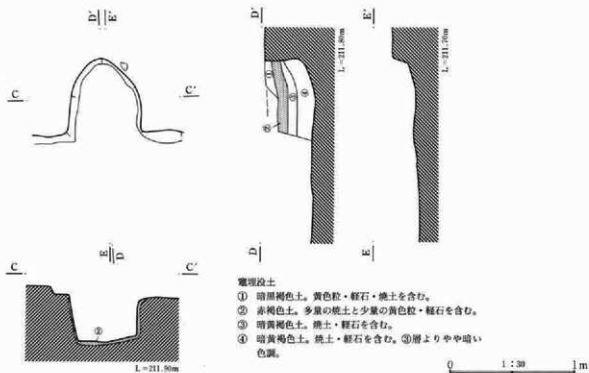
竈 北壁の東よりで検出された。残存状態はあまり良好ではなく、規模等の詳細は不明である。僅かに残る袖部は粘土でつくられ、熱を受けて赤化していた。袖石・天井石はすべて板状の砂岩が用いられていた。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

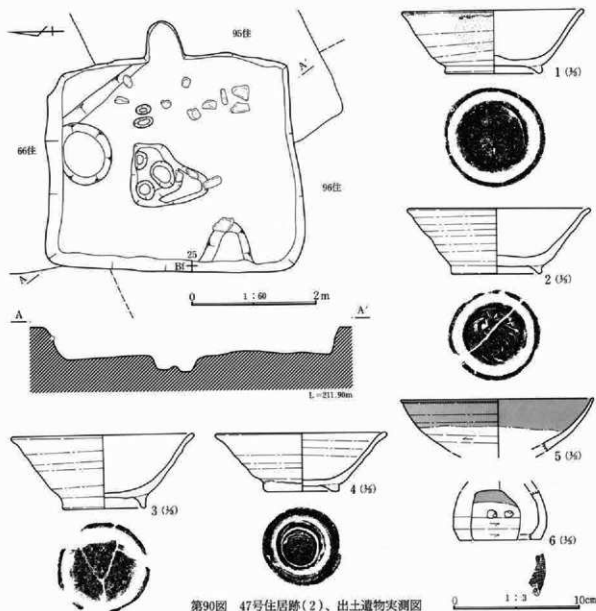
第3章 検出された遺構と遺物



第88図 47号住居跡(1)



第89図 47号住居跡竈



第90図 47号住居跡(2)、出土遺物実測図

B-48号住居跡(第91図、P L19)

位置 Bs-22・23グリッド 床面積 不明。 主軸方位 不明。

重複 62号住の覆土を切って構築している。住居の大半は調査区外である。

規模と形状 調査区外にかかる部分が多く詳細は不明である。

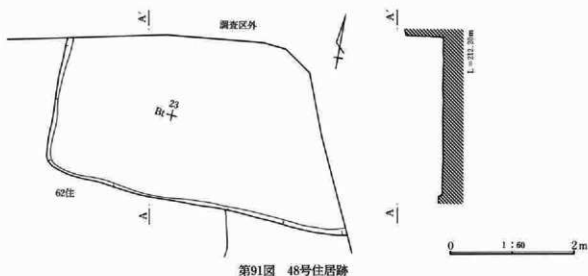
床面 地山の粘質黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 不明。 周溝 不明。 柱穴 不明。

出土遺物 遺物は極めて少なく、いずれも形状を把握できない小破片であるため、1点も図化することはできなかった。

竈 不明。

調査所見 調査範囲が限定されており、住居に伴う竈・柱穴等の施設が検出されておらず、時代を限定できる遺物も出土していないため、本住居の構築時期は不明である。



第91図 48号住居跡

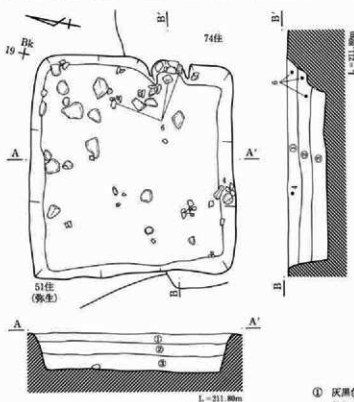
B-49号住居跡 (第92・93図、P.L20・77)

位置 Bj-19グリッド 床面積 10.95㎡ 主軸方位 N-76°-E

重複 51号住・74号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西3.30m・南北3.51mを測る正方形を呈する。

埋没土 少量の焼土・炭化物・小礫・軽石を含む灰黒色土を主体とする。



第92図 49号住居跡

床面 確認面からの壁高は最大で60cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。住居中央や南壁より白色粘土の低い高まりが検出されている。

貯蔵穴 なし。周溝 なし。

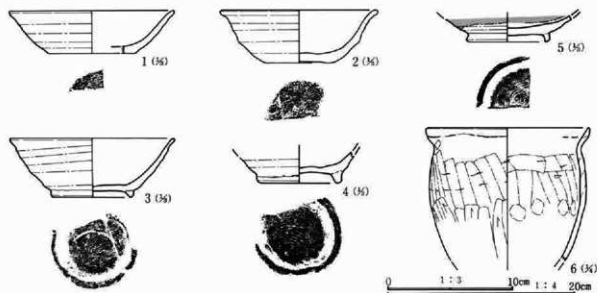
柱穴 なし。

出土遺物 遺物は覆土中のものが多く、散在して出土している。土師器甕1点(6)、須恵器坏2点(1・2)・高台付埴2点(3・4)、灰軸陶器埴1点(5)を図化することができた。

竈 東壁の南よりで検出された。焚口幅50cm・奥行42cmを測る。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。

- ① 灰黒色土。小礫・軽石を含む。黄色較も少量含む。粘性あり。しまりなし。
- ② 灰黒色土。少量の炭化物・焼土・小礫・軽石を含む。粘性あり。しまりなし。
- ③ 灰黒色土。炭化物・小礫・軽石を含む。粘性あり。しまりなし。



第93図 49号住居跡出土遺物実測図

B-50号住居跡 (第94・95図, P L20・77)

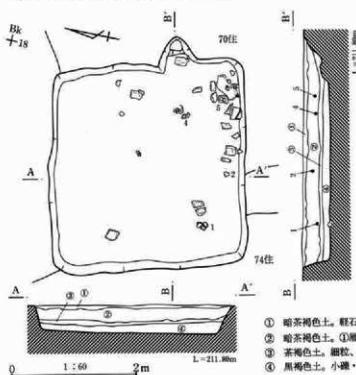
位置 Bj-18グリッド 床面積 10.25㎡ 主軸方位 N-76°-E

重複 70号住・74号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西3.15m・南北3.30mの正方形を呈する。

埋没土 軽石・小礫・炭化物・焼土粒を含む暗茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で32cmを測る。小礫・黄褐色粒・焼土混じりの黒褐色土を充填して、貼り床を施している。掘り方はほぼ平坦である。



第94図 50号住居跡

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 なし。

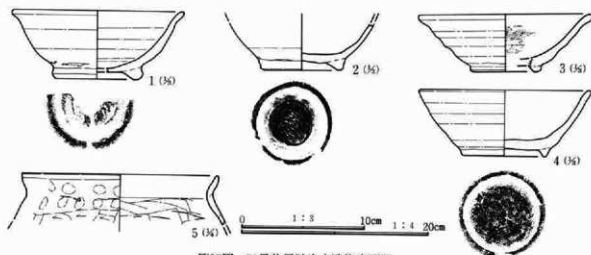
出土遺物 遺物は少なく、床面からやや浮いた状態で、散乱して検出された。土師器壺1点(5)、須恵器高台付埴4点(1~4)が検出された。南東隅の南壁下には竈に使用されたと思われる板状の砂岩が集中して検出されている。

竈 東壁の中央やや南よりで検出された。焚口幅48cm・奥行50cmを測る。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と考えられる。

- ① 暗茶褐色土。軽石・小礫を含む。しまり良。
- ② 暗茶褐色土。①層に似るが炭化物・焼土粒を含む。
- ③ 茶褐色土。細粒。弱い粘性を持つ。
- ④ 黒褐色土。小礫・黄褐色粒・焼土を含む。

第3章 検出された遺構と遺物



第95図 50号住居跡出土遺物実測図

B-52号住居跡 (第96・97図, P.L.21・77)

位置 B1・Bj-20グリッド 床面積 11.06㎡ 主軸方位 N-73'-E

重複 53号住居の北東隅の覆土を切って構築している。

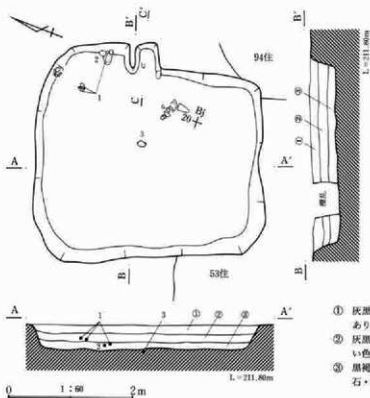
規模と形状 東西3.45m・南北3.69mを測るやや歪んだ長方形を呈する。

埋没土 焼土・炭化物・軽石を含む灰黒色土を主体とする。

床面 掘り方があり、貼り床を施す。黒褐色土を充填して床面を構築している。

貯蔵穴 なし。周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 遺物は住居北東部を中心に分布する。遺物量は少なく、図化可能な遺物は須恵器高台付塊 1点



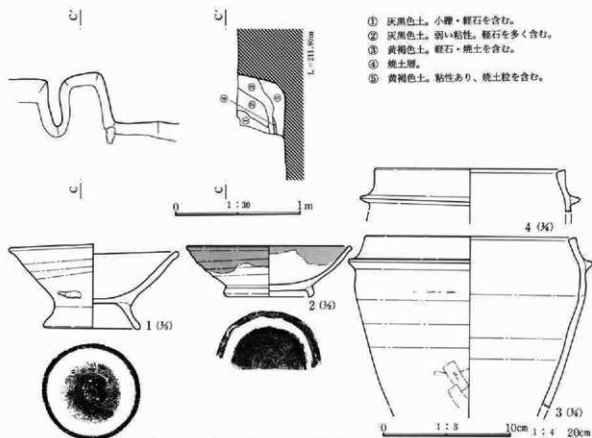
(1)・羽釜 2点 (3・4)、灰軸陶器高台付塊 1点 (2) の4点であった。

竈 東壁の中央やや北よりで検出された。焚口幅40cm・奥行48cmを測ることができる。

調査所見 住居の南側で53号住と重複しているため、床面の検出は困難を極め、一部掘り過ぎてしまった。出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。

- ① 灰黒色土。焼土・炭化物・小礫・軽石を含む。粘性あり、しまりなし。
- ② 灰黒色土。焼土・炭化物・軽石を含む。①層より暗い色調。
- ③ 黒褐色土。地山黄褐色土に黒色土を混入。若干の軽石・小礫を含む。

第96図 52号住居跡



第97図 52号住居跡竈、出土遺物実測図

B-53号住居跡 (第98~100図、P L21・77・78)

位置 Bi-19・20グリッド 床面積 20.40㎡ 主軸方位 N-13°-W

重複 北東部を52号住に切られ、南西部で76号住と重複する。

規模と形状 東西4.86m・南北4.20mを測る長方形を呈する。

埋没土 黄褐色土・小礫・炭化物を含む黒褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で48cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面は概ね平坦である。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 住居プランのほぼ対角線上に4基(P1~P4)の支柱穴が検出された。

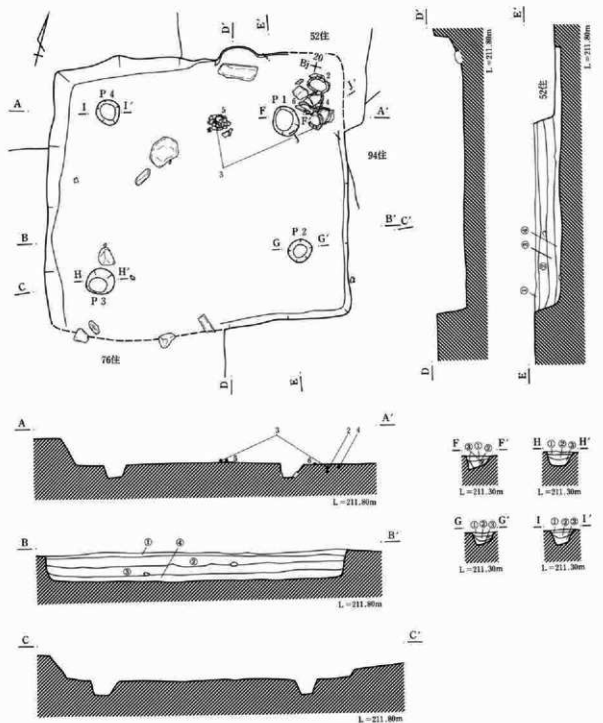
No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	48cm	38cm	46cm	40cm
下端長径	34cm	22cm	28cm	28cm
深 さ	22cm	24cm	24cm	20cm

出土遺物 住居の北東隅で竈4点がまとまって検出された。図化可能な遺物は土師器環1点(1)・甕6点(2~7)の7点である。

竈 北壁の中央やや東よりで検出された。上部を52号住に切られ、残存状況は悪い。天井石及び左袖石が残るのみで、規模・形状等の詳細は不明である。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。

第3章 検出された遺構と遺物



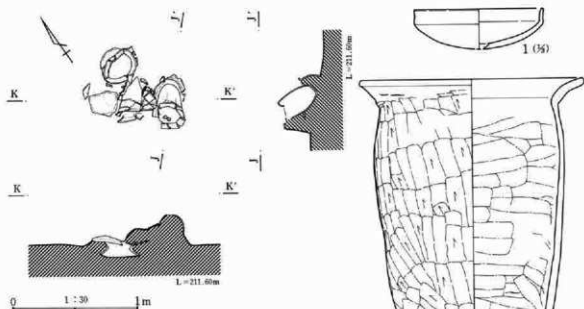
- ① 灰黒色土。礫を多量に含む。
 ② 黒褐色土。礫・軽石・黄褐色粒を含む。粘性あり、しまりなし。
 ③ 暗褐色土。黄褐色粒の混入が多く、若干の小礫・炭化物を含む。粘性あり、しまりなし。
 ④ 黒褐色土。小礫・黄褐色粒・炭化物と若干の焼土を含む。粘性あり、しまりなし。

ピット埋設土

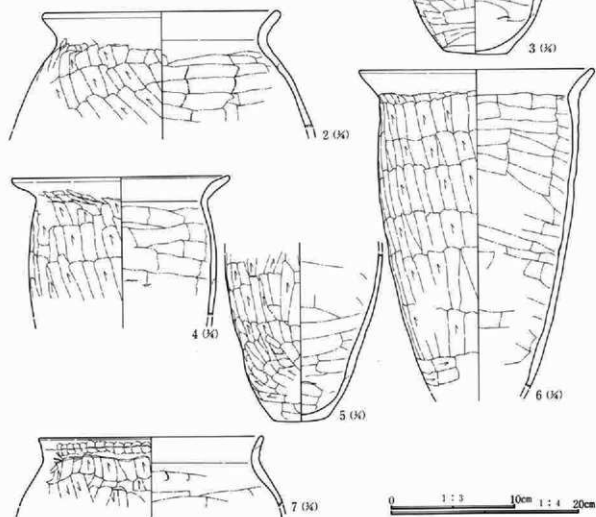
- ① 暗褐色土。黄褐色粒・小礫を含む。粘性あり、しまりなし。
 ② 黄褐色土。小礫を含む砂質土。粘性、しまりなし。
 ③ 暗褐色土。砂質土。小礫を含む。

0 1:60 2m

第98図 53号住居跡



第99図 53号住居跡遺物出土図



第100図 53号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-54号住居跡 (第101・102図、P.L.22・78)

位置 B1-18・19グリッド 床面積 11.53㎡ 主軸方位 N-62°-E

重複 67号住・51号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西3.08m・南北3.78mを測る長方形を呈する。

埋没土 B軽石を含む暗茶褐色土を主体とする。上層はとくにB軽石の混入が多い。

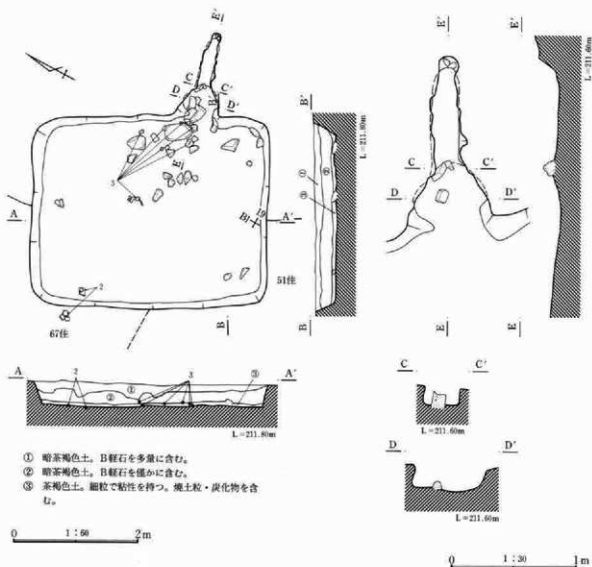
床面 確認面からの壁高は最大で36cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としているが西半部は67号住・51号住の覆土となっている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。 柱穴 なし。

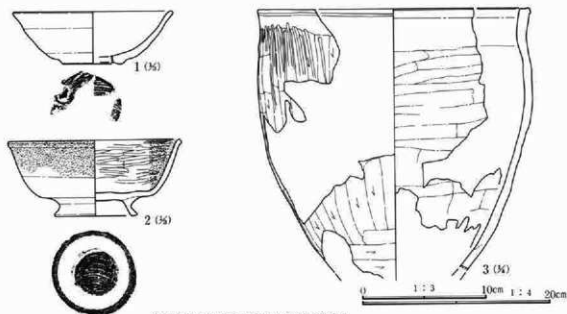
出土遺物 遺物は景・種類ともに少なく、図化可能な遺物は須恵器坏1点(1)・高台付埴1点(2)、土師器土釜1点(3)の3点のみであった。

竈 東壁の南よりで検出された。焚口幅63cm・奥行60cm・煙道幅25cm・煙道長83cmを測る。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第101図 54号住居跡、竈



第102図 54号住居跡出土遺物実測図

B-55号住居跡 (第103・104図、P.L22・78)

位置 Bh-21・22グリッド 床面積 13.95㎡ 主軸方位 N-6°-W

重複 39号住(弥生)の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西3.60m・南北4.08mを測る長方形を呈する。

埋没土 小礫・黄褐色粒・焼土・炭化物を含む灰黒色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で21cmを測る。掘り方があり、掘り方底面からは大小7基のピットが検出されている。

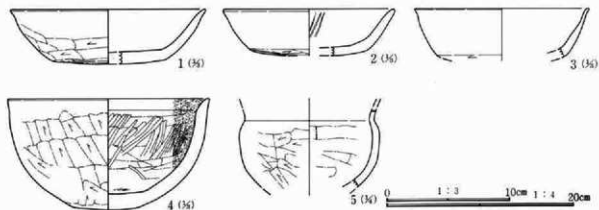
貯蔵穴 掘り方で大小7基のピットが検出されているが貯蔵穴に相当するものは明瞭ではない。周溝 なし。

柱穴 大小7基のピットが検出されているが、規則的な配列は認められなかった。

出土遺物 遺物は少なく、散乱して出土している。土師器坏2点(1・2)・埴1点(4)・小型埴1点(5)、須恵器坏1点(3)を図化することができた。

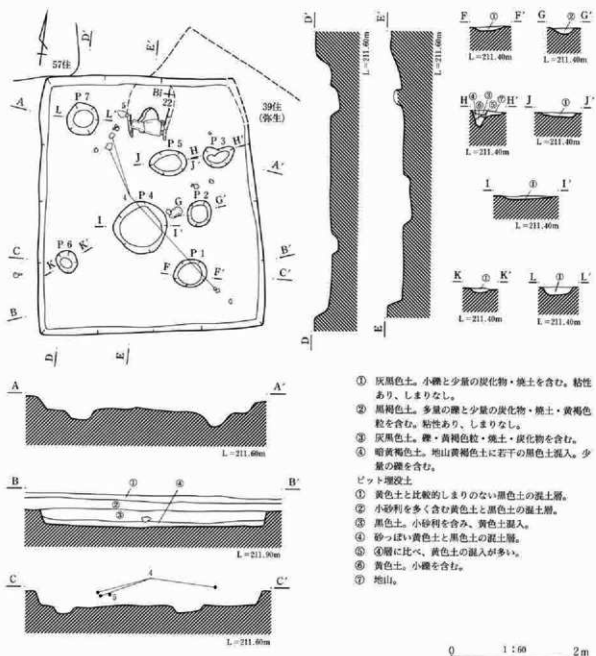
竈 北壁の中央付近で検出された。両袖石が明瞭に残り、天井石が割れて崩落した状態で検出されている。これらの石材はいずれも板状の砂岩である。幅50cm・奥行50cmを測る。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第103図 55号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物



第104図 55号住居跡

B-56号住居跡 (第105・106図、P L22・23・78・79)

位置 Bd・Be-22・23グリッドに位置する。29号住居内に構築されている。

床面積 20.20㎡ 主軸方位 N-28°-W

重複 29号住 (弥生) の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西5.10m・南北4.00mを測る横長の長方形を呈する。

埋没土 浮石を含む緻密で粘質の黄褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で69cmを測る。地山の粘質黄色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

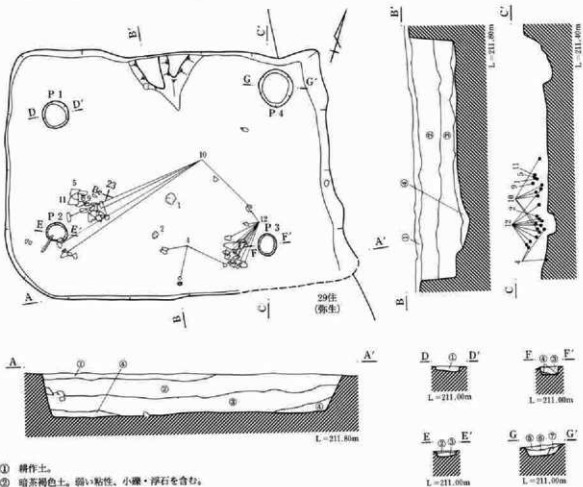
柱穴 住居プランのほぼ対角線上に4基の主柱穴が検出された。

No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	40cm	49cm	32cm	59cm
下端長径	34cm	40cm	28cm	46cm
深 さ	8cm	8cm	13cm	16cm

出土遺物 比較的多くの遺物が検出されている。住居の北半ではほとんど検出されず、南半に集中して分布する。図化可能な遺物は土師器環6点(1~6)・長胴甕3点(10~12)・小型壺1点(9)・高環1点(7)、須恵器高環1点(8)の12点である。

竈 北壁の中央やや東よりで焼土混じりの高まりが検出されたが、残存状況が悪く、詳細は不明である。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

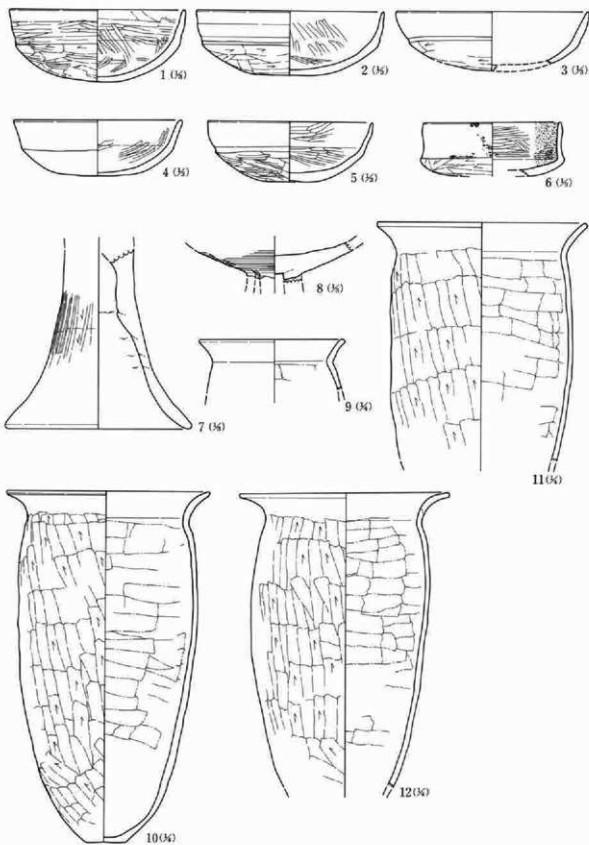


- ① 耕作土。
- ② 暗茶褐色土。弱い粘性。小礫・浮石を含む。
- ③ 黄褐色土。緻密で粘性あり。浮石を含む。
- ④ 黄褐色土。粘性あり。黄色土を含む。
- ピット埋込土
- ① 暗茶褐色土。小砂利・炭化物を含む。
- ② 茶褐色土。細粒。しまりなし。
- ③ 茶褐色土と黄色土の混土。
- ④ 茶褐色土と黄色土の混土。③層より茶褐色土の割合

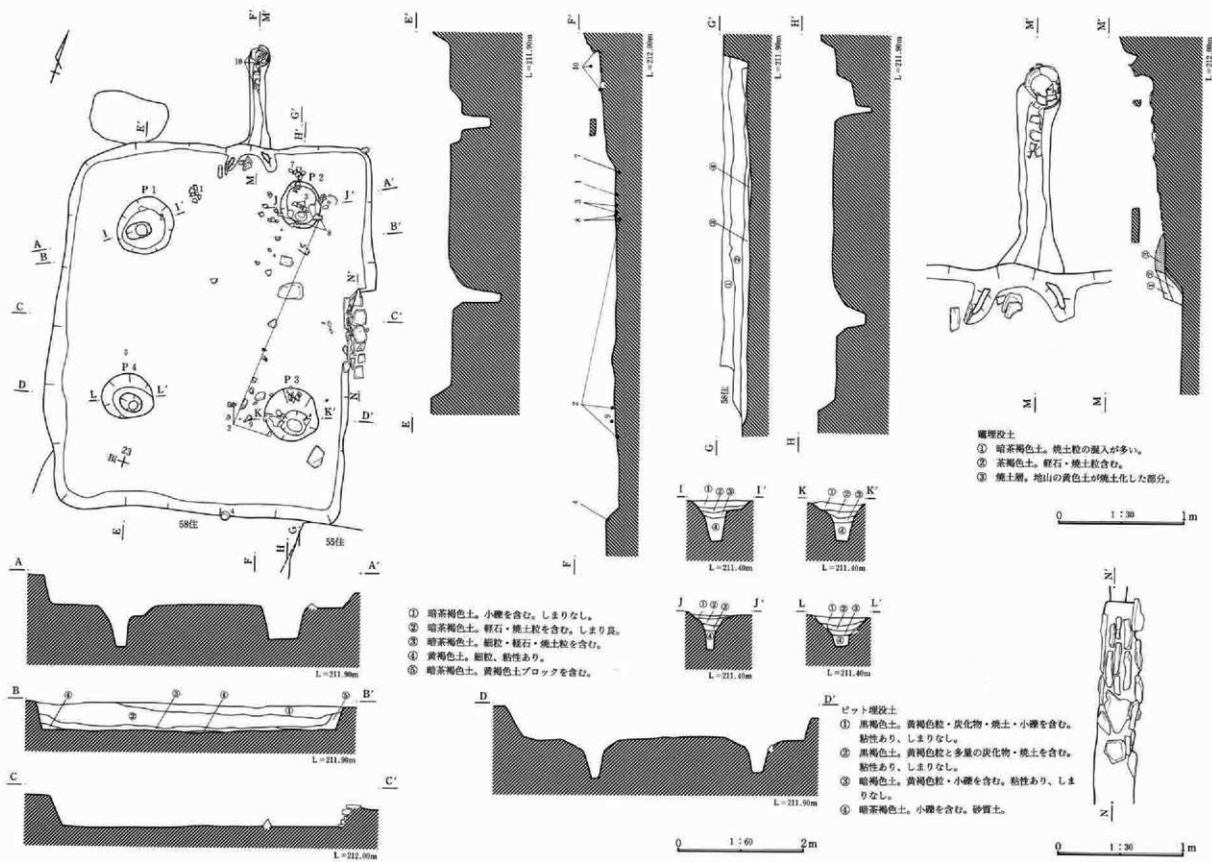
- が多い。
- ⑤ 茶褐色土。炭化物・砂粒・黄色土ブロックを含む。しまり良。
- ⑥ 茶褐色土。⑤層に似るが、黄色土ブロックの混入が多い。
- ⑦ 茶褐色土。黄色粒・砂粒を含む。

第105図 56号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第106図 56号住居跡出土遺物実測図



第107図 57号住居跡、竈、東壁石組

B-57号住居跡 (第107~109図、P.L.23・79)

位置 B1-22・23グリッド 床面積 28.61㎡ 主軸方位 N-16°-W

重複 58号住に南壁の上部を切られている。

規模と形状 東西4.86m・南北5.90mを測る縦長の長方形を呈する。

埋没土 軽石・焼土粒を含むしまりの良い暗茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で48cmを測る。東壁の中央部では、長さ140cmにわたって厚さ10cm程の板状の砂岩を石垣状に積み重ね壁面を構築している。地山の粘質黄色土を掘り込んで床面としており、北から南に向かって緩やかな傾斜が認められる。

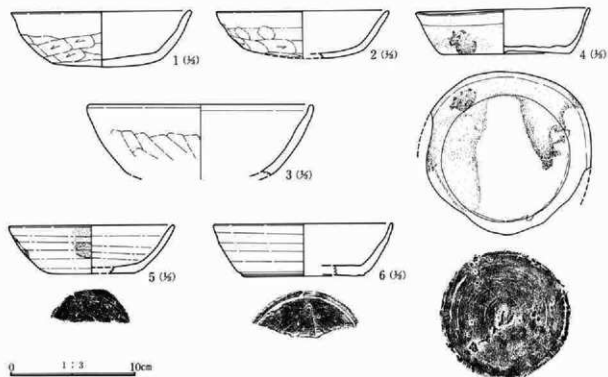
貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 住居プランのほぼ対角線上に4基の主柱穴が検出された。

No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	84cm	76cm	82cm	83cm
下端長径	21cm	12cm	30cm	16cm
深さ	63cm	53cm	45cm	57cm

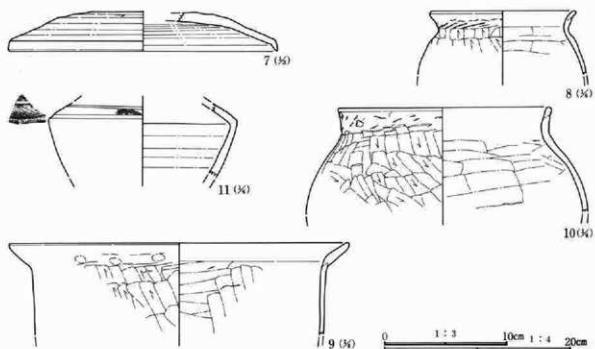
出土遺物 遺物は散在して出土しているが、住居の東半にやや集中する傾向が窺える。凶化可能な遺物は土師器環3点(1~3)・甕2点(9・10)・小型甕1点(8)・須恵器環3点(4~6)・蓋1点(7)・長頸壺胴部片1点(11)の11点である。

竈 北壁の中央やや東よりで検出された。両袖は僅かに残るのみで燃焼部の残存状況は悪い。しかし、煙道部は良好に残り、煙道の立ち上がりには土師器の甕(8)が遺存していた。煙道幅26cm・煙道長165cmを測る。調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第108図 57号住居跡出土遺物実測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



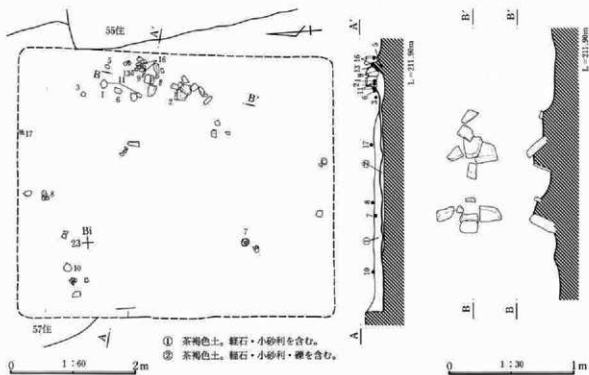
第109図 57号住居跡出土遺物実測図(2)

B-58号住居跡 (第110~112図、P L23・24・79・80)

位置 Bb-22・23グリッド 床面積 不明。主軸方位 不明。

重複 57号住居の上部を切って構築している。

規模と形状 掘り込みが浅く、住居プランの確認は困難をきわめた。規模・形状ともに不明瞭で、平面プラン



第110図 58号住居跡、竈

ンはセクション図及び遺物の分布範囲をもとにした推定線である。

埋没土 軽石・小砂利を含む茶褐色土を主体とする。

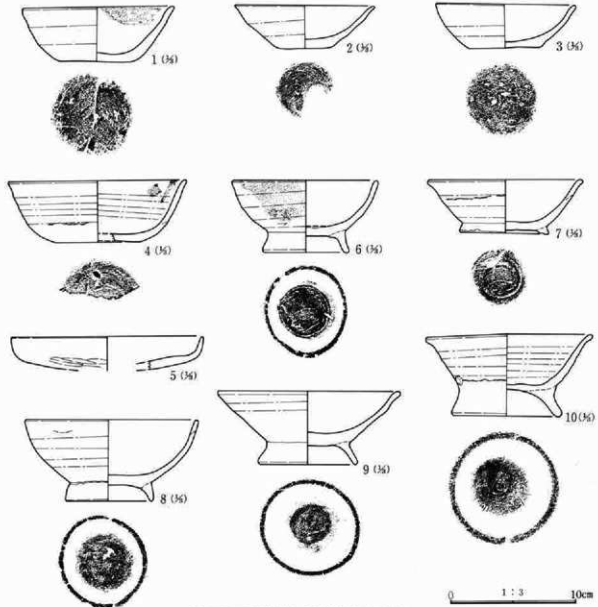
床面 掘り込みが浅く明瞭な立ち上がりを検出することはできなかった。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。 **周溝** なし。 **柱穴** なし。

出土遺物 遺物は量・種類ともに多く、竈周辺に集中して分布する他は、散乱して出土している。図化可能な遺物は須恵器環4点(1~4)・高台付埴6点(6~11)・羽釜2点(16・17)、灰軸陶器高台付埴3点(12~14)・高台付皿1点(15)、土師器環1点(5)の17点である。

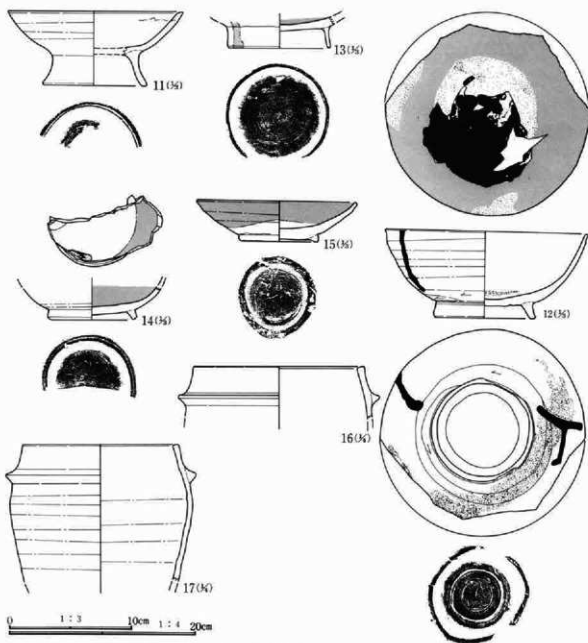
竈 竈上部は壊され、残存状況は非常に悪い。板状の砂岩を用いた数点の両袖石のみが残存している。竈内及び左袖脇は火熱を受け赤化していた。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第111図 58号住居跡出土遺物実測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第112図 58号住居跡出土遺物実測図(2)

B-64号住居跡 (第113・114図、P.L24・80)

位置 Bb・Bc-15・16グリッド 床面積 15.63㎡ 主軸方位 N-4°-W

重複 北壁の一部を22号土坑に切られ、西壁の上部を4A号住・4B号住に切られる。

規模と形状 東西4.05m・南北3.90mを測るほぼ正方形を呈する。

埋没土 小礫・軽石・黄褐色粒を含む暗褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で32cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。周溝 なし。

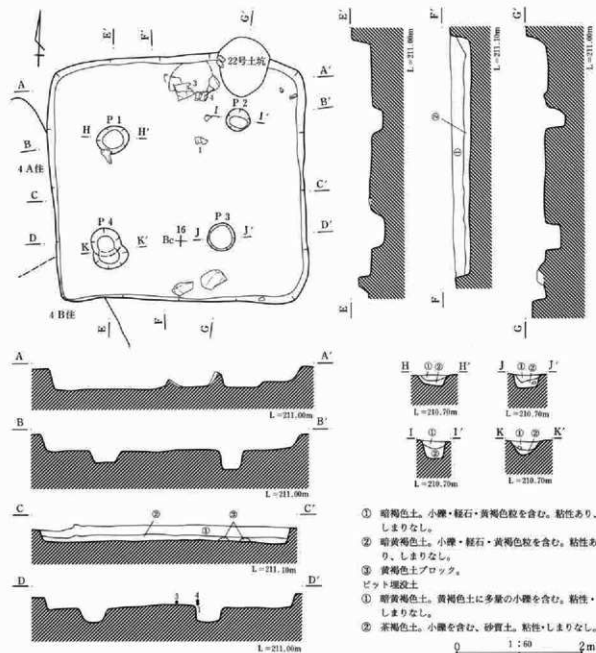
柱穴 住居プランのほぼ対角線上に検出された4基(P1~P4)のピットが主柱穴に相当するものと思われる。

No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	50cm	38cm	44cm	46cm
下端長径	33cm	30cm	38cm	26cm
深さ	28cm	17cm	24cm	20cm

出土遺物 遺物は竈前を中心に分布する。量的には少なく、図化可能な遺物は土師器環2点(1・2)・長胴壺2点(3・4)の4点であった。

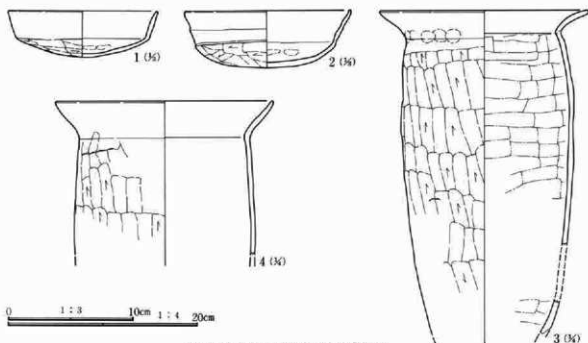
竈 北壁の中央やや東よりで検出された。残存状況は非常に悪く、両袖に使用されたと思われる板状の砂岩が遺存するのみであった。規模等の詳細については不明である。竈前には長胴壺2点が遺存していた。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第113図 64号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第114図 64号住居跡出土遺物実測図

B-65号住居跡 (第115・116図、P L 24)

位置 Bc・Bd-17・18グリッド 床面積 (17.72㎡) 主軸方位 不明。

重複 26号土坑・33号住の覆土を切って構築しており、東壁全部を12号住に切られている。

規模と形状 規模は東西4.74m+α・南北3.84mを測る。平面形は長方形を呈する。

埋没土 小礫・黄褐色粒・焼土・炭化物を含む暗褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で31cmを測る。床面は概ね平坦である。地山の黄褐色土を床面としている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

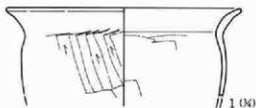
柱穴 位置的にやや疑問が残るがP 1～P 4の4基が主柱穴になるものと思われる。

№	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
上端長径	40cm	46cm	38cm	40cm	47cm
下端長径	32cm	30cm	24cm	28cm	38cm
深 さ	26cm	26cm	17cm	20cm	18cm

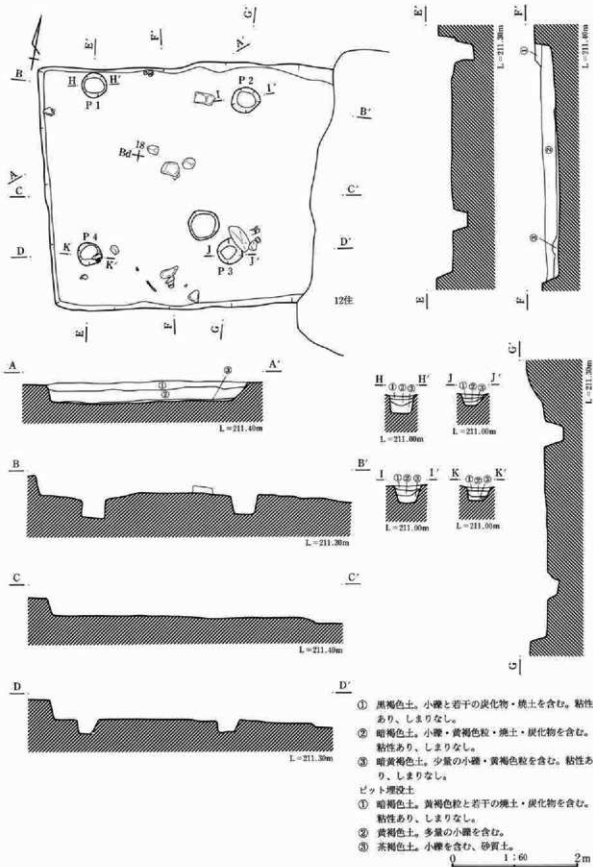
出土遺物 遺物は極めて少なく、覆土中より検出された壺1点を図化したに過ぎない。

竈 12号住を構築する際に破壊されたものと思われ、検出することができなかった。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第115図 65号住居跡出土遺物実測図



第116図 65号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

B-66号住居跡 (第117・118図、P.L.24・80)

位置 Be・Bf-24グリッド 床面積 (21.33m²) 主軸方位 N-5°-E

重複 47号住に住居の大半を破壊され、残存部は少ない。東南部は95号住と重複し、95号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 西壁・南壁の大半を47号住に破壊されているため、形状・規模ともにやや不明瞭である。残存部の形状から東西4.89m・南北4.50mを測る正方形に近い長方形を呈するものと推定される。

埋没土 軽石・黄褐色粒・小礫を含む黒褐色土を主体とする。

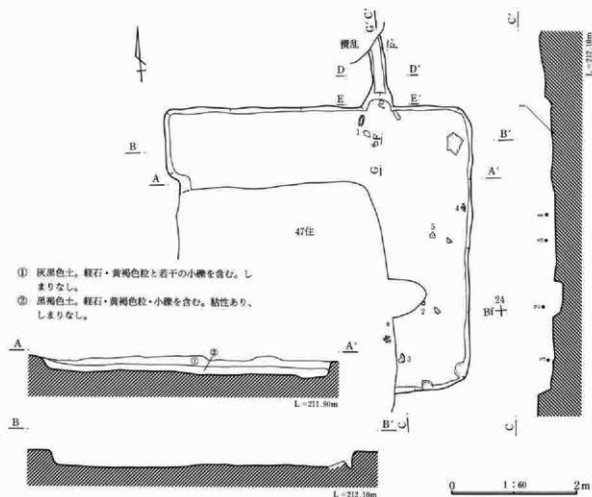
床面 確認面からの壁高は最大で21cmを測る。床面は概ね平坦である。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。 柱穴 なし。

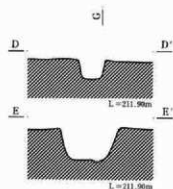
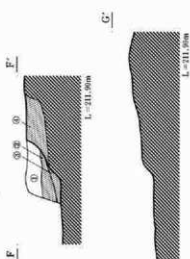
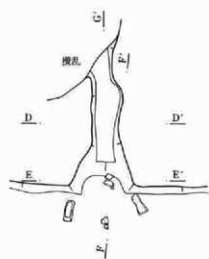
出土遺物 遺物量は少なく、散乱して出土している。土師器環2点(1・2)・台付壺1点(5)、須恵器環1点(3)・蓋1点(4)、流紋岩製の砥石1点(6)を図化することができた。

竈 北壁の東よりで検出された。燃焼部の残存状況は悪く、両袖は破壊され、規模等の詳細は不明である。煙道も先端部を覆乱により破壊されている。煙道部の規模は煙道幅20cm・煙道長85cm+aを測ることができる。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第117図 66号住居跡



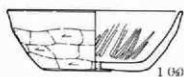
層相表

- ① 灰褐色土。小礫・黄褐色粒・軽石を含む。粘性あり、しまりなし。
- ② 赤褐色土。軽石・黄褐色粒と多量の炭土を含む。粘性あり、しまりなし。
- ③ 赤色土。炭土壁の崩落土。
- ④ 炭土壁。

0 1:30 1m



3 (36)



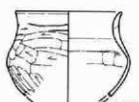
1 (36)



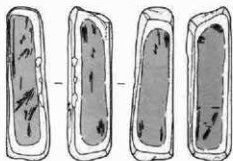
2 (36)



4 (36)



5 (36)



6 (36)



0 1:3 10cm 1:4 20cm

第118図 66号住居跡、出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

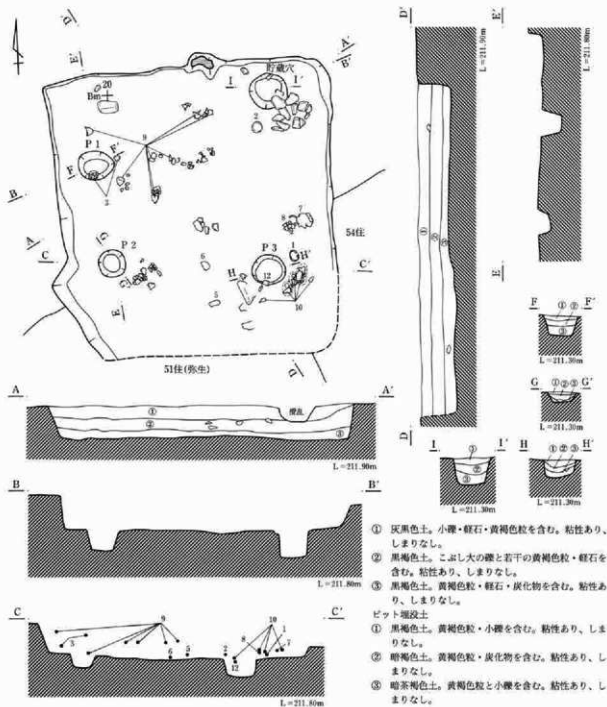
B-67号住居跡 (第119~121図、P L24・25・80・81)

位置 B1-19グリッド 床面積 (20.08㎡) 主軸方位 N-1°-W

重複 東壁の上部を54号住に破壊されている。住居の南半部は51号住を切つて構築している。

規模と形状 51号住との重複により、南壁を明瞭に検出することができなかった。南壁の破綻はセクション図を元にした推定線である。残存部の形状から東西4.56m・南北4.65mを測る正方形を呈するものと推定される。

埋没土 こぶし大の礫と若干の黄色粒・軽石を含む黒褐色土を主体とする。



第119図 67号住居跡

0 1:60 2m

床面 確認面からの壁高は最大で54cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 住居の北東隅で検出された。長軸62cm・短軸56cm・深さ41cmを測る楕円形を呈するピットが貯蔵穴に相当するものと思われる。

周溝 なし。

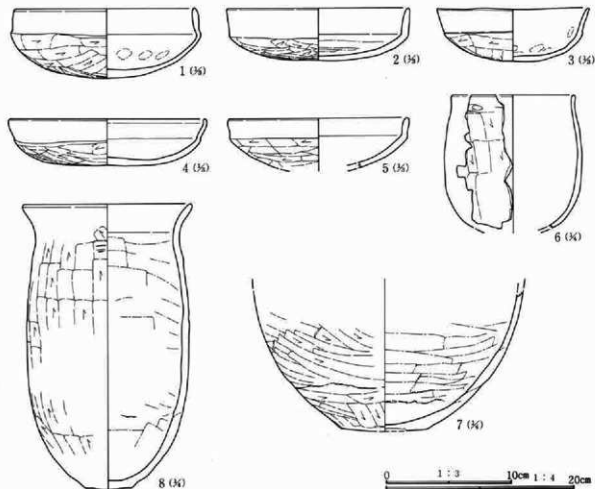
柱穴 3基のピットが検出されている。

No	P 1	P 2	P 3
上端長径	58cm	44cm	52cm
下端長径	40cm	30cm	44cm
深さ	32cm	22cm	28cm

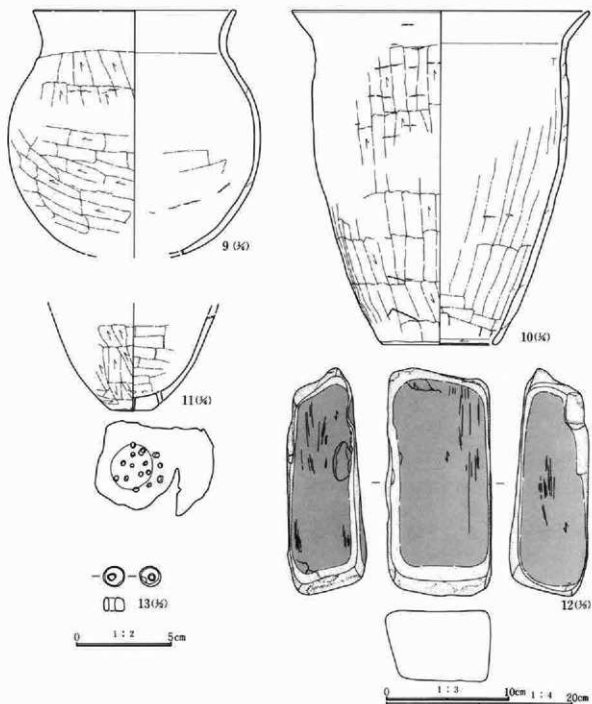
出土遺物 遺物は住居の全面に散乱して検出されており、量的にも多い。図化可能な遺物は土師器坏5点(1～5)・甕3点(7～9)・甕2点(10・11)・小型甕1点(6)、流紋岩製の砥石1点(12)・滑石製の白玉1点(13)の13点である。住居の北東隅からは黒編石状の石が13点検出されている。

竈 北壁の中央やや東よりで検出された焼土の高まりが竈の残存部と思われる。残存状況は極めて悪く、規模等の詳細は不明である。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第120図 67号住居跡出土遺物実測図(1)



第121図 67号住居跡出土遺物実測図(2)

B-68号住居跡 (第122・123図、P L 25・81)

位置 Ba・Bb-16・17グリッド 床面積 不明。 主軸方位 N-20°-W

重複 40号住に北西隅を、4 A号住・4 B号住に北壁上部を破壊されており、5号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 重複部が多く、明瞭に平面プランを確認することができなかった。立ち上がりも不明瞭で、壁面を確認できたのは、北壁・西壁・南壁のごく一部に過ぎない。その他は、すべて推定線である。

埋没土 黄褐色土ブロック・小礫を含む黒褐色土を主体とする。

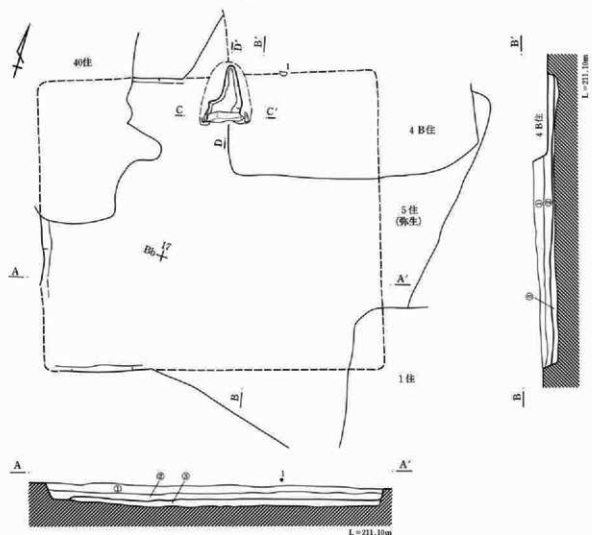
床面 5号住の上に床面を構築していたものと思われるが、調査時に5号住の床面まで掘り下げてしまい、詳細については不明である。

貯蔵穴 なし。 **周溝** なし。 **柱穴** なし。

出土遺物 遺物は極めて少なく、固化可能な遺物は土師器環2点のみである。

竈 北壁の東よりで検出された。両袖石及び天井石が遺存していた。いずれも板状の砂岩を使用している。焚口幅62cm・奥行90cmを測る。

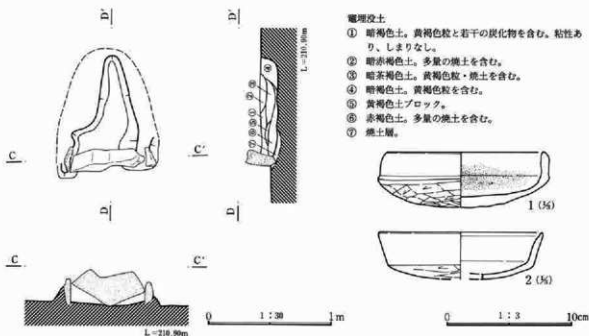
調査所見 住居の大半が重複部であるため、プランの確認は困難を極めた。特に5号住との重複部の東壁のすべて、北壁・南壁の一部は立ち上がりを確認することができず、すべて推定線である。出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



- ① 黒褐色土、軽石・黄褐色土ブロック・少量の炭化物・焼土を含む。粘性・しまりあり。
- ② 黒褐色土、黄褐色土ブロック・小礫を含む。粘性・しまりあり。
- ③ 暗褐色土、黄褐色土ブロック・小礫・焼土・炭化物を含む。粘性あり、しまりなし。

第122図 68号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第123図 68号住居跡竈、出土遺物実測図

B-69号住居跡 (第124~126図、P L25・81)

位置 Bg-20・21グリッド 床面積 11.33㎡ 主軸方位 N-23°-W

重複 38号住に北東部を破壊されている。

規模と形状 北東部を破壊されており、平面形はやや不明瞭であるが、残存部の形状から東西3.36m・南北3.24mのほぼ正方形を呈するものと推定される。

埋没土 軽石・黄色粒を含む茶褐色土を主体とする。住居の南半部の埋没土下層には多量の円礫が検出されている。

床面 確認面からの壁高は最大で52cmを測る。北壁及び東壁の一部は38号住に壊され、検出できなかった。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。住居の南半部には、床面から覆土下層にかけて大小の円礫が多数検出された。床面は西から東に向かって僅かに傾斜が認められる。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

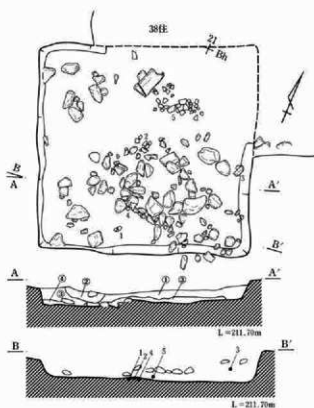
柱穴 西壁・東壁に沿って4基のピットが検出されている。主柱穴とするには、位置的に無理がある。

No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	40cm	42cm	42cm	64cm
下端長径	20cm	19cm	30cm	26cm
深さ	32cm	36cm	23cm	24cm

出土遺物 遺物量は少なく、散乱して検出されている。図化可能な遺物は土師器坏2点(1・2)・壺3点(3~5)の5点である。

竈 38号住に破壊されたものと思われ、詳細については不明である。北壁の中央付近で検出された板状の砂岩は天井石の崩落したものと思われる。

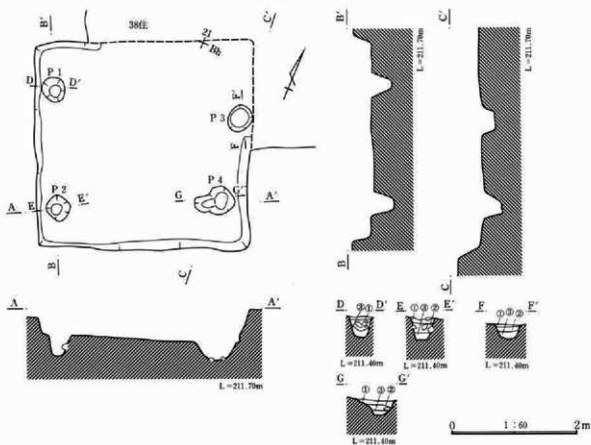
調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



- ① 茶褐色土。軽石・黄色粒・礫を多く含む。
- ② 茶褐色土。軽石・黄色粒を含む。やや粘性あり。
- ③ 茶褐色土。細砂、しまり良。礫(φ20~30mm)を多量に含む。
- ④ 黄褐色土。炭化物・黄色粒を含む。
ピット埋没土
- ① 黒褐色土。粘土・炭化物・小礫を含む。粘性あり、しまりなし。
- ② 暗黄褐色土。礫・黄褐色粒を含む。粘性あり、しまりなし。
- ③ 茶褐色土。砂質土。小礫を含む。粘性・しまりなし。

0 1:60 2m

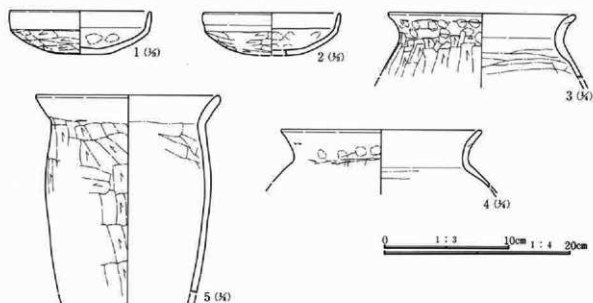
第124図 69号住居跡(1)



0 1:60 2m

第125図 69号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第126図 69号住居跡出土遺物実測図

B-70号住居跡 (第127・128図、P L.25・26・81・82)

位置 Bj-17・18グリッド 床面積 19.23㎡ 主軸方位 N-28°-W

重複 北西隅を50号住に切れ、93号住の南西隅の覆土を切って構築している。

規模と形状 規模は東西4.50m・南北4.80mを測る。西辺に比べて東辺が長く、形状は歪みのある正方形を呈する。

埋没土 少量の炭化物・焼土を含む黒褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で39cmを測る。北壁及び西壁の一部は50号住に切れ立ち上がりが明瞭ではない。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

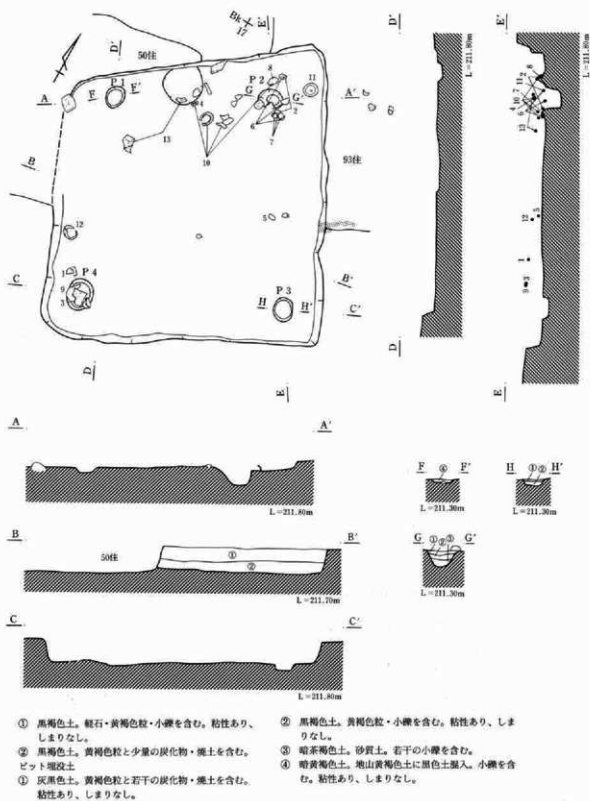
柱穴 P1～P4の4基が支柱穴に相当するものと思われる。

No.	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	35cm	40cm	36cm	52cm
下端長径	26cm	20cm	29cm	42cm
深 さ	8cm	26cm	10cm	—

出土遺物 遺物は、住居の北東隅のピット周辺と南西隅を中心に分布する傾向が見られる。遺物量も比較的多く、土師器環4点(1～4)・高坏1点(5)・小型壺3点(6～8)・長胴壺5点(9～13)の13点を図化することができた。

竈 北壁のほぼ中央に構築されたものと推定され、北壁下の30cm程南に袖石と思われる板状の砂岩が検出されていることから、50号住を構築する際に破壊された可能性が考えられる。また東壁の中央やや南よりに向かって煙道状の焼土の痕跡が認められるが本住居に伴うものかは明らかでない。

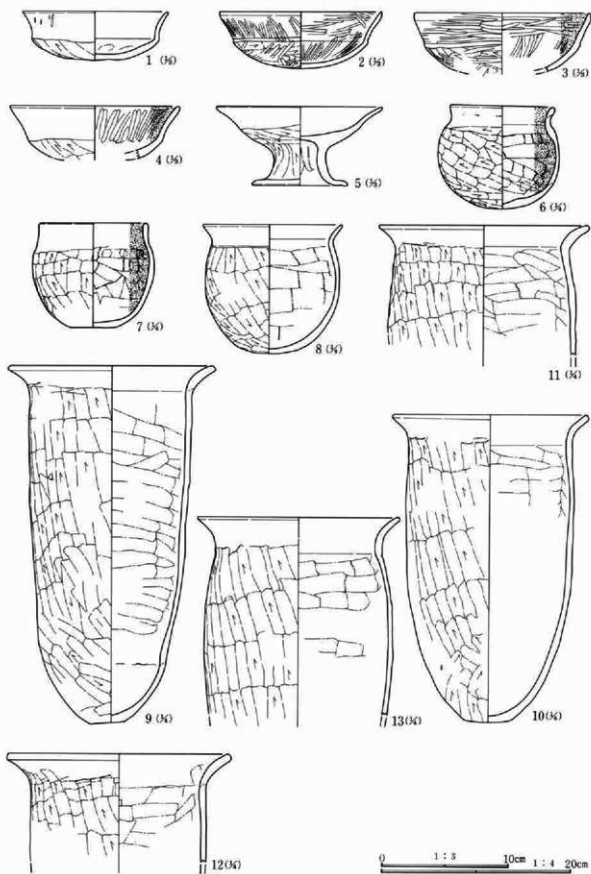
調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第127図 70号住居跡

0 1:60 2m

第3章 検出された遺構と遺物



第128図 70号住居跡出土遺物実測図

B-71号住居跡 (第129・130図、P L26・82)

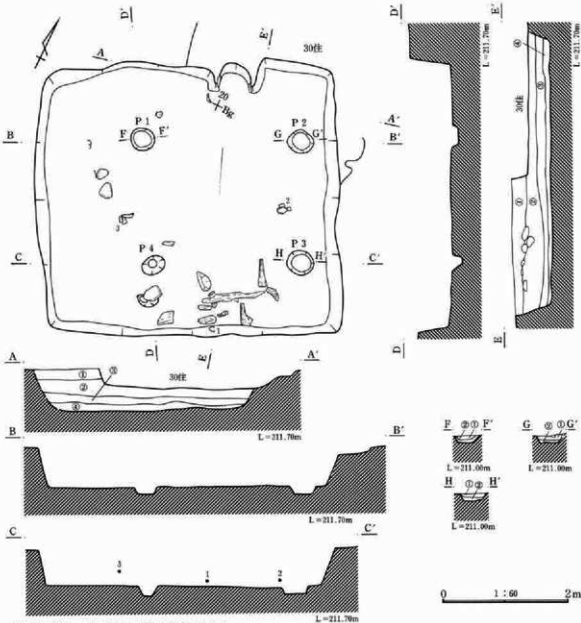
位置 Bf・Bg-19・20グリッド 床面積 20.21㎡ 主軸方位 N-27-W

重複 北東部を30号住に切られている。

規模と形状 東西4.90m・南北4.35mを測る長方形を呈する。

埋没土 焼土・炭化物・黄褐色土ブロック・小礫を含む黒褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で60cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面はほぼ平坦である。



- ① 灰黒色土。φ10~50mmの小礫・黄褐色土を含む。
- ② 暗褐色土。若干の炭化物と黄褐色土ブロックを含む。φ30~150mmの大小の礫を多量に含む。
- ③ 黒褐色土。焼土・黄褐色土ブロック・φ5~20mmの小礫を含む。
- ④ 黒褐色土。多量の焼土と炭化物・黄褐色粒・φ30~40mmの小礫を含む。

ピット埋没土

- ① 暗黄褐色土。地山黄褐色土と黒色土の混土層。φ5~20mmの小礫を含む。
- ② 黄褐色土。φ5~10mmの小礫を含む。

第129図 71号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 P1～P4の4基が主柱穴になるものと思われる。

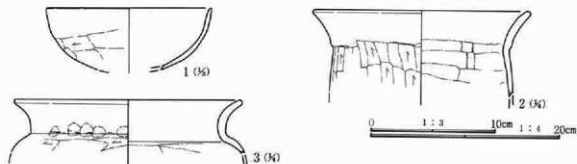
Na	P1	P2	P3	P4
上端長径	40cm	43cm	43cm	38cm
下端長径	28cm	30cm	32cm	14cm
深さ	12cm	15cm	14cm	16cm

出土遺物 遺物量は極めて少なく、散乱して出土している。図化可能な遺物は土師器環1点(1)・壺2点(2・3)の3点である。

竈 北壁の東よりで検出された。焚口幅52cm・奥行45cmを測る。両袖部には砂岩の袖石が使用されていた。

調査所見 住居の南壁付近に炭化材が集中して検出されていることから、焼失家屋の可能性が考えられる。

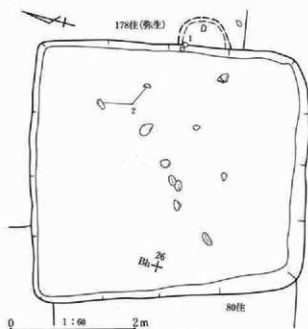
出土遺物から奈良時代の住居跡と考えられる。



第130図 71号住居跡出土遺物実測図

B-72号住居跡(第131・132図、P.L26・82)

位置 Bg・Bh-25グリッド 床面積 (17.75m²) 主軸方位 N-75°-E



第131図 72号住居跡

重複 80号住の上部を切って構築している。

規模と形状 東西4.14m・南北(4.41m)を測る。ほぼ正方形を呈する。

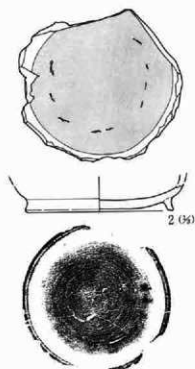
床面 1次調査の際に明瞭な床面を検出することができず、80号住の床面まで掘り下げてしまった。床面の状態については不明である。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。 柱穴 なし。

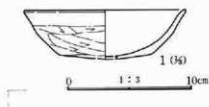
出土遺物 遺物は極めて少なく、図化可能な遺物は土師器環1点(1)、須恵器高台付環1点(2)の2点であった。

竈 東壁の中央やや南よりで検出された。調査資料が乏しく詳細については不明である。

調査所見 1次調査と2次調査の2回にわたって調査されている。平面図は2回の調査資料を合成して作成した。奈良時代。



第132図 72号住居跡出土遺物実測図



B-73号住居跡 (第133図, P L26)

位置 Bc-15グリッド 床面積 不明。 **主軸方位** 不明。

重複 なし。住居の3分の2は調査区外である。

規模と形状 調査範囲が狭く、規模・形状ともに不明である。

埋没土 不明。

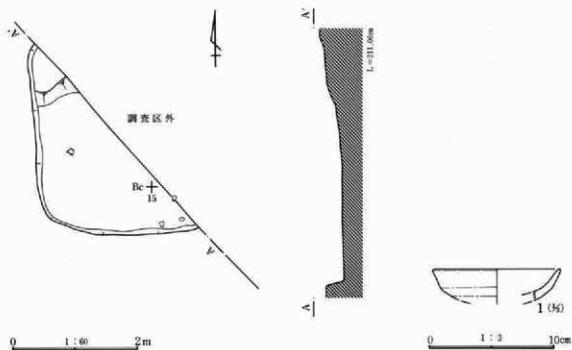
床面 確認面からの壁高は最大で28cmを測る。北西隅に15cm程の高まりが検出されている。

貯蔵穴 不明。 **周溝** 不明。 **柱穴** 不明。

出土遺物 遺物は極めて少なく、図化可能な遺物は須恵器小型環1点のみである。

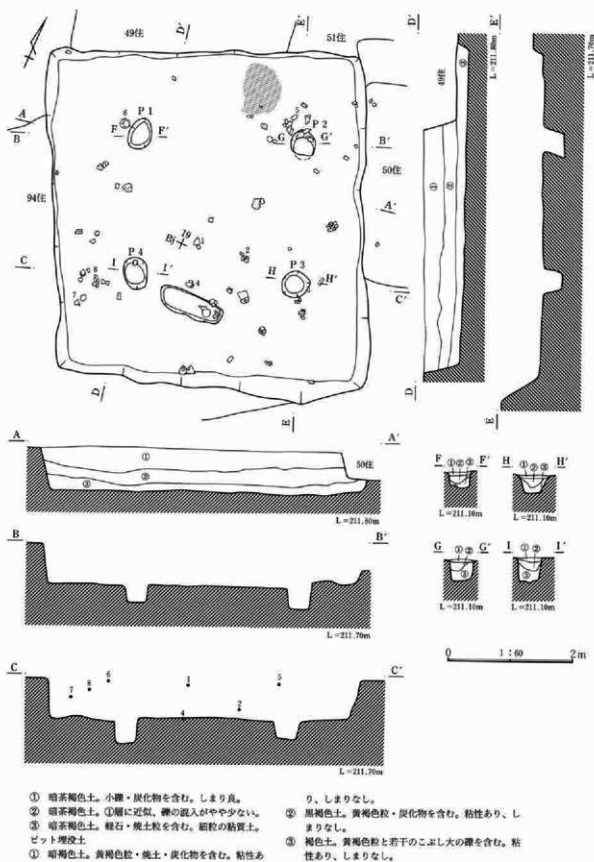
竈 調査区外にあるものと思われる検出されなかった。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と考えられる。



第133図 73号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物



第134図 74号住居跡

B-74号住居跡 (第134・135図、P.L.27・82)

位置 Bi・Bj-18・19グリッド 床面積 26.43㎡ 主軸方位 N-25°-W

重複 49号住・50号住に覆土の一部を切られ、51号住・94号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 一辺5.10mを測る正方形を呈する。

埋没土 礫・炭化物を含む暗茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で66cmを測る。地山の粘質黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

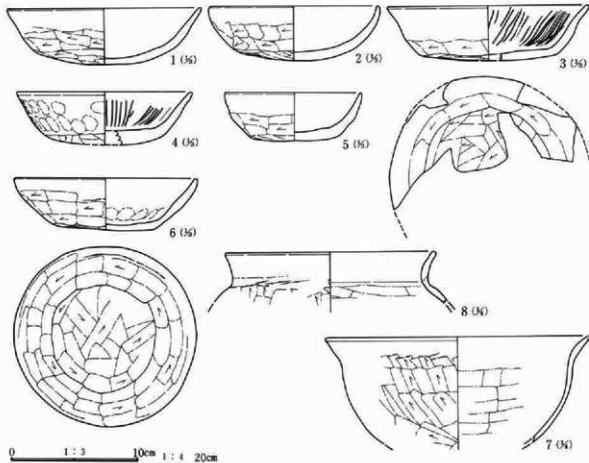
柱穴 P1～P4の4基が主柱穴になるものと思われる。

No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	50cm	46cm	46cm	50cm
下端長径	38cm	35cm	30cm	36cm
深 さ	26cm	31cm	27cm	38cm

出土遺物 遺物は散乱して出土しており、そのほとんどが覆土中から検出されている。図化可能な遺物は土師器環6点(1～6)・鉢1点(7)・壺1点(8)の8点である。

窠 焼土の痕跡が北壁の下や東よりで検出された。49号住を構築する際に破壊されたものと思われ、詳細については不明である。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第135図 74号住居跡出土遺物実測図

B-76号住居跡 (第136・137図、P L 82)

位置 Bh・Bi-20グリッド 床面積 (19.73m²) 主軸方位 N-19°-W

重複 38号住に南西隅・53号住に北東部を切られている。

規模と形状 38号住・53号住との重複により平面プランはやや不明瞭であるが、残存部の形状から一辺4.50mのほぼ正方形を呈するものと推定される。

埋没土 小礫を含む暗茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で44cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

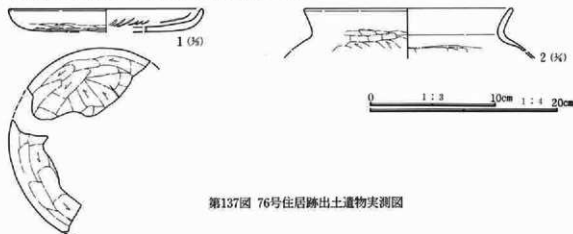
柱穴 4基の支柱穴が検出されている。

No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	42cm	42cm	42cm	40cm
下端長径	30cm	26cm	25cm	24cm
深さ	21cm	24cm	18cm	14cm

出土遺物 遺物は極めて少なく、図化可能な遺物は覆土中より検出された土師器皿1点(1)・甕1点(2)の2点のみであった。

竈 53号住に破壊されたものと思われ、痕跡を含めて検出することができなかった。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第137図 76号住居跡出土遺物実測図

B-78号住居跡 (第138~140図、P L 27・28・82・83)

位置 Bl・Bm-17・18グリッド 床面積 19.59m² 主軸方位 N-34°-W

重複 90号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西4.90m・南北4.10mを測る長方形を呈する。

埋没土 不明。

床面 掘り込みは浅く、確認面からの壁高は僅かに4cmから14cmに過ぎない。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面は概ね平坦である。竈前から住居の中央にかけて炭化材が散在しており、焼失家屋の可能性が考えられる。北東部には、後世の攪乱が認められる。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 3基の支柱穴が検出されている。4本柱構造と思われるが北東部の1基は攪乱によって破壊されている。

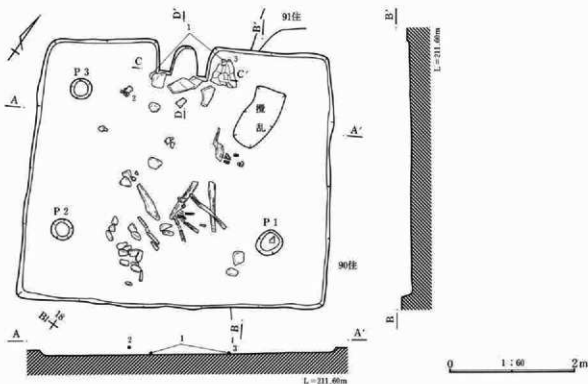
第3章 検出された遺構と遺物

No	P 1	P 2	P 3
上端長径	42cm	35cm	34cm
下端長径	30cm	24cm	24cm
深 さ	—	—	—

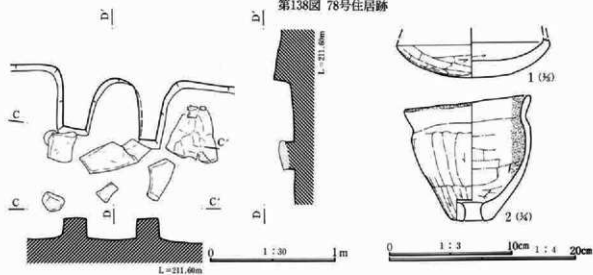
出土遺物 遺物は量的には少なく、散乱して検出された。円化可能な遺物は、土師器坏1点(1)・甕2点(2・3)、砂岩の砥石1点(4)・変質安山岩の石皿1点(5)の5点である。

竈 北壁の中央付近で検出された。竈前には崩落した砂岩の天井石や竈に使用されたとと思われる石材が散乱して検出されている。焚口幅42cm・奥行48cmを測る。竈右脇の床面付近から甕1点(3)が検出された。

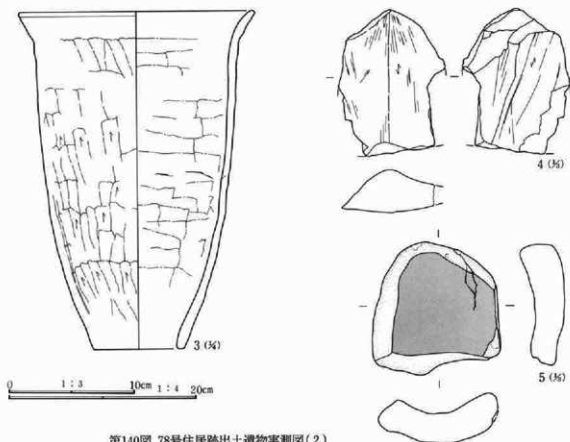
調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。



第138図 78号住居跡



第139図 78号住居跡竈、出土遺物実測図(1)



第140図 78号住居跡出土遺物実測図(2)

B-80号住居跡 (第141~143図、P L28・29・83)

位置 Bg・Bh-25・26グリッド 床面積 (23.18m²) 主軸方位 N-13°W

重複 72号住に上部を切られ、178号住の南西隅を切って構築している。

規模と形状 東西(5.40m)・南北3.70mを測る長方形を呈する。東壁は、72号住との重複及び攪乱のため、立ち上がりが不明瞭である。

埋没土 小礫・黄褐色土を含む黒褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で48cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 竈の右脇、住居の北東隅で検出された。規模は長軸83cm・短軸62cm・深さ50cmを測り、楕円形を呈する。上部には、完形の土師器小型甕及び大型の鉢が遺存しており、周辺でも多くの土器が検出された。貯蔵穴の東側では完形の甕(12)が完形の埴(5)の上に乗せられた状態で検出されている。

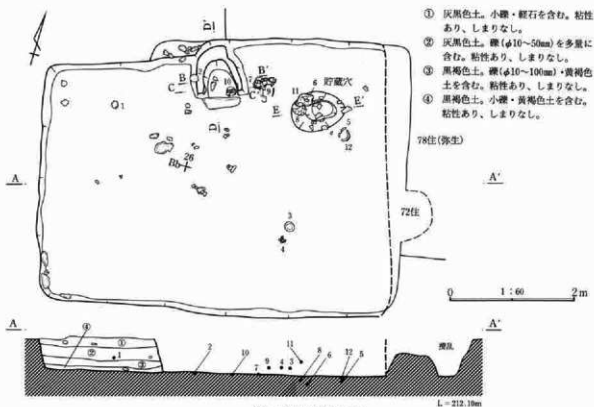
周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 比較的多くの遺物が出土しており、残存率も良いものが多い。竈周辺及び貯蔵穴を中心に分布する傾向が窺え、床面近くからの出土が多い。図化可能な遺物は、土師器埴4点(1~4、内2点は転用品か)・埴1点(5)・鉢1点(6)・小型甕2点(7・8)・長胴甕3点(9~11)・甕1点(12)の12点である。

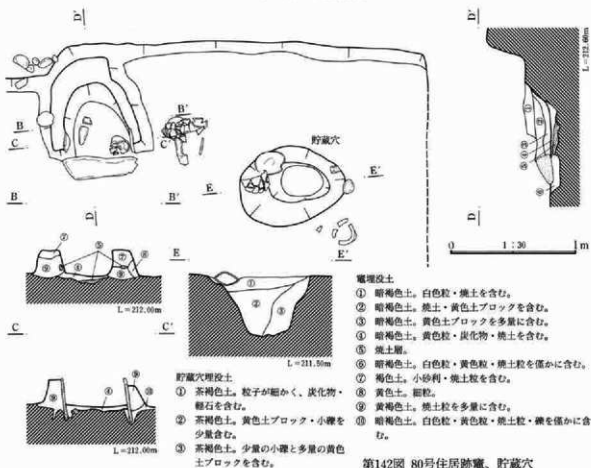
竈 北壁の中央付近で検出された。幅50cm・奥行90cmを測る。両袖石及び崩落した天井石が残存する。竈内より長胴甕1点(11)、竈右脇より長胴甕1点(9)・小型甕1点(7)、左袖上部より転用品と思われる埴1点(2)が検出されている。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

第3章 検出された遺構と遺物

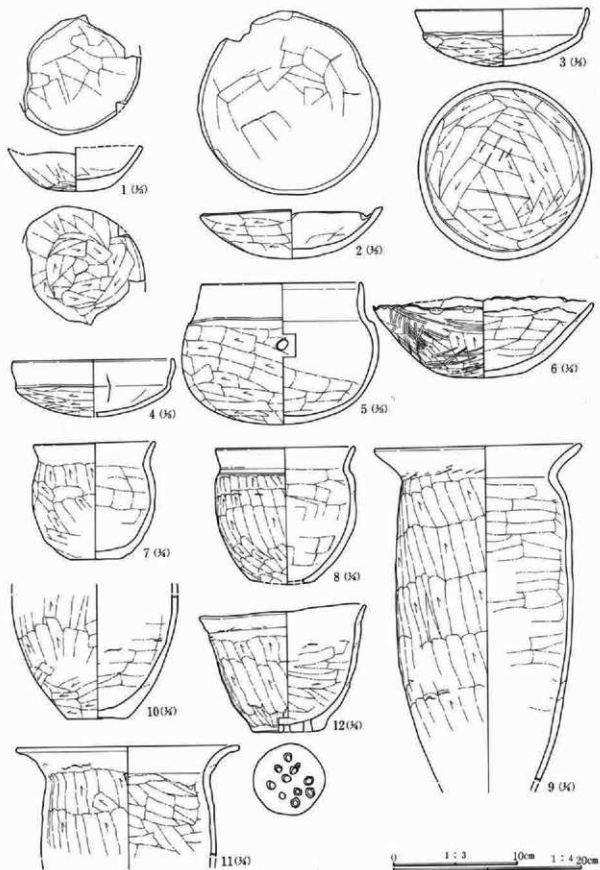


第141図 80号住居跡



第142図 80号住居跡竈、貯蔵穴

第2節 住居跡と出土遺物



第143図 80号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-81号住居跡 (第144~146図、P.L.29・84)

位置 Bm・Bn-18・19グリッド 床面積 65.01㎡ 主軸方位 N-9°-W

重複 87号住の覆土を切って構築している。北東隅の一部は調査区外となっている。

規模と形状 一辺7.95mを測る正方形を呈する。大型の住居跡である。

埋没土 埋没土中にこぶし大~人頭大の円礫を含む。

床面 床面は内側の深い掘り込み部と外側の浅い掘り込み部があり、10cm~20cm程の段差が認められる。当初は内側の深い掘り込み部分を使用しており、その後外側部分を拡張したものと推定される。住居の北西部で炭化材が検出されていること、埋没土中に炭化物・焼土の混入が認められること等を考慮すると焼失家屋の可能性が考えられる。

貯蔵穴 竈右脇で検出された。長軸70cm・短軸56cm・深さ31cmを測り、楕円形を呈する。

周溝 なし。

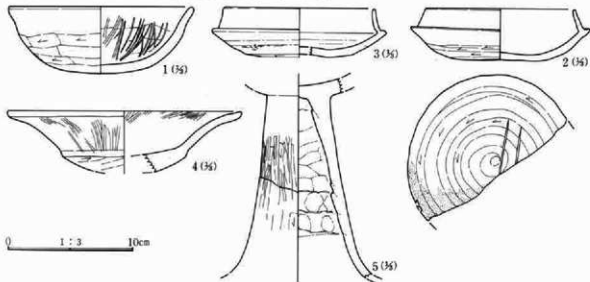
柱穴 7基のピットが検出されている。P1~P6の6基が主柱穴に相当するものと思われる。P5・P6は、拡張後のものか。

No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7
上端長径	44cm	48cm	46cm	38cm	44cm	36cm	62cm
下端長径	36cm	17cm	32cm	28cm	36cm	26cm	42cm
深さ	18cm	18cm	24cm	24cm	14cm	18cm	—

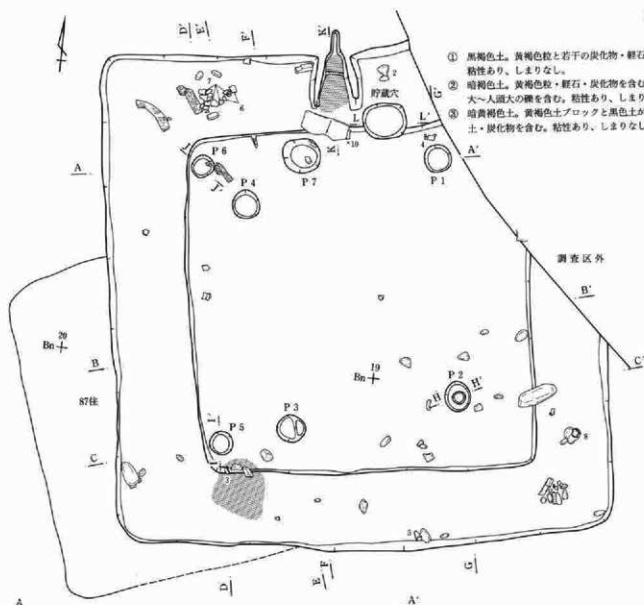
出土遺物 遺物は散乱して出土している。図化可能な遺物は土師器坏1点(1)・高坏2点(4・5)・甕2点(6・7)・甕1点(8)、須恵器坏2点(2・3)、滑石製白玉1点(10)、敲石1点(9)の10点であった。南東隅には黒編石状の石がまとまって検出されている。

竈 北壁の中央付近で検出された。残存状況は比較的良好で、燃焼部は熱を受け全体が赤化していた。両袖も明瞭に残り、砂岩の袖石が遺存していた。天井石も板状の砂岩で竈前に崩落していた。規模は焚口幅45cm・奥行65cmを測る。煙道部の残存状態は悪く、一部が残るのみであった。南西隅には長軸90cm・短軸80cm程の焼土の高まりが検出されているが竈に伴うものではないものと思われる。

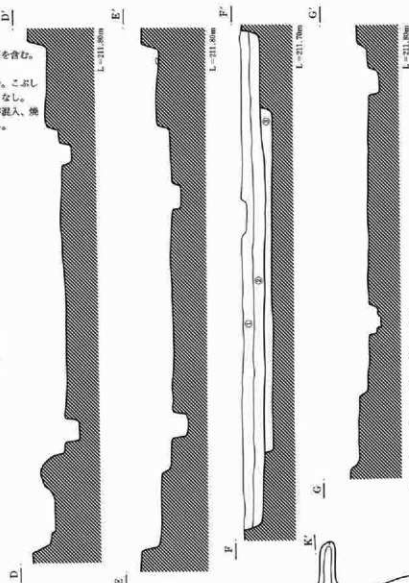
調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



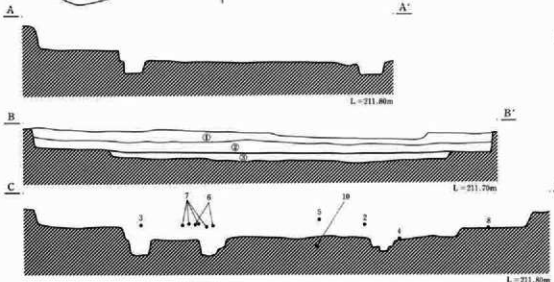
第144図 81号住居跡出土遺物実測図(1)



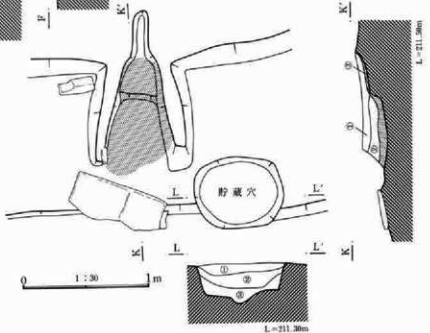
- ① 黒褐色土。黄褐色粒と若干の炭化物・軽石を含む。粘性あり。しまりなし。
- ② 暗褐色土。黄褐色粒・軽石・炭化物を含む。こぶし大～人頭大の礫を含む。粘性あり。しまりなし。
- ③ 暗黄褐色土。黄褐色土ブロックと黒土が混入。粘土・炭化物を含む。粘性あり。しまりなし。



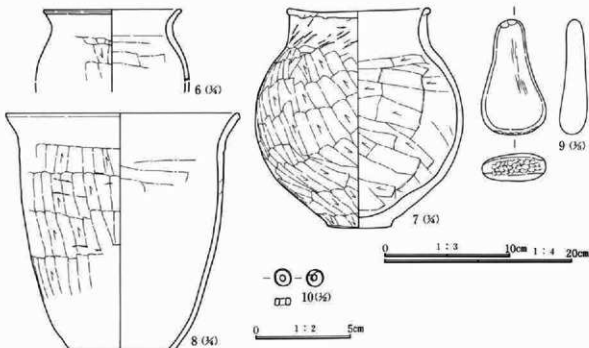
- 電埋設土
- ① 暗褐色土。黄褐色粒と若干の焼土を含む。粘性あり。しまりなし。
 - ② 褐色土。①層より焼土を多く含む。粘性あり。しまりなし。
 - ③ 赤褐色土。多量の焼土を含む。粘性あり。しまりなし。
- 貯蔵穴埋設土
- ① 黒褐色土。黄褐色粒・焼土・炭化物を含む。粘性あり。しまりなし。
 - ② 暗褐色土。黄褐色土ブロック・炭化物・焼土を含む。粘性あり。しまりなし。
 - ③ 暗黄褐色土。黄褐色土ブロックと黒土が混入。粘性あり。しまりなし。



- ピット埋設土
- ① 黒褐色土。黄褐色粒・炭化物を含む。粘性あり。しまりなし。
 - ② 黒褐色土。黄褐色粒・炭化物・焼土を含む。粘性あり。しまりなし。
 - ③ 暗褐色土。黄褐色粒と若干の焼土・炭化物を含む。粘性あり。しまりなし。
 - ④ 暗黄褐色土。小礫と若干の焼土・炭化物を含む。



第145図 81号住居跡、電



第146図 81号住居跡出土遺物実測図(2)

B-82号住居跡 (第147~149図、P.L.30・31・84・85)

位置 Bo-20グリッド 床面積 14.33m² 主軸方位 N-17°-W

重複 なし。

規模と形状 東西4.14m・南北3.60mを測る長方形を呈する。

埋没土 黄褐色土ブロック・若干の焼土・炭化物を含む黒褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で36cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 竈の右脇、住居の北東隅で検出された。規模は径42cm・深さ20cmを測り、円形を呈する。

周溝 なし。

柱穴 P1~P4の4基が主柱穴になるものと思われる。

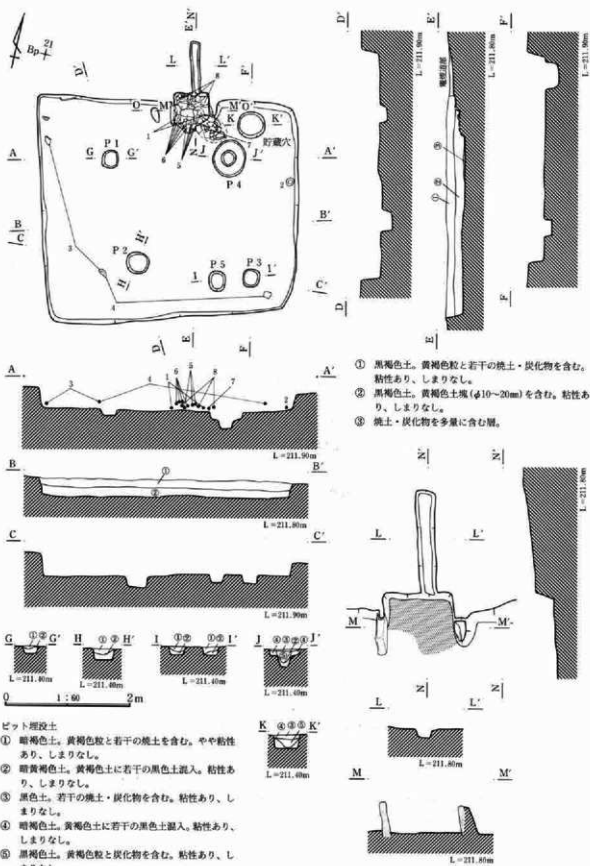
No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
上端長径	28cm	36cm	28cm	58cm	33cm
下端長径	24cm	30cm	23cm	20cm	25cm
深さ	12cm	19cm	12cm	30cm	13cm

出土遺物 竈内及び竈前部から4点の甕が検出されている。その他の遺物は散乱して検出された。図化可能な遺物は土師器坏4点(1~4)・壺4点(5~8)であった。

竈 北壁の中央やや東よりで検出された。焚口幅60cm・奥行50cm・煙道幅16cm・煙道長82cmを測ることができる。燃燒部は方形に掘り込まれ、両袖には袖石が検出された。燃燒部の底面及び奥壁は熱を受け赤化していた。竈内には4点の甕が潰れた状態で遺存していた。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。

第3章 検出された遺構と遺物

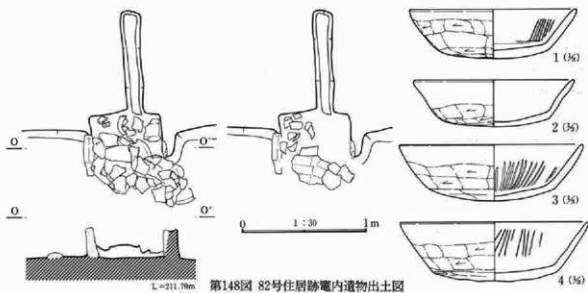


- ① 黒褐色土。黄褐色粒と若干の焼土・炭化物を含む。粘性あり、しまりなし。
- ② 黒褐色土。黄褐色土塊(φ10~20mm)を含む。粘性あり、しまりなし。
- ③ 焼土・炭化物を多量に含む層。

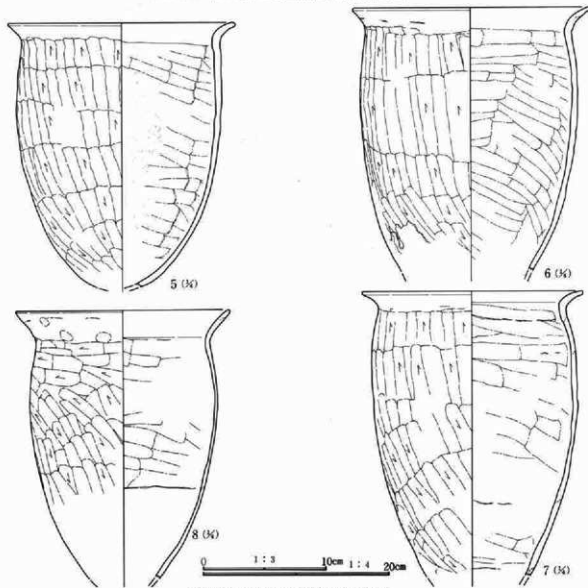
- ピット埋設土
- ① 暗褐色土。黄褐色粒と若干の焼土を含む。やや粘性あり、しまりなし。
 - ② 暗黄褐色土。黄褐色土に若干の黒色土混入。粘性あり、しまりなし。
 - ③ 黒色土。若干の焼土・炭化物を含む。粘性あり、しまりなし。
 - ④ 暗褐色土。黄褐色土に若干の黒色土混入。粘性あり、しまりなし。
 - ⑤ 黒褐色土。黄褐色粒と炭化物を含む。粘性あり、しまりなし。

第147図 82号住居跡、竈

第2節 住居跡と出土遺物



第148図 82号住居跡竈内遺物出土図



第149図 82号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-88号住居跡 (第150・151図、P L 31・85)

位置 Bk-15グリッド 床面積 不明。 主軸方位 不明。

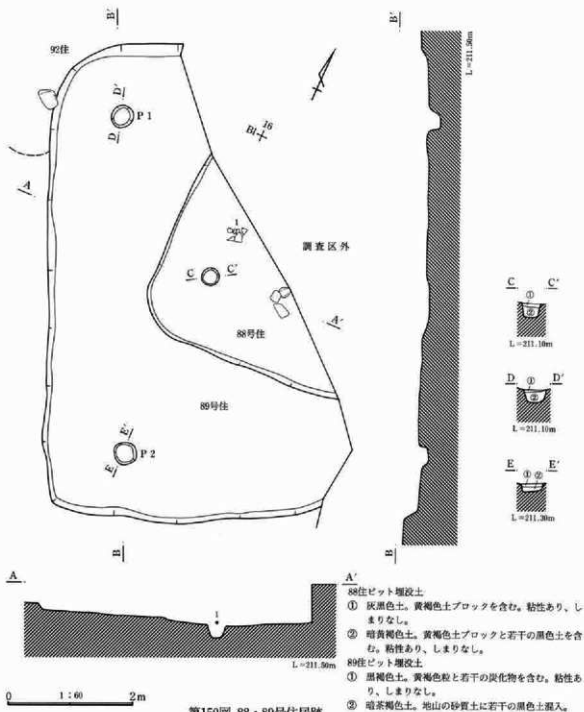
重複 89号住と重複。89号住よりも古い。住居の大半は調査区外である。

規模と形状 検出部が少なく、規模・形状ともに不明である。

埋没土 不明。

床面 確認面からの壁高は最大で18cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 不明。 周溝 不明。



第150図 88・89号住居跡

柱穴 ビットは南西隅で検出された1基のみである。

出土遺物 遺物は極めて少なく、図化可能な遺物は土師器甕1点のみである。

竈 調査区外にあるものと思われ、検出されなかった。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

B-89号住居跡 (第150・151図、P L31・86)

位置 Bj・Bk-15・16グリッド 床面積 不明。 主軸方位 不明。

重複 88号住・92号住と重複。88号住よりも新しく、92号住よりも古い。住居の東半は調査区外である。

規模と形状 住居の大半は調査区外であり、規模・形状ともに詳細は不明である。

埋没土 不明。

床面 確認面からの壁高は最大で22cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 不明。 周溝 不明。

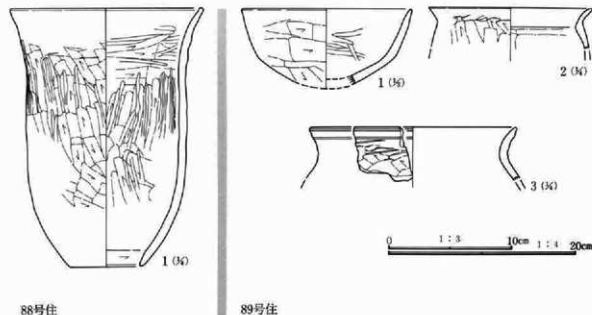
柱穴 2基の主柱穴が検出されている。4本柱構造になるものと推定されるが他の2基は調査区外にあるものと思われ不明である。

Na	P 1	P 2
上端長径	36cm	38cm
下端長径	27cm	30cm
深さ	18cm	15cm

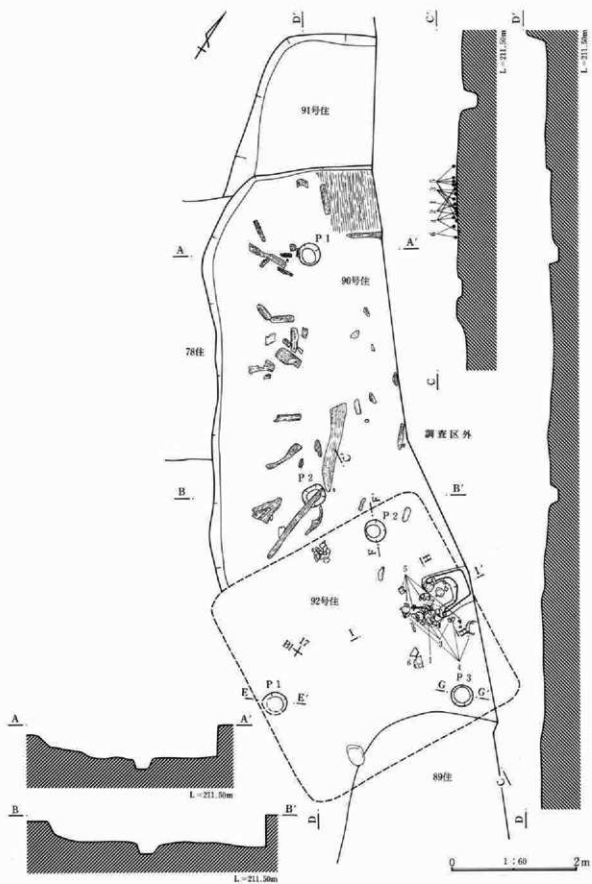
出土遺物 遺物は極めて少なく、いずれも覆土層からの出土である。図化可能な遺物は土師器環1点(1)・壺2点(2・3)の3点である。

竈 調査区外にあると思われ、検出されなかった。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第151図 88・89号住居跡出土遺物実測図



第152図 90・91・92号住居跡

B-90号住居跡 (第152図, P L 31・32)

位置 B1・Bm-16・17グリッド 床面積 不明。 主軸方位 不明。

重複 西壁上部を78号住に、南壁を92号住に切られており、91号住の覆土を切って構築している。住居の東半は調査区外である。

規模と形状 他住居との重複のため、明瞭なプランを確認することができなかった。住居の東半は調査区外であり、規模・形状ともに不明である。

埋没土 不明。

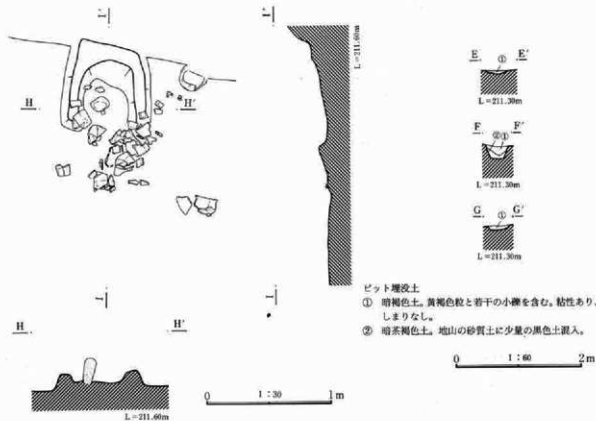
床面 確認面からの壁高は最大で23cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面のほぼ全面にわたって炭化材が散乱して検出されている。北西隅には炭化した葉状の敷物と思われるものがまともに検出された。これらの状況から本住居は焼失家屋の可能性が大きい。

貯蔵穴 不明。 周溝 不明。

柱穴 2基のピットが検出されている。4本柱構造になるものと思われるが他の2基は調査区外で未検出である。

No	P 1	P 2
上端長径	35cm	37cm
下端長径	26cm	24cm
深さ	14cm	16cm

出土遺物 遺物は極めて少なく、覆土中から検出された小破片のみであった。図化可能な遺物は1点も検出



第153図 92号住居跡電、ピット

第3章 検出された遺構と遺物

されなかった。

電 調査区外にあるものと思われる検出されなかった。

調査所見 住居西半上部に78号住（古墳時代後期）が構築されていること、北側に91号住（古墳時代後期）を切っていること等を考慮すると古墳時代後期の住居跡と推定される。

B-91号住居跡（第152～154図、P L 31・86）

位置 Bm-17グリッド 床面積 不明。 主軸方位 不明。

重複 90号住に切られる。住居の東半は調査区外となっている。

規模と形状 検出部が少なく、規模・形状とも詳細については不明である。

埋没土 不明。

床面 確認面からの壁高は最大で33cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 不明。 周溝 不明。 柱穴 不明。

出土遺物 遺物は極めて少なく、いずれも覆土中からの出土である。図化可能な遺物は土師器壺1点（3）、須恵器坏2点（1・2）の3点であった。

電 調査区外にあるものと思われる検出されなかった。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

B-92号住居跡（第152～154図、P L 32・86）

位置 Bk・Bl-16グリッド 床面積 不明。 主軸方位 不明。

重複 南壁部で89号住と重複、新旧は不明。北半部は90号住の覆土を切って構築している。東壁は調査区外となっている。

規模と形状 重複部が多くプランの確認は困難を極め、明瞭な立ち上がりを検出することができなかった。

また、一部は調査区外になるため、形状・規模ともに詳細は不明である。

埋没土 不明。

床面 地山の黄褐色土を掘り込んで床面としているが、明瞭な立ち上がりを検出することができず壁高は不明である。

貯蔵穴 不明。 周溝 不明。

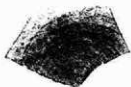
柱穴 3基のピットが検出されている。

Na	P 1	P 2	P 3
上端長径	38cm	35cm	34cm
下端長径	27cm	22cm	28cm
深 さ	4cm	19cm	7cm

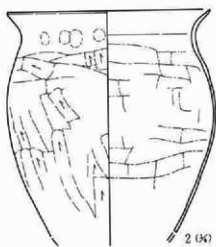
出土遺物 電周辺を中心に分布する。図化可能な遺物は土師器坏1点（1）・壺5点（2～6）の6点である。

電 東壁が調査区外となるために詳細は不明であるが、東壁のほぼ中央付近に位置するものと思われる。焚口幅47cm・奥行58cmを測る。残存状態は比較的良好で電内には袖石と石製支脚が検出されている。使用面はよく焼けていた。電前及び右脇からは土師器壺5点・坏1点が床面直上より出土している。

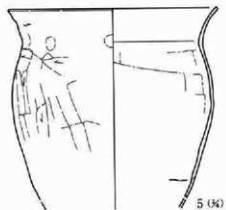
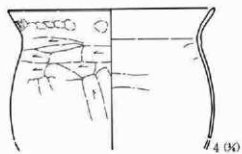
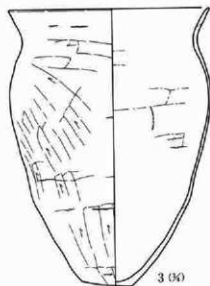
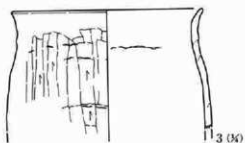
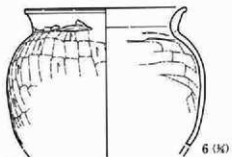
調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



91号住



92号住



0 1:3 10cm 1:4 20cm

第154図 91・92号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-93号住居跡 (第155・156図、P L 32・86)

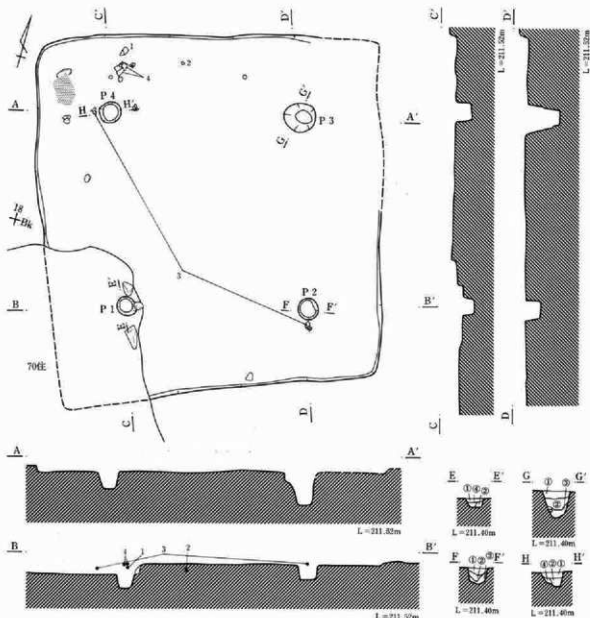
位置 Bj・Bk-16・17グリッド 床面積 30.06㎡ 主軸方位 N-16°-W

重複 70号住に南西の隅を切られている。

規模と形状 東西5.40m・南北5.70mを測る正方形を呈する。

埋没土 不明。

床面 掘り込みは大変浅く、確認面からの壁高は僅かに1cm~15cmである。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。



ピット埋没土

① 黒褐色土。黄褐色粒・焼土・炭化物を含む。粘性あり、しまりなし。

② 黒褐色土。黄褐色粒・焼土・炭化物を含む。①層より黄褐色土の割合が多い。

③ 暗褐色土。黄褐色粒と若干の焼土を含む。粘性あり、しまりなし。

④ 暗黄褐色土。黄褐色粒と若干の小礫を含む。やや粘性あり、しまりなし。

第155図 93号住居跡

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

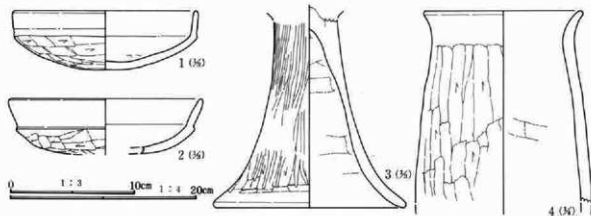
柱穴 住居プランのほぼ対角線上に4基の主柱穴が検出された。

No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	32cm	32cm	50cm	34cm
下端長径	23cm	27cm	26cm	26cm
深 さ	36cm	24cm	50cm	28cm

出土遺物 遺物は少なく、北西隅を中心に分布する。図化可能な遺物は土師器杯2点(1・2)・高坏脚部1点(3)・長胴甕1点(4)の4点である。

竈 焼土の痕跡から北壁の中央付近にあったものと推定される。床面に僅かな焼土が残るのみで、詳細については不明である。北西隅にも焼土が湿じる高まりが検出されているが、竈に伴うものではない。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第156図 93号住居跡出土遺物実測図

B-94号住居跡 (第157図、P L.32)

位置 Bi・Bj-18・19グリッド 床面積 (28.55㎡) 主軸方位 不明。

重複 74号住に住居の東半を切られている。

規模と形状 74号住に切られ平面形は不明瞭であるが、残存部の形状から東西5.40m・南北5.10mを測る正方形を呈するものと推定される。

埋没土 不明。

床面 床面は比較的平坦である。掘り込みが浅く、確認面からの壁高は最大で15cm程である。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 不明。 周溝 不明。

柱穴 2基のピットが主柱穴になるものと思われる。主柱は4本柱構造になるものと思われるが、他の2基は74号住に切られて不明である。

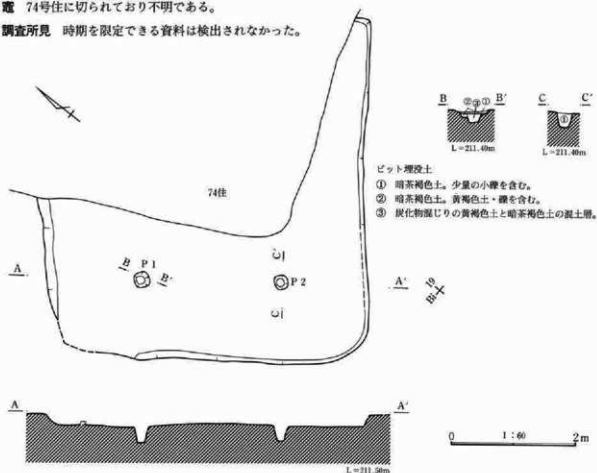
No	P 1	P 2
上端長径	24cm	26cm
下端長径	14cm	14cm
深 さ	24cm	24cm

出土遺物 小破片を含めて遺物は検出することができなかった。

第3章 検出された遺構と遺物

竈 74号住に切られており不明である。

調査所見 時期を限定できる資料は検出されなかった。



第157図 94号住居跡

B-95号住居跡 (第158・159図、P L32・86)

位置 Be・Bf-24グリッド 床面積 (14.57㎡) 主軸方位 N-26°-W

重複 47号住・66号住に切られ、96号住の一部を切って構築している。

規模と形状 東西4.35m・南北3.21mを測る長方形を呈する。

埋没土 不明。

床面 確認面からの壁高は最大で44cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

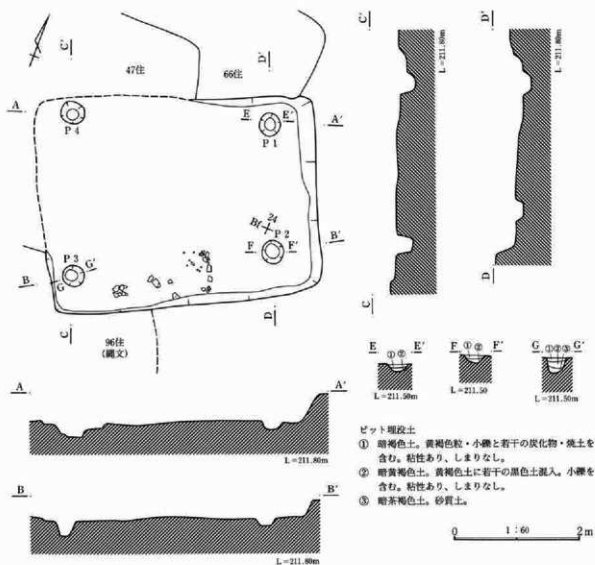
柱穴 P1～P4の4基が主柱穴になるものと思われる。

No.	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	36cm	36cm	34cm	38cm
下端長径	20cm	23cm	19cm	19cm
深 さ	12cm	12cm	23cm	25cm

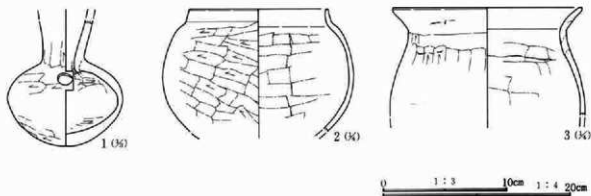
出土遺物 同化可能な遺物は土師器甕1点(1)・小型甕1点(2)・壺1点(3)の3点である。

竈 47号住を構築する際に破壊されたものと思われ、検出されなかった。

調査所見 出土遺物より古墳時代後期の住居跡と考えられる。



第158図 95号住居跡



第159図 95号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-100号住居跡 (第160・161図, P L 33・87)

位置 Bs-24・25グリッド 床面積 不明。 主軸方位 不明。

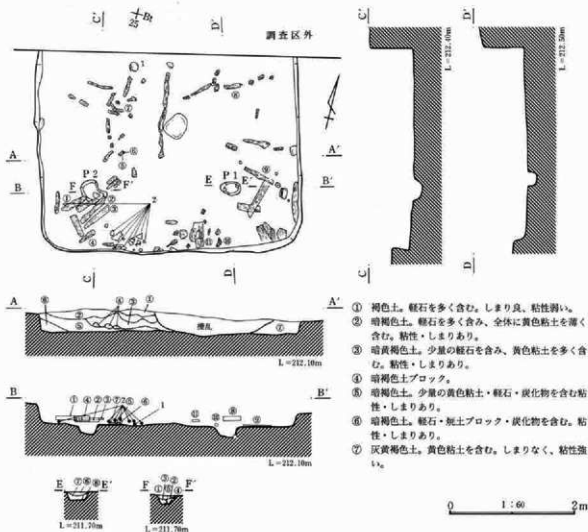
重複 なし。住居の北半は調査区外である。

規模と形状 規模は東西4.00mを測り、南北は不明である。北半部が調査区外で平面形は不明瞭であるが、検出部の形状から長方形もしくは方形を呈するものと推定される。

埋没土 下層は炭化物・焼土を含む。

床面 確認面からの壁高は最大で30cmを測る。地山の黄色粘質土を掘り込んで床面としている。床面の広い範囲にわたって多量の炭化材が検出されており、焼失家屋の可能性が考えられる。

貯蔵穴 不明。 周溝 不明。



ビット埋没土

- ① 黒褐色土。炭化物・焼土粒を含む。しまり良く、弱い粘性。
- ② 黒褐色土。地山土を含む。しまり良く、弱い粘性。
- ③ 暗褐色土。白色粒・黄色粒・焼土粒を含む。しまり良く、弱い粘性。
- ④ 黒褐色土。地山土を多く含む。しまり良く、弱い粘性。

- ⑤ 黒褐色土。白色粒・黄色粒を僅かに含む。しまり良く、弱い粘性。
- ⑥ 黒褐色土。白色粒・黄色粒を多く含む。しまり良く、粘性なし。
- ⑦ 暗褐色土。地山土を多く含む。しまりあり、弱い粘性。
- ⑧ 暗黄褐色土。地山土を主体とする。しまりあり、弱い粘性。

第160図 100号住居跡

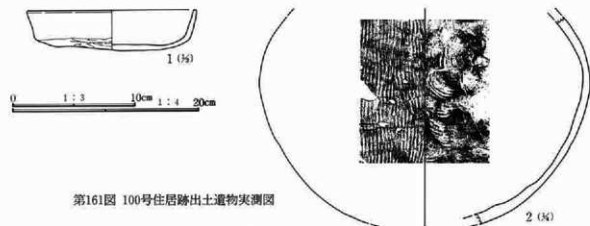
柱穴 P1・P2の2基が支柱穴になるものと思われる。他は調査区外にあるものと思われ、検出されなかった。

No	P1	P2
上端長径	40cm	32cm
下端長径	30cm	25cm
深さ	15cm	15cm

出土遺物 遺物は極めて少なく、図化可能な遺物は土師器環1点、須恵器甕1点の2点にすぎない。

竈 不明。

調査所見 床面直上より炭化材が多量に出土しており、しかも大変良好な残存状態であったのでそのうち11点について炭化材の同定をおこなった。結果はニレ科の一種2点(②・③)、クリ2点(④・⑤)、コナラ属コナラ節1点(⑥)、カバノキ科の一種1点(⑦)、ケヤキ類似種1点(⑧)、クマシダ属の一種1点(⑨)、広葉樹(環孔材)1点(⑩)、イネ科の一種1点(⑪)である。出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第161図 100号住居跡出土遺物実測図

B-102号住居跡 (第162～165図、P L33・34・87)

位置 Bp-26・27グリッド 床面積 11.49㎡ 主軸方位 N-85°-E

重複 111号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 一辺3.45mを測る正方形を呈する。

埋没土 上層にはB軽石の混入が多い。

床面 確認面からの壁高は最大で24cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 竈の右脇、住居の東南隅で検出された。規模は長軸80cm・短軸58cm・深さ26cmを測り、楕円形を呈する。貯蔵穴内より須恵器環1点(3)が検出されている。

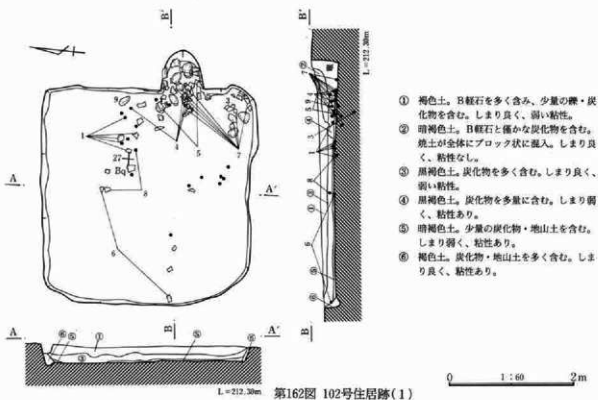
周溝 東壁を除いてほぼ全周する。幅12cm～22cm・深さ4cm～7cmを測ることができる。柱穴 なし。

出土遺物 遺物は竈の周辺及び貯蔵穴周辺に集中する傾向が窺える。図化可能な遺物は須恵器環2点(2・3)・高台付壺1点(1)・甕1点(7)、土師器甕3点(4～6)、灰釉陶器長頸壺1点(8)、磨石1点(9)の9点である。

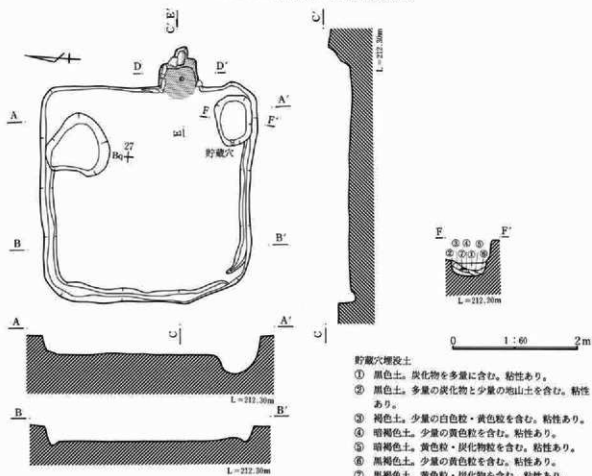
竈 東壁の南よりで検出された。焚口幅60cm・奥行52cmを測る。袖部及び側壁部には板状の砂岩が使用されており、火熱を受け赤化している。竈の中央には支脚抜き取り痕と思われる小ピットが検出されている。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物

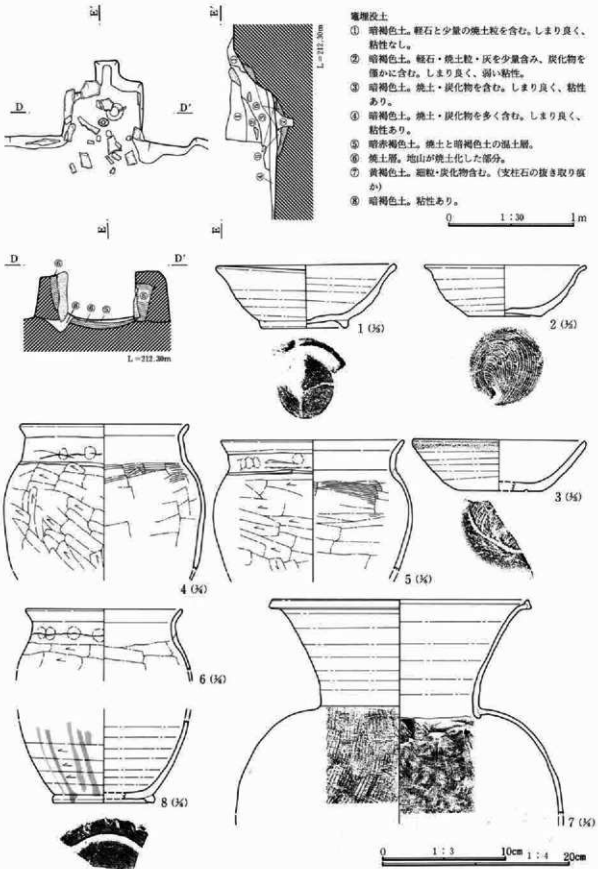


第162図 102号住居跡(1)

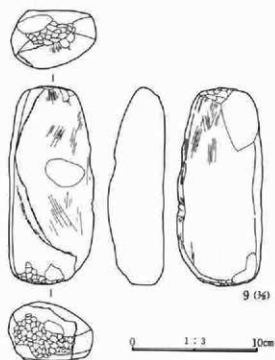


第163図 102号住居跡(2)

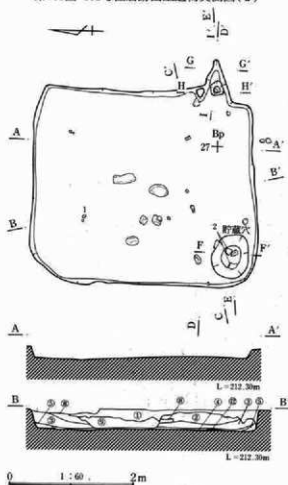
第2節 住居跡と出土遺物



第164図 102号住居跡竈、出土遺物実測図(1)



第165図 102号住居跡出土遺物実測図(2)



B-103号住居跡 (第166・167図、P.L34・87)

位置 Bp-26・27グリッド 床面積 11.01㎡

主軸方位 N-87°-E

重覆 111号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西3.09m・南北3.60mを測る長方形を呈する。

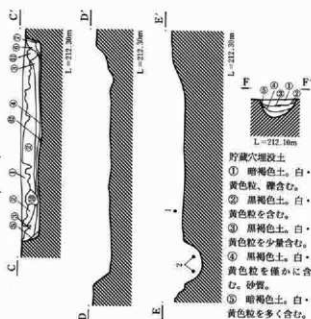
埋没土 黒褐色土を主体とする。

床面 床面はほぼ平坦である。地山の黄色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 住居の南西隅で検出された長軸68cm・短軸60cm・深さ30cmの楕円形を呈するピットが貯蔵穴に相当するものと思われる。

周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 遺物は極めて少なく、散乱して検出されている。図化可能な遺物は、貯蔵穴内より検出された羽



貯蔵穴埋没土
 ① 暗褐色土。白・黄色粒、礫含む。
 ② 黒褐色土。白・黄色粒を含む。
 ③ 黒褐色土。白・黄色粒を少量含む。
 ④ 黒褐色土。白・黄色粒を僅かに含む。砂質。
 ⑤ 暗褐色土。白・黄色粒を多く含む。

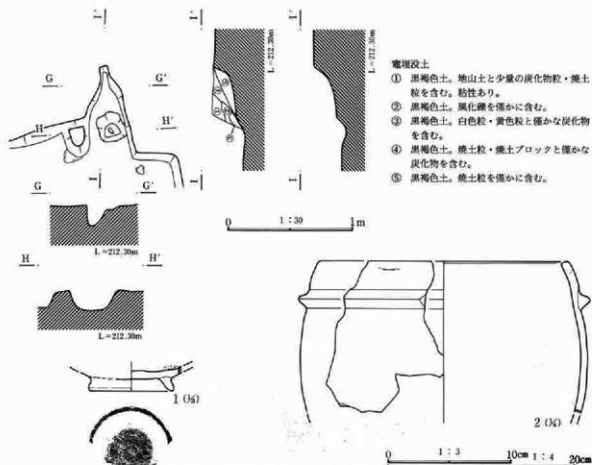
- ① 褐色土。B軽石を多量に含む。樹根、攪乱多い。
- ② 黒褐色土。B軽石を僅かな小礫を含む。
- ③ 黒褐色土。B軽石を少量含む。
- ④ 黒褐色土。地山土・B軽石を少量含む。
- ⑤ 褐色土。地山土を多く含む。少量の小礫を含む。
- ⑥ 褐色土。B軽石・地山土を多く含む。
- ⑦ 褐色土。地山土を多く含む。少量の小礫を含む。粘性あり。
- ⑧ 暗褐色土。地山土を含む。
- ⑨ 暗褐色土。多量のB軽石と少量の黄色粘土を含む。攪乱か?
- ⑩ 黒褐色土。B軽石を多量に含む。攪乱か?
- ⑪ 暗褐色土。多量のB軽石と少量の小礫を含む。
- ⑫ 褐色土。地山土を主体とする。

第166図 103号住居跡

釜1点と北西隅で検出された高台付塊1点の2点のみである。

竈 東壁の東南隅近くにあり、焚口幅41cm・奥行72cmを測る。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と考えられる。



第167図 103号住居跡竈、出土遺物実測図

B-109号住居跡 (第168・169図、P L34・87)

位置 Bm-29グリッド **床面積** 16.14㎡ **主軸方位** N-76°-E

重複 なし。

規模と形状 東西3.66m・南北4.44mを測る長方形を呈する。

埋没土 黒褐色土を主体とする。下層には少量の焼土・炭化物が混入する。

床面 確認面からの壁高は最大で30cmを測る。地山の暗黄褐色土を掘り込んで床面としている。

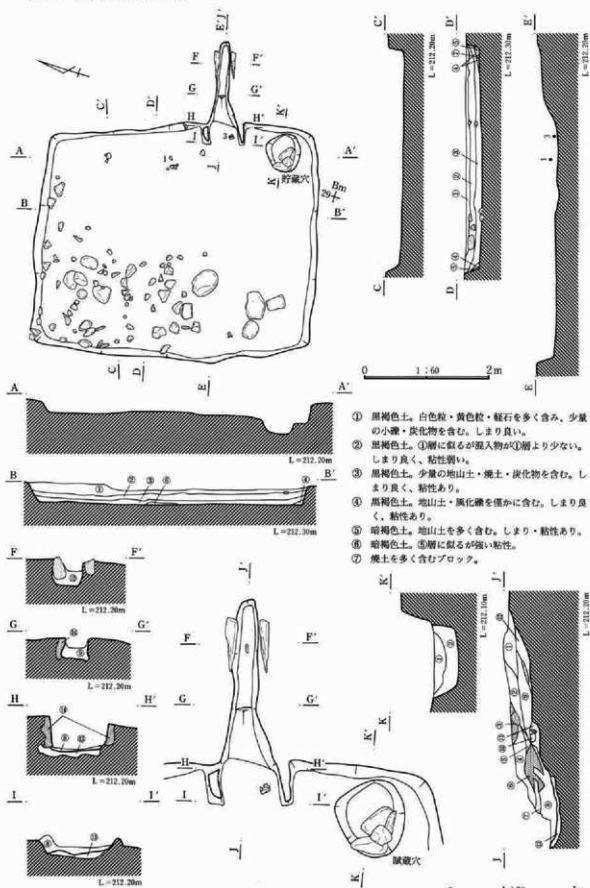
貯蔵穴 竈の右脇、住居の東南隅で検出された。規模は長軸60cm・短軸58cm・深さ24cmを測りほぼ円形を呈する。

周溝 なし。 **柱穴** なし。

出土遺物 遺物は少なく、散乱して検出されている。図化可能な遺物は、土師器環1点(1)・壺1点(3)、須恵器環1点(2)・長頸壺1点(4)の4点である。

竈 東壁の中央やや南よりで検出された。焚口幅46cm・奥行76cm・煙道幅20cm・煙道長84cmを測る。両袖は黄褐色の粘土を用いて構築している。煙道の先端近くには板状の砂岩が両側壁に埋め込まれていた。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



- ① 黒褐色土。白色粒・黄色粒・軽石を多く含み、少量の小礫・炭化物を含む。しまり良い。
- ② 黒褐色土。①層に似るが混入物が①層より少ない。しまり良く、粘性弱い。
- ③ 黒褐色土。少量の地山土・燧土・炭化物を含む。しまり良く、粘性あり。
- ④ 黒褐色土。地山土・風化礫を僅かに含む。しまり良く、粘性あり。
- ⑤ 暗褐色土。地山土を多く含む。しまり・粘性あり。
- ⑥ 暗褐色土。⑤層に似るが強い粘性。
- ⑦ 燧土を多く含むブロック。

第168図 109号住居跡、竈、貯蔵穴

埋没土

- ① 茶褐色土。小砂粒・軽石を含む。しまり貝。
- ② 茶褐色土。焼土・黄色粒を含む。
- ③ 赤褐色土。レンガ状に焼けた焼土を多量に含む層。
- ④ 茶褐色土。炭化物と少量の軽石を含む。
- ⑤ 茶褐色土。少量の焼土を含む。
- ⑥ 焼土層。
- ⑦ 黄色粘土層。
- ⑧ 暗赤褐色土。焼土と暗褐色土の混土层。

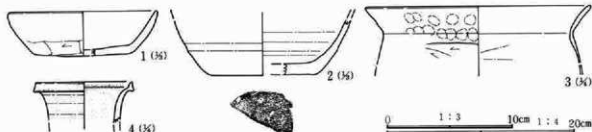
- ⑨ 暗褐色土。黄色粒・焼土粒・炭化物を含む。

- ⑩ 黄褐色土ブロック。
- ⑪ 暗褐色土。黄色粒・焼土粒を含む。
- ⑫ 褐色土。白色粒・焼土を含む。
- ⑬ 暗褐色土。黄色粒・焼土を含む。

- ⑭ 地山の焼土化。

貯蔵穴埋没土

- ① 暗褐色土。焼土・炭化物を多量に含む。粘性あり。
- ② 明褐色土。少量の礫と多量の砂粒を含む。



第169図 109号住居跡出土遺物実測図

B-110号住居跡 (第170~172図、P L.34・35・87)

位置 Bm-33・34グリッド 床面積 18.54㎡ 主軸方位 N-4°-W

重複 なし。

規模と形状 東西4.50m・南北4.05mを測る長方形を呈する。

埋没土 少量の白色粒を含む黒褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で42cmを測る。地山の小礫を含む黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。

周溝 南壁及び西壁の一部で検出された。幅10cm~15cm・深さ4cm~7cmを測る。

柱穴 住居プランのほぼ対角線上に4基 (P 1~P 4) の支柱穴が検出された。

No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7
上端長径	48cm	72cm	46cm	36cm	92cm	42cm	58cm
下端長径	32cm	60cm	37cm	24cm	73cm	38cm	20cm
深さ	14cm	16cm	16cm	16cm	20cm	11cm	30cm

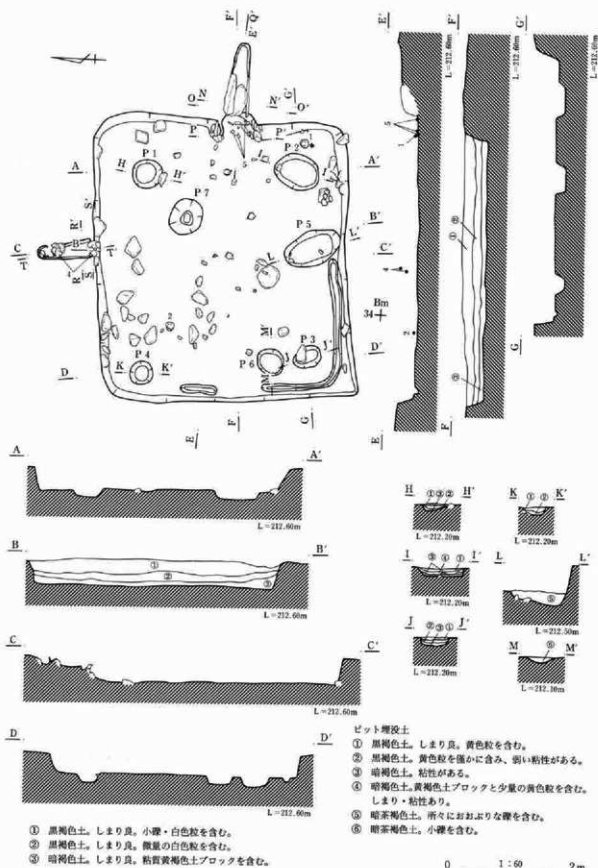
出土遺物 遺物量は比較的少なく、旧竈煙道部および新竈燃焼部から壺・台付壺・鉄製刀子が出土している。他は、散乱して出土している。固化可能な遺物は土師器坏1点 (1)・壺1点 (4)・台付壺1点 (5)、須臾器坏2点 (2・3)、鉄製刀子1点 (6) の6点である。

竈 住居の北壁と東壁に新旧関係をもつ2基の竈を検出した。

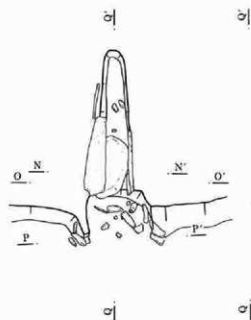
新竈 東壁の中央やや南よりで検出された。焚口幅60cm・奥行45cm・煙道幅23cm・煙道長110cmを測る。残存状況は比較的良好であった。両袖は住居内にあまり張り出さず、袖石は東壁に貼り付いた状態で検出された。煙道の側壁にも板状の砂岩が使用されていた。竈内より台付壺1点 (5)、刀子1点 (6) が検出された。

旧竈 北壁の中央付近にあり、煙道部のみが検出された。煙道幅26cm・煙道長95cmを測る。煙道内には土師器の壺1点 (4) が遺存していた。燃焼部は破壊されており検出されなかったが、径100cm程の範囲に焼土の広がりが認められた。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。

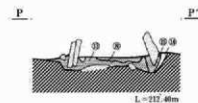


第170図 110号住居跡

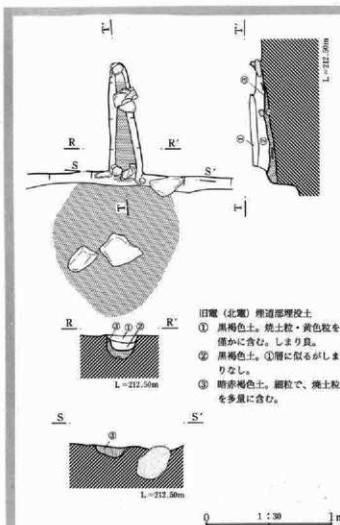


新竈（東竈）埋没土

- ① 暗茶褐色土。焼土粒・小砂利を含む。
- ② 黒褐色土。焼土粒・黄色粒を含む。
- ③ 黒褐色土。焼土粒と多量の黄色粒を含む。
- ④ 暗茶褐色土。小砂利を含む。
- ⑤ 暗茶褐色土。焼土粒・小砂利を含む。
- ⑥ 暗茶褐色土。細粒で、少量の焼土粒を含む。
- ⑦ 褐色土。細粒。黄色粒・焼土粒を含む。
- ⑧ 褐色土。焼土層。
- ⑨ 黒褐色土。焼土粒・小砂利を含む。
- ⑩ 暗褐色土。黄色粒・焼土粒を含む。
- ⑪ 暗赤褐色土。焼土粒を多量に含む。細粒で、粘性あり。
- ⑫ 褐色土。焼土粒を多量に含む。細粒で、粘性あり。
- ⑬ 赤褐色土。焼土粒を多量に含む。細粒で、強い粘性。
- ⑭ 暗茶褐色土。黄色粒・焼土粒を含む。しまり良。
- ⑮ 暗赤褐色土。焼土粒と僅かな黄色粒を含む。
- ⑯ 赤褐色土。地山の暗茶褐色土が熱を受けて焼土化。



0 1:30 m

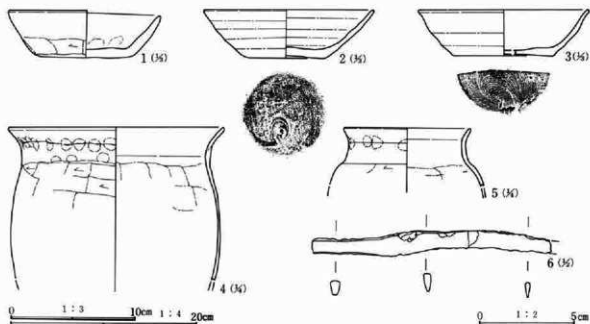


旧竈（北竈）埋没埋没土

- ① 黒褐色土。焼土粒・黄色粒を僅かに含む。しまり良。
- ② 黒褐色土。①層に似るがしまりなし。
- ③ 暗赤褐色土。細粒で、焼土粒を多量に含む。

第171図 110号住居跡旧竈、新竈

第3章 検出された遺構と遺物



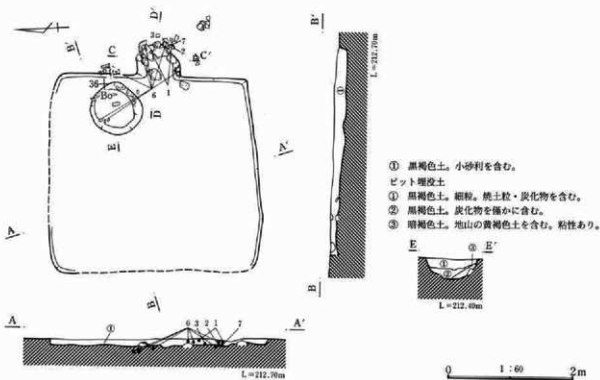
第172図 110号住居跡出土遺物実測図

B-117号住居跡 (第173~175図、P.L.35・88)

位置 Bn・Bo-36グリッド 床面積 (10.50㎡) 主軸方位 N-94°-E 重複 なし。

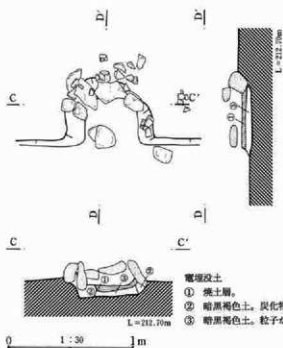
規模と形状 明瞭な平面プランを確認することはできなかった。特に北壁及び西壁は立ち上がり不明瞭で、いずれも推定線となっている。東西 (3.15m)・南北 (3.36m) を測り、正方形を呈する。

埋没土 小砂利混じりの黒褐色土を主体とする。



第173図 117号住居跡

第2節 住居跡と出土遺物



第174図 117号住居跡竈

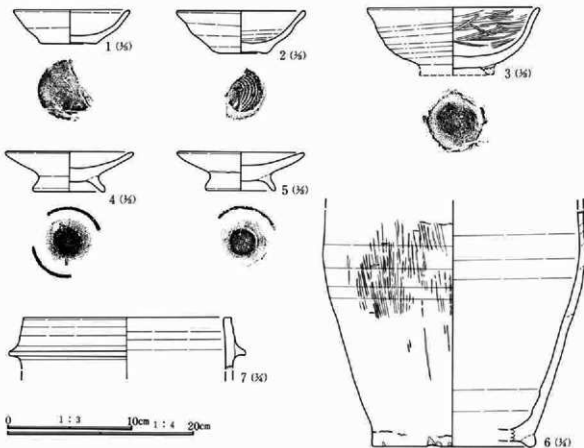
床面 確認面からの壁高は最大で12cmを測る。地山の礫混じりの黄褐色土を床面としている。
 貯蔵穴 竈の左脇から検出された径92cm・深さ31cmの円形を呈するピットが貯蔵穴に相当するものと思われる。

周溝 なし。柱穴 なし。

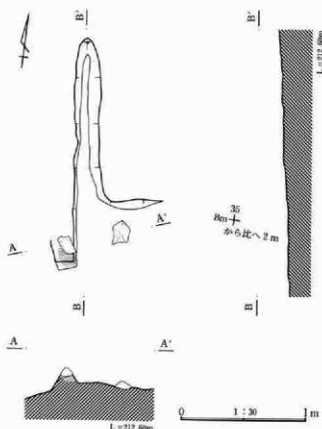
出土遺物 遺物は竈周辺を中心に分布する。図化可能な遺物は須恵器小型環2点(1・2)・高台付埴1点(3)・高台付皿2点(4・5)・羽釜1点(7)・甕1点(6)の7点である。

竈 東壁の中央付近で検出された。焚口幅46cm・奥行54cmを測る。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第175図 117号住居跡出土遺物実測図



第176図 123号住居跡

B-123号住居跡 (第176図、P.L.35)

位置 Bm-35グリッド **床面積** 不明。

主軸方位 不明。

重複 116号住と重複か。

規模と形状 竈のみの検出であり、平面プランは確認することができなかった。形状・規模ともに不明である。

床面 不明。 **貯蔵穴** 不明。 **周溝** 不明。

柱穴 不明。

出土遺物 破片も含めて遺物は検出することができなかった。

竈 煙道部を中心に残存する。袖と思われる部分には熱を受け赤化した石材が残存する。

調査所見 竈のみの検出であり、住居の規模・形状等は不明である。遺物も検出されておらず、時期等も明らかにすることはできない。住居跡とするにはやや疑問が残る。

B-125号住居跡 (第177・178図、P.L.35・36・88)

位置 Bi・Bj-27グリッド **床面積** 11.13㎡ **主軸方位** N-79°E

重複 149号住の南東隅を切って構築している。

規模と形状 東西2.85m・南北3.96mを測る長方形を呈する。

埋没土 白色粒・黄色粒・軽石を含む暗褐色土を主体とする。

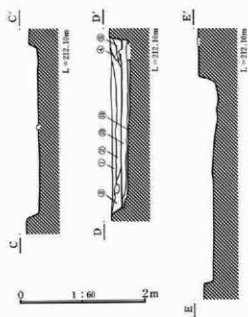
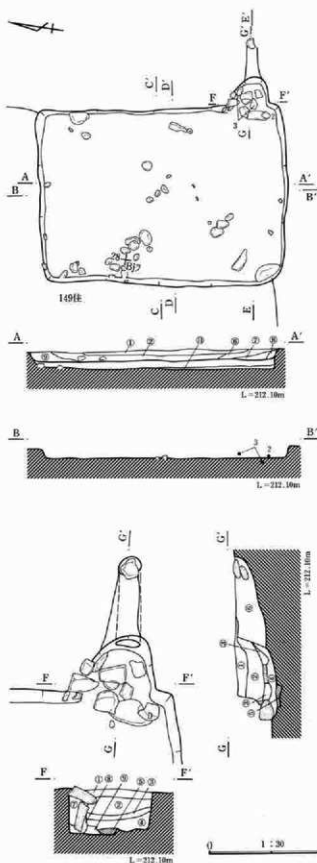
床面 確認面からの壁高は最大で26cmを測る。掘り方があり、貼り床が施されている。細粒の白色粒・黄色粒・焼土粒・炭化物を含む黒褐色土を充填して床面を構築している。床面はほぼ平坦である。掘り方の底面からもビット等は検出されておらず、掘り方の底面も平坦である。

貯蔵穴 なし。 **周溝** なし。 **柱穴** なし。

出土遺物 遺物量は少なく、竈内から検出された須恵器環1点(2)・羽釜1点(3)・小型環1点(1)、灰釉陶器小瓶1点(4)を図化したにすぎない。

竈 東壁の南隅で検出された。規模は、焚口幅54cm・奥行60cm・煙道幅22cm・煙道長70cmを測る。竈内には、須恵器環1点・羽釜破片1点とともに、竈に使用されたとと思われる円盤・板状の砂岩等の石材が集中して検出された。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と考えられる。



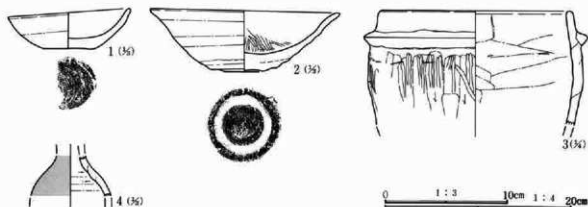
- ① 暗褐色土。白色粒・黄色粒・風化礫・軽石を含む。部分的に軽石を多く含む。しまり良。
- ② 暗褐色土。白色粒・黄色粒と少量の軽石を含む。しまり良く、弱い粘性。
- ③ 黒褐色土。白色粒・黄色粒と少量の焼土を含む。しまり良く、弱い粘性。
- ④ 暗褐色土。白色粒・黄色粒と少量の焼土・炭化物を含む。しまり良。
- ⑤ 黒褐色土。白色粒・黄色粒・焼土粒・灰・炭化物を含み、少量の風化礫を混入。しまり良く、弱い粘性。
- ⑥ 暗褐色土。白色粒・黄色粒を多く含み、少量の風化礫・焼土粒を含む。しまり良く、弱い粘性。
- ⑦ 暗黄褐色土。白色粒・黄色粒を含み、少量の風化礫・炭化物を含む。しまり良く、弱い粘性。
- ⑧ 黒褐色土。白色粒・黄色粒・焼土粒・炭化物・風化礫を少量含む。しまり良く、弱い粘性。
- ⑨ 黒褐色土。白色粒・黄色粒・焼土粒・風化礫・炭化物・灰を含む。しまり良く、弱い粘性。
- ⑩ 黒褐色土。白色粒・黄色粒・炭化物を僅かに含む。しまり良く、弱い粘性。
- ⑪ 黒褐色土。砂礫より混入物が少ない。粘性が強く、しまり良。

埋戻り土

- ① 黒褐色土。黄色粒を僅かに含む。しまり良。
- ② 黒褐色土。黄色粒・焼土粒を僅かに含む。しまり良。
- ③ 黒褐色土。黄色粒・焼土粒・炭化物を僅かに含む。弱い粘性。
- ④ 褐色土。焼土をブロック状に含み、焼土粒・炭化物を多く含む。弱い粘性。
- ⑤ 暗赤褐色土。少量の炭化物を含む焼土層。
- ⑥ 茶褐色土。細粒、少量の炭化物を含む。
- ⑦ 黒褐色土。焼土粒・炭化物・白色粒・黄色粒を僅かに含む。しまり良く、やや粘性がある。
- ⑧ 黒褐色土。焼土粒・炭化物を僅かに含む。細粒で、粘性がある。
- ⑨ 茶褐色土。細粒で、焼土・炭化物を僅かに含む。

第177図 125号住居跡、竈

第3章 検出された遺構と遺物



第178図 125号住居跡出土遺物実測図

B-126号住居跡 (第179~181図, P L 36・88)

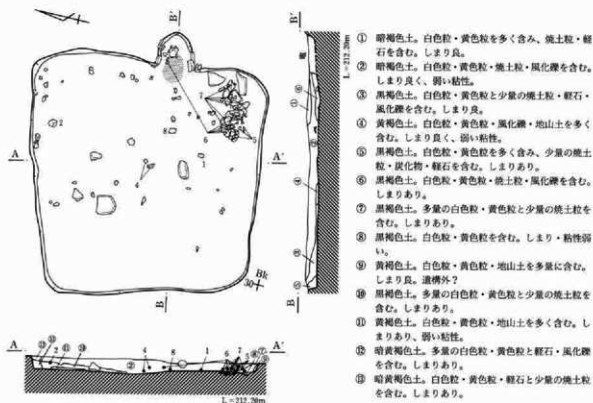
位置 Bk-29グリッド 床面積 13.33㎡ 主軸方位 N-73°-E

重複 なし。

規模と形状 東西3.90m・南北3.75mを測る正方形を呈する。

埋没土 白色粒・黄色粒・焼土粒・礫を含む暗褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で20cmを測る。掘り方があり貼り床を施す。掘り方底面には長軸262cm・短軸90cm・深さ20cmを測る床下土塊の他に3基の小ピットが検出されている。



第179図 126号住居跡(1)

0 1:60 2m

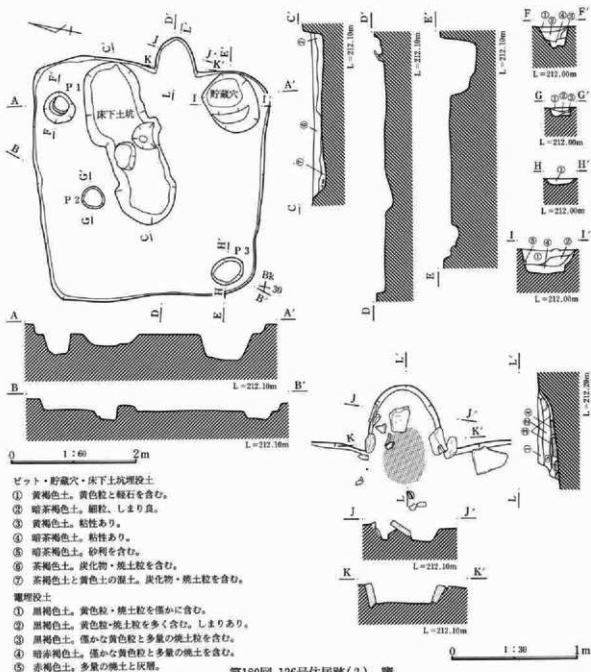
貯蔵穴 竈の右脇、住居の東南隅で検出された。規模は長軸94cm・短軸76cm・深さ38cmを測り、楕円形を呈する。貯蔵穴上部には須恵器小型壺・片口等が集中して検出されている。

周溝 なし。**柱穴** なし。

出土遺物 貯蔵穴の上部に集中して分布する他は、散乱して出土している。図化可能な遺物は須恵器坏1点(1)・高台付埴2点(2・3)・小型壺1点(5)・片口1点(7)・羽釜1点(8)、灰釉陶器高台付埴1点(4)、土師器壺1点(6)の8点である。

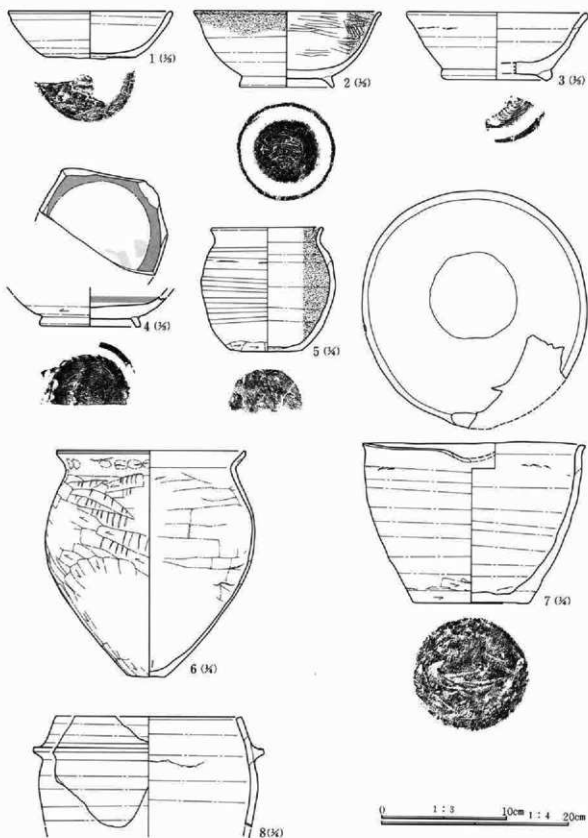
竈 東壁の中央やや南よりで検出された。焚口幅50cm・奥行55cmを測る。両袖及び左の側壁部には板状の砂岩が使用されている。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第180図 126号住居跡(2)、竈

第3章 検出された遺構と遺物



第181図 126号実測図出土遺物実測図

B-127号住居跡 (第182・183図、P.L.37・88)

位置 Bi-30・31グリッド 床面積 13.04㎡ 主軸方位 N-86°-E

重複 166号住 (縄文)・150号住 (古墳) の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西3.06m・南北4.40mを測る長方形を呈する。

埋没土 少量の焼土粒を含む黒褐色土を主体とする。下層は礫の混入が多い。

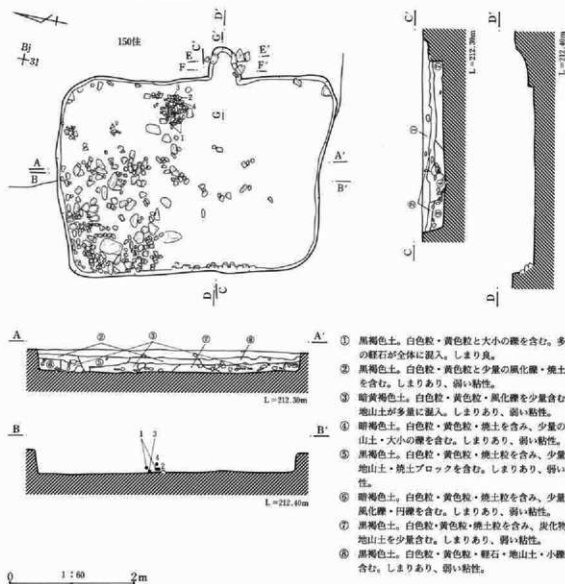
床面 確認面からの壁高は最大で36cmを測る。住居の北西部からは大小の礫が集中して検出されている。障除去後の床面は概ね平坦である。地山の黄色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 遺物量は少なく、東壁中央やや北よりに集中して検出されている。土師器坏2点 (1・2)・長刺壺1点 (4)・小型壺1点 (3) の4点を図化することができた。

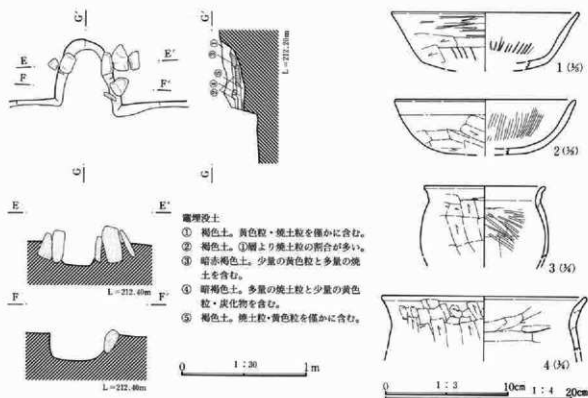
竈 東壁の中央やや南よりに検出された。焚口幅40cm・奥行60cmを測る。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第182図 127号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第183図 127号住居跡電、出土遺物実測図

B-128号住居跡 (第184・185図、P L37・89)

位置 Be-29・30グリッド **床面積** 不明。 **主軸方位** 不明。

重複 151号住 (古墳)・168号住 (弥生) の上部を切って構築している。

規模と形状 151号住及び168号住の中にすっぽり入る形で構築されており、平面プランを明瞭に確認することができなかった。住居の範囲を示す破線はセクション図及び遺物の分布範囲をもとにした推定線である。

埋没土 上層には若干のB軽石を含む。151号住居内に構築されており、埋没土の差も明瞭ではない。

床面 他住居との重複によって床面を明瞭に確認することができなかった。

貯蔵穴 不明。 **周溝** 不明。 **柱穴** 不明。

出土遺物 図化可能な遺物は須恵器環2点 (2・3)・高台付埴1点 (4)・羽釜2点 (7・8)、灰釉陶器高台付埴1点 (5)、土師器環1点 (1)・壺1点 (6) の8点である。

竈 東壁の中央付近で検出された。焚口幅60cm・奥行68cmを測る。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。

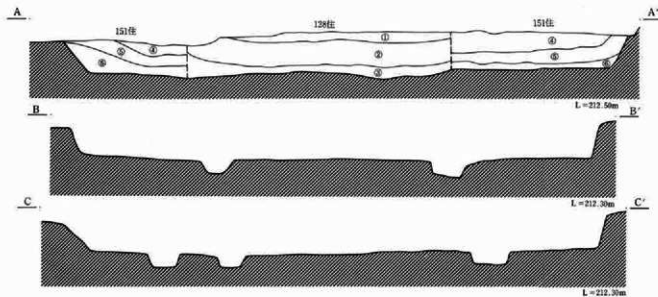
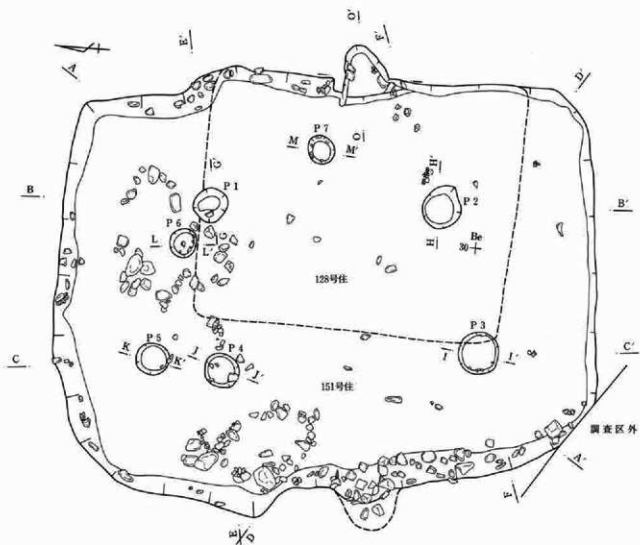
B-151号住居跡 (第184・185図、P L96)

位置 Bd~Bf-29・30グリッド **床面積** (54.35m²) **主軸方位** N-95°-W

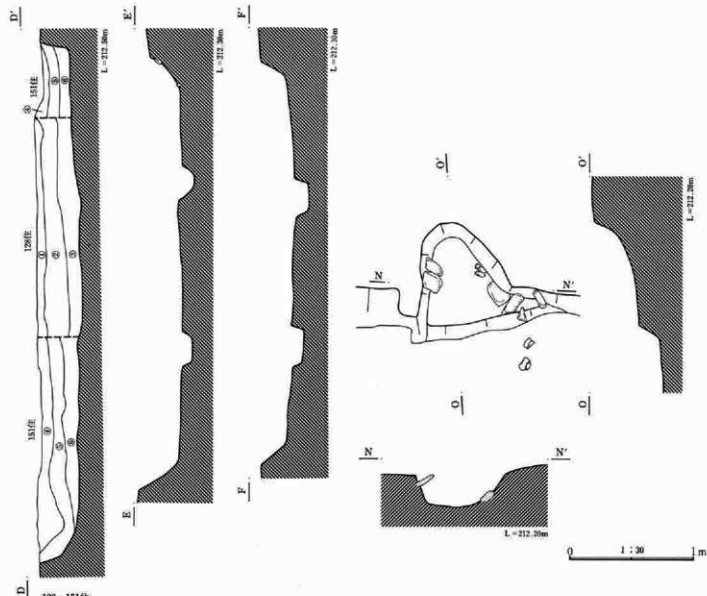
重複 上部を128号住に切られ、168号住の上部を切って構築している。

規模と形状 168号住と大きく重複しており、規模・形状ともにやや不明瞭であるが東西6.30m・南北8.70mを測る大型の住居跡と思われる。平面形は長方形を呈する。

埋没土 深泥じりの黒褐色土を主体とする。

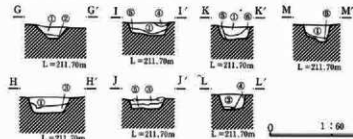


第184図 128・151号住居跡



128・151住

- ① 黒褐色土、黄色粒・B粒石を含む。しまり具。
- ② 黒褐色土、φ10~20mmの小礫を多量に含む。しまり具。
- ③ 暗茶褐色土、黄色粒・小礫を含む。
- ④ 黒褐色土、黄色粒・小礫を含む。しまり具。
- ⑤ 黒褐色土、黄色粒・小礫、φ50~100mmの礫を含む。
- ⑥ 茶褐色土、黄色粒・小礫を含む。しまり具。



ビット埋戻土

- ① 暗褐色土。礫を多く含む。
- ② 暗褐色土。礫の混入が①層より少ない。
- ③ 暗褐色土。礫および少量の炭化物を含む。
- ④ 暗褐色土。黄色粒を多く含む。
- ⑤ 暗褐色土と黄色土の混入層。礫混入。
- ⑥ 黄褐色土。しまりなくツツツ。

床面 確認面からの壁高は最大で62cmを測る。168号住の埋没土中に構築しており、砂利と小礫混じりの黒褐色土を床面としている。

貯蔵穴 なし。

周溝 なし。

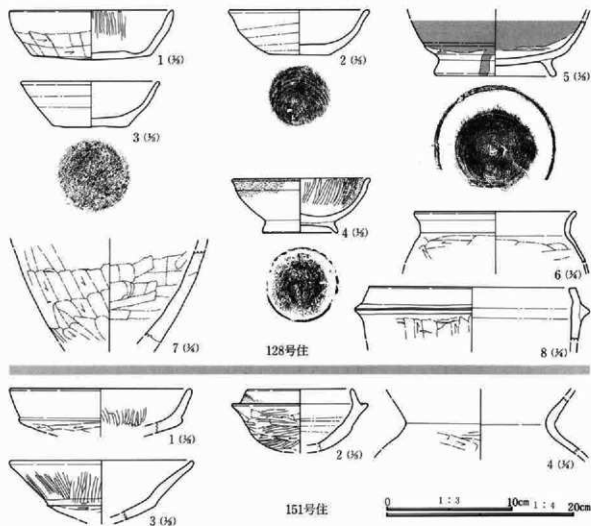
柱穴 住居プランのほぼ対角線上で検出された4基(1~4)が支柱穴と思われる。

No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7
上端長径	54cm	70cm	68cm	58cm	54cm	46cm	48cm
下端長径	34cm	48cm	58cm	44cm	40cm	36cm	32cm
深さ	18cm	14cm	20cm	20cm	24cm	24cm	26cm

出土遺物 遺物量は少なく、図化可能な遺物は土師器環1点(1)・高環1点(3)・甕1点(4)、須恵器環1点(2)の4点である。

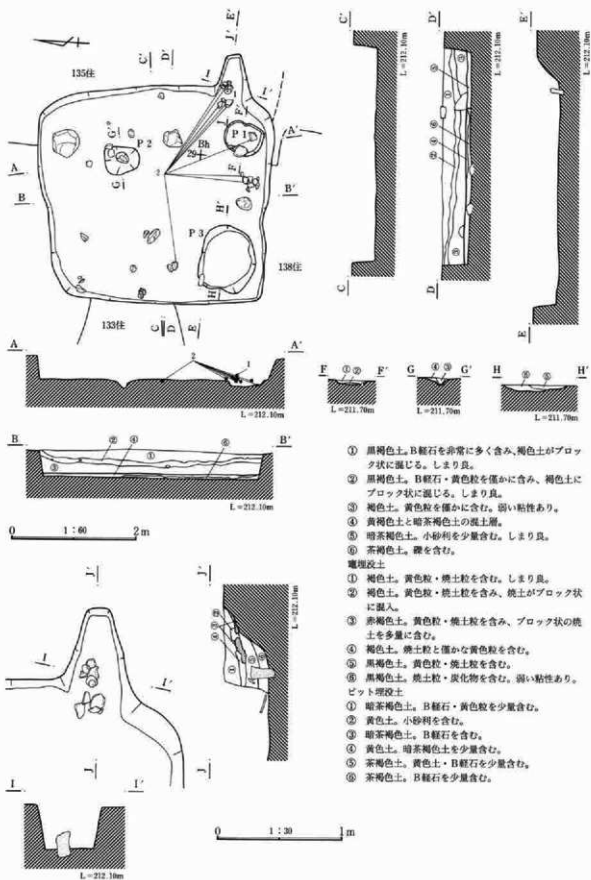
竈 西壁の中央やや南よりの壁外にのびる僅かな掘り込みが竈部と考えられるが、焼土等は認められず規模等も不明瞭である。竈とするにはやや疑問が残る。

調査所見 128号住・168号住との重複により、形状・規模等不明瞭な点が多い。住居の構築時期は、出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。



第185図 128・151住居跡出土遺物実測図

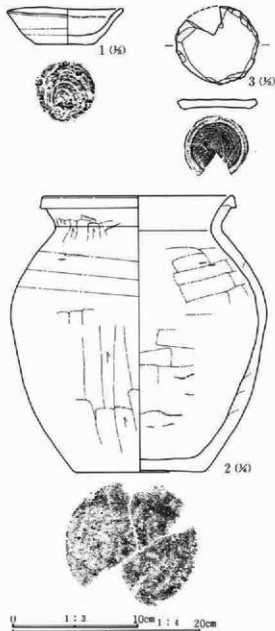
第3章 検出された遺構と遺物



- ① 黒褐色土。B軽石を非常に多く含み、褐色土がブロック状に凝じる。しまり良。
- ② 黒褐色土。B軽石・黄色粒を僅かに含み、褐色土にブロック状に凝じる。しまり良。
- ③ 褐色土。黄色粒を僅かに含む。弱い粘性あり。
- ④ 黄褐色土と暗茶褐色土の混土层。
- ⑤ 暗茶褐色土。小砂利を少量含む。しまり良。
- ⑥ 茶褐色土。礫を含む。
- 埋戻し土
- ① 褐色土。黄色粒・焼土粒を含む。しまり良。
- ② 褐色土。黄色粒・焼土粒を含み、焼土がブロック状に凝入。
- ③ 赤褐色土。黄色粒・焼土粒を含み、ブロック状の焼土を多量に含む。
- ④ 褐色土。焼土粒と僅かな黄色粒を含む。
- ⑤ 黒褐色土。黄色粒・焼土粒を含む。
- ⑥ 黒褐色土。焼土粒・炭化物を含む。弱い粘性あり。
- ピット埋戻し
- ① 暗茶褐色土。B軽石・黄色粒を少量含む。
- ② 黄色土。小砂利を含む。
- ③ 暗茶褐色土。B軽石を含む。
- ④ 黄色土。暗茶褐色土を少量含む。
- ⑤ 茶褐色土。黄色土・B軽石を少量含む。
- ⑥ 茶褐色土。B軽石を少量含む。

第186図 129号住居跡、竈

第2節 住居跡と出土遺物



第187図 129号住居跡出土遺物実測図

主軸方位 N-13°-W 重複 131号住と重複、本住居の方が古い。

規模と形状 東西4.23m・南北4.50mを測る正方形を呈する。

埋没土 白色粒・黄色粒・軽石・小礫・焼土粒を僅かに含む黒褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で32cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 住居の東南隅で検出されたP5が貯蔵穴になるものと思われる。 周溝 なし。

柱穴 住居のほぼ対角線上に検出された4基のピット(P1~P4)が主柱穴になるものと思われる。

No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
上端長径	44cm	50cm	46cm	50cm	52cm
下端長径	28cm	37cm	31cm	40cm	28cm
深 さ	14cm	15cm	15cm	20cm	20cm

B-129号住居跡 (第186・187図、P L37・38・89)

位置 Bg・Bh-29・30グリッド 床面積 14.07㎡

主軸方位 N-89°-E

重複 135号住・138号住・133号住の覆土の一部を切つて構築している。

規模と形状 東西3.45m・南北3.78mを測る長方形を呈する。

埋没土 上層はB軽石を多量に含む黒褐色土である。

床面 確認面からの壁高は最大で36cmを測る。掘り方があり、貼り床を施している。

貯蔵穴 竈の右脇、住居の東南隅で検出された。規模は長軸60cm・短軸52cm・深さ7cmを測り、楕円形を呈する。

周溝 なし。

柱穴 3基のピットが検出されているが、柱穴に相当するものは認められなかった。

出土遺物 遺物量は極めて少なく、竈を中心に分布する傾向が窺える。図化可能な遺物は須恵器小型環1点(1)・甕1点(2)、須恵器の底部を利用した転用品1点(3)の3点である。

竈 東壁の南隅付近で検出された。焚口幅48cm・奥行80cmを測る。竈内には須恵器小型環1点・甕1点がまとまって検出されている。竈中央からは石製支脚が検出されている。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。

B-130号住居跡 (第188・189図、P L38・89)

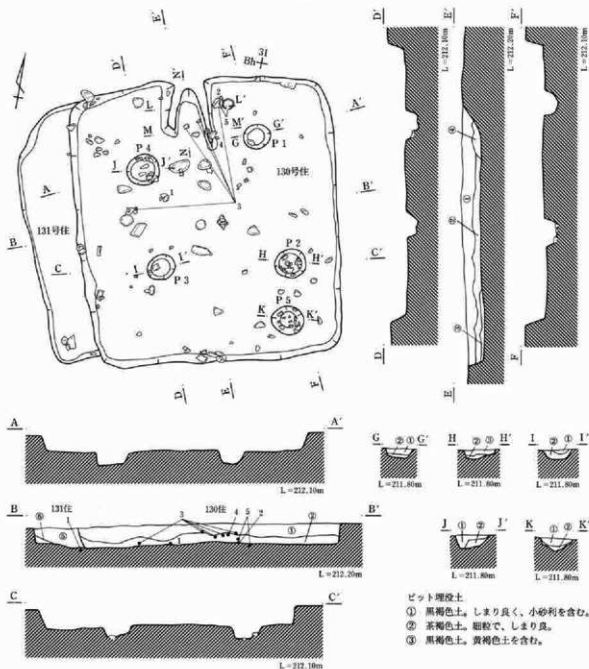
位置 Bg-30・31グリッド 床面積 18.71㎡

第3章 検出された遺構と遺物

出土遺物 遺物量は比較的少なく、竈の右脇の床面付近で土師器坏4点(1~4)・壺1点(5)がまとめて検出された他は散乱して出土している。

竈 北壁の中央やや西よりで検出された。焚口幅65cm・奥行85cmを測る。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



130・131住

① 黒褐色土。白色粒・黄色粒・軽石・小礫を多く含み、焼土粒を僅かに含む。しまりあり。

② 黒褐色土。①層に似るが強入物が少ない。しまり良く、弱い粘性。

③ 褐色土。白色粒・黄色粒・焼土粒を僅かに含む。

④ 黒褐色土。白色粒・黄色粒・軽石を僅かに含み、焼土粒の混入が多い。しまり良く、弱い粘性。

⑤ 黒褐色土。軽石・礫を含む。

⑥ 茶褐色土。少量の軽石を含む。粘性あり。

ピット埋戻土

① 黒褐色土。しまり良く、小砂利を含む。

② 茶褐色土。細粒で、しまり良。

③ 黒褐色土。黄褐色土を含む。

0 1:60 2m

第188図 130・131号住居跡

B-131号住居跡 (第188・189図、P.L.38・89)

位置 Bg-31グリッド 床面積 不明。 主軸方位 不明。

重複 新旧の認定を誤り130号住を先行して調査しているが、遺物等を検討すると本住居の方が新しい。

規模と形状 130号住を先行して調査しているため、明瞭に残るのは西壁のみである。規模は南北4.00mを測り、東西は不明である。検出部分が少なく、詳細については不明な点が多い。

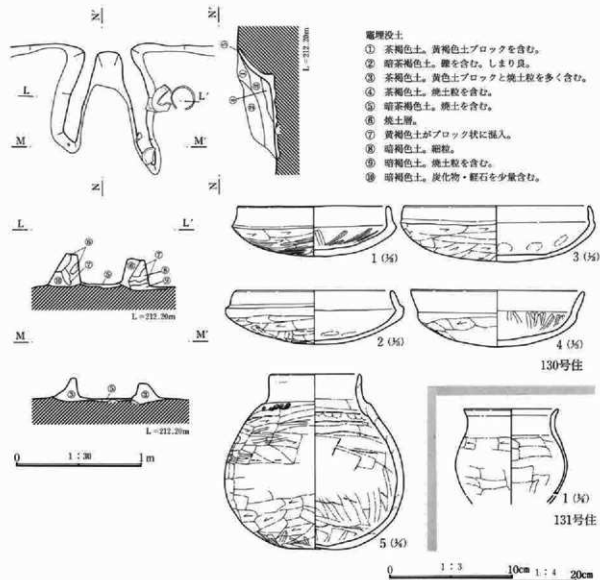
埋没土 小礫・軽石を含む黒褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で22cmを測る。検出部が少なくやや不明瞭であるが、検出された床面は概ね平坦である。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 不明。 周溝 不明。 柱穴 不明。

出土遺物 遺物量は極めて少なく、図化可能な遺物は小型壺1点のみである。 竈 不明。

調査所見 遺物量も極めて少ないことから時期を限定することは難しい。調査時には、遺構確認面でも竈に伴う焼土等も確認されておらず、住居以外の遺構の可能性も考えられる。



第189図 130号住居跡竈、130・131号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-133号住居跡 (第190~192図, P L 38・89)

位置 Bg-29グリッド 床面積 不明。 主軸方位 N-7°-W

重複 129号住に東壁を、138号住に南壁を切られており、180号住の上部を切って構築している。

規模と形状 重複により東西の規模は不明である。南北は3.78mを測る。平面プランも不明瞭であるが残存部の形状からやや横長の長方形を呈するものと推定される。

埋没土 黄色粒・小礫を含む黒褐色土を主体とする。

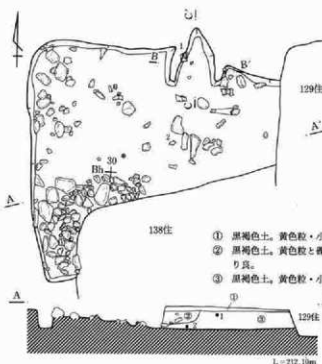
床面 確認面からの壁高は最大で27cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。南西隅に集中する礫は138号住の壁面を構築する際に使用されたものと思われる。 貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 ビット2基を検出。柱穴と限定できない。

出土遺物 遺物は極めて少なく、散乱して検出されている。図化可能な遺物は土師器坏1点(1)・斐1点(2)、土鏝1点(3)の3点である。

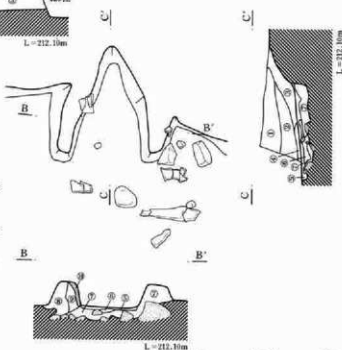
竈 北壁の中央付近で検出された。焚口幅57cm・奥行90cmを測る。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



- ① 黒褐色土。黄色粒・小礫を僅かに含む。しまり貝。
- ② 黒褐色土。黄色粒と礫(φ50mm)を多量に含む。しまり貝。
- ③ 黒褐色土。黄色粒・小礫を少量含む。

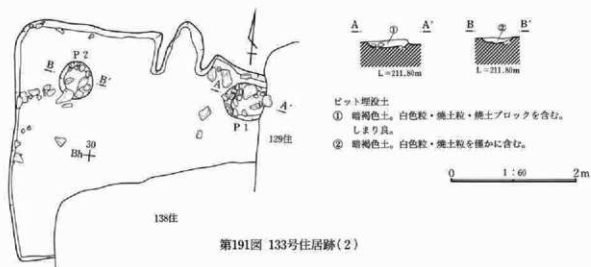
0 1:60 2m



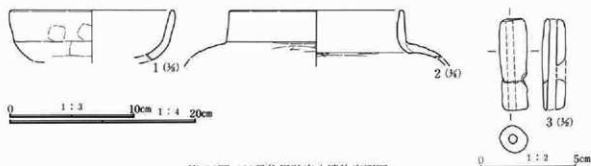
竈埋没土

- ① 暗褐色土。軽石・小礫を含む。しまり貝。
- ② 暗褐色土。細粒で、焼土粒・炭化物を含む。
- ③ 暗褐色土。焼土粒・炭化物を上層より多く含む。
- ④ 暗赤褐色土。炭土を多量に含む。
- ⑤ 暗褐色土。白色粒・黄色粒を僅かに含む。焼土が多く混入。
- ⑥ 暗褐色土。黄色粒・焼土粒を含む。
- ⑦ 暗褐色土。白色粒・黄色粒・橙色粒・軽石を僅かに含む。礫を混入。
- ⑧ 暗褐色土。白色粒・黄色粒・焼土粒を僅かに含む。
- ⑨ 表面が焼土化した黄色粘土層。
- ⑩ 焼土層。

第190図 133号住居跡(1)、竈



第191図 133号住居跡(2)



第192図 133号住居跡出土遺物実測図

B-134号住居跡 (第193~197図、P L 39~41・89・90)

位置 Bf・Bg-28・29グリッド 床面積 37.22㎡ 主軸方位 N-79°-E

重複 北西隅を138号住に、西半を141号住、北壁上部を135号住に切られている。煙道の先端部は145号住の埋没土を掘り込んで構築している。

規模と形状 東西6.30m・南北6.06mを測る正方形を呈する。

埋没土 焼土粒・黄色粒・礫混じりの暗褐色土を主体とする。141号住居跡との差は明瞭ではない。

床面 確認面からの壁高は最大で54cmを測る。南壁及び西壁の一部は、141号住構築の際に掘り込まれている可能性があり、僅かに外側に張り出している。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 住居の北東隅と東南隅に合わせて2基の貯蔵穴が検出されている。北東隅の1基は旧竈に伴うものと推定される。長軸82cm・短軸76cm・深さ19cmを測り、円形を呈する。東南隅のものは新竈に伴うものと思われ長軸64cm・短軸54cm・深さ39cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

周溝 なし。

柱穴 住居のほぼ対角線上に検出されたP 1~P 4の4基が主柱穴と思われる。

No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	70cm	64cm	70cm	70cm
下端長径	48cm	48cm	38cm	30cm
深さ	33cm	32cm	50cm	39cm

第3章 検出された遺構と遺物

出土遺物 須恵器環1点(5)、土師器環4点(1~4)、土錘1点(6)の6点を図化することができた。

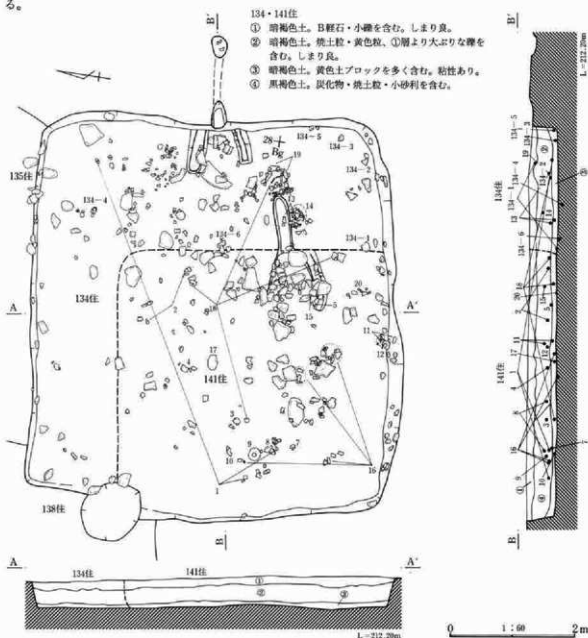
141号住の範囲が不明瞭であるため遺物が混在しており、遺物の所属については不明瞭ではない。

竈 新旧のある2基の竈が検出されており、竈の造り替えが想定される。当初北側の竈が使用され、後に東竈が使用されたものと思われる。

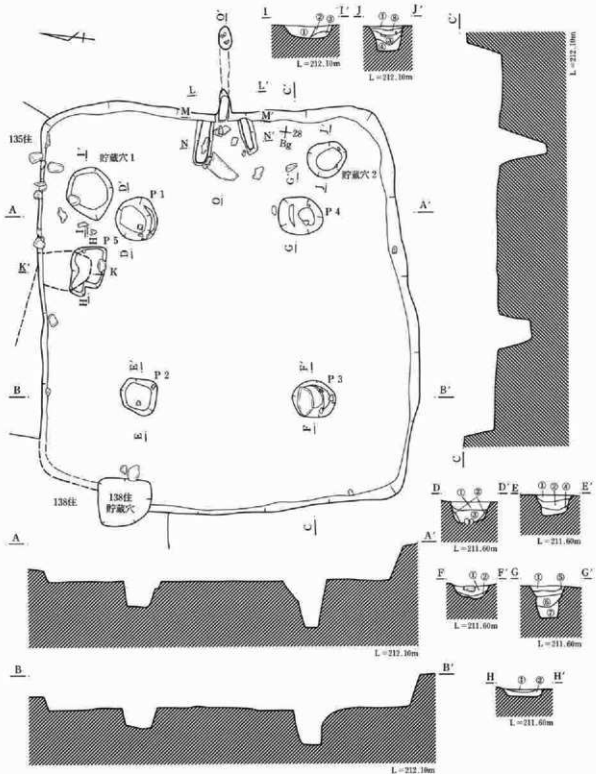
旧竈 北壁の中央やや東よりで検出された僅かな焼土の痕跡が旧竈に伴うものと思われる。

新竈 東壁の中央付近で検出された。焚口幅64cm・奥行60cm・煙道幅25cm・煙道長140cmを測る。両袖は下部が僅かに残るのみである。煙道部の残存状態は良好で、煙道は東側にやや傾斜をもってトンネル状に掘り抜かれ、断面L字形を呈する。奥壁部及び煙道上部は熱を受け赤化していた。

調査所見 141号住との重複によって不明瞭な点が多いが、本住居の東南部に黄褐色粘質土を貼って141号住の竈が構築されていることから、本住居のほうが古いと判断した。出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第193図 134・141号住居跡



ピット・貯蔵穴埋込土

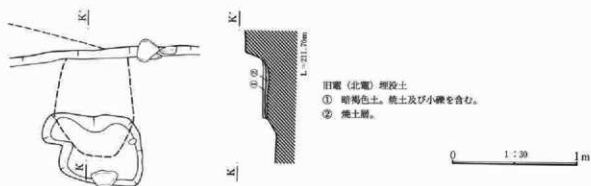
- ① 暗褐色土。黄色粒・焼土粒・小礫を僅かに含む。
- ② 暗褐色土。暗褐色土を主体とし、黄褐色土混入。
- ③ 暗褐色土。①層に似るが混入物がさらに少ない。
- ④ 黄褐色土。暗褐色土が混入。

- ⑤ 暗褐色土。黄色粒・焼土粒・小礫を僅かに含み、黄色土が混入。
- ⑥ 暗褐色土と黄褐色土の混土层。焼土粒を含む。
- ⑦ 黄褐色土。サラサラしている。
- ⑧ 黄褐色土。少量の礫を含む。

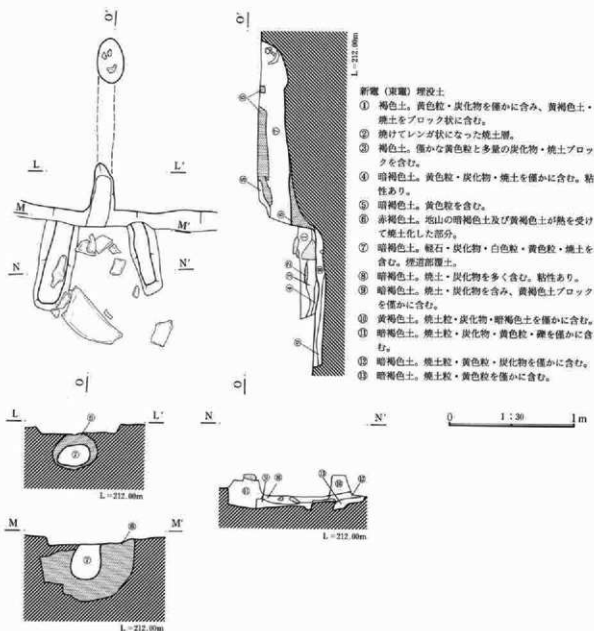
0 1 : 60 2m

第194図 134号住居跡

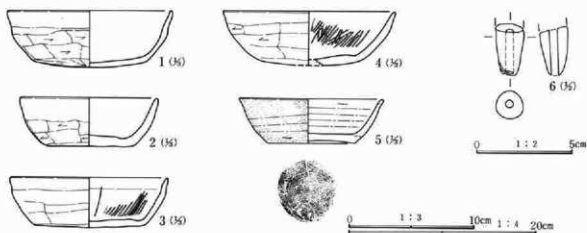
第3章 検出された遺構と遺物



第195図 134号住居跡旧電



第196図 134号住居跡新電



第197図 134号住居跡出土遺物実測図

B-141号住居跡 (第193・198~201図、P L 39・41・92)

位置 Bf・Bg-28・29グリッド 床面積 不明。主軸方位 N-79°-E

重複 北西隅を138号住に切られ、134号住の西半を切っている。

規模と形状 134号住居内にすっぽり納まる形で構築されており、調査時に住居プランを明瞭な形で検出することができなかった。規模・形状ともに不明である。住居プランは、竈の位置等をもとにした推定線である。

埋没土 134号住居跡と重複しており、埋没土の明瞭な差は認められなかった。

床面 確認面からの壁高は最大で50cmを測る。南壁及び西壁は134号住とほぼ一致するものと思われる。東壁及び北壁は検出することができずいずれも推定線である。

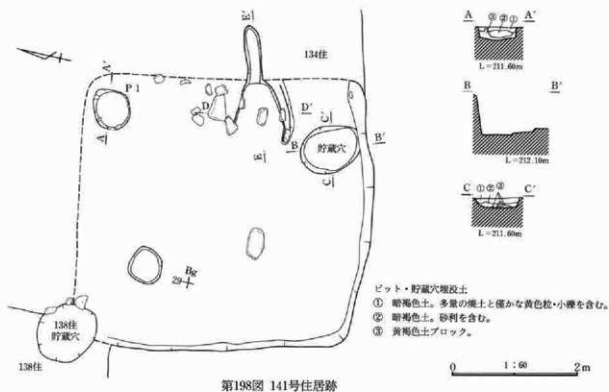
貯蔵穴 竈の右脇、住居の東南隅で検出された長軸94cm・短軸73cm・深さ22cmの楕円形を呈するピットが貯蔵穴に相当するものと思われる。

周溝 なし。柱穴 なし。

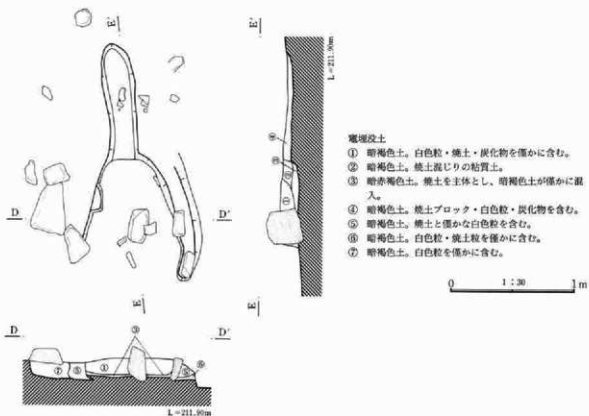
出土遺物 遺物量は比較的多く、種類も豊富である。しかし、134号住の遺物と混在しており、明瞭な時期差も認められないため遺物の所属については明瞭ではない。特に竈の煙道先端部で集中して検出された壺数点については134号住の遺物の可能性も考えられる。多くの遺物は床面よりやや浮いた状態で散在して検出されている。図化可能な遺物は、須恵器坏3点(3~5)・蓋1点(8)・埴2点(6・7)・壺2点(9・10)、土師器坏2点(1・2)・壺7点(13~19)・台付壺2点(11・12)、鉄鏝1点(20)の20点である。

竈 住居の南東部で検出された。竈内及び竈周辺には、竈に使用されたと思われる石材が集中して検出されたが竈との関係は明瞭ではない。竈周辺には黄褐色粘質土が比較的厚く貼られ、踏み固めて硬化した面が認められた。両袖は下部が僅かに残るのみであるが、右袖石及び支脚が明瞭に残る。煙道の先端部では、壺4点が集中して検出されている。竈構築の際に使用されたものと推定され、本住居に所属するものと思われるが、134号住の遺物と大きな時期差は認められず、明瞭ではない。竈の規模は、焚口幅84cm・奥行90cm・煙道幅24cm・煙道長90cmを測る。

調査所見 調査時には明瞭な形で住居プランを確認することができず、本住居よりも古い134号住1軒を想定して掘り下げてしまった。ほぼ床面が検出された状態で本住居の竈を確認し、本住居が134号住にすっぽり納まる形で構築されていることが確定できた。出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。

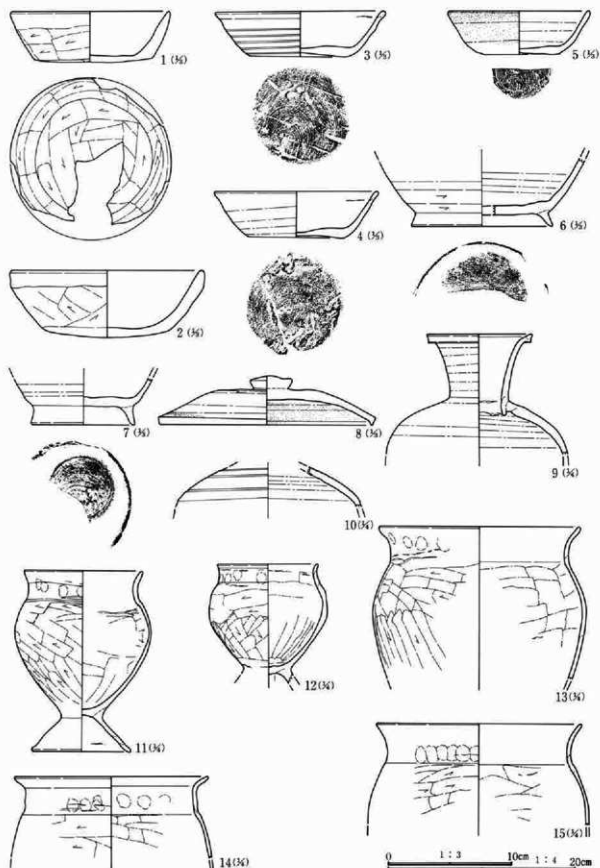


第198図 141号住居跡



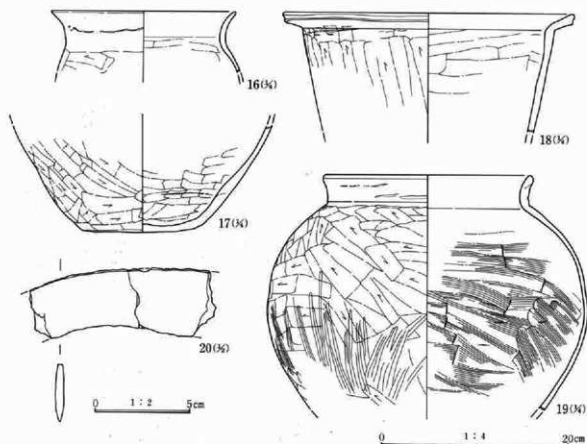
第199図 141号住居跡竈

第2節 住居跡と出土遺物



第200図 141号住居跡出土遺物実測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第201図 141号住居跡出土遺物実測図(2)

B-135号住居跡 (第202~205図、P.L41・42・90)

位置 Bg・Bh-28グリッド 床面積 (25.77㎡) 主軸方位 N-86°-E

重複 西壁の一部を129号住に切られている。

規模と形状 東西4.71m・南北5.80mを測る長方形を呈する。南壁は134号住との重複により明瞭に検出することができなかった。

埋没土 こぶし大の礫を含む暗褐色土を主体とする

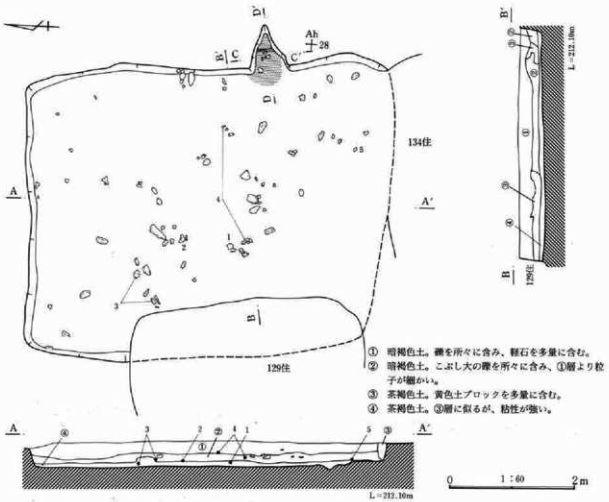
床面 確認面からの壁高は最大で36cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。北壁と南壁に沿って東西方向に2本の間仕切り状の溝が検出されている。幅14cm~24cm・深さ7cm~15cmを測る。掘り方底面からは長軸156cm・短軸110cm・深さ21cm程の床下土坑が検出されている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。 柱穴 なし。

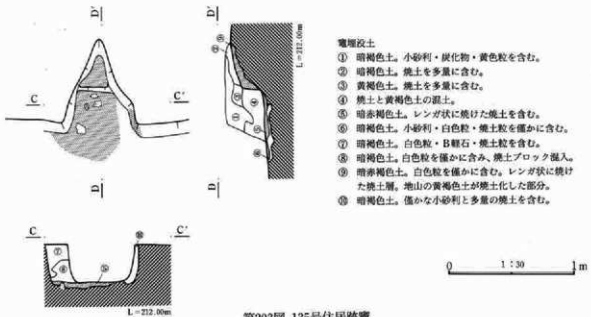
出土遺物 遺物量は少なく、散乱して検出されている。須恵器坏1点(1)・高台付塊1点(2)・壺1点(5)、土師器甕2点(3・4)を図化することができた。

竈 東壁の南よりで検出された。焚口幅60cm・奥行78cmを測る。残存状態は不良であるが、燃焼部には比較的広い範囲にわたって焼土が認められる。

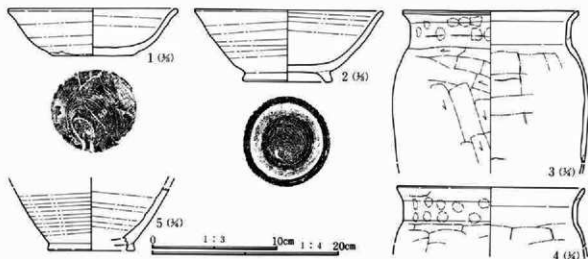
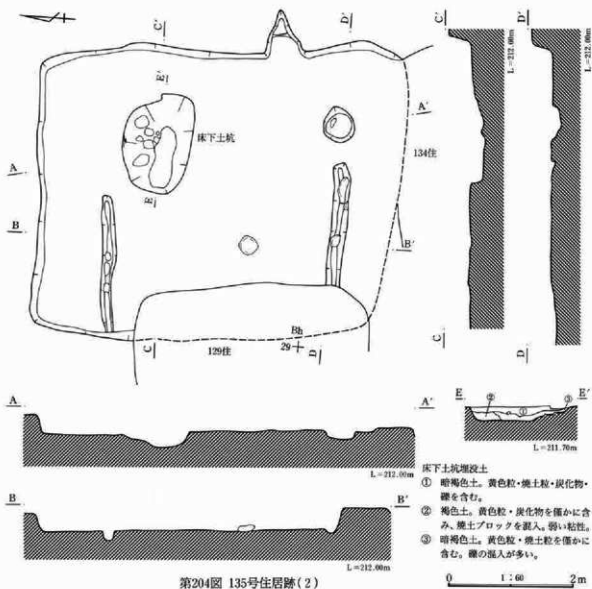
調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第202図 135号住居跡(1)



第203図 135号住居跡電



第205図 135号住居跡出土遺物実測図

B-136号住居跡 (第206・207図、P.L.42・90)

位置 Bi・Bj-25・26グリッド 床面積 8.62㎡ 主軸方位 N-60'-E

重複 160号住の南西隅を僅かに切っている。

規模と形状 一辺3.00mの正方形を呈する。

埋没土 白色粒・黄色粒を含む褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で30cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面はほぼ平坦である。

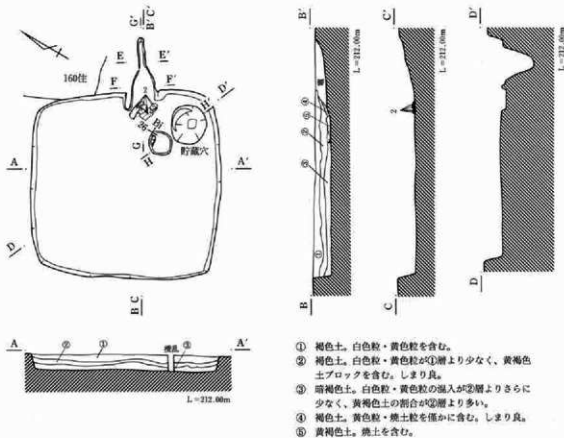
貯蔵穴 竈の右脇、住居の東南隅で検出された。規模は長軸62cm・短軸54cm・深さ48cmを測り、ほぼ円形を呈する。

周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 遺物量は極めて少なく、竈前に集中して検出されている。図化可能な遺物は土師器環1点(1)・甕1点(2)の2点のみであった。

竈 東壁の中央やや南よりで検出された。残存状態は不良である。焚口幅36cm・奥行50cm・煙道幅11cm・煙道長48cmを測る。

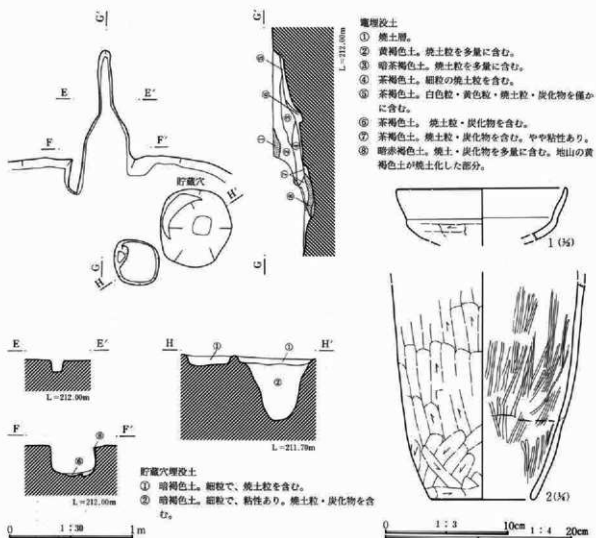
調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第206図 136号住居跡

0 1:60 2m

第3章 検出された遺構と遺物



竈埋設土

- ① 焼土層。
- ② 黄褐色土。焼土粒を多量に含む。
- ③ 暗茶褐色土。焼土粒を多量に含む。
- ④ 茶褐色土。細粒の焼土粒を含む。
- ⑤ 茶褐色土。白色粒・黄色粒・焼土粒・炭化物を僅かに含む。
- ⑥ 茶褐色土。焼土粒・炭化物を含む。
- ⑦ 茶褐色土。焼土粒・炭化物を含む。やや粘性あり。
- ⑧ 暗赤褐色土。焼土・炭化物を多量に含む。地山の黄褐色土が焼土化した部分。

貯蔵穴埋設土

- ① 暗褐色土。細粒で、焼土粒を含む。
- ② 暗褐色土。細粒で、粘性あり。焼土粒・炭化物を含む。

第207図 136号住居跡竈、出土遺物実測図

B-137号住居跡 (第208・209図、P L.42・90)

位置 B_j-25グリッド 床面積 12.51㎡ 主軸方位 N-78°-E

重複 160号住・175号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西3.15m・南北4.20mを測る長方形を呈する。

埋設土 茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で18cmを測る。重複部が多く、床面の認定は困難を極めた。調査時に床面の認定を誤り、竈前及び南壁周辺を除いた住居の大半を掘り過ぎてしまった。

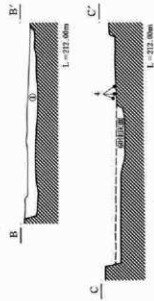
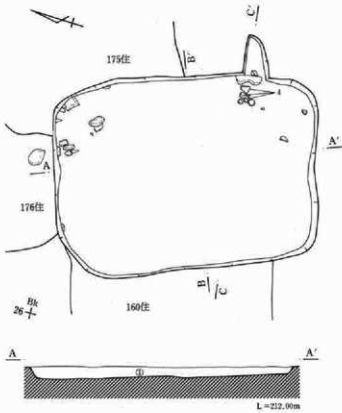
貯蔵穴 なし。周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 遺物量は少なく、竈前を中心に分布している。竈前で検出された羽釜1点(4)・覆土中より検出された須恵器環1点(1)、灰胎陶器高台付埴2点(2・3)の4点を図化することができた。

竈 東壁の南よりで検出された。焚口幅35cm・奥行70cmを測る。竈前の砂岩は天井石の崩落したものと考えられる。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。

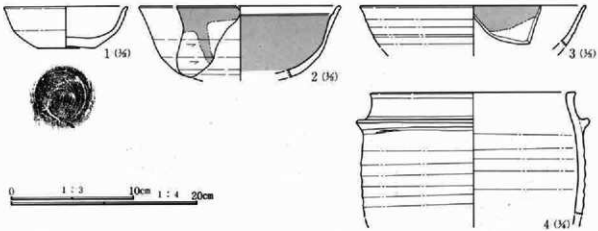
第2節 住居跡と出土遺物



① 茶褐色土。軽石を含む。

0 1:60 2m

第208図 137号住居跡



第209図 137号住居跡出土遺物実測図

B-138号住居跡 (第210~214図、P L43・90・91)

位置 Bg-29グリッド 床面積 (23.90㎡) 主軸方位 N-82°-E

重複 北東隅を129号住に切られ、134号住・180号住の覆土の一部を切って構築している。

規模と形状 東西5.55m・南北4.30mを測る長方形を呈する。

埋没土 小礫を所々に含む茶褐色土を主体とする。上層にはB軽石が混入する。

床面 確認面からの壁高は最大で45cmを測る。北西隅の壁際には大小の隙が集中して検出されている。本住

第3章 検出された遺構と遺物

居を構築する際に積み上げたものと思われる。地山の礫混じりの黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面は概ね平坦である。

貯蔵穴 竈の右脇、住居の東南隅で検出された。規模は長軸92cm・短軸82cm・深さ19cmを測り、楕円形を呈する。貯蔵穴上部には長径20cm～40cm程の板状の砂岩が多数検出されている。

周溝 約2分の1周分が検出された。幅12cm～26cm・深さ2cm～14cmを測ることができる。

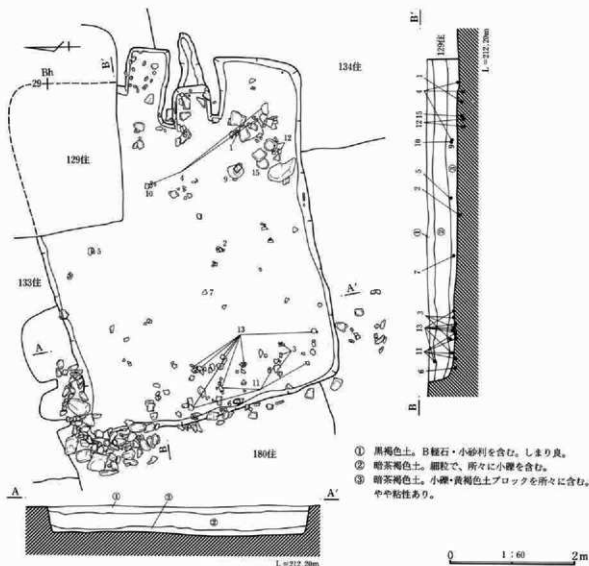
柱穴 なし。

出土遺物 遺物量は比較的多い。貯蔵穴周辺及び西壁下周辺を中心に分布する傾向が窺える。須恵器坏1点

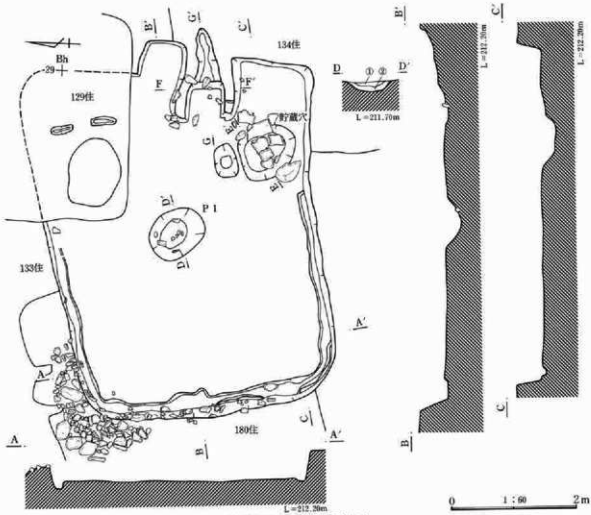
(1)・高台付埴3点(2～4)・高台付皿1点(5)・鉢1点(9)、灰釉陶器高台付埴3点(6～8)、土師器壺2点(12・13)・小型壺2点(10・11)、土鍾1点(14)、磨石1点(15)の15点を図化することができた。

竈 東壁の中央やや南よりで検出された。燃焼部は方形を呈する。焚口幅51cm・奥行60cm・煙道幅35cm・煙道長85cmを測る。竈内及び周辺には竈に使用されたと思われる石材が散在する。

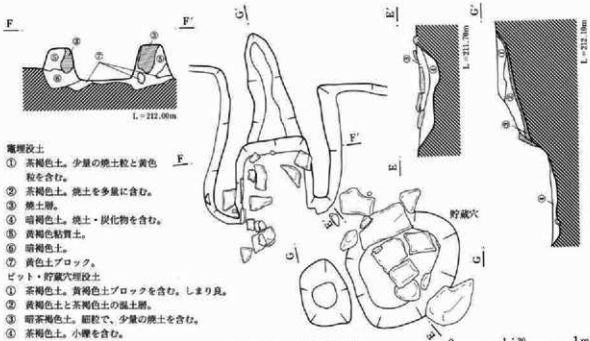
調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第210図 138号住居跡(1)



第211図 138号住居跡(2)

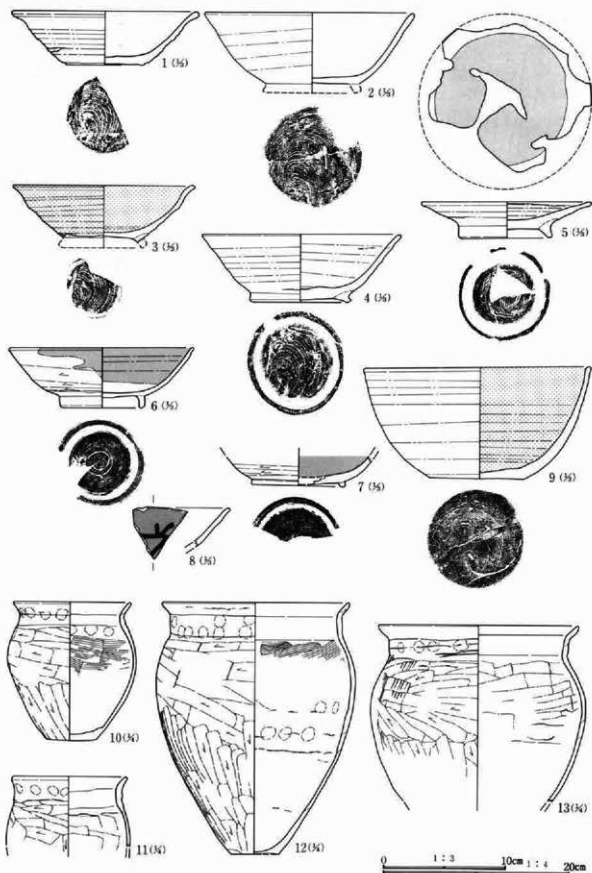


竈埋没土

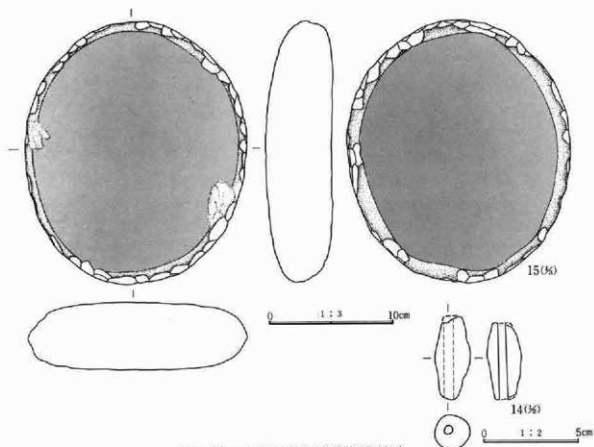
- ① 茶褐色土。少量の焼土粒と黄色粒を含む。
- ② 茶褐色土。焼土を少量に含む。
- ③ 焼土層。
- ④ 暗褐色土。焼土・炭化物を含む。
- ⑤ 黄褐色粘質土。
- ⑥ 暗褐色土。
- ⑦ 黄色土ブロック。
- ピット・貯蔵穴埋没土
- ① 茶褐色土。黄褐色土ブロックを含む。しまり貝。
- ② 黄褐色土と茶褐色土の混土層。
- ③ 暗茶褐色土。細粒で、少量の焼土を含む。
- ④ 茶褐色土。小礫を含む。

第212図 138号住居跡竈

第3章 検出された遺構と遺物



第213図 138号住居跡出土遺物実測図(1)



第214図 138号住居跡出土遺物実測図(2)

B-139号住居跡 (第215~219図、P L 43・44・91)

位置 Bj・Bk-26グリッド 床面積 16.38㎡ 主軸方位 N-73°-E

重複 160号住・165号住・170号住の覆土の一部を切って構築している。

規模と形状 東西3.90m・南北4.50mを測る長方形を呈する。

埋没土 礫を含む暗茶褐色土を主体とする。上層にはB軽石を含む暗茶褐色土が堆積する。

床面 確認面からの壁高は最大で45cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

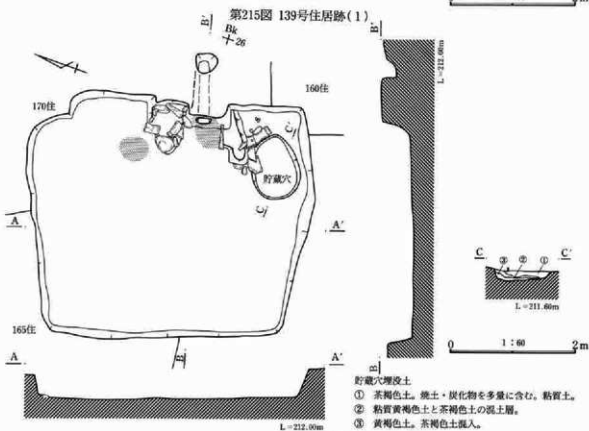
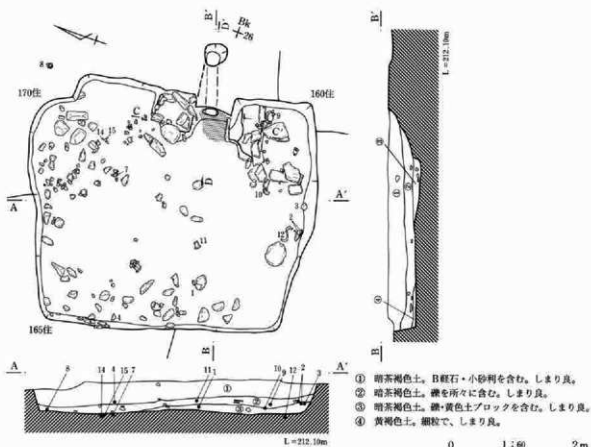
貯蔵穴 竈の右脇、住居の東南隅で検出された。規模は長軸100cm・短軸76cm・深さ20cmを測り、楕円形を呈する。

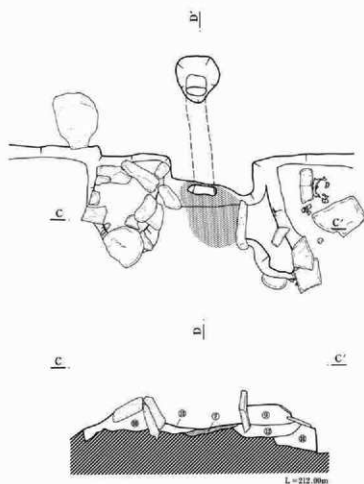
周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 遺物量は比較的多く、散乱して検出されている。土師器環1点(1)・小型甕1点(9)・甕1点(10)、須恵器環5点(2~6)・高台付塊1点(7)・壺2点(11・13)・羽釜1点(12)、灰軸陶器高台付皿1点(8)、土鍾2点(14・15)の15点を図化することができた。このうち、須恵器環4は転用甕、環6は墨書土器である。

竈 東壁のやや南よりで検出された。残存状態は比較的良く、両袖及び煙道部が明瞭に残る。両袖は多くの石材を粘土で積み重ねた石組構造である。焚口幅70cm・奥行52cm・煙道幅22cm・煙道長108cmを測る。煙道はトンネル状に掘り込まれ、断面L字形を呈する。燃焼部は広い範囲にわたって焼土が検出された。

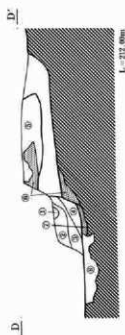
調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。





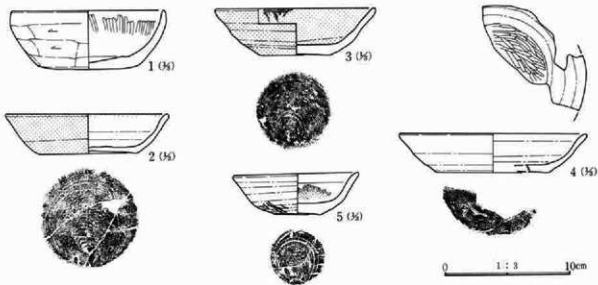
0 1:30 1m

第217図 139号住居跡電



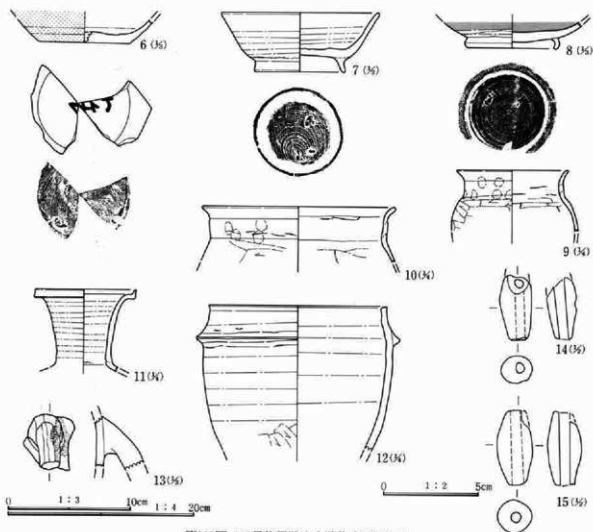
層別表

- ① 黒褐色土。B軽石を多く含む。
- ② 暗茶褐色土。細粒で、少量の焼土を含む。
- ③ 暗茶褐色土。②層より明るい色調。少量の炭化物を含む。
- ④ 黄褐色土。焼土を多量に含む。粘性あり。
- ⑤ 暗褐色土(地山)。
- ⑥ 赤褐色土。地山の暗褐色土が焼土化した部分。
- ⑦ 暗赤褐色土。焼土を多量に含む。粘性・しまりあり。
- ⑧ 暗褐色土。黄褐色土を多く含む。
- ⑨ 褐色土。細粒の黄色粒・焼土・炭化物を含む。粘土層。
- ⑩ 暗褐色土。黄色粒・炭化物・焼土粒を含む。粘性あり。
- ⑪ 黒褐色土。焼土粒・炭化物・黄色粒を含む。
- ⑫ 暗褐色土。黄褐色土ブロックを含む。粘性あり。



第218図 139号住居跡出土遺物実測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第219図 139号住居跡出土遺物実測図(2)

B-140号住居跡(第220・221図、P L44・91)

位置 Bk・Bl-29・30グリッド 床面積 30.18㎡ 主軸方位 N-12°-W

重複 南東隅を152号住に僅かに切られ、176号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西5.25m・南北5.75mを測る長方形を呈する。

埋没土 茶褐色土が所々に混入する黒褐色土を主体とする。

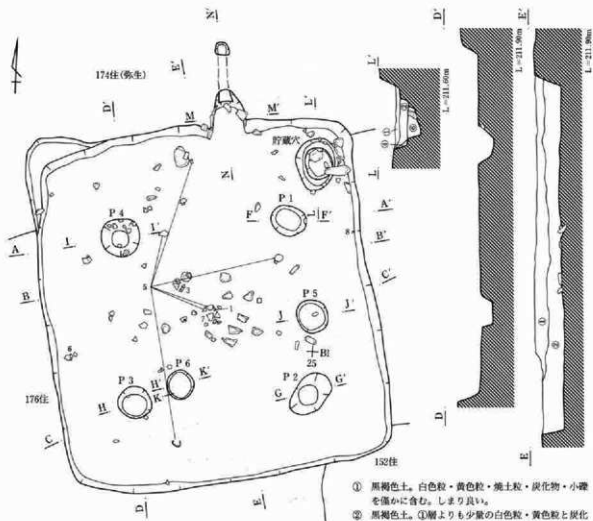
床面 比較的良好な周壁を検出することができた。確認面からの壁高は最大で48cmを測る。掘り方は認められず地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面はほぼ平坦である。

貯蔵穴 住居の北東隅で検出された。規模は長軸84cm・短軸68cm・深さ40cmを測り、楕円形を呈する。

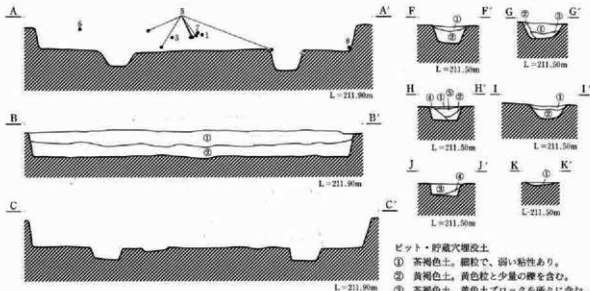
周溝 なし。

柱穴 住居のほぼ対角線上に4本(P1~P4)の主柱穴が検出された。

No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
上端長径	58cm	66cm	56cm	62cm	54cm	44cm
下端長径	40cm	22cm	38cm	29cm	43cm	40cm
深 さ	25cm	22cm	24cm	21cm	18cm	5cm



- ① 黒褐色土。白色粒・黄色粒・焼土粒・炭化物・小礫を僅かに含む。しまり具合。
- ② 黒褐色土。①層よりも少量の白色粒・黄色粒と炭化物・焼土粒・小礫・赤褐色土を含む。粘性・しまりあり。



- ピット・貯蔵穴埋込土
- ① 赤褐色土。細粒で、弱い粘性あり。
 - ② 黄褐色土。黄色粒と少量の礫を含む。
 - ③ 赤褐色土。黄色土ブロックを所々に含む。
 - ④ 赤褐色土。黄色土を含む。
 - ⑤ 暗赤褐色土。少量の炭化物を含む。
 - ⑥ 黄褐色土。少量の礫を含む。

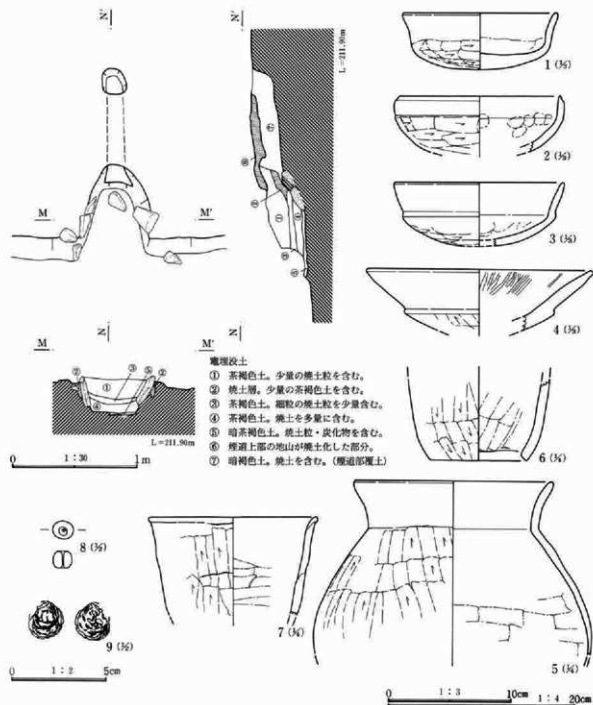
第220図 140号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

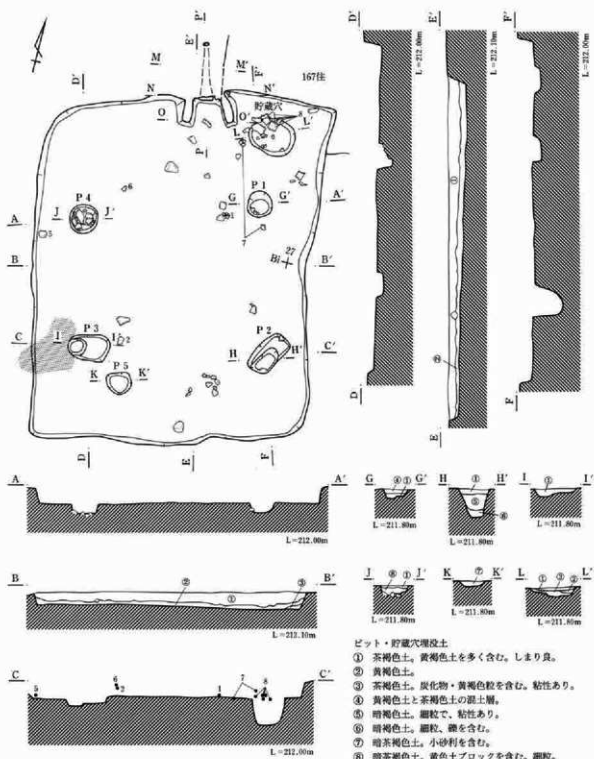
出土遺物 遺物は散乱して検出されている。図化可能な遺物は土師器環3点(1~3)・高坏1点(4)・壺1点(5)・甕2点(6・7)、土製丸玉1点(8)、炭化種子1点(9)の9点であった。

竈 北壁の中央やや東よりにあり、残存状況は比較的良好であった。焚口幅56cm・奥行58cmを測る。袖は住居内に張り出さず、袖石が北壁に貼り付いた状態で検出されている。石材は板状の砂岩が使用されている。煙道部はトンネル状に残り、上部は熱を受け赤化している。煙道はやや傾斜気味に掘られ、その後地表面に向かって直上する断面L字形を呈する。規模は煙道幅22cm・煙道長89cmを測る。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第221図 140号住居跡竈、出土遺物実測図



- ① 暗褐色土。所々に礫(50~60mm)を含み、他に白色粒を含む。
- ② 暗褐色土。黄色土ブロック・小礫を所々に含む。弱い粘性あり。
- ③ 黄色土。壁土(地山土のくずれ)。

第222図 142号住居跡

0 1:60 2m

第3章 検出された遺構と遺物

B-142号住居跡 (第222~224図、P.L.44・45・93)

位置 Bh・Bi-26・27グリッド 床面積 23.89㎡ 主軸方位 N-10°-W

重複 北東隅を167号住に切られている。

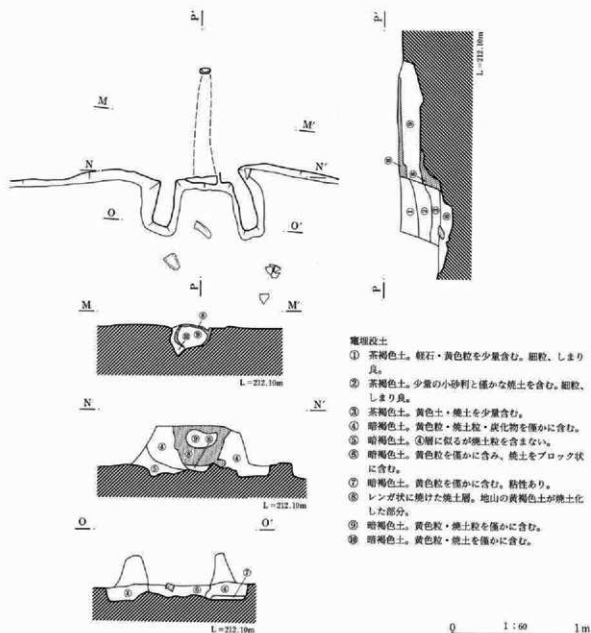
規模と形状 東西4.50m・南北5.50mを測る長方形を呈する。

埋没土 細粒の暗褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で27cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面は平坦である。

貯蔵穴 竈の右脇、住居の北東隅で検出された。規模は長軸72cm・短軸56cm・深さ16cmを測り、楕円形を呈する。貯蔵穴上部からは土師器壺1点が検出されている。

周溝 なし。



第223図 142号住居跡竈

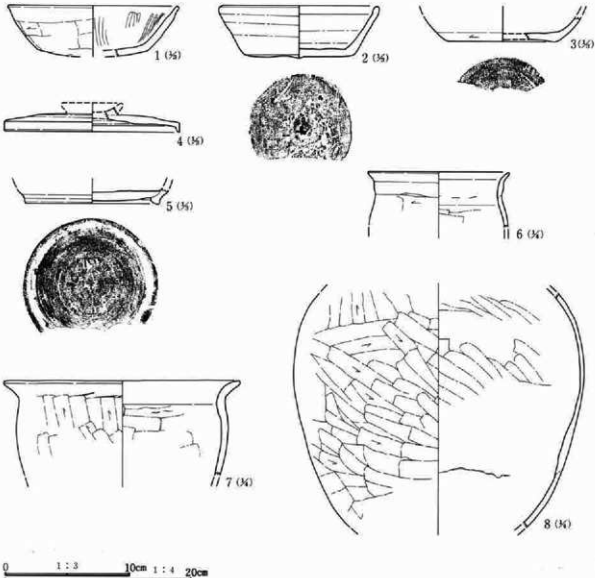
柱穴 5基のピットが検出されている。P1～P4の4基が主柱穴になるものと思われる。

No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
上端長径	40cm	47cm	66cm	46cm	40cm
下端長径	30cm	30cm	20cm	41cm	30cm
深 さ	16cm	48cm	12cm	24cm	8cm

出土遺物 遺物は、貯蔵穴を中心に住居の北東隅に集中する傾向が窺える。土師器環1点(1)・小型甕1点(6)・甕2点(7・8)、須恵器環2点(2・3)・蓋1点(4)・高台付環1点(5)の8点を図化することができた。

竈 北壁の中央やや東よりで検出された。両袖は住居内に張り出し、煙道部も明瞭に残る。焚口幅56cm・奥行40cmを測る。煙道はほぼ水平にトンネル状に掘られ、その後地表面に向かって直上する断面L字形を呈する。煙道幅24cm・煙道長95cmを測る。煙道上部及び竈の奥壁部は熱を受け赤化していた。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第224図 142号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-143号住居跡 (第225~227図、P L 45・93)

位置 B1~Bn-20・21グリッド 床面積 49.81㎡ 主軸方位 N-9°-W

重複 西壁の一部を土坑に切られている。

規模と形状 東西7.35m・南北6.87mを測る大型の住居跡である。平面形は長方形を呈する。

埋没土 黄褐色土ブロック・白色粒を含む粘質の茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で30cmを測る。地山の粘質黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面は概ね平坦である。

貯蔵穴 なし。周溝 なし。

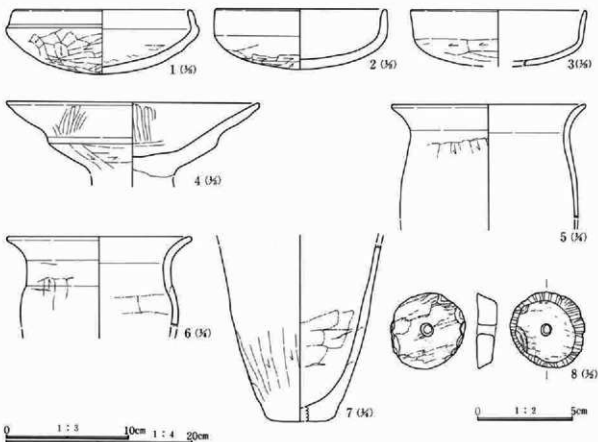
柱穴 P 1~P 4の4基が主柱穴になるものと思われる。

No	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
上端長径	64cm	42cm	54cm	55cm	72cm	62cm
下端長径	52cm	30cm	43cm	40cm	62cm	50cm
深さ	25cm	23cm	25cm	24cm	30cm	25cm

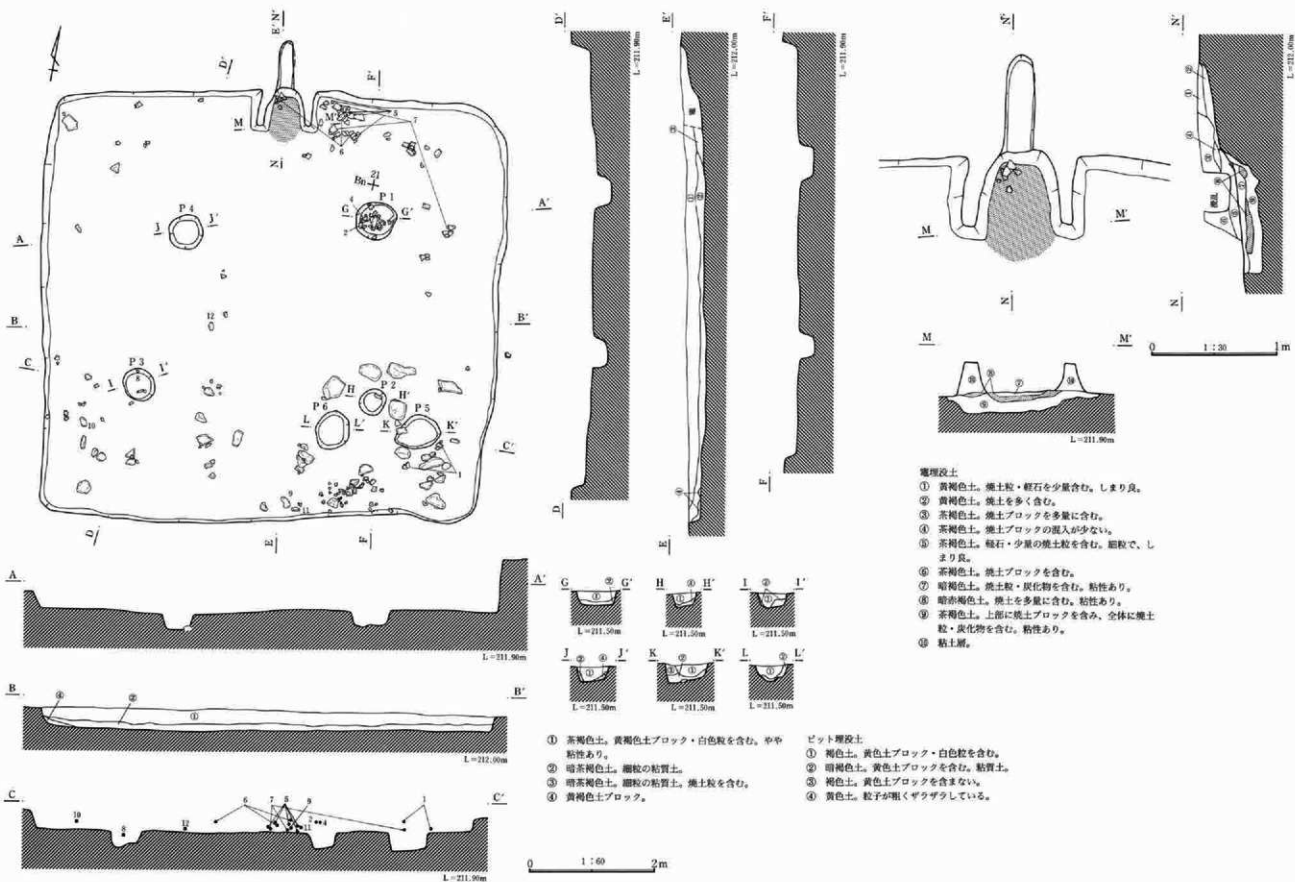
出土遺物 遺物は散乱して検出された。土師器坏3点(1~3)・高坏1点(4)・甕3点(5~7)、滑石製紡錘車1点(8)、石器4点(9~12)の12点を図化することができた。

竈 北壁中央付近で検出された。袖は住居内に張り出し、袖石等の石材は使用されていない。規模は焚口幅56cm・奥行70cm・煙道幅23cm・煙道長76cmを測る。燃焼部には広い範囲にわたって焼土が検出されている。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第225図 143号住居跡出土遺物実測図(1)



埋設土

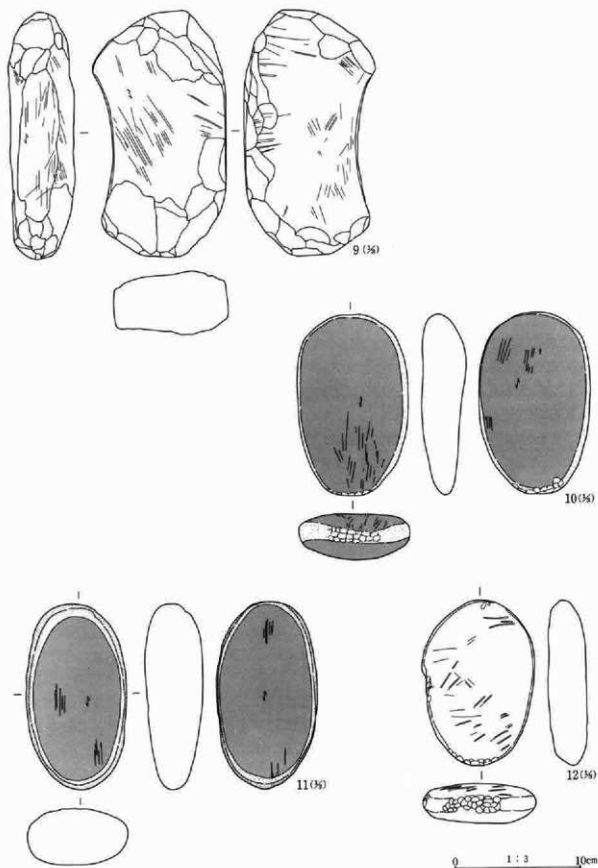
- ① 黄褐色土。焼土粒・軽石を少量含む。しまり良。
- ② 黄褐色土。焼土を多く含む。
- ③ 茶褐色土。焼土ブロックを多数に含む。
- ④ 茶褐色土。焼土ブロックの混入が少ない。
- ⑤ 茶褐色土。軽石・少量の焼土粒を含む。粗粒で、しまり良。
- ⑥ 茶褐色土。焼土ブロックを含む。
- ⑦ 暗褐色土。焼土粒・炭化物を含む。粘性あり。
- ⑧ 暗赤褐色土。焼土を多量に含む。粘性あり。
- ⑨ 茶褐色土。上部に焼土ブロックを含み、全体に焼土粒・炭化物を含む。粘性あり。
- ⑩ 粘土層。

ピット埋設土

- ① 褐色土。黄色土ブロック・白色粒を含む。
- ② 暗褐色土。黄色土ブロックを含む。粘質土。
- ③ 褐色土。黄色土ブロックを含まない。
- ④ 黄色土。粒子が粗くザラザラしている。

- ① 茶褐色土。黄褐色土ブロック・白色粒を含む。やや粘性あり。
- ② 暗茶褐色土。細粒の粘質土。
- ③ 暗茶褐色土。細粒の粘質土。焼土粒を含む。
- ④ 黄褐色土ブロック。

第226図 143号住居跡、竈



第227図 143号住居跡出土遺物実測図(2)

第3章 検出された遺構と遺物

B-144号住居跡 (第228~231図、P.L.45・46・93・94)

位置 Bk・Bl-20・21グリッド 床面積 12.98㎡ 主軸方位 N-11°-W

重複 なし。

規模と形状 東西4.02m・南北3.36mを測る長方形を呈する。

埋没土 小礫・焼土粒を含む粘質の茶褐色土を主体とする。

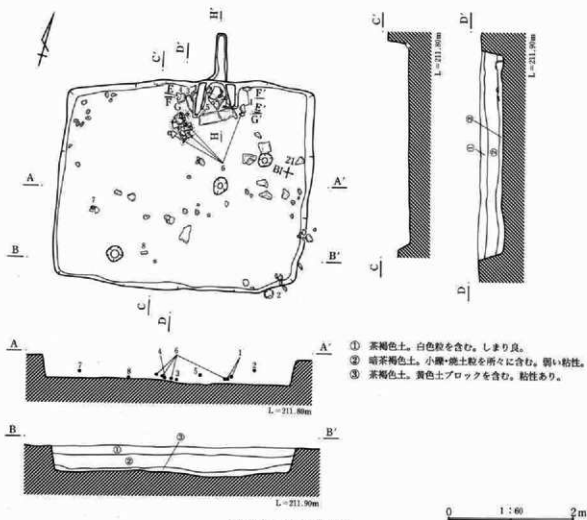
床面 確認面からの壁高は最大で40cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面は東に向かってやや傾斜が認められる。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。 柱穴 なし。

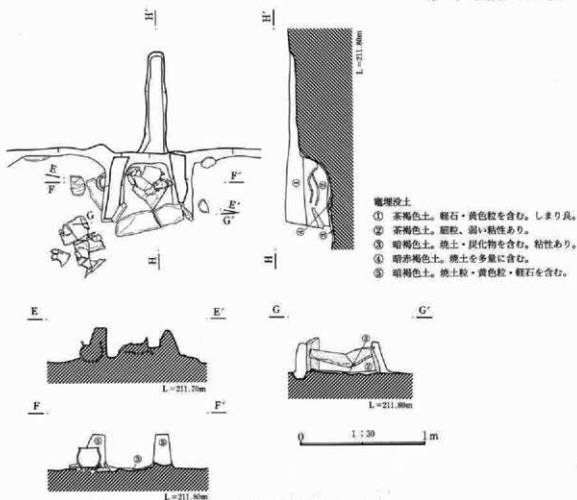
出土遺物 遺物は竈内及び竈周辺を中心に分布する。図化可能な遺物は土師器環1点(1)・碗1点(2)・小型壺2点(3・4)・壺1点(5)・甔1点(6)、須恵器壺1点(7)、及び砥石1点(8)が検出されている。

竈 北壁の中央やや東よりにあり、残存状況は比較的良好であった。焚口幅60cm・奥行53cm・煙道幅23cm・煙道長80cmを測る。両袖には板状の砂岩を利用した袖石が明瞭に残り、竈内には割れて崩落した天井石が遺存していた。遺物は竈内より壺1点(4)が、右袖脇より環1点(1)、竈左袖内より小型壺1点(2)、左袖脇より甔1点(6)が検出されている。

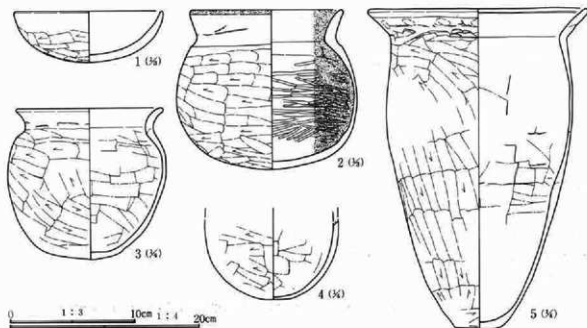
調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第228図 144号住居跡

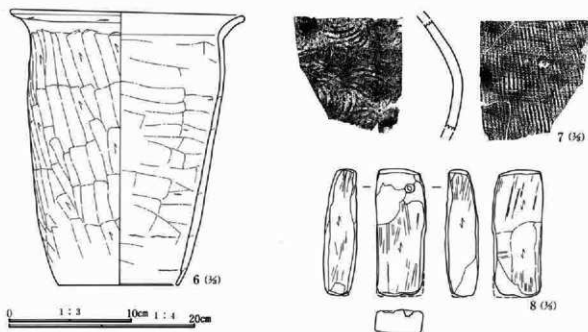


第229図 144号住居跡電



第230図 144号住居跡出土遺物実測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第231図 144号住居跡出土遺物住居跡(2)

B-145号住居跡 (第232~236図、P L 46・94)

位置 Bg・Bh-26・27グリッド 床面積 30.03㎡ 主軸方位 N-4°-W

重複 なし。

規模と形状 東西5.79m・南北5.49mを測るほぼ正方形を呈する。

埋没土 小砂利・黄色粒・小礫・焼土粒を含む茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で45cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面は概ね平坦である。

貯蔵穴 竈の右脇、住居の北東隅で検出された。規模は長軸140cm・短軸100cm・深さ26cmを測り、楕円形を呈する。

周溝 東壁・南壁・西壁下で部分的に検出できた。幅6cm~13cm・深さ3cm~18cmを測る。

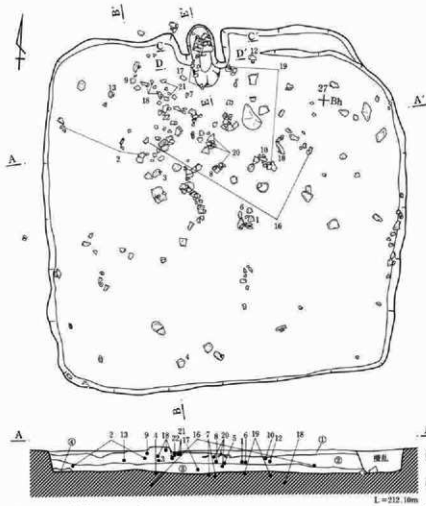
柱穴 住居のほぼ対角線上に4基の支柱穴を検出することができた。

No.	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	58cm	65cm	46cm	64cm
下端長径	30cm	28cm	39cm	16cm
深さ	30cm	30cm	32cm	38cm

出土遺物 比較的多くの遺物が検出されており、器種も豊富である。遺物は散乱して出土しているが、住居の北西部の分布密度が濃い。図化可能な遺物は、土師器杯6点(1~6)・皿1点(7)・小型甕3点(17~19)・甕3点(20・21・23)・鉢1点(22)、須恵器杯6点(8~13)・小形壺1点(15)・壺1点(16)・蓋1点(14)、砥石1点(24)の24点である。

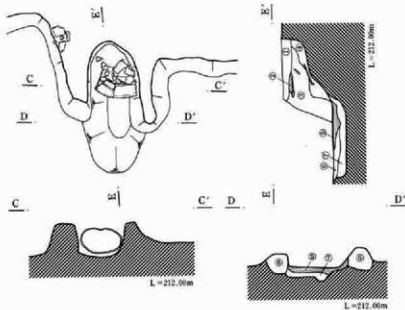
竈 北壁の中央付近で検出された。焚口幅40cm・奥行65cmを測る。竈内には甕1点(23)が横位の状態で見つかった。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第232図 145号住居跡(1)

- ① 黄色土(地山のくずれか)。少量の暗茶褐色土を含む。
- ② 茶褐色土。小砂利・黄色粒・焼土粒・小礫を含む。
- ③ 暗茶褐色土。細粒で、小砂利・白色粒を含む。
- ④ 粘質黄色土(地山のくずれ)。

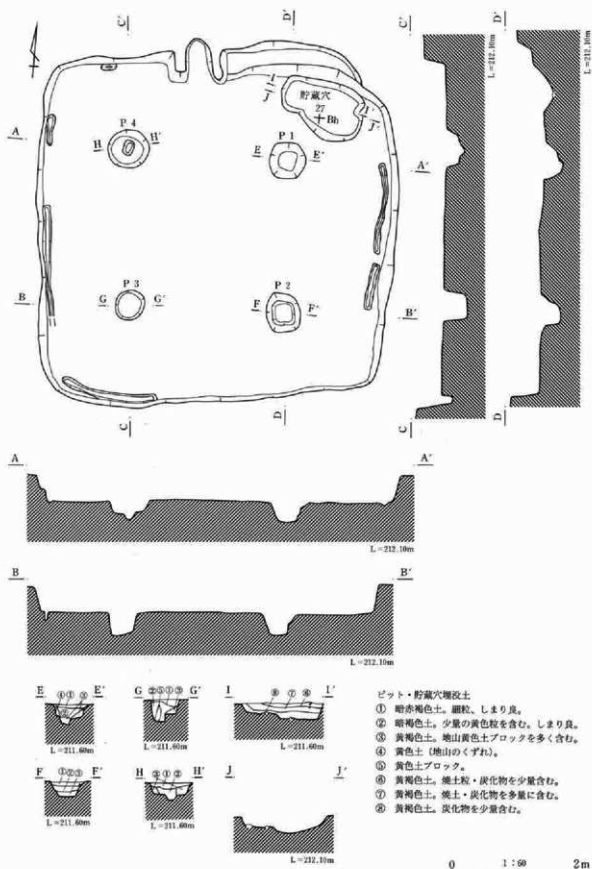


第233図 145号住居跡竈

竈層位土

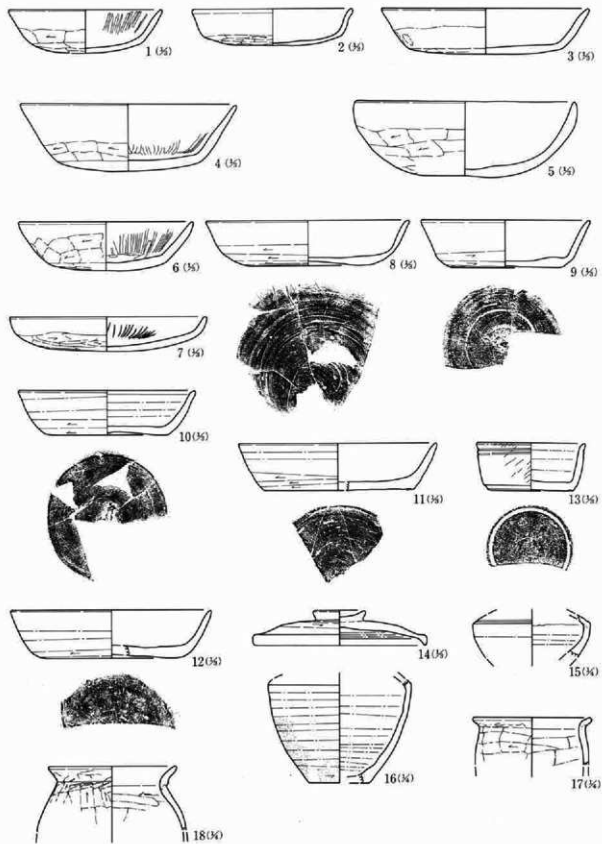
- ① 茶褐色土。白色粒を含む。しまり良。
- ② 焼土层。
- ③ 暗茶褐色土。細粒で、粘質。
- ④ 暗茶褐色土。黄色土を含む。
- ⑤ 暗赤褐色土。焼土を多く含む。黄色粒・炭化物が僅かに混じる。細粒。
- ⑥ 暗褐色土。黄色粒・焼土を含み、軽石が僅かに混じる。
- ⑦ 暗赤褐色土。⑥層より焼土の混入が少ない。

第3章 検出された遺構と遺物



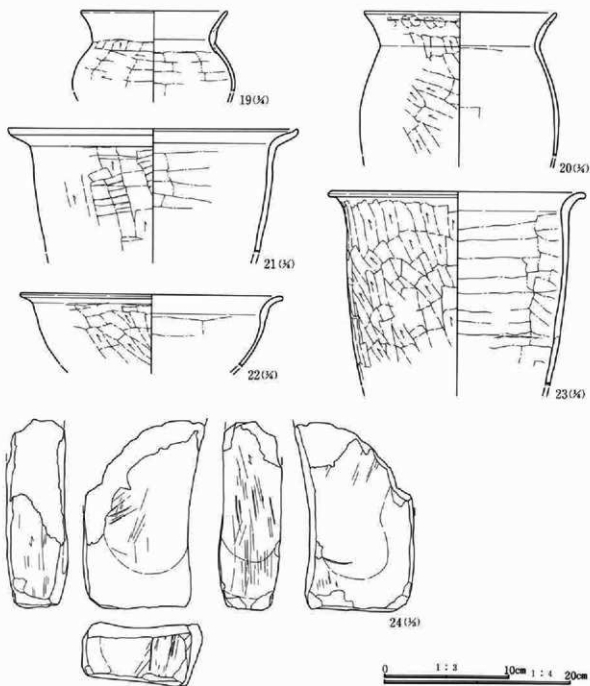
第234図 145号住居跡(2)

第2節 住居跡と出土遺物



第235図 145号住居跡出土遺物実測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第236図 145号住居跡出土遺物実測図(2)

B-146号住居跡 (第237~239図、P.L.46・94・95)

位置 B1-22グリッド 床面積 17.50㎡ 主軸方位 N-21'-W

重複 なし。

規模と形状 東西4.35m・南北4.41mを測る正方形を呈する。

埋没土 黄褐色土ブロックと白色粒を含む茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で17cmを測る。地山の粘質黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

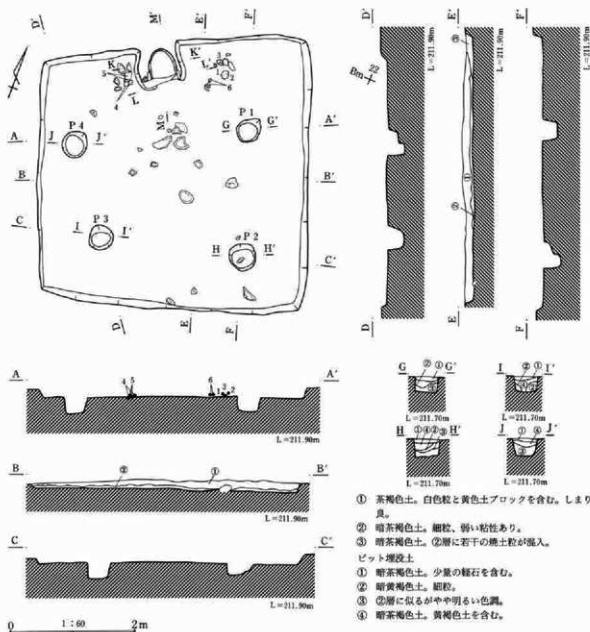
柱穴 P1～P4の4基が支柱穴になるものと思われるが、位置的に疑問が残る。

No	P1	P2	P3	P4
上端長径	40cm	42cm	40cm	44cm
下端長径	30cm	36cm	30cm	32cm
深さ	24cm	26cm	24cm	24cm

出土遺物 遺物は竈の両脇を中心に分布する。図化可能な遺物は土師器環4点(1～4)・埴2点(5・6)、土製支脚1点(7)の7点である。

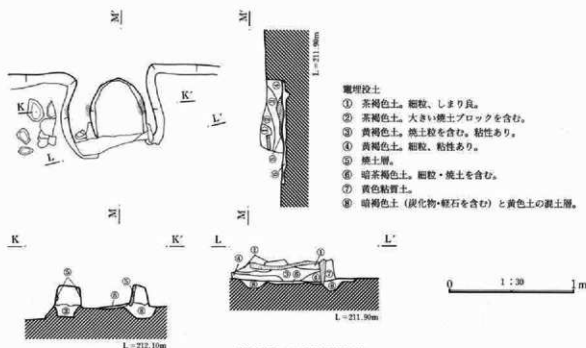
竈 北壁の中央やや西よりで検出された。焚口幅46cm・奥行54cmを測る。板状の砂岩を利用した袖石及び崩落した天井石が検出されている。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



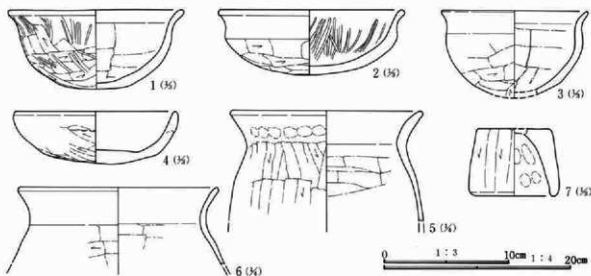
第237図 146号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



- 埋没土
- ① 茶褐色土。細粒、しまり良。
 - ② 茶褐色土。大きい焼土ブロックを含む。
 - ③ 黄褐色土。焼土粒を含む。粘性あり。
 - ④ 黄褐色土。細粒。粘性あり。
 - ⑤ 焼土層。
 - ⑥ 暗茶褐色土。細粒・焼土を含む。
 - ⑦ 黄色粘質土。
 - ⑧ 暗褐色土（炭化物・軽石を含む）と黄色土の混土層。

第238図 146号住居跡画



第239図 146号住居跡出土遺物実測図

B-147号住居跡（第240・241図、P L 47・95）

位置 Bj・Bk-22・23グリッド 床面積 21.26㎡ 主軸方位 N-14°-W

重複 164号住の東壁の一部を切って構築している。

規模と形状 東西4.56m・南北4.80mを測る正方形を呈する。

埋没土 白色粒・黄色粒を含む細粒の黄褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で27cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面は概ね平坦であるが、南に向かって僅かに傾斜が認められる。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

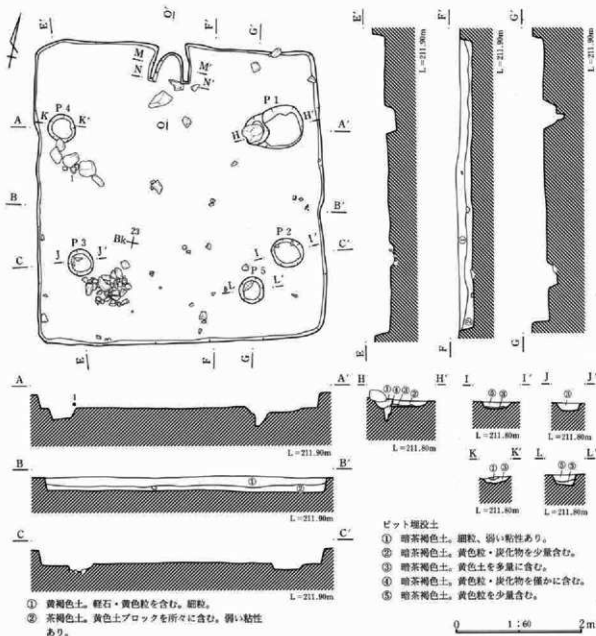
柱穴 5基のピットが検出されている。P1～P4の4基が主柱穴に相当するものと思われる。

No	P1	P2	P3	P4	P5
上端長径	44cm	52cm	41cm	44cm	42cm
下端長径	24cm	42cm	32cm	33cm	30cm
深さ	32cm	10cm	12cm	10cm	16cm

出土遺物 遺物は極めて少なく、散乱して検出された。図化可能な遺物は僅かに土師器片1点のみであった。住居の南西隅には磨礪石状の石がまとめて検出されている。

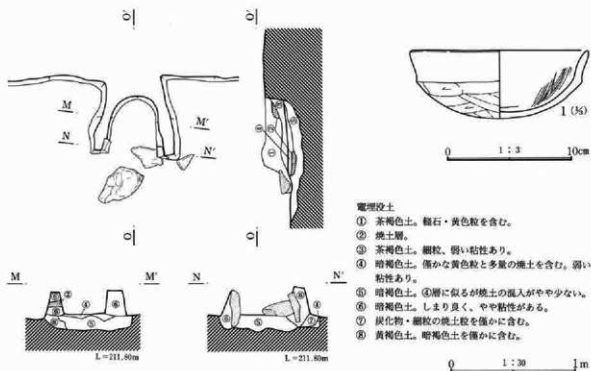
竈 北壁の中央付近で検出された。焚口幅39cm・奥行47cmを測る。両袖は住居内に張り出し、両袖石及び竈前に崩落した天井石が残存する。

調査所見 出土遺物及び住居の形態等から古墳時代後期の住居跡と思われる。



第240図 147号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第241図 147号住居跡竈、出土遺物実測図

B-148号住居跡 (第242~244図、P L 47・95)

位置 Bi・Bj-23~25グリッド 床面積 35.71m² 主軸方位 N-7°-W

重複 北壁の上部及び竈の煙道部を152号住に切れ、161号住の西半を切って構築している。

規模と形状 東西5.85m・南北6.30mを測る長方形を呈する。

埋没土 黄色土を含む茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で30cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面はほぼ平坦である。

貯蔵穴 住居の東南隅で検出された長軸74cm・短軸62cm・深さ31cmを測る楕円形のピットが貯蔵穴に相当するものと思われる。

周溝 なし。

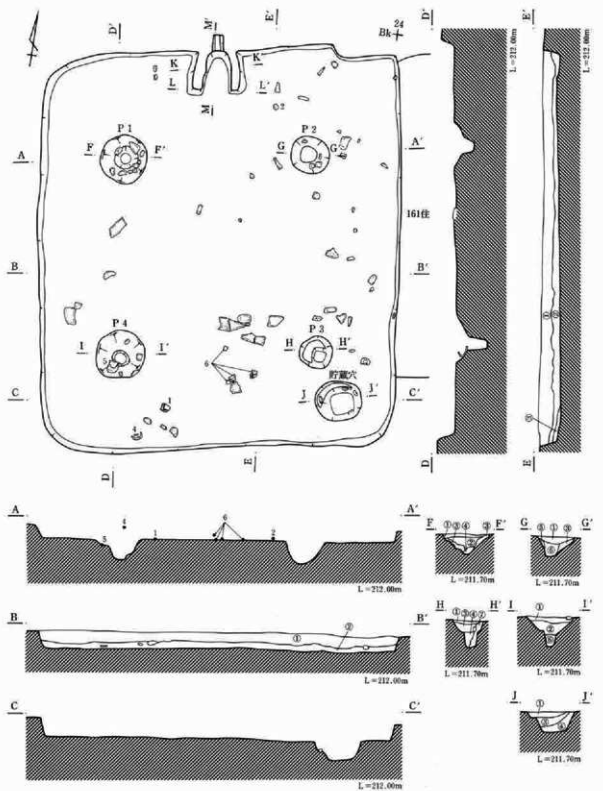
柱穴 住居の対角線上で検出された4基のピットが柱穴に相当するものと思われる。

No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	77cm	62cm	54cm	80cm
下端長径	17cm	28cm	18cm	19cm
深さ	31cm	30cm	41cm	45cm

出土遺物 遺物は量的に少なく、南壁下付近を中心に分布する傾向が窺える。図化可能な遺物は土師器環3点(1~3)・埴1点(4)・小型甕1点(5)・甕1点(6)の6点である。

竈 北壁の中央付近で検出された。焚口幅42cm・奥行67cm・煙道幅17cmを測る。煙道は152号住に切れ僅かに残るのみである。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。



- ① 茶褐色土。軽石・黄色土ブロックを含む。
- ② 茶褐色土。黄色土を多く含む。
- ③ 黄色土（地山のくずれ）。

ピット・貯蔵穴埋設土

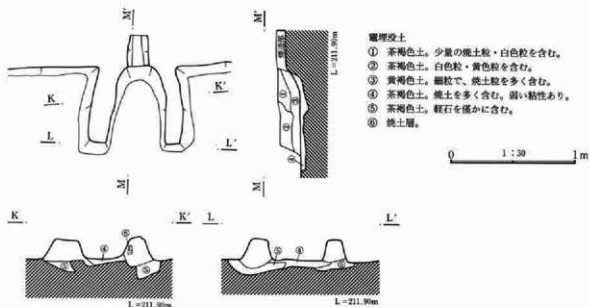
- ① 暗茶褐色土。軽石・黄色粒を含む。
- ② 暗茶褐色土。細粒で、少量の炭化物を含む。
- ③ 暗茶褐色土。黄色土ブロックを含む。
- ④ 暗茶褐色土。細粒で、粘性あり。

- ⑤ 茶褐色土。黄色粒を多く含む。
- ⑥ 黄色土と茶褐色土の混土层。
- ⑦ 黄色土。練泥じりの茶褐色土を含む。

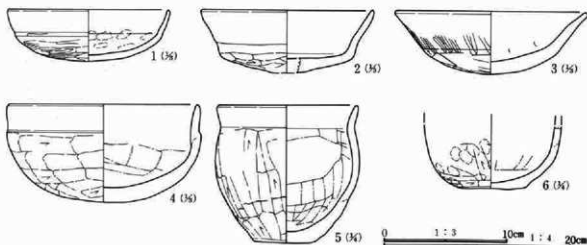
0 1:60 2m

第242図 148号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物



第243図 148号住居跡竈



第244図 148号住居跡出土遺物実測図

B-149号住居跡 (第245~249図、P L 47・48・95)

位置 Bi・Bj-27・28グリッド 床面積 26.17㎡ 主軸方位 N-10°-W

重複 125号住に南東隅を切られている。

規模と形状 東西5.10m・南北4.98mを測るほぼ正方形を呈する。

埋没土 小礫・軽石を含む暗茶褐色土を主体とする。住居の西中央部に埋没土中に多量の礫が検出された。

床面 確認面からの壁高は最大で33cmを測る。地山の礫混じりの暗茶褐色土を掘り込んで床面としている。

床面は西側にむかって傾斜が認められる。

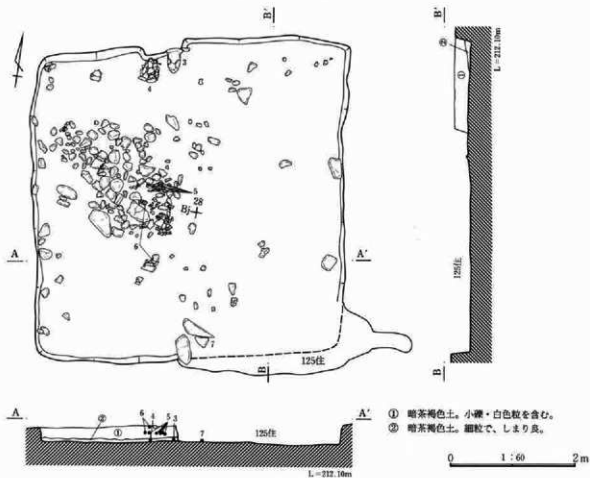
貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

柱穴 南壁際に1基のピットが検出されたが、主柱穴は検出されなかった。

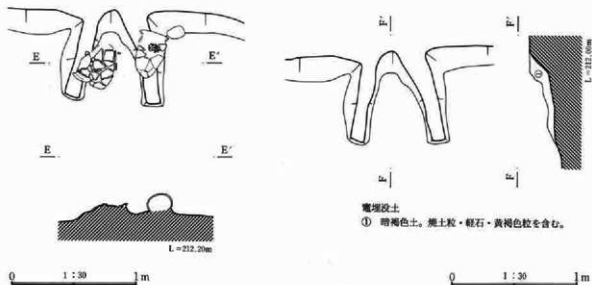
出土遺物 図化可能な遺物は土師器長胴壺3点(3~5)・埴1点(1)・ミニチュア土器1点(2)、須恵器壺1点(6)、敲石1点(7)の7点である。

竈 北壁の中央やや西よりで検出された。残存状態は非常に悪く、両袖下部が僅かに残るのみである。焚口幅50cm・奥行70cmを測る。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

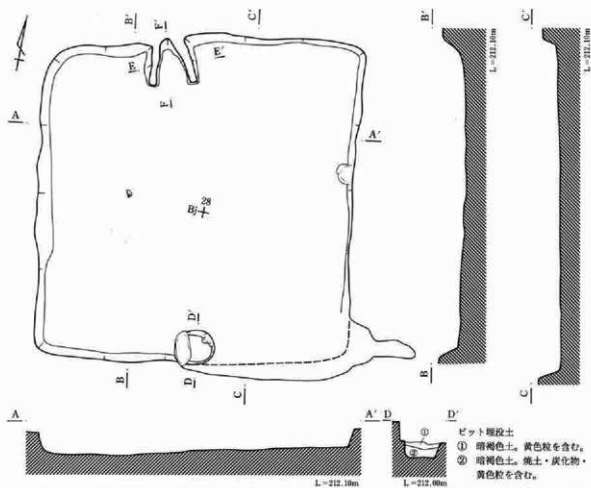


第245図 149号住居跡(1)

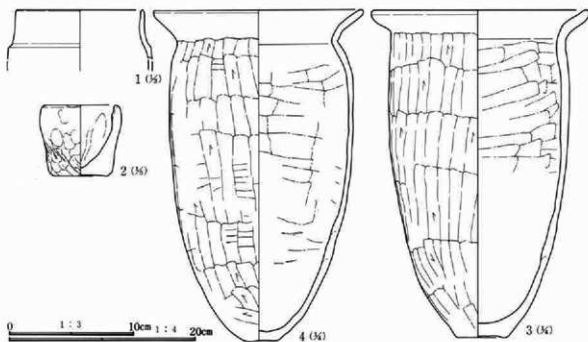


第246図 149号住居跡竈内遺物出土図、竈

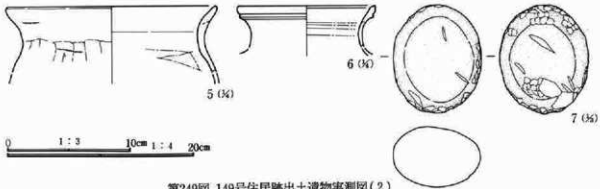
第3章 検出された遺構と遺物



第247図 149号住居跡(2)



第248図 149号住居跡出土遺物実測図(1)



第249図 149号住居跡出土遺物実測図(2)

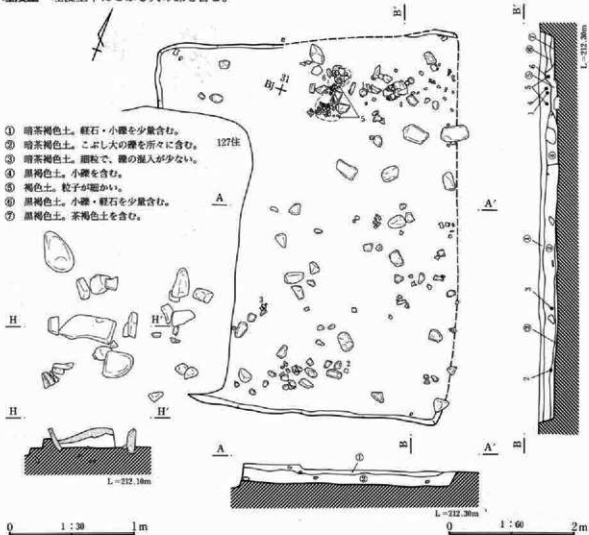
B-150号住居跡 (第250~252図、P L 48・95・96)

位置 Bi・Bj-30グリッド 床面積 不明。 主軸方位 N-20°-W

重複 127号住に西壁を切られ、166号住の上部を切って構築している。

規模と形状 重複部が多く規模・形状ともに不明瞭である。

埋没土 埋没土中にこぶし大の礫を含む。



第250図 150号住居跡(1)、電

第3章 検出された遺構と遺物

床面 下部の166号住との重複により、明瞭な床面を検出することができなかった。

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。

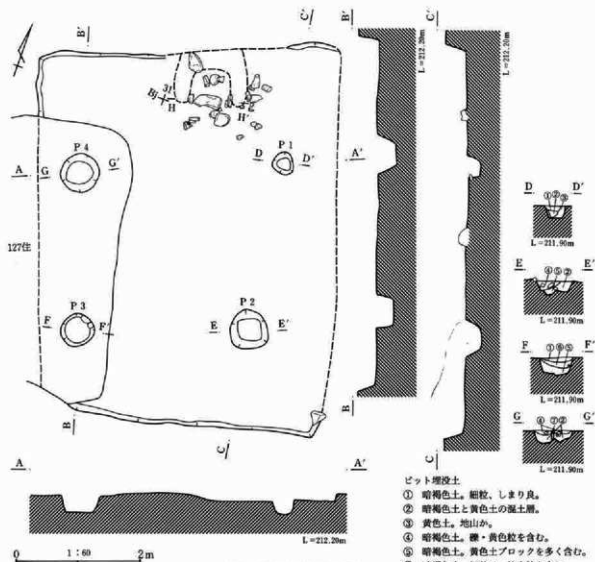
柱穴 4基の主柱穴が検出されている。

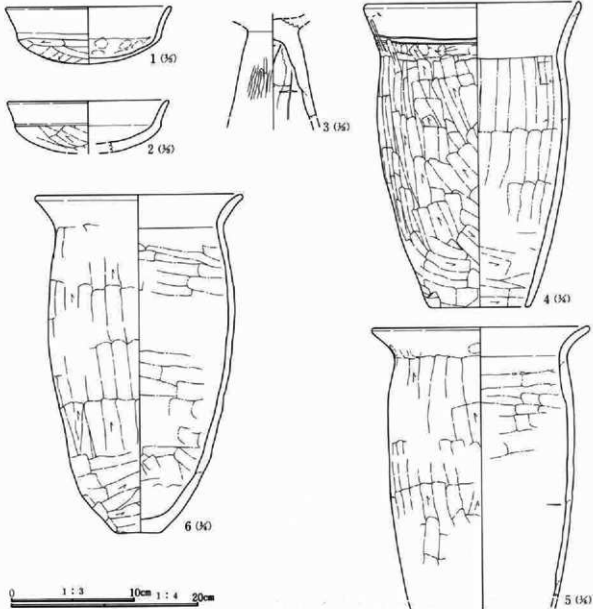
No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	34cm	63cm	44cm	60cm
下端長径	22cm	46cm	42cm	45cm
深さ	22cm	30cm	25cm	28cm

出土遺物 遺物は竈周辺に集中する傾向が窺えた。図化可能な遺物は、土師器環2点(1・2)・高環1点(3)・甕1点(4)・長胴甕2点(5・6)の6点である。

竈 残存状態は大変悪く、詳細は不明である。住居の北壁より両袖石・天井石・支柱石のみを検出できたが、両袖部とも破壊されており規模等は不明である。竈内及び竈前部より長胴甕2点が、竈の右脇より完形の環1点(1)・甕1点(4)が検出されている。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。





第252図 150号住居跡出土遺物実測図

B-152号住居跡 (第253~255図, P L49・96)

位置 Bk-24グリッド 床面積 17.08㎡ 主軸方位 N-102°E

重複 140号住・175号住・176号住の覆土の一部を切って構築される。

規模と形状 東西3.63m・南北4.60mを測る長方形を呈する。

埋没土 堆積は薄く、細粒の茶褐色土を主体とする。

床面 掘り込みが浅く、確認面からの壁高は3cm~17cmを測るのみである。地山の粘質黄色土を掘り込んで床面としているが、西側は140号住・175号住・176号住の覆土を切って掘り込んでいる。掘り方には、竈前の小規模なピット1基と北東隅の120cm×104cmのピットを含めて3基のピットが検出された。

貯蔵穴 竈の右脇、住居の東南隅で検出された。規模は長軸86cm・短軸75cm・深さ34cmを測り、平面形は楕円形を呈する。貯蔵穴上部には、竈の用材と思われる熱を受けやや赤化した砂岩が集中して検出された。ま

第3章 検出された遺構と遺物

た、完形の坏（1）も検出されている。

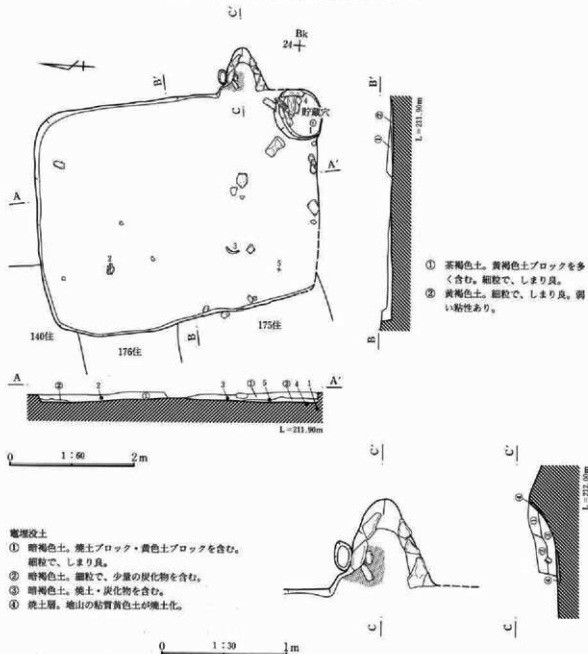
周溝 なし。

柱穴 掘り方で3基のピットが検出されているが柱穴に相当するものは認められなかった。

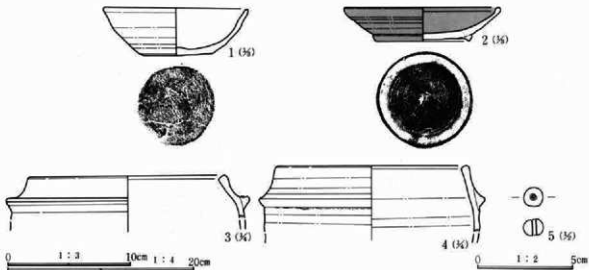
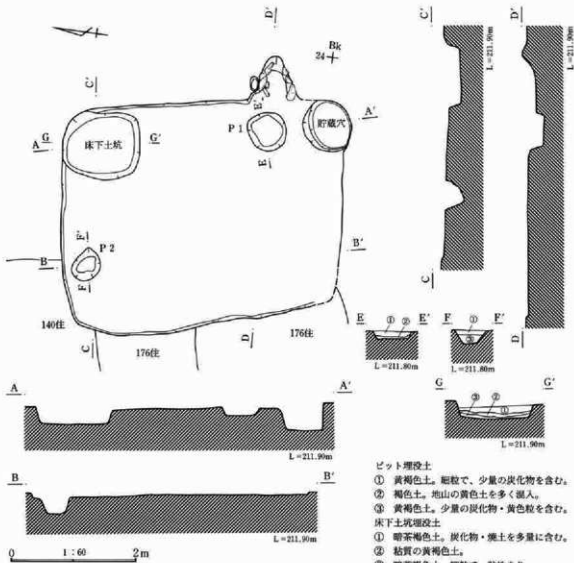
出土遺物 遺物は少なく、散在して分布している。図化可能な遺物は、須恵器坏1点（1）・羽蓋2点（3・4）、灰軸陶器高台付皿1点（2）、土製丸玉1点（5）である。

竈 東壁の南よりで検出された。焚口幅62cm・奥行74cmを測る。

調査所見 掘り込みがたいへん浅く、他住居との重複部が多いためプランの確認も困難をきわめた。特に、南壁の確認が明瞭にできなかったため、南壁が当初のプランよりも70cm程外側に広がっている。竈脇の貯蔵穴も当初は確認できなかった。出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第253図 152号住居跡（1）、竈



第3章 検出された遺構と遺物

B-153号住居跡 (第256~258図、P L50・96)

位置 Bn-23グリッド 床面積 12.20㎡ 主軸方位 N-100°-E

重複 171号住・172号住と重複、いずれよりも新しい。

規模と形状 東西3.69m・南北3.45mを測る正方形を呈する。

埋没土 少量の焼土粒・炭化物を含む暗褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で25cmを測る。地山の粘質黄褐色土を掘り込んで床面としている。東に向かって僅かに傾斜が認められるが、床面は概ね平坦である。

貯蔵穴 住居の東南隅で検出された。規模は長軸100cm・短軸86cm・深さ27cmを測り、平面形は楕円形を呈する。

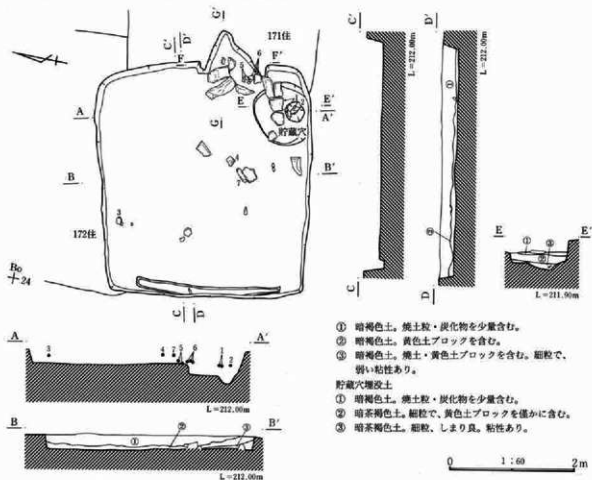
周溝 西壁下に検出された。幅8cm~17cm・深さ10cmを測ることができる。

柱穴 なし。

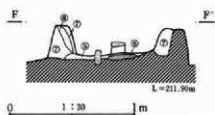
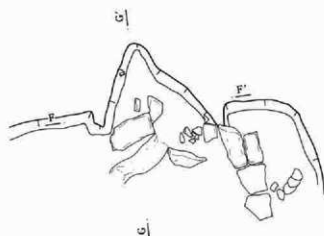
出土遺物 遺物は量的には少なく、竈右袖部及び貯蔵穴上部にやや集中する他は散在して検出された。土師器環1点(1)・甕1点(6)、須恵器の環1点(2)・高台付埴2点(3・4)・高台付皿1点(5)、敲石1点(7)を図化することができた。

竈 東壁の中央やや南よりで検出された。焚口幅72cm・奥行66cmを測る。竈周辺に板状の砂岩が散在しており、残存状況は不良である。

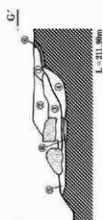
調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と考えられる。



第256図 153号住居跡

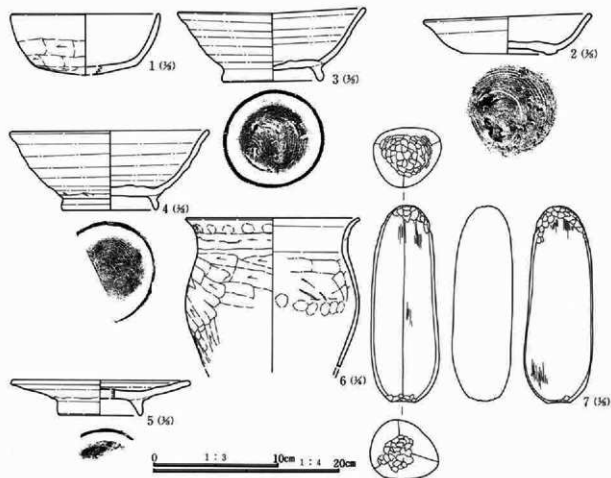


第257図 153号住居跡竈



竈埋設土

- ① 暗褐色土。焼土を多く含む。
- ② 暗褐色土。焼土粒を少量含む。細粒。
- ③ ②層に似るがやや暗い色調。粘質。
- ④ 暗褐色土。焼土・炭化物を多く含む。
- ⑤ 暗褐色土。焼土・炭化物を多量に含む。細粒。
- ⑥ レンガ状に焼けた焼土層。地山が焼土化した部分。
- ⑦ 暗褐色土。多量の白色粒と僅かな焼土粒を含む。しまり貝。
- ⑧ 暗褐色土。少量の白色粒と多量の焼土を含む。



第258図 153号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-154号住居跡 (第259~261図、P L 50・96)

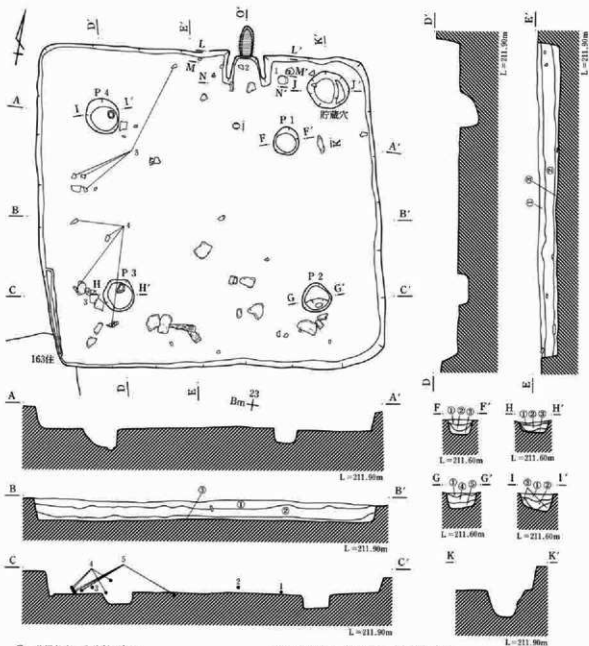
位置 Bm-22・23グリッド 床面積 26.68m² 主軸方位 N-14°-W

重複 南西隅で163号住と僅かに重複。163号住の北東隅を切っている。

規模と形状 東西5.43m・南北5.10mを測る正方形を呈する。

埋没土 小礫混じりの茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で38cmを測る。立ち上がりは僅かに外傾する。地山の粘質黄色土を掘り込ん



- ① 茶褐色土。小砂利を含む。
- ② 茶褐色土。礫・白色粒を含む。
- ③ 暗茶褐色土。細粒、黄色土ブロックを所々に含む。
ピット・貯蔵穴埋没土
- ④ 暗茶褐色土。細粒で、黄色土が混入。しまり良。

- ⑤ 暗褐色土。サラサラした黄色砂を含む。
- ⑥ 褐色土。サラサラした黄色砂を多く含む。
- ⑦ ①層に似るが、黄色土の混入が多い。
- ⑧ 地山の粘質黄色土と暗茶褐色土の混土。

第259図 154号住居跡

0 1:60 2m

で床面としている。凹凸が少なくほぼ平坦な床面である。

貯蔵穴 竈の右脇、住居の北東隅で検出された。規模は長軸66cm・短軸56cm・深さ40cmを測り、平面形は楕円形を呈する。

周溝 西壁下の一部に検出された。幅6cm～12cm・深さ4cm程であった。

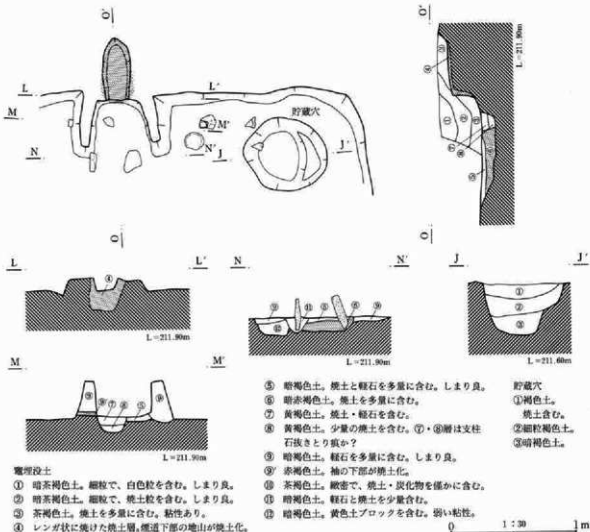
柱穴 住居プランのほぼ対角線上に4基の支柱穴が検出された。

No.	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	44cm	47cm	52cm	60cm
下端長径	34cm	40cm	42cm	44cm
深さ	24cm	28cm	17cm	34cm

出土遺物 遺物は量・種類ともに少なく、散在して出土している。僅かに土師器埴土2点(1・2)・埴土3点(3～5)を図化したにすぎない。

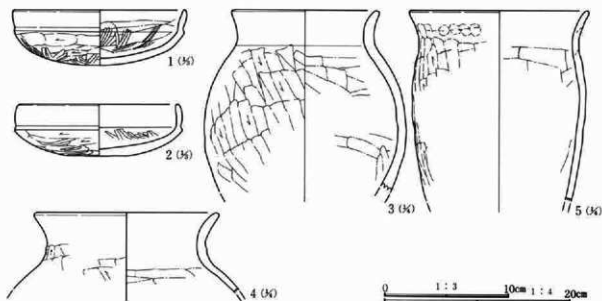
竈 北壁の中央やや東よりにあり、両袖部を残す。左袖には砂岩の板状の袖石が明瞭に残る。幅46cm・奥行44cm・煙道長44cm・煙道幅22cmを測る。奥壁及び煙道下部には焼土が明瞭に残る。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。



第260図 154号住居跡竈、貯蔵穴

第3章 検出された遺構と遺物



第261図 154号住居跡出土遺物実測図

B-155号住居跡 (第262・263・265図、P L50・51・97)

位置 Bn-24グリッド 床面積 (11.13㎡) 主軸方位 N-82°W

重複 156号住の北壁上部・173号住の北壁を切って構築している。

規模と形状 東西3.72m・南北3.30mを測るやや歪んだ長方形を呈する。

埋没土 黄色土ブロックを含む暗褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で25cmを測る。調査時に床面の認定を誤り、掘り過ぎてしまった。地山の粘質茶褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 遺物は量・種類共に少ない。図化可能な遺物は、須恵器環2点(1・2)・高台付埴1点(3)、灰釉陶器高台付埴1点(4)、土師器壺1点(5)の5点である。

竈 東壁の中央やや南よりで検出された。焚口幅50cm・奥行69cmを測ることができる。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と考えられる。

B-156号住居跡 (第262・264・265図、P L51・97)

位置 Bm・Bn-24グリッド 床面積 10.26㎡ 主軸方位 N-93°E

重複 155号住に住居の上部を切られ、173号住の東半を切っている。

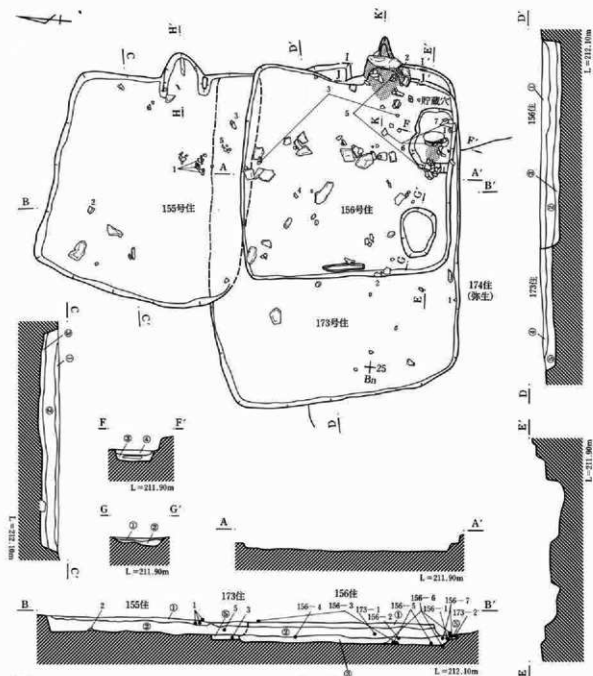
規模と形状 東西3.42m・南北3.36mを測る正方形を呈する。

埋没土 焼土を含む暗茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で30cmを測る。173号住の覆土及び地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 住居の東南隅で検出された。規模は長軸94cm・短軸54cm・深さ17cmを測り、やや歪んだ楕円形を呈する。貯蔵穴上部より須恵器環1点(1)、土師器壺3点(5~7)が検出されている。

周溝 西壁下の一部に検出された。幅11cm・深さ4cmを測る。



155住

- ① 暗褐色土。軽石を含む。細粒で、しまり良。
- ② 暗褐色土。黄色土ブロックを含む。細粒で、やや粘性あり。
- ③ 地山。床面掘り抜き。

156住・173住

- ① 暗茶褐色土。軽石を多量に含む。細粒で、しまり良。
- ② 暗茶褐色土。焼土を含む。細粒で、しまり良。
- ③ 暗茶褐色土。少量の黄色土ブロック・炭化物・焼土を含む。弱い粘性。
- ④ 黒褐色土。サラサラした砂状の粒子を少量含む。
- ⑤ 暗褐色土。細粒で、やや粘性あり。焼土粒・炭化物を含む。

156住ビット・貯蔵穴埋設土

- ① 暗褐色土。焼土粒・炭化物を少量含む。
- ② 暗褐色土。地山の暗褐色土を含む。
- ③ 暗褐色土。焼土・黄色粒を含む。
- ④ 茶褐色土。炭化物を少量含む。

0 1:60 2m

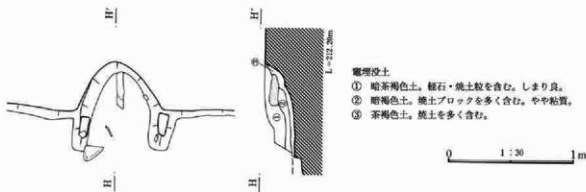
第262図 155・156・173号住居跡

柱穴 なし。

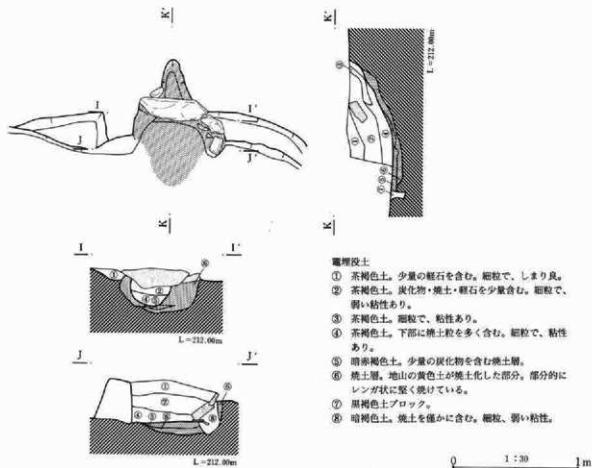
出土遺物 竈及び貯蔵穴周辺に集中する傾向が窺える。須恵器環3点(1~3)・高台付埴1点(4)、土師器壺3点(5~7)を図化することができた。

竈 東壁の中央よりやや南よりで検出された。焚口幅60cm・奥行76cmを測る。竈上部には、天井石に使用されたと思われる砂岩の板石が検出された。竈内より須恵器環1点(2)が検出されている。

調査所見 調査時に155号住との新旧の認定を誤り、本住居を先行して掘ってしまった。出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第263図 155号住居跡竈



第264図 156号住居跡竈

B-173号住居跡 (第262・266図、P L51・100)

位置 Bm・Bn-24・25グリッド 床面積 20.34㎡ 長軸方位 N-96°-E

重複 155号住・156号住に住居の大半を切られている。

規模と形状 重複により住居プランはやや不明瞭であるが残存部の形状から、東西5.28m・南北3.96mを測る縦長の長方形を呈するものと思われる。

埋没土 焼土粒・炭化物を含む暗褐色土を主体とする。

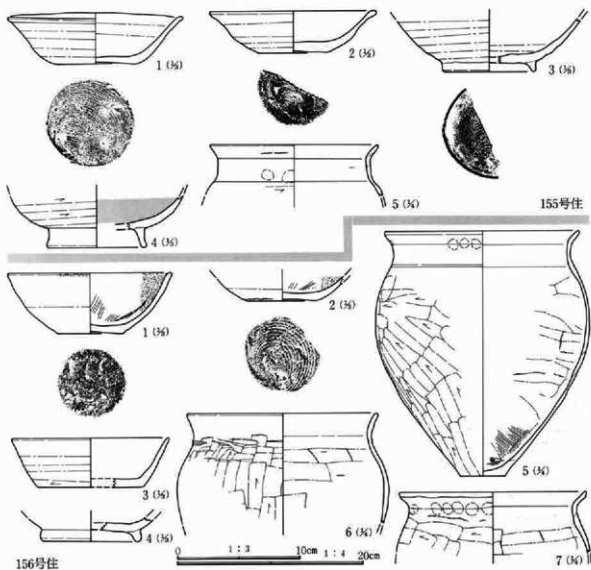
床面 確認面からの壁高は最大で27cmを測る。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としているが東半は156号住に切られている。

貯蔵穴 不明。 周溝 不明。 柱穴 不明。

出土遺物 遺物は極めて少なく、散乱して検出されている。図化可能な遺物は須恵器環1点、土師器環1点の2点である。

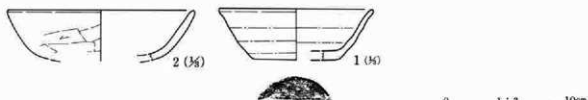
竈 不明。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と思われる。



第265図 155・156号住居跡出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物



第266図 173号実測図出土遺物実測図

B-157号住居跡 (第267~269図、P L51・52・97)

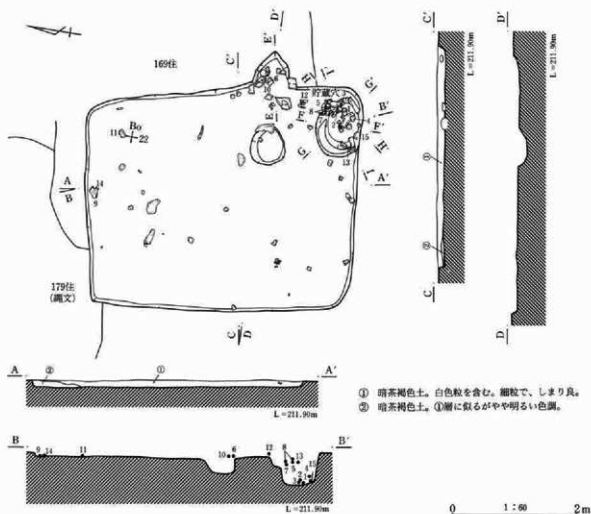
位置 Bn-21・22グリッド 床面積 14.96㎡ 主軸方位 N-85°-E

重複 169号住・179号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西3.51m・南北4.41mを測る長方形を呈する。

埋没土 埋没土の堆積は薄く、細粒の暗茶褐色土を主体とする。

床面 掘り込みは浅く、確認面からの深さは最大で僅かに12cmである。立ち上がりは僅かに外傾する。地山の黄色粘質土を掘り込んで床面としている。床面は概ね平坦である。



- ① 暗茶褐色土。白色粒を含む。細粒で、しまり具。
- ② 暗茶褐色土。①層に似るがやや明るい色調。

第267図 157号住居跡

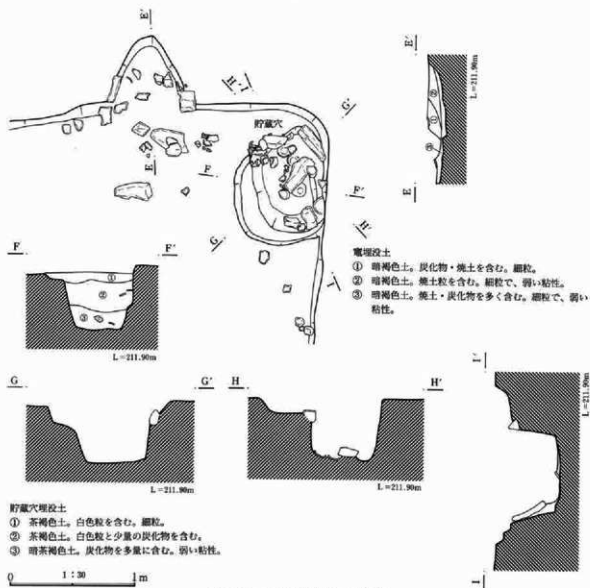
貯蔵穴 住居の東南隅で検出された。規模は長軸98cm・短軸74cm・深さ45cmを測り、平面形はやや歪んだ楕円形を呈する。貯蔵穴内及び貯蔵穴上部からは須恵器環4点(1~4)・内黒の高台付埴1点(5)・高台付埴1点(7)・灰軸陶器高台付皿1点(8)・羽釜1点(13)等、多数の遺物が出土している。また、壁面には加工された板状の砂岩が残存しており、貯蔵穴内にも同様の石が残っていることから、貯蔵穴の周りに加工石を張り込んで使用していた状況が考えられる。

周溝 なし。**柱穴** 竈前にピットが1基検出されたのみである。

出土遺物 遺物は竈及び貯蔵穴周辺を中心に分布する。比較的量も多く、種類も豊富である。須恵器環4点(1~4)・高台付埴2点(5・6)・高台付埴1点(7)・羽釜2点(12・13)・灰軸陶器4点(8~11)・土鏝1点(14)・磨石1点(15)を図化することができた。

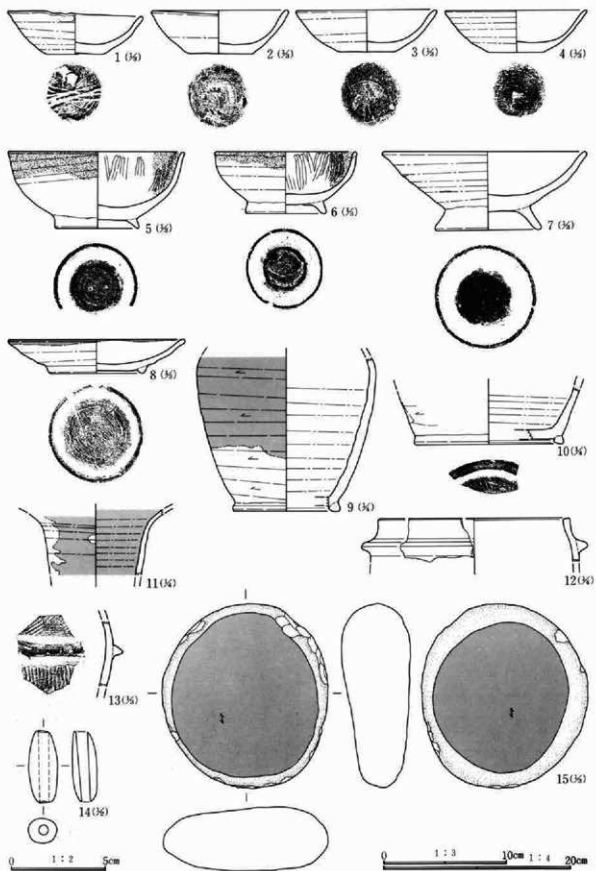
竈 東壁の中央やや南よりにあり、焚口幅56cm・奥行63cmを測る。両軸石が残存しており、竈周辺には竈に使用されたとと思われる石材が散在していた。

調査所見 出土遺物から平安時代の住居跡と考えられる。



第268図 157号住居跡竈、貯蔵穴

第3章 検出された遺構と遺物



第269図 157号住居跡出土遺物実測図

B-158号住居跡 (第270・271図、P L 52・53・97)

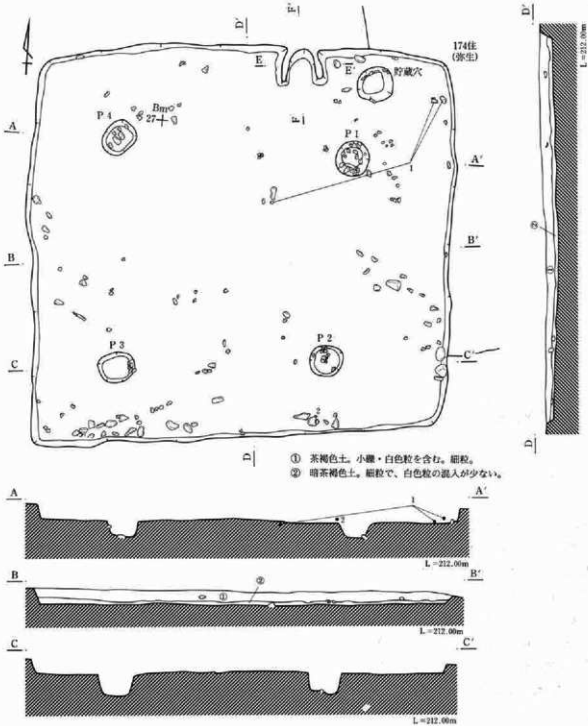
位置 B1・Bm-26・27グリッド 床面積 41.30㎡ 主軸方位 N-4°-W

重複 174号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西6.80m・南北6.30mを測る比較的大型の住居跡である。平面形は長方形を呈する。

埋没土 小礫を含む茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で24cmを測る。地山の小礫混じりの茶褐色土を掘り込んで床面としている。



第270図 158号住居跡

0 1:60 2m

第3章 検出された遺構と遺物

床面は概ね平坦である。

貯蔵穴 竈の右脇、住居の北東隅で検出された。規模は長軸56cm・短軸52cm・深さ26cmを測り、平面形は楕円形を呈する。

周溝 なし。

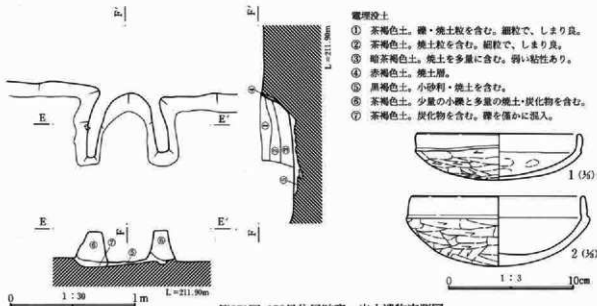
柱穴 住居プランのほぼ対角線上に4基（P1～P4）の柱穴が検出された。

No	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	54cm	54cm	59cm	58cm
下端長径	34cm	42cm	41cm	42cm
深 さ	24cm	32cm	36cm	24cm

出土遺物 遺物は量的に少なく、種類も乏しい。図化できた遺物は、土師器環2点のみである。

竈 北壁の中央やや東よりにあり、幅42cm・奥行54cmを測る。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。



第271図 158号住居竈跡、出土遺物実測図

B-159号住居跡 (第272・273図、P L53)

位置 Bh-24グリッド **床面積** 10.05㎡ **主軸方位** N-83°-E

重複 178号住と重複、東壁の上部を切っている。

規模と形状 東西3.00m・南北3.45mを測るやや歪んだ長方形を呈する。

埋戻土 礫を含む黒褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で21cmを測る。地山の礫混じりの暗褐色土を掘り込んで床面としている。

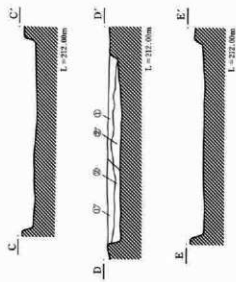
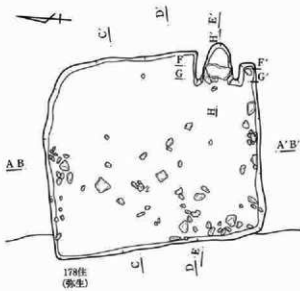
貯蔵穴 なし。 **周溝** なし。 **柱穴** なし。

出土遺物 遺物は極めて少なく、土師器環1点・甕1点を図化したのみであった。

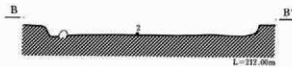
竈 東壁の南よりにあり、残存状況は比較的良好であった。袖は住居内に僅かに張り出し、袖石が明瞭に遺存していた。袖石の間には天井石も残存していた。これらの石材はいずれも砂岩の板石である。規模は焚口幅44cm・奥行64cmを測る。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

第2節 住居跡と出土遺物



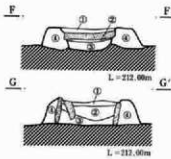
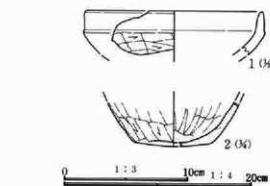
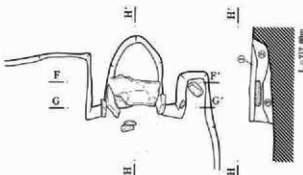
Bi
十
25



- ① 暗褐色土。軽石・黄色粒を含む。しまり良。
- ①' 暗褐色土。①層に似るが、φ50~60mmの礫が混入。
- ② 黒褐色土。φ50~60mmの礫と軽石を含む。
- ②' 暗褐色土。礫を所々に含み、黄色土ブロックを多量に含む。

0 1:60 2m

第272図 159号住居跡



- 電厚改土
- ① 茶褐色土。細粒で、軽石を含む。
 - ② 暗茶褐色土。炭土粒・軽石を少量含む。
 - ③ 暗茶褐色土。炭土・黄色粒を多量に含む。
 - ④ 暗褐色土。白色粒・炭土粒を含む。しまり良。

0 1:30 1m

第273図 159号住居跡電、出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-160号住居跡 (第274・275図、P L53・97・98)

位置 Bj-25グリッド 床面積 (15.86㎡) 主軸方位 N-22°-W

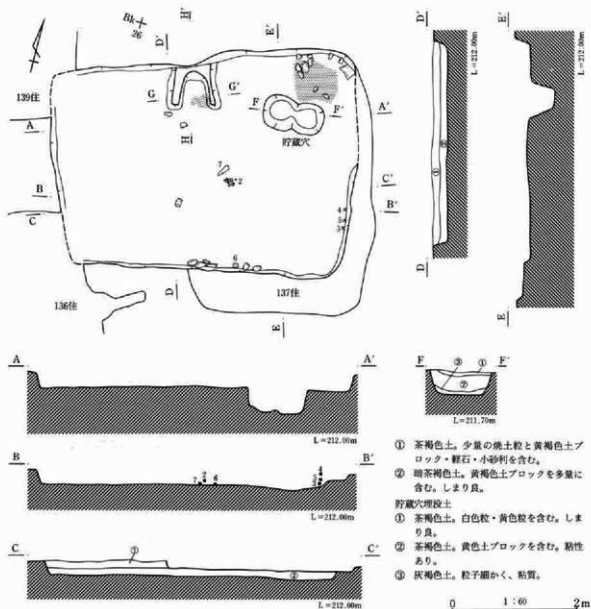
重複 住居の東半上部を137号住に、北西隅を139号住に切られている。南西隅では、136号住の覆土を切っている。

規模と形状 東西4.83m・南北3.51mを測るやや歪んだ長方形を呈する。

埋没土 黄褐色土ブロックを含む暗茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で24cmを測る。直立に近い立ち上がりを示すが、東壁の立ち上がりは137号住との重複もあり不明瞭であった。地山の黄褐色土を掘り込んで床面としている。住居の北東隅に焼土混じりの高まりが検出された。

貯蔵穴 住居の北東隅で検出された。規模は長軸98cm・短軸40cm・深さ37cmを測り、平面形は中央部がくびれたひょうたん形を呈する。



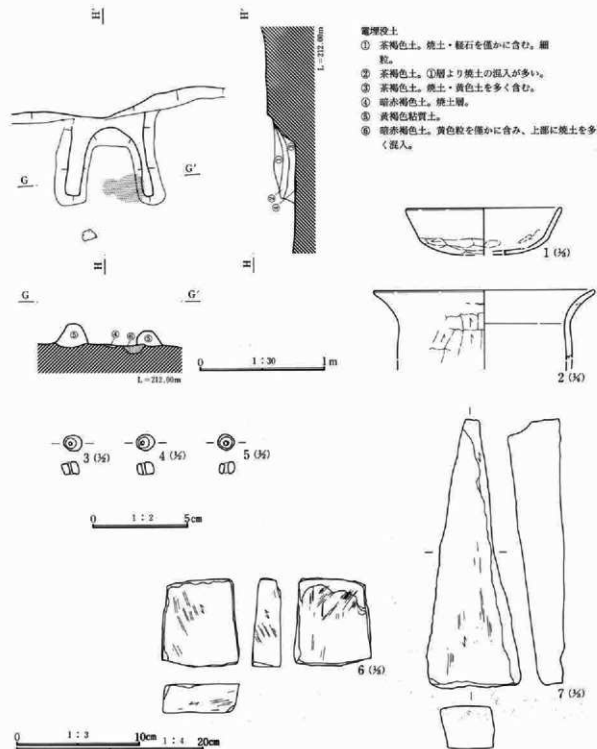
第274図 160号住居跡

周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 東壁の床面付近より土製の丸玉3点(3~5)、南壁床面より砥沢石の砥石1点(6)・中央部の床面付近から凝灰質砂岩製の砥石(7)と瓦1点(2)が出土している。

竈 北壁の中央付近で検出された。袖が住居内に張り出す形で、焚口幅44cm・奥行60cmを測る。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。



第275図 160号住居跡竈、出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-161号住居跡 (第276図、P L53)

位置 B_j-23グリッド 床面積 不明。東壁方位 N-4'-W

重複 住居の西半部を148号住に切られている。

規模と形状 東西2.40m+α・南北5.19mを測る。住居の大半を148号住に切られ、平面形は不明である。

埋没土 黄褐色土ブロックを含む暗茶褐色土を主体とする。

床面 掘り込みが浅く、確認面からの壁高は最大で10cmである。東西方向に間仕切り状の浅い溝が2条検出されている。

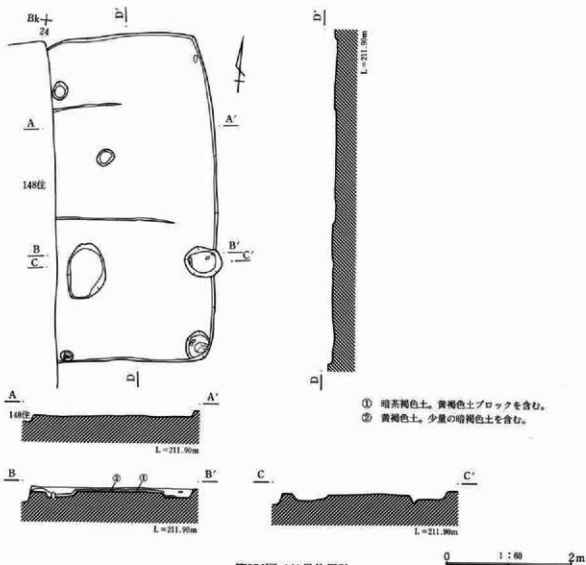
貯蔵穴 不明。 周溝 不明。

柱穴 住居内に5基のピットが検出されているが、規則性は見いだせず、主柱穴に相当するものは認められなかった。

出土遺物 ピット内から土師器数点が検出されたが、いずれも小破片で図化可能な遺物は検出されなかった。

竈 不明。

調査所見 遺物も少なく、竈等も検出されないため、調査資料が乏しく時期を限定することはできない。



第276図 161号住居跡

B-163号住居跡 (第277~281図、P L54・98)

位置 B1-23・24グリッド 床面積 22.04㎡ 主軸方位 N-24'-W

重複 164号住の覆土を切って構築している。北東隅の上部を154号住に切られている。

規模と形状 東西4.65m・南北4.80mの正方形を呈する。

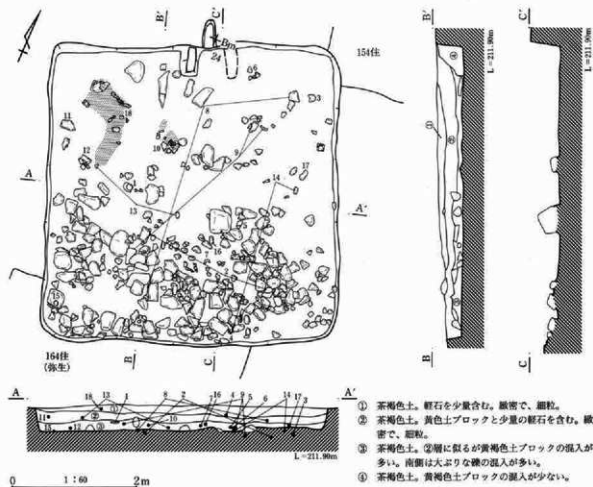
埋没土 埋没土中に多量の円礫を含む。

床面 確認面からの壁高は最大で42cmを測ることができる。住居の南半部には200点余りの大小の円礫が大変密な状態で検出されている。弾除去後の床面はほぼ平坦である。地山の粘質黄色土を掘り込んで床面を構築している。住居の西側には広い範囲に焼土の広がりが認められ、炭化材が散見されることから焼失家屋の可能性も考えられる。

貯蔵穴 住居の北東隅で検出された。規模は直径50cm・深さ21cmを測り、平面形は円形を呈する。貯蔵穴内からはほぼ完形の埴1点(3)・壺1点(8)が出土している。

柱穴 住居プランのほぼ対角線上に4本(P1~P4)の主柱穴が検出された。

No.	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	42cm	45cm	45cm	40cm
下端長径	30cm	34cm </td <td>29cm</td> <td>30cm</td>	29cm	30cm
深さ	25cm	40cm	26cm	27cm



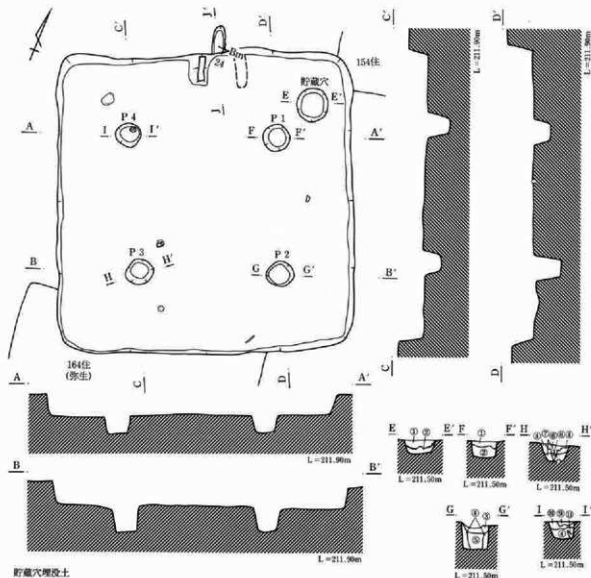
第277図 163号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物

出土遺物 遺物は住居の全面に散乱して検出された。比較的多くの遺物が出土している。図化可能な遺物は土師器環5点(1~5)・高坏1点(6)・甕7点(7~13)・甕1点(14)・ミニチュア土器1点(15)、土製紡錘車1点(18)、砥石(16・17)の18点である。

竈 調査時に右袖を壊され詳細は不明である。竈前には竈に使用されたとと思われる赤化した砂岩の石材が散在していた。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。

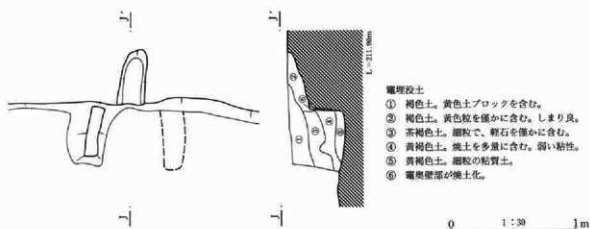


貯蔵穴埋設土

- ① 暗褐色土。黄色粒を含む。
- ② 暗褐色土。黄色粒の混入が少なく、黄褐色土を多く含む。
- ピット埋設土**
- ① 暗褐色土。黄褐色土ブロック、黄色粒を含む。
- ② 暗褐色土。①層より黄褐色土ブロックの割合が多い。
- ③ 暗褐色土。黄色粒を僅かに含み、黄褐色土を多く含む。粘性あり。
- ④ 明褐色土。黄褐色土をベースに、暗褐色土を僅かに含む。粘性あり。
- ⑤ 暗褐色土。③層より暗褐色土の割合が多い。

- ⑥ 暗褐色土。暗褐色土をベースに黄褐色土ブロックが混入。焼土粒・炭化物を含む。粘性あり。
- ⑦ 暗褐色土。④層よりも暗褐色土の割合が多い。
- ⑧ 暗褐色土。繊維で、粘性あり。
- ⑨ 暗褐色土。黄色粒を僅かに含み、焼土粒・炭化物を含む。
- ⑩ 暗褐色土。黄色粒・焼土粒を含む。黄褐色土ブロックが混入。
- ⑪ 暗褐色土。炭化物・焼土を含む。粘性あり。

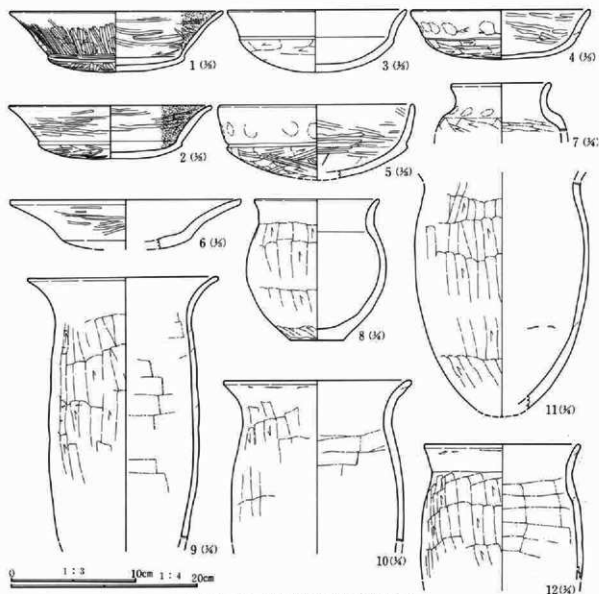
第278図 163号住居跡(2)



竪埋投土

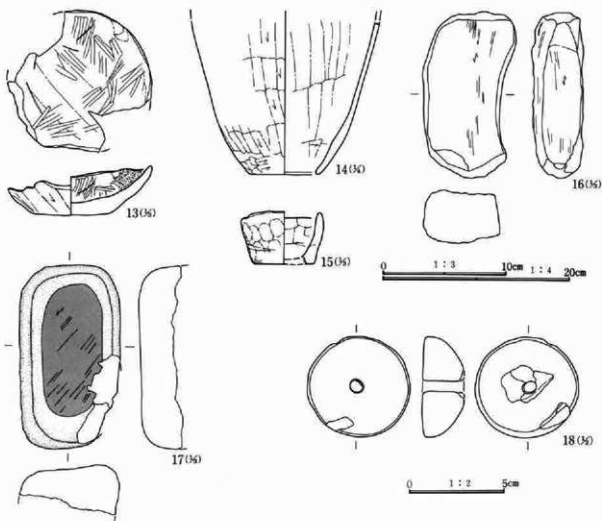
- ① 褐色土。黄色土ブロックを含む。
- ② 褐色土。黄色粒を僅かに含む。しまり良。
- ③ 茶褐色土。細粒で、軽石を僅かに含む。
- ④ 黄褐色土。焼土を多量に含む。弱い粘性。
- ⑤ 黄褐色土。細粒の粘質土。
- ⑥ 竪埋壁部が焼土化。

第279図 163号住居跡竪



第280図 163号住居跡出土遺物実測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第281図 163号住居跡出土遺物実測図(2)

B-165号住居跡 (第282図、P L55)

位置 Bk-26・27グリッド 床面積 12.62㎡ 北壁方位 N-78°-E

重複 住居東半を139号住・170号住に切られている。

規模と形状 東西3.09m・南北4.20mを測る長方形を呈する。

埋没土 礫を多量に含む暗褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で34cmを測る。地山の粘質黄色土・礫まじりの暗褐色土を掘り込んで床面としている。

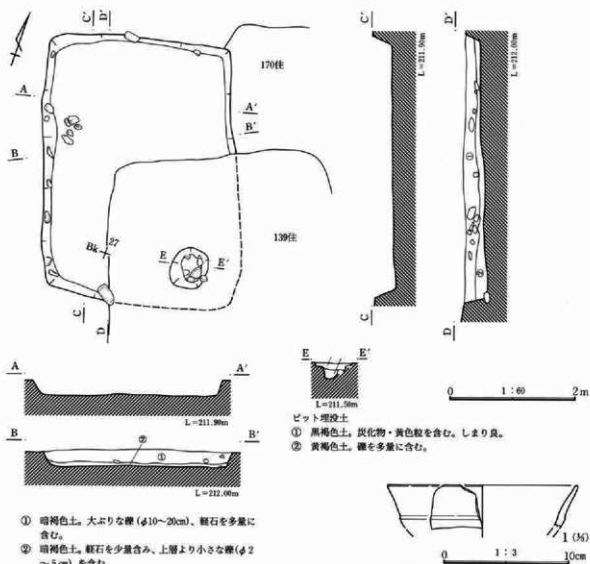
貯蔵穴 東南隅の検出された長軸63cm・短軸56cm・深さ27cmの楕円形を呈するピットが貯蔵穴に相当するものと思われる。

周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 出土遺物は極めて少なく、床面直上では1点の遺物も認められなかった。図化可能な遺物は覆土中より検出された土師器環1点のみである。

竈 139号住を構築する際に破壊されたものと思われ、不明である。

調査所見 古墳時代後期の住居跡と思われる。



第282図 165号住居跡、出土遺物実測図

B-167号住居跡 (第283~285図、P L55・99)

位置 Bi-26・27グリッド 床面積 12.30㎡ 主軸方位 N-17°-W

重複 南西隅を142号住に切られている。

規模と形状 東西4.05m・南北3.20mを測るやや横長の長方形を呈する。

埋没土 黄褐色土ブロック・焼土粒を含む茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で46cmを測る。地山の粘質黄色土を掘り込んで床面としている。住居の東半を中心に大小の礫が散在するが、礫除去後の床面は概ね平坦である。

貯蔵穴 竈の右脇、住居の北東隅で検出された。規模は長軸46cm・短軸42cm・深さ19cmを測り、平面形は楕円形を呈する。貯蔵穴の上部及び周辺には竈に使用されたと思われる板状の砂岩がまとめて検出された。

周溝 なし。柱穴 なし。

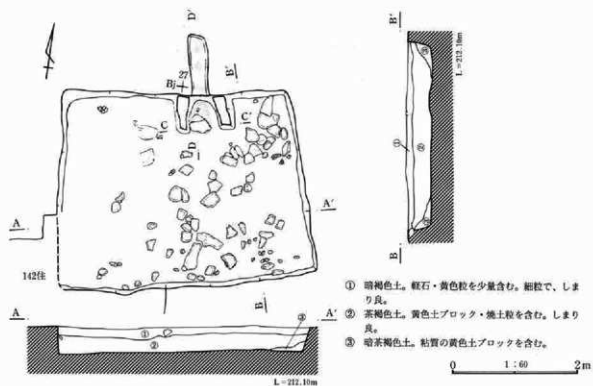
出土遺物 遺物は極めて少なく、竈左袖脇より、土師器環2点(1・2)が出土しているのみである。

竈 北壁の中央よりやや東よりで検出された。袖が住居内に張り出しているが、袖石等は残存しない。煙道

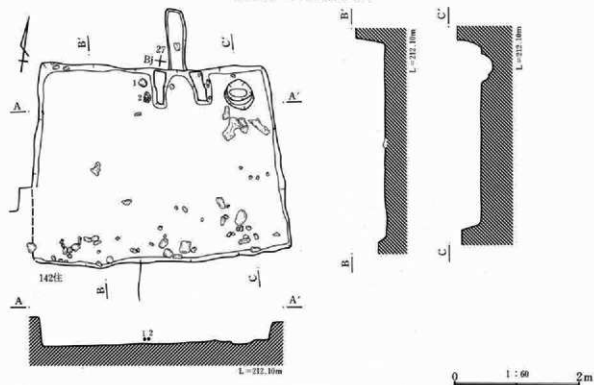
第3章 検出された遺構と遺物

上部は崩落し、焼土化した煙道下部が残るのみである。規模は焚口幅50cm・奥行48cm・煙道幅30cm・煙道長84cmを測る。

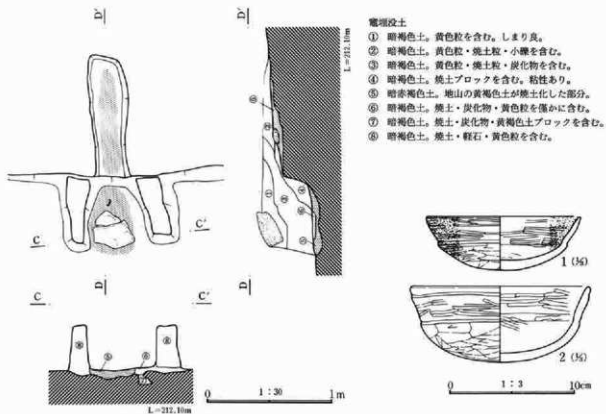
調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。



第283図 167号住居跡(1)



第284図 167号住居跡(2)



第285図 167号住居跡電、出土遺物実測図

B-169号住居跡 (第286~289図、P L.55・56・99)

位置 Bo・Bn-21グリッド 床面積 19.65m² 主軸方位 N-9°-W

重複 上部で西壁及び南壁の一部を157号住に切られている。

規模と形状 東西4.80m・南北4.35mを測る隅丸長方形を呈する。

埋没土 黄色粒・黄色土ブロックを含む暗褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で40cmを測る。立ち上がりは僅かに外傾する。地山の粘質黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面は南に向かって僅かに傾斜が認められる。

貯蔵穴 電の右脇、住居の北東隅で検出された。規模は長軸92cm・短軸74cm・深さ31cmを測り、平面形は楕円形を呈する。貯蔵穴内より、須恵器の甕の胴部片が出土している。

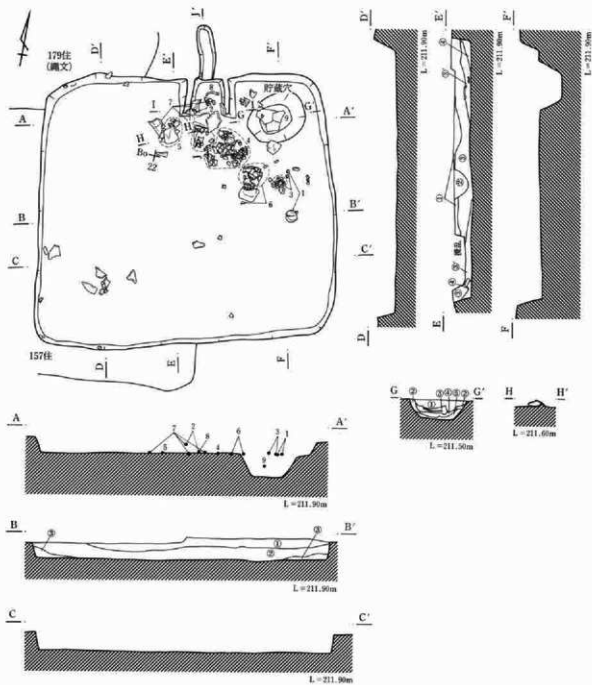
周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 遺物は電内及び電周辺を中心に分布する。土師器環2点(1・2)・小型台付甕1点(3)・甕5点(4~8)、須恵器甕1点(9)を図化することができた。

竈 北壁の中央やや東よりにあり、残存状況は比較的良好であった。袖は住居内に張り出し、両袖とも砂岩の袖石が残存していた。また、電前には崩落した砂岩の天井石が割れた状態で検出されている。焚口幅51cm・奥行60cm・煙道幅24cm・煙道長79cmを測る。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



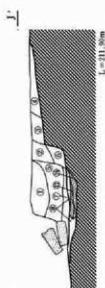
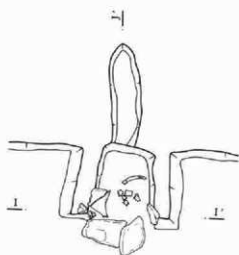
- ① 暗褐色土。軽石・炭化物粒を僅かに含む。
- ② 暗褐色土。焼土粒・炭化物を含む。
- ③ 暗褐色土。黄色粒・黄色土ブロックを含む。細粒で、しまり良。
- ④ ③層に比べ暗い色調。
- ⑤ 暗褐色土。粘質黄色土ブロックを含む。弱い粘性。

- 貯蔵穴埋戻土
- ① 暗褐色土。黄色粒を含む。しまり良、弱い粘性。
 - ② 暗褐色土。黄色粒の割合が少なく、粘性あり。
 - ③ 暗褐色土。焼土・黄色粒・炭化物を僅かに含む。細粒で、強い粘性。
 - ④ 暗褐色土。焼土の割合が多く、炭化物を僅かに含む。
 - ⑤ 黄褐色土。焼土を僅かに含む。

第286図 169号住居跡

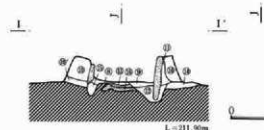
0 1:60 2m

第2節 住居跡と出土遺物



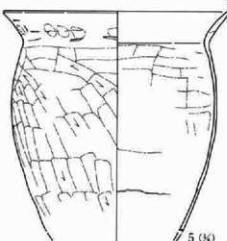
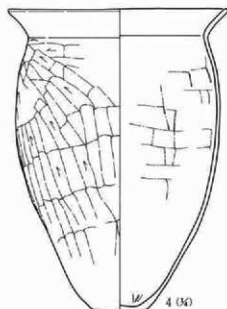
掘埋灰土

- ① 黄褐色土。軽石・焼土粒を含む。しまり貝。
- ② 黄褐色土。黄色土ブロック・焼土粒を含む。
- ③ 黄褐色土。②層に似るが、焼土粒の混入が多い。
- ④ 褐色土。黄色土ブロック・焼土粒を僅かに含む。
- ⑤ 茶褐色土。軽石・焼土粒を僅かに含む。細粒で、しまり貝。
- ⑥ 黄褐色土。焼土を含む。やや粘性あり。
- ⑦ 黄褐色土。炭化物・焼土を含む。粘性あり。
- ⑧ 暗褐色土。黄色粒・焼土粒・炭化物を僅かに含む。
- ⑨ 暗褐色土。黄色粒を僅かに含む。炭化物の混入が多い。
- ⑩ 暗褐色土。黄色粒・炭化物・焼土を含む。
- ⑪ 暗褐色土。⑩層よりも焼土の混入が少ない層。
- ⑫ 暗褐色土。黄色粒・焼土粒・焼土ブロックを含む。
- ⑬ 暗褐色土。炭化物・焼土粒・焼土ブロックを多く含む層。
- ⑭ 焼土層。(レンガ状)
- ⑮ 暗褐色土。黄色粒・焼土粒を僅かに含む。
- ⑯ 黄褐色土。焼土を僅かに含む。
- ⑰ 暗赤褐色土。細粒の焼土層。



0 1:30 1m

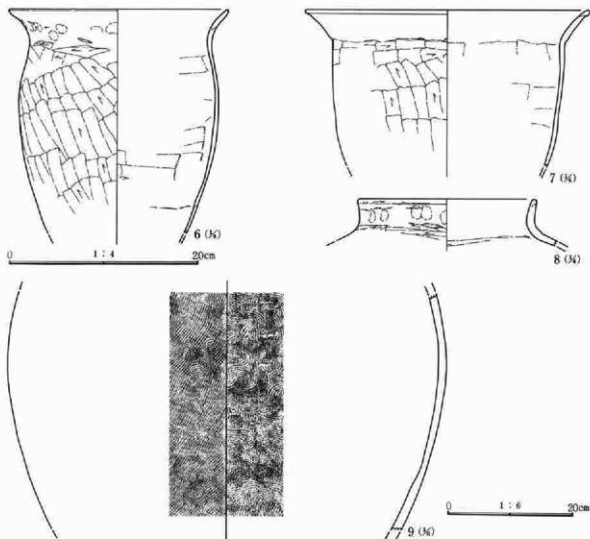
第287図 169号住居跡電



0 1:3 10cm 1:4 20cm

第288図 169号住居跡出土遺物実測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第289図 169号住居跡出土遺物実測図(2)

B-170号住居跡(第290~292図、P.L.56・99)

位置 Bk-26グリッド 床面積 13.45㎡ 主軸方位 N-77-E

重複 139号住に住居の南西隅を切られ、165号住の覆土の一部を切って構築している。

規模と形状 規模は東西3.15m・南北4.35mを測ることができる。他住居に切られプランはやや不明瞭であるが、残存部の形状から長方形を呈すると推定される。

埋没土 暗褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で34cmを測る。西壁及び南壁は他住居に切られ検出されなかった。地山の粘質褐色土を床面としている。所々に地山の隙が露出し、やや凹凸が認められる。

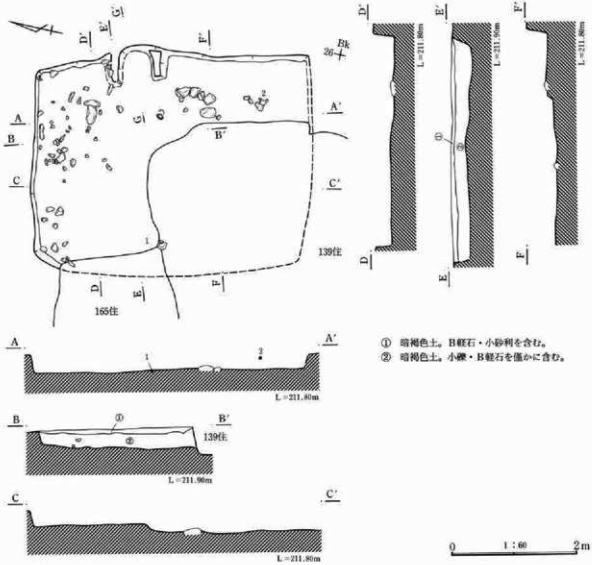
貯蔵穴 なし。 周溝 なし。 柱穴 なし。

出土遺物 出土遺物は極めて少なく、図化できた遺物は床面直上より検出された土師器杯1点(1)、須恵器甕1点(2)、覆土中より検出された土師器壺1点(3)の3点のみである。

竈 東壁の中央よりやや北よりで検出された。焚口幅55cm・奥行46cmを測ることができる。

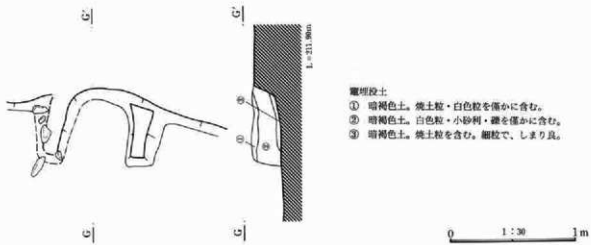
調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と思われる。

第2節 住居跡と出土遺物



- ① 暗褐色土。B軽石・小砂利を含む。
- ② 暗褐色土。小礫・B軽石を僅かに含む。

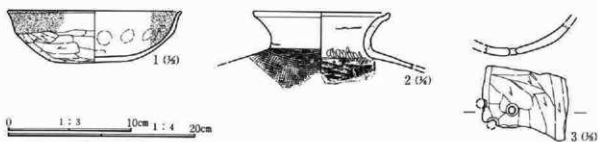
第290図 170号住居跡



- 層切殺土
- ① 暗褐色土。焼土粒・白色粒を僅かに含む。
 - ② 暗褐色土。白色粒・小砂利・礫を僅かに含む。
 - ③ 暗褐色土。焼土粒を含む。細粒で、しまり良。

第291図 170号住居跡竈

第3章 検出された遺構と遺物



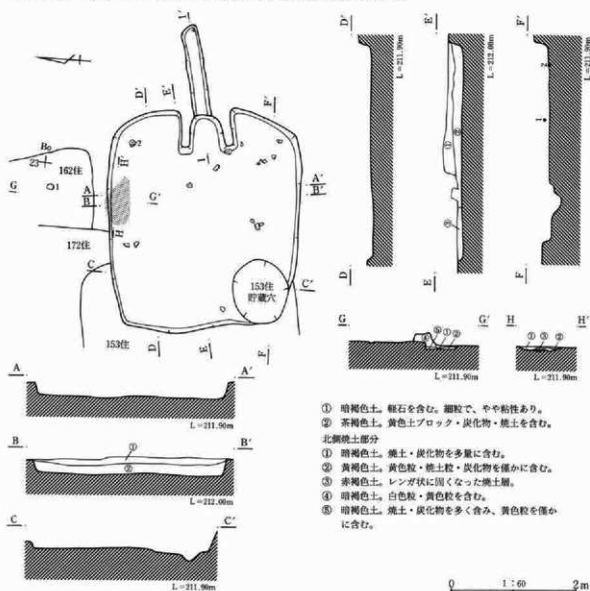
第292図 170号住居跡出土遺物実測図

B-171号住居跡 (第293・294図、P L56・57・99)

位置 Bn-22・23グリッド 床面積 10.03㎡ 主軸方位 N-100°-E

重複 住居の西半部の上を153号住に切られ、172号住の南東隅を切って構築している。

規模と形状 東西3.51m・南北3.00mを測るやや歪んだ長方形を呈する。



- ① 暗褐色土。軽石を含む。細砂で、やや粘性あり。
 - ② 茶褐色土。黄色土ブロック・炭化物・粘土を含む。
- 北側焼土部分
- ① 暗褐色土。焼土・炭化物を多量に含む。
 - ② 黄褐色土。黄色粒・焼土粒・炭化物を僅かに含む。
 - ③ 赤褐色土。レンガ状に固くなった焼土層。
 - ④ 暗褐色土。白色粒・黄色粒を含む。
 - ⑤ 暗褐色土。焼土・炭化物を多く含む。黄色粒を僅かに含む。

第293図 171号住居跡

埋没土 黄色土ブロック・焼土・炭化物を含む茶褐色土を主体とする。

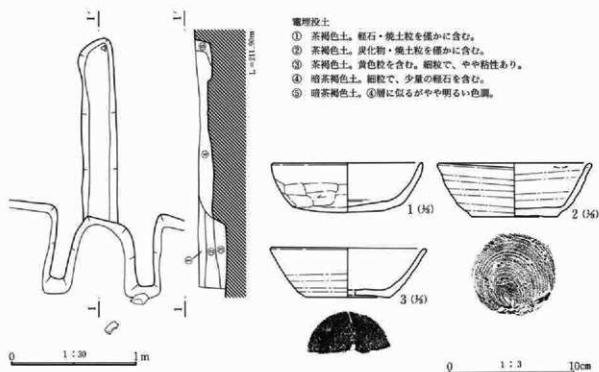
床面 確認面からの壁高は最大で27cmを測る。地山の粘質黄色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 なし。 **周溝** なし。 **柱穴** なし。

出土遺物 遺物は極めて少ない。162号住(弥生)の床面から検出された完形の坏は本住居の北電の煙道の立ち上がり部に置かれたものと考えられ、本住居に所属させた。図化可能な遺物は土師器坏1点(1)、須恵器坏2点(2・3)の3点である。

電 東壁の中央付近で、検出された。焚口幅48cm・奥行62cm・煙道幅26cm・煙道長140cmを測る。しかし、電内に焼土等が認められず、使用された痕跡が確認できなかった。北壁中央付近の床面に、長軸72cm・短軸42cm程の焼土面が検出されていることから、北側の電を廃棄後、新たに東側に電を構築したものと推定される。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と考えられる。



第294図 171号住居跡電、出土遺物実測図

B-172号住居跡 (第295～297図、P L57・99・100)

位置 Bn・Bo-23グリッド **床面積** 14.25㎡ **主軸方位** N-3°-W

重複 住居の南壁上部を153号住・171号住に切られ、北半部は162号住の覆土を切って構築している。

規模と形状 東西4.00m・南北3.60mを測る長方形を呈する。

埋没土 黄褐色土ブロックを含む粘質の茶褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で52cmを測る。地山の粘質黄褐色土を掘り込んで床面としている。住居の中央部を中心に大小の礫が散在する。床面はほぼ平坦である。

貯蔵穴 電の右脇、住居の北東隅で検出された。規模は長軸72cm・短軸64cm・深さ54cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

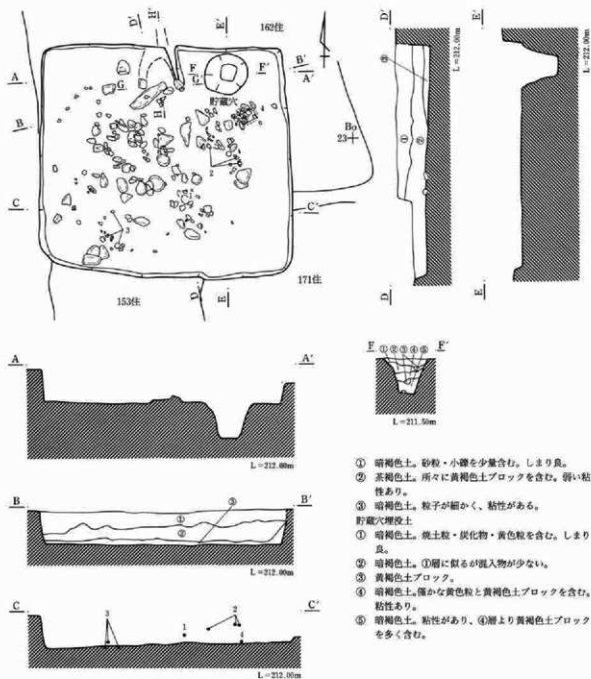
第3章 検出された遺構と遺物

周溝 なし。 柱穴 なし。

出土遺物 遺物は住居全面に散在して検出された。図化可能な遺物は土師器坏1点(1)・高坏1点(2)・甕2点(3・4)の4点である。

竈 北壁の中央付近にあり、残存状況は良好ではなかった。袖の下部が僅かに残り、袖石は川原の転石が使用され、竈前には崩落した天井石が認められた。焚口幅50cm・奥行66cmを測る。

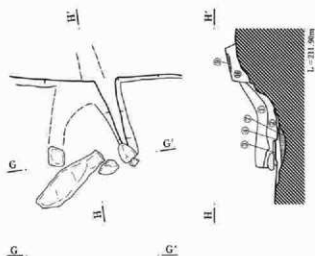
調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。



- ① 暗褐色土。砂粒・小礫を少量含む。しまり良。
- ② 茶褐色土。所々に黄褐色土ブロックを含む。弱い粘性あり。
- ③ 暗褐色土。粒子が細かく、粘性がある。
貯蔵穴埋没土
- ④ 暗褐色土。炭土粒・炭化物・黄色粒を含む。しまり良。
- ⑤ 暗褐色土。①層に似るが混入物が少ない。
- ⑥ 黄褐色土ブロック。
- ⑦ 暗褐色土。細かい黄色粒と黄褐色土ブロックを含む。粘性あり。
- ⑧ 暗褐色土。粘性があり、④層より黄褐色土ブロックを多く含む。

第295図 172号住居跡

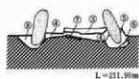
第2節 住居跡と出土遺物



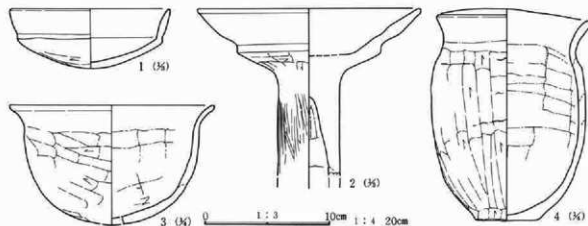
埋没土

- ① 暗褐色土。焼土粒・炭化物・黄色粒を僅かに含む。
- ② 暗褐色土。僅かな黄色粒と多量の焼土粒・炭化物を含む。
- ③ 暗褐色土。焼土・黄色粒を多く含む。
- ④ 暗褐色土。焼土・炭化物・黄色粒を含む。
- ⑤ 褐色土。黄色粒を含む。しまり良。
- ⑥ 黒褐色土。黄色粒を僅かに含む。
- ⑦ 暗赤褐色土。焼土層。黄色粒・焼土粒・炭化物を僅かに含む。
- ⑧ 暗褐色土。黄色粒を僅かに含む。
- ⑨ 焼土層。(レンガ状)
- ⑩ 暗褐色土。細粒の黄色粒と焼土を含む。

0 1:30 1m



第296図 172号住居跡電



第297図 172号住居跡出土遺物実測図

B-175号住居跡 (第298~302図、P L.57・58・100)

位置 Bj・Bk-25グリッド 床面積 (9.19㎡) 主軸方位 N-18°-W

重複 137号住に西壁を、152号住に東壁上部を切られ、176号住の南壁上部の一部を切って構築している。

規模と形状 東西3.45m・南北3.06mを測るやや歪んだ隅丸長方形を呈する。

埋没土 住居の中央部を中心に埋没土中に多量の礫が検出された。

床面 住居中央部から竈前方部の広い範囲に、床面近くから埋没土中・上層にわたって130点余りの大小の礫が検出された。礫を除去した後の床面は概ね平坦である。確認面からの壁高は最大で26cmを測る。西壁は137号住に壊され、東壁も上部を152号住に切られ壁高は僅かに7cmを残すのみである。地山の粘質黄褐色土を掘り込んで床面としているが、一部は176号住の覆土となっている。

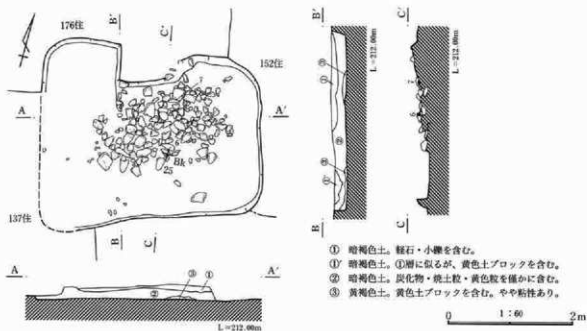
第3章 検出された遺構と遺物

貯蔵穴 なし。 周溝 なし。 柱穴 なし。

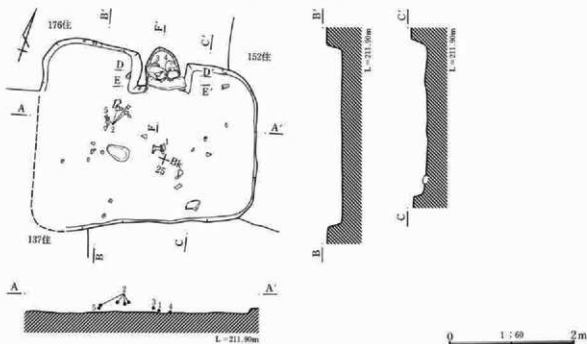
出土遺物 竈内から検出された長胴壺2点(3・4)の他に、住居のほぼ中央の床面より検出された高坏1点(1)・甕1点(2)・ミニチュア土器1点(5)、砥石・磨石各1点(6・7)が検出された。

竈 北壁の中央やや東よりにあり、残存状況は比較的良好であった。両袖石は明瞭に残り、袖部は住居内に張り出している。天井石は左側が竈内にずり落ちた形で検出された。石材はいずれも板状の砂岩を用いている。竈内には2点の長胴壺が天井石に掛けられた状態で遺存していた。焚口幅60cm・奥行70cmを測る。

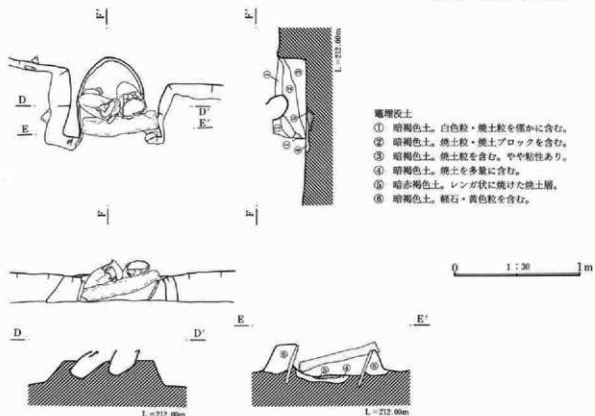
調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。



第298図 175号住居跡(1)



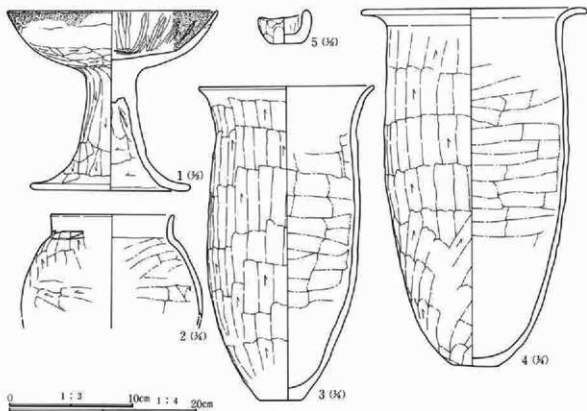
第299図 175号住居跡(2)



竈壇段土

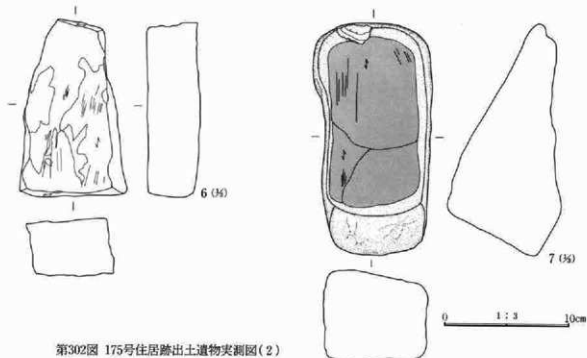
- ① 暗褐色土。白色粒・焼土粒を僅かに含む。
- ② 暗褐色土。焼土粒・焼土ブロックを含む。
- ③ 暗褐色土。焼土粒を含む。やや粘性あり。
- ④ 暗褐色土。焼土を多量に含む。
- ⑤ 暗赤褐色土。レンガ状に焼けた焼土層。
- ⑥ 暗褐色土。軽石・黄色粒を含む。

第300図 175号住居跡竈



第301図 175号住居跡出土遺物実測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第302図 175号住居跡出土遺物実測図(2)

B-176号住居跡 (第303・304図、P.L.58・59・100・101)

位置 Bk-24・25グリッド 床面積 (42.61㎡) 長軸方位 N-15°-W

重複 南壁を137号住・152号住・175号住に、北壁を140号住・158号住に切られている。

規模と形状 東西6.15m・南北(7.05m)を測るやや縦長の長方形を呈する。

埋没土 焼土粒・炭化物を含む暗褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で33cmを測る。地山の粘黄褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 位置的にはやや不規則であるが、住居の東南隅で検出された長軸98cm・短軸70cm・深さ56cmの楕円形を呈するピットが貯蔵穴に相当するものと思われる。

周溝 なし。

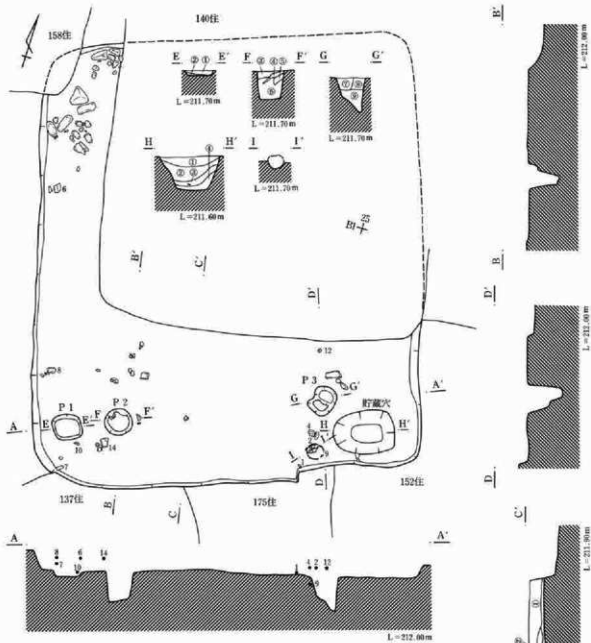
柱穴 3基のピットが検出された。P 2・P 3の2基が支柱穴に相当するものと思われる。4本柱構造になるものと思われるが、他の2基は140号住に切られ不明である。

№	P 1	P 2	P 3
上端長径	46cm	44cm	46cm
下端長径	38cm	35cm	23cm
深 さ	9cm	49cm	52cm

出土遺物 遺物は比較的多く、貯蔵穴の周辺で壺1点(9)・坏3点(1・2・4)が検出されている他は、散乱して出土している。図化可能な遺物は土器器环5点(1~5)・高坏2点(6・7)・壺1点(9)・小型壺1点(8)・ミニチュアの手捏土器1点(10)、土製丸玉(11)、土製紡錘車1点(12)、器種不明の土製品1点(13)、磨石1点(14)の14点である。土器器环(1)は外面に赤色塗彩を施し、内面に黒色処理を施す。坏(2)は内面黒色処理を施す。

竈 140号住に破壊されたものと思われ不明である。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。



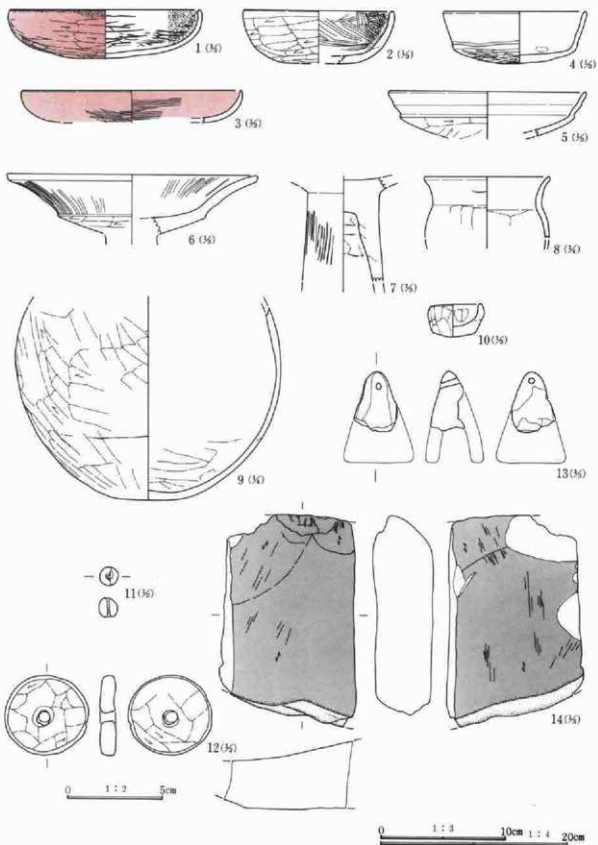
- ① 暗褐色土。黄色粒を含む。しまり良。
- ② 暗褐色土。黄色粒・黄褐色土ブロックを含む。しまり良。
- ③ 暗褐色土。黄色粒の混入が①層より少ない層。貯蔵穴埋設土
- ④ 暗褐色土。焼土粒・炭化物・黄色粒・黄褐色土ブロックを含む。粘性あり。
- ⑤ 暗褐色土。焼土粒・炭化物・黄色粒を僅かに含む。黄褐色土ブロックの混入が①層よりやや多い。
- ⑥ 暗褐色土。細粒で、強い粘性。黄褐色土ブロックを多く含む。
- ⑦ 暗褐色土。細粒で、強い粘性。③層より黄褐色土ブロックの混入が少ない。

- ビッド埋設土
- ① 暗褐色土。黄色粒・炭化物・焼土粒を僅かに含む。
- ② 暗褐色土。黄色粒を僅かに含む。礫混じりの砂利層。
- ③ 暗褐色土。黄色粒・焼土粒を含む。しまり良。
- ④ 黄褐色土。少量の暗褐色土を含む。
- ⑤ 黄褐色土ブロック。
- ⑥ 暗褐色土。黄色粒を僅かに含む。細粒で、粘性あり。
- ⑦ 暗褐色土。礫を多く含み、黄色粒を僅かに含む。
- ⑧ 暗褐色土。黄色粒を僅かに含む。
- ⑨ 暗褐色土。黄色粒を僅かに含む。細粒で粘性あり。

第303図 176号住居跡

0 1:60 2m

第3章 検出された遺構と遺物



第304図 176号住居跡出土遺物実測図

B-177号住居跡 (第305・306図、P L 59・101)

位置 Bj-21・22グリッド 床面積 (13.28㎡) 主軸方位 N-9'-W

重複 59号住と重複。59号住の北西隅を切って構築している。

規模と形状 東西(4.05m)・南北3.12mを測る長方形を呈する。

埋没土 黄褐色土ブロック・小礫・焼土粒を含む暗褐色土を主体とする。

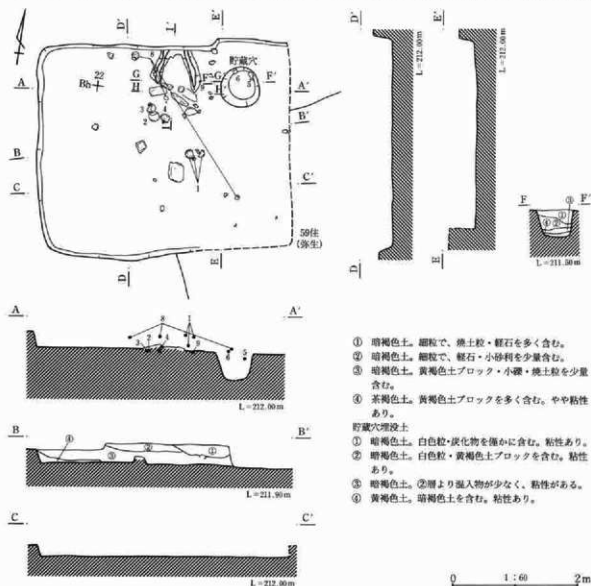
床面 確認面からの壁高は最大で30cmを測る。立ち上がりは僅かに外傾する。地山の粘質黄褐色土を掘り込んで床面としている。床面はほぼ平坦である。

貯蔵穴 竈の右側の住居北東隅で検出された。規模は径62cm・深さ43cmで、円形を呈する。

周溝 なし。柱穴 なし。

出土遺物 竈の周辺部、及び貯蔵穴上部より、土師器環4点(2~5)・高坏脚部(6)、滑石製の白玉1点(9)が出土している。

竈 北壁の中央やや東よりで検出された。袖の下部が僅かに残存する他、天井石、袖石ともに崩落した状態

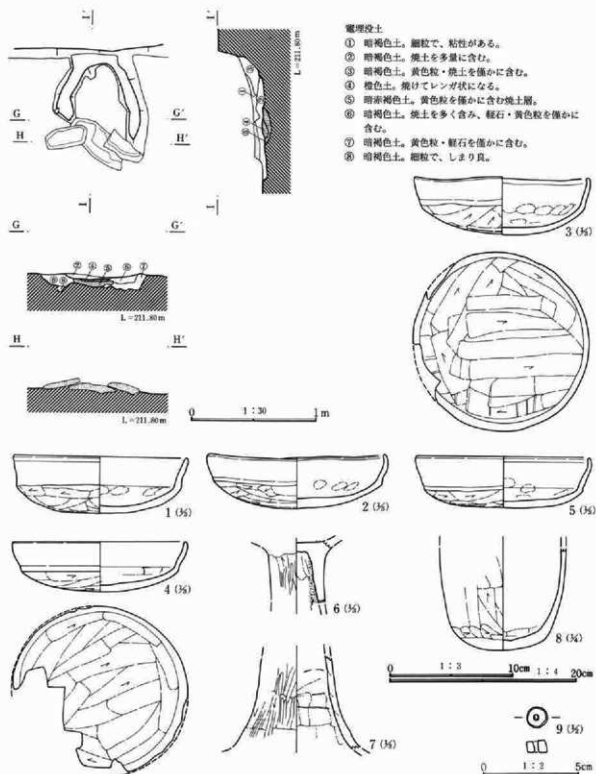


第305図 177号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

で検出された。焚口幅46cm・奥行75cmを測ることができる。

調査所見 東南隅で59号住と重複。59号住より新しいが、第1次調査の際に重複関係をつかむことができず59号住1軒の単独住居跡として調査しているため東壁及び南壁の一部を破壊されている。出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。



第306図 177号住居跡竈、出土遺物実測図

B-180号住居跡 (第307・308図、P L 59・101)

位置 Bg-29・30グリッド 床面積 (16.48㎡) 主軸方位 N-27°-W

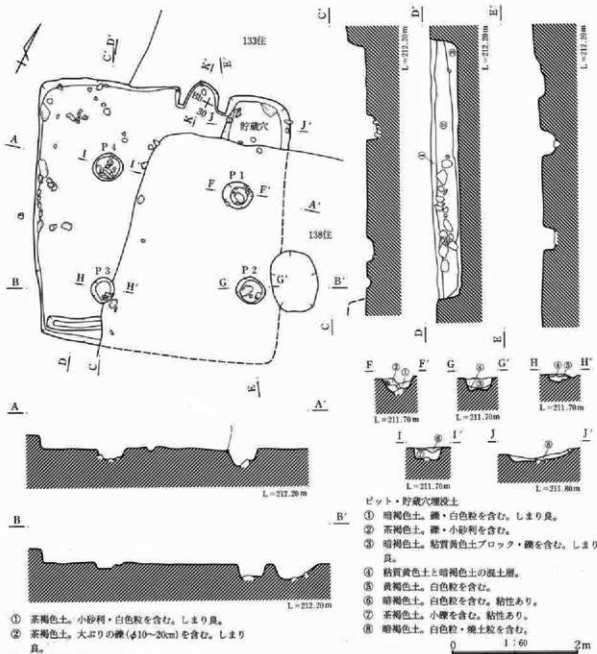
重複 住居の大半を138号住・133号住に切られており、残存部はすくない。

規模と形状 東西4.02m・南北4.17mを測る。重複により住居の東半分を切られているが残存部の形状からほぼ正方形を呈するものと思われる。

埋没土 黄褐色土・黄色土を含む暗褐色土を主体とする。

床面 確認面からの壁高は最大で42cmを測る。東壁及び南壁は138号住に切られ、検出されなかった。地山の褐色土を掘り込んで床面としている。

貯蔵穴 住居の北東隅で検出された。規模は東西102cm・深さ15cmを測る。南北は138住に切られ不明である。



第307図 180号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

周溝 南西隅の一部に僅かに確認できた。幅20cm・深さ5cmを測る。

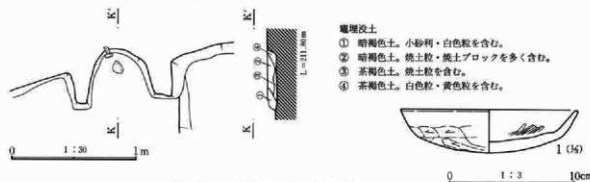
柱穴 4基の柱穴が検出されている。

No.	P 1	P 2	P 3	P 4
上端長径	48cm	46cm	42cm	48cm
下端長径	28cm	34cm	30cm	38cm
深さ	24cm	20cm	10cm	12cm

出土遺物 出土遺物は極めて少なく、図化できたのは土師器環1点のみである。

竈 上部を133号住に切られ、残存状態は悪い。北壁中央やや東よりにあり、焚口幅50cm・奥行42cmを測る。

調査所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と思われる。



第308図 180号住居跡竈、出土遺物実測図

B-182号住居跡 (第309～312図、P L 60・101・102)

位置 Bn・Bo-25グリッド 床面積 15.73㎡ 主軸方位 N-27°W

重複 183号住と重複か。

規模と形状 東西4.20m・南北3.80mを測るやや横長の長方形を呈する。

埋没土 埋没土中に多量の礫が検出された。

床面 確認面からの壁高は6cmから35cmを測ることができ、立ち上がりは僅かに外傾する。住居のほぼ全面に350点以上の大小様々な礫(φ5～30cm)が床面から覆土上層まで投げ込まれたような状態で検出されている。礫を除去した後の床面はほぼ平坦である。掘り方は認められず、地山の暗褐色土を掘り込んで床面としている。

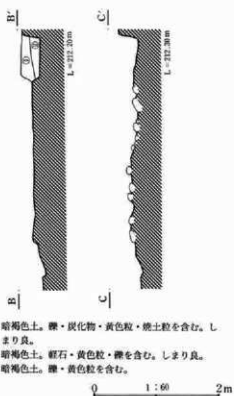
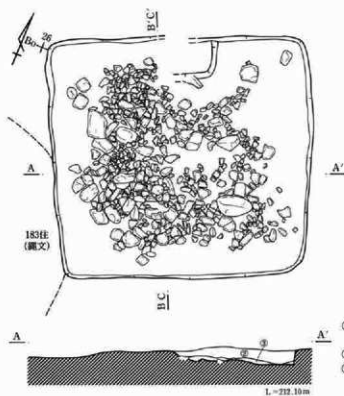
貯蔵穴 位置的にはやや不規則であるが、住居の東南隅で検出された。長軸84cm・短軸58cm・深さ28cmの楕円形を呈するピットが貯蔵穴に相当すると思われる。貯蔵穴上部からはほぼ完形の環5点(1～3・5・6)・鉢1点(8)が検出されている。このうち環1点(1)には底部内面の中央部に刻字が認められる。

周溝 なし。 **柱穴** なし。

出土遺物 貯蔵穴上部から検出された土師器環5点・鉢1点の他は、散在して検出された。図化可能な遺物は土師器環7点(1～7)・鉢1点(8)・小型壺1点(9)・長胴壺2点(12・13)・ミニチュア土器1点(11)・高環1点(10)が検出されている。

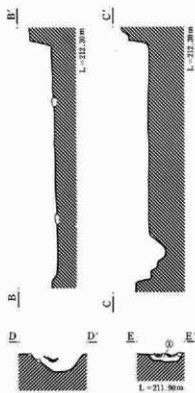
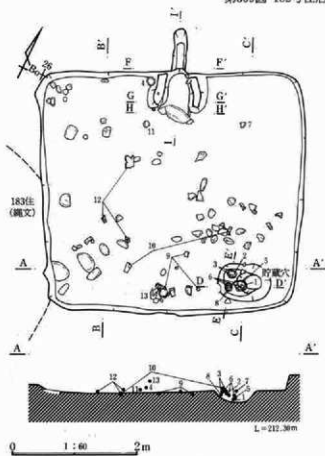
竈 北壁の中央付近にあり、残存状況は比較的良好であった。袖石が明瞭な形で残り、崩落した天井石が割れた状態で検出された。竈の用材は砂岩の板石が用いられている。焚口幅46cm・奥行66cm・煙道幅21cm・煙道長60cmを測る。竈の左袖脇から完形の環1点が検出されている。

調査所見 出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。



- ① 暗褐色土。礫・炭化物・黄色粒・焼土粒を含む。しまり良。
- ② 暗褐色土。礫石・黄色粒・礫を含む。しまり良。
- ③ 暗褐色土。礫・黄色粒を含む。

第309図 182号住居跡(1)

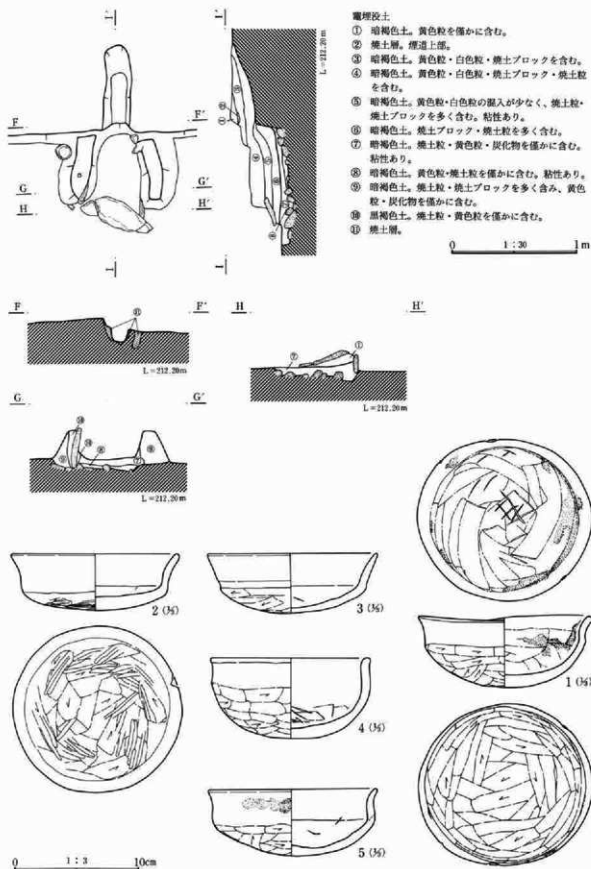


貯蔵穴埋込土

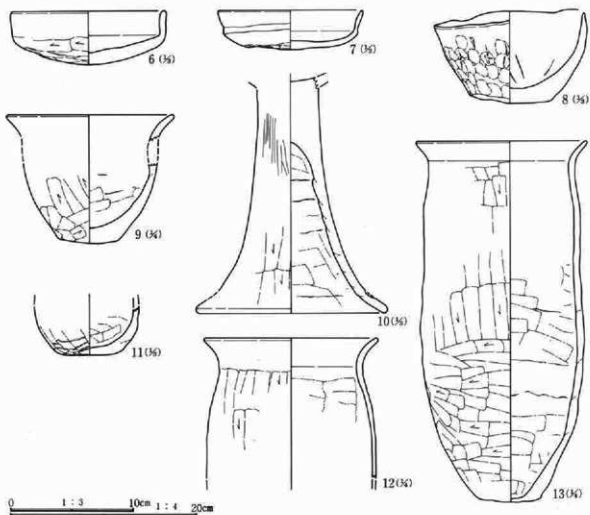
- ① 暗褐色土。焼土粒・炭化物・黄色粒を僅かに含む。粘性あり。

第310図 182号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第311図 182号住居跡竈、出土遺物実測図(1)



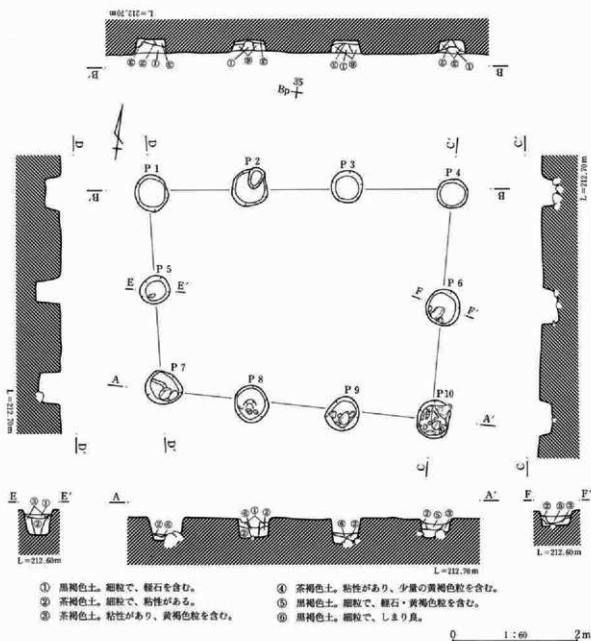
第312図 182号住居跡出土遺物実測図(2)

第3節 掘立柱建物跡と出土遺物

南蛇井増光寺遺跡B区においては、8棟の掘立柱建物跡が検出されている。竪穴住居跡の検出数と比べると極めて少なく、規模も小さい。分布は調査区の西側中央から北部にかけて集中する傾向が窺える。

B-1号掘立柱建物跡 (第313図、P L61)

位置 調査区の北西隅に位置し、Bo-34・35グリッドの範囲にある。西側に117号住(平安)が接している。



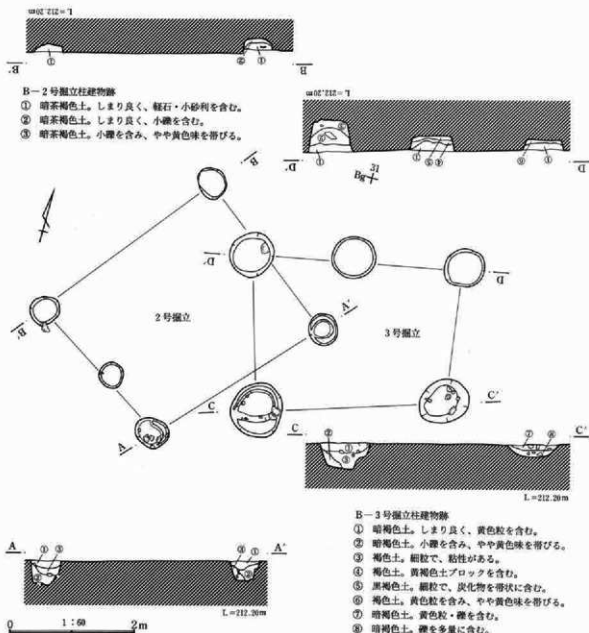
第313図 1号掘立柱建物跡

重複 4号掘立柱建物跡と重複する。P5・P6が4号掘立柱建物跡のピットを切っており、1号掘立柱建物跡の方が新しいものと思われる。

形状・規模 東西方向に長い10本の柱穴からなる3間×2間の掘立柱建物跡である。東西方向4.60m・南北方向3.60mを測る。柱穴の配列は比較的整っている。主軸方位はN-85°-Eを示す。柱間寸法は梁行北列(P1・P2・P3・P4)は1.6m-1.6m-1.7m。南列(P7・P8・P9・P10)は1.4m-1.5m-1.5m。桁行東列(P4・P6・P10)は1.8m-1.8m。西列(P1・P5・P7)はやや間口が狭く1.6m-1.6mを測る。形状にやや歪みが認められる。

柱穴 柱穴の形状は円形あるいは楕円形を呈する。規模は径48cm~54cmを測りほぼ等しい。深さは18cm~40cmと一定していない。

遺物 遺物は検出されなかった。



第314図 2・3号掘立柱建物跡

第3章 検出された遺構と遺物

B-2号掘立柱建物跡 (第314・315図、P L 61・62・102)

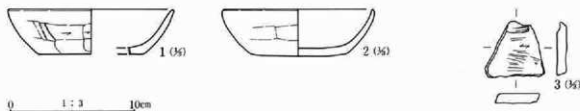
位置 Bf-31グリッド。調査区の中央部西端に位置する。

重複 3号掘立柱建物跡と重複関係をもつが、新旧関係は明瞭ではない。

形状・規模 5本の柱穴を持ち、東西方向に長い。規模は東西方向3.30m・南北方向1.90mを測る。主軸方位はN-40°-Eを示す。形状に歪みが認められる。

柱穴 柱穴の形状は円形及び楕円形を呈する。規模は径40cm～53cm・深さ28cm～50cmを測り、ばらつきがある。

遺物 ピット内より土師器坏破片数点が検出されている。



第315図 2号掘立柱建物跡出土遺物実測図

B-3号掘立柱建物跡 (第314図、P L 61・62)

位置 Bf-30・31グリッド。調査区の中央部西端に位置する。

重複 2号掘立柱建物跡と重複関係をもつが、新旧関係は明瞭ではない。

形状・規模 5本の柱穴を持ち、東西方向3.40m・南北方向2.50mを測る。主軸方位はN-80°-Eを示す。北側の柱列に比べ南側の柱列が狭く、形状は大きく歪んでいる。

柱穴 柱穴の形状は円形及び楕円形を呈する。規模は径64cm～86cm・深さ16cm～60cmと大きなばらつきがある。

遺物 遺物は検出されなかった。

B-4号掘立柱建物跡 (第316図、P L 62)

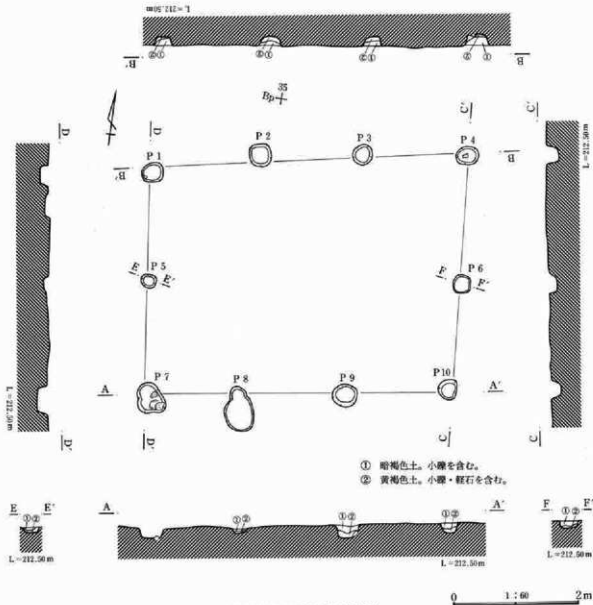
位置 Bo-34・35グリッド。調査区の北西隅に位置する。

重複 1号掘立柱建物跡と重複する。P 8・P 9を1号掘立柱建物跡のピットに切られており、4号掘立柱建物跡の方が古い。

形状・規模 東西方向に長い10本の柱穴からなる2間×3間の掘立柱建物跡である。東西方向5.00m・南北方向3.80mを測る。柱穴の配列は比較的整っている。主軸方位はN-83°-Eを示している。柱間寸法は梁行北列(P 1・P 2・P 3・P 4)は1.70mで等間隔、南列は(P 7・P 8・P 9・P 10)が1.50m-1.70m-1.70m。桁行西列(P 1・P 5・P 7)は1.70mの等間隔である。また、東列(P 4・P 6・P 10)は2.05m-1.70mを測る。

柱穴 柱穴の形状は円形あるいは楕円形を呈する。P 7・P 8は1号掘立柱建物跡のP 7・P 8に切れられ形状・規模ともに不明瞭である。柱穴の規模は径25cm～40cm・深さ8cm～20cmとばらつきがある。

遺物 遺物は検出されなかった。



第316図 4号掘立柱建物跡

B-5号掘立柱建物跡 (第317図、P L62)

位置 Bg-26・27グリッド。調査区の中央部やや西よりに位置する。

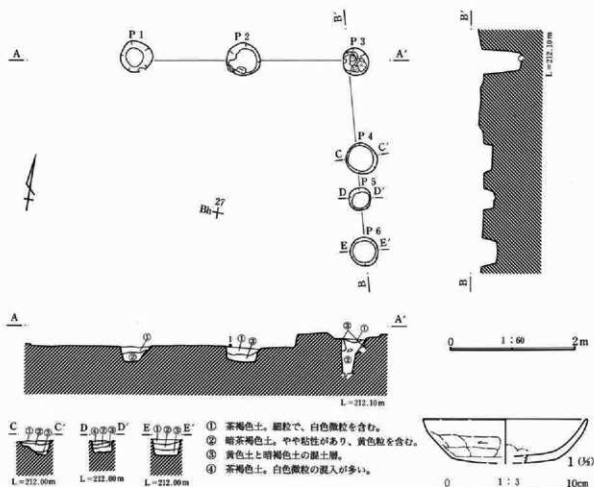
重複 142号住・145号住と重複関係をもち、いずれよりも古い。

形状・規模 東西方向に長く、6基のピットが検出されている。145号住との重複で、南及び西側の柱列は未検出であるが東西方向に長い2間×2間の掘立柱建物跡と思われる。規模は東西方向3.50m・南北方向3.00mを測る。主軸方位はN-80°-Eを示す。柱間寸法は北列(P1・P2・P3)は1.8mで等間隔、東列(P1・P4・P5)も1.6mで等間隔である。南列・西列は145号住に壊されており不明である。

柱穴 柱穴の形状はいずれも円形を呈する。規模は径34cm~54cm・深さ18cm~62cmを測ることができる。

遺物 P2の上部より土師器環破片が検出されている。

第3章 検出された遺構と遺物



第317図 5号掘立柱建物跡、出土遺物実測図

B-6号掘立柱建物跡 (第318図、P L63)

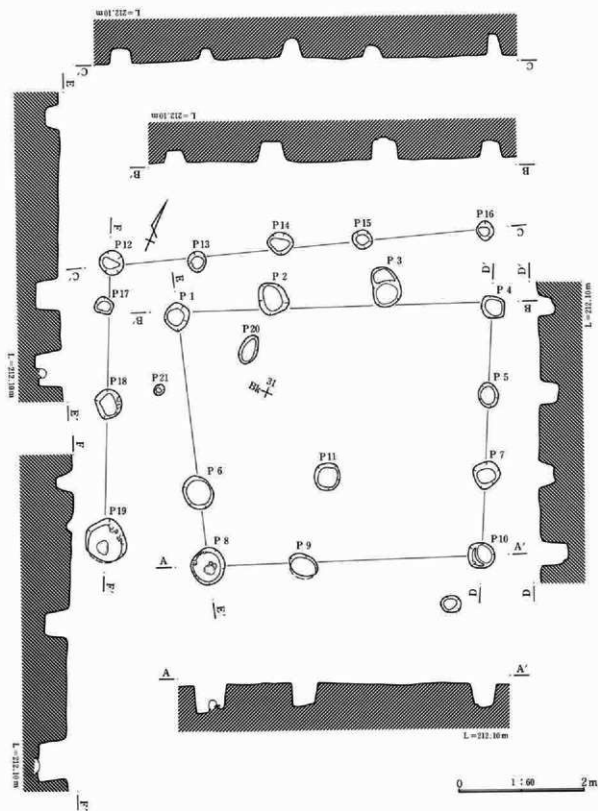
位置 Bj・Bk-30・31グリッド。調査区の中央部西よりに位置する。

重複 重複関係はもたない。

形状・規模 東西方向に長い3間×3間の掘立柱建物跡である。北列の2本(P2・P3)は柱列より僅かにずれている。西列及び南列には3本の柱穴しか検出されなかった。また、北列に比べ南列が狭く、形状に歪みが認められる。規模は東西方向5.00m・南北方向4.00mを測る。柱間寸法は北列(P1・P2・P3・P4)は1.60m-1.80m-1.70m。南列(P8・P9・P10)は1.50m-2.90m。西列(P1・P6・P8)は2.80m-1.20m。東列(P4・P5・P7・P10)は1.40m-1.30m-1.30mを測る。主軸方位はN-65°-Eを示す。また、当掘立柱建物跡柱列の北側及び西側の外縁にも柱列が検出されており、付属施設等の可能性が考えられる。規模は東西方向6.00m・南北方向4.40mを測る。柱穴寸法は北列(P12・P13・P14・P15・P16)は1.40m-1.30m-1.30m-1.90m。西側(P12・P17・P18・P19)は0.70m-1.60m-2.20mを測る。

柱穴 柱穴の形状は円形及び楕円形を呈する。規模は径32cm~66cm・深さ10cm~45cmを測り、大きさにばらつきが認められる。

遺物 遺物は検出されなかった。



第318図 6号掘立柱建物跡

第3章 検出された遺構と遺物

B-7号掘立柱建物跡 (第319図、P L 62)

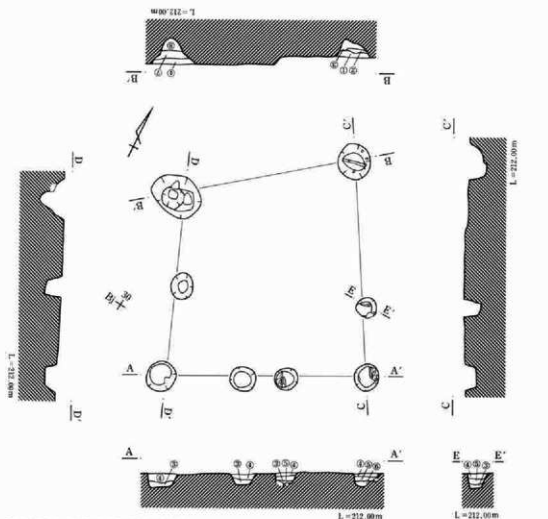
位置 B_j-29グリッド。調査区の中央部やや西よりに位置する。

重複 11号土坑と重複関係をもち、11号土坑より古い。

形状・規模 8本の柱穴よりなる掘立柱建物跡である。規模は東西方向3.30m・南北方向3.40mを測る。東列に比べ西列が狭く形状に歪みが認められる。主軸方位はN-36°-Wを示す。

柱穴 柱穴の形状は円形及び楕円形を呈する。柱穴の規模は径33cm~82cm・深さ14cm~29cmを測り、ばらつきが大きい。

遺物 遺物は検出されなかった。



- ① 茶褐色土。細粒で、サラサラした感じ。
- ② 茶褐色土。細粒で、暗褐色土ブロック混入。
- ③ 黄褐色土。サラサラした感じ。
- ④ 暗褐色土。小砂利を含む。
- ⑤ 茶褐色土。粒子が細かい。
- ⑥ 黄褐色土。小砂利・礫を含む。
- ⑦ 暗褐色土。粘性があり、小砂利を含む。
- ⑧ 暗褐色土。粘性がある。

0 1:60 2m

第319図 7号掘立柱建物跡

B-8号掘立柱建物跡 (第320図、P L 63)

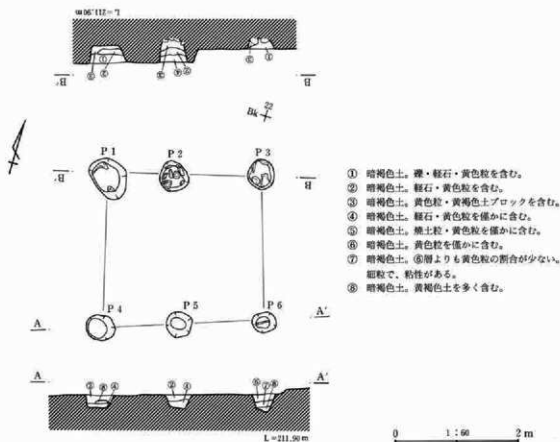
位置 B1-21グリッド。調査区の中央部やや東よりに位置する。

重複 177号住と重複し、177号住より古い。

形状・規模 東西方向に長く、6基のピットからなる2間×1間の掘立柱建物跡である。規模は東西方向2.50m・南北方向2.30mを測る。主軸方位はN-73°-Eを示す。柱間寸法は北列(P1・P2・P3)は1.10m-1.40m。南列(P4・P5・P6)は1.30m-1.30m。西列(P1・P4)は2.40m。東列(P3・P6)は2.30mを測る。

柱穴 柱穴の形状は円形及び楕円形を呈する。規模は径38cm~68cm・深さ18cm~36cmを測る。

遺物 遺物は検出されなかった。



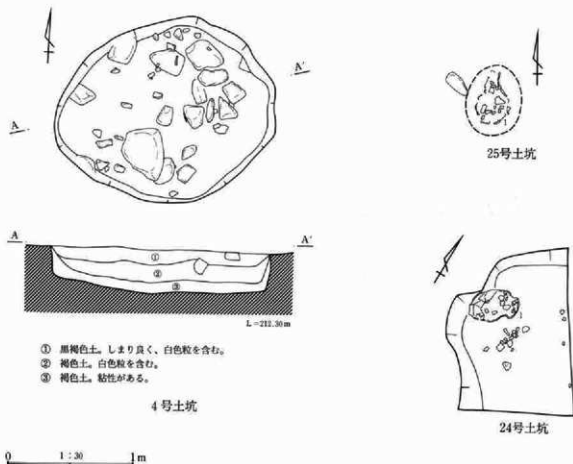
第320図 8号掘立柱建物跡

第4節 土坑・集石と出土遺物

南蛇井増光寺遺跡B区からは26基の土坑が検出されている。このうち6号・7号・9号・17号・18号土坑の5基については、縄文～弥生時代のものであり「南蛇井増光寺遺跡Ⅰ」B区・縄文・弥生時代編の中で報告済みである。今回は、残りの21基について報告する。遺物が出土した土坑は少なく、遺物が図示できた土坑としては、弥生時代で24号・25号土坑、奈良時代で11号・26号土坑、平安時代で13号・20号土坑の6基があげられる。また、4号土坑からは縄文前期の土器片が検出されている。4号土坑（縄文）・24号・25号土坑（弥生）の3基については、本来ならば「南蛇井増光寺遺跡Ⅰ」の中で報告すべきものであるが、今回整理を進める中で、住居内に掘り込まれたもの等、新たに土坑として認定したものがあり、今回報告の土坑の最初に取り上げることとした。

B-4号土坑（第321図、P.L64）

B0-29グリッドの北東に位置する。5号土坑及び120号住に近接して検出された。重複関係はもたない。規模は、長軸1.78m・短軸1.43m・深さ0.34mを測ることができる。平面形は楕円形を呈する。縄文時代前期の土器片21点が検出されているが、摩滅が著しく文様等も観察することはできなかった。図化、拓本ともに可能な遺物は検出されなかった。



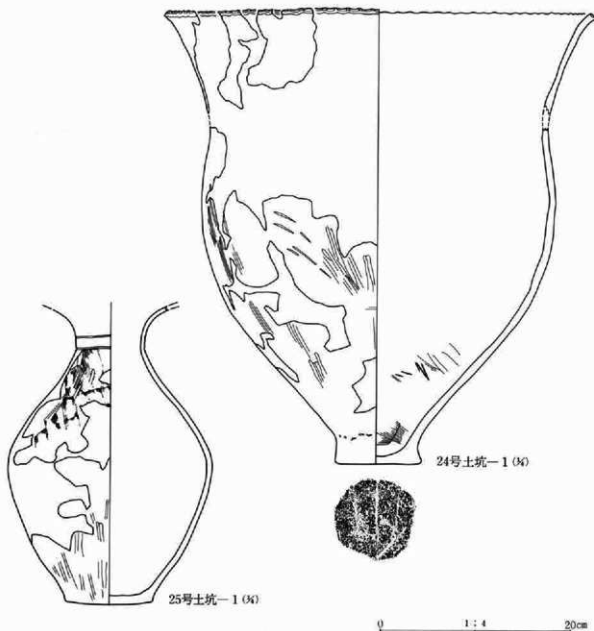
第321図 4・24・25号土坑

B-24号土坑 (第321・322図、P L66・102)

Ba-13グリッド、調査区の最南端に位置する。南側には鑄川の段丘崖が間近に迫っている。2号住居内で検出された。上部を2号住に壊され、調査範囲も限定されているため、規模・形状等の詳細は不明である。埋没土は粘質のしまりの良い暗茶褐色土である。土坑の底面近くに弥生時代中期前半の大型の甕形土器1点が単独で遺存していた。

B-25号土坑 (第321・322図、P L66・103)

At-25・26グリッドに位置する。20号住居内の東南隅で検出された。おそらく土坑状の小さい掘り込みがあったものと推定されるが、上部を20号住に破壊されており、明瞭な掘り込み等は認められなかった。靱圧痕の残る弥生時代中期後半の甕形の土器1点が単独で遺存していた。



第322図 24・25号土坑出土遺物実測図

第3章 検出された遺構と遺物

B-1号土坑 (第323図、P L63)

Bq-29グリッドの西側に位置し、106号住(弥生)の東側に近接して検出された。重複関係はもたない。規模は、長軸1.55m・短軸0.93m・深さ0.20mを測ることができる。平面形は楕円形を呈する。底面はほぼ平坦であるが、南に向かって僅かに傾斜が認められる。遺物は土師器破片1片が検出された。

B-2号土坑 (第323図、P L63)

Bq-29グリッドの西側に位置し、3号土坑の北側に近接して検出された。重複関係はもたない。規模は、長軸1.42m・短軸1.29m・深さ0.18mを測ることができる。平面形は歪んだ楕円形を呈する。底面はほぼ平坦であるが、東側に上部から掘り込まれたものと思われる小ピットが認められる。遺物は出土していない。

B-3号土坑 (第324図、P L63)

Bq-29グリッドに位置する。2号土坑の北側に近接して検出された。重複関係はもたない。規模は、長軸1.88m・短軸1.44m・深さ0.31mを測ることができる。平面形は長方形を呈する。底面は地山の礫が露出しており、凹凸が認められる。遺物は出土していない。

B-5号土坑 (第324図、P L64)

Bo-28グリッドに位置する。4号土坑に近接して検出された。重複関係はもたない。規模は、長軸1.43m・短軸0.90m・深さ0.16mを測ることができる。平面形は楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

B-8号土坑 (第324図)

Bp-23グリッドに位置する。98号住(弥生)及び7号土坑(弥生)に近接して検出された。南壁を小ピットに切られている。規模は、長軸1.12m・短軸1.10m・深さ0.24mを測ることができる。平面形は正方形を呈する。遺物は検出されていない。

B-10号土坑 (第324図、P L64)

Bp-25グリッドに位置する。101号住に近接して検出された。重複関係はもたない。規模は、長軸0.87m・短軸0.52m・深さ0.11mを測ることができる。平面形は楕円形を呈する。埋没土中に多量の焼土を含み、壁面が熱を受け赤化している。遺物は出土していない。

B-11号土坑 (第325・328図、P L64・102)

Bj-29グリッドの北東隅に位置する。126号住の南側に近接して検出された。7号掘立と重複する。規模は、長軸2.72m・短軸2.00m・深さ0.22mを測ることができる。平面形は楕円形を呈する。底面は、19点の土師器片・須恵器片が検出されており、土師器環2点(1・2)・甕1点(4)、須恵器環1点(3)の4点を図化することができた。

B-12号土坑 (第325図、P L64)

Bm-21グリッドの南西隅に位置する。143号住と重複関係をもち、143号住の西壁を切って構築している。

規模は、長軸0.77m・短軸0.58m・深さ0.35mを測ることができる。平面形は楕円形を呈する。底面は球状を呈する。遺物は出土していない。

B-13号土坑 (第325・328図、P L64・102)

Bj-23グリッドに位置する。161号住と重複関係をもち、161号住の東南隅を切って構築している。規模は、長軸1.25m・短軸0.78m・深さ0.21mを測ることができる。平面形は楕円形を呈する。底面は、西側の掘り込みが深く、東側は浅くなっている。土坑内には3点の砂岩を含むややおぼりの礫が検出されている。遺物量は少なく、完形の須恵器埴1点が底面から逆位形で、羽釜口縁部片1点が底面よりやや浮いた状態で検出されている。図化可能な遺物は2点のみであった。

B-14号土坑 (第326図、P L65)

Bk-21グリッドの西側に位置する。重複関係は認められず、144号住の西側に近接して検出された。規模は、長軸1.48m・短軸0.62m・深さ0.28mを測ることができる。平面形は楕円形を呈する。底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

B-15号土坑 (第326図、P L65)

Bo-24グリッドに位置する。重複関係は認められず、184号住の西側に近接して検出された。規模は、長軸0.77m・短軸0.75m・深さ0.35mを測ることができる。平面形は円形を呈する。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

B-16号土坑 (第326図、P L65)

Bo-24グリッドに位置する。重複関係は認められず、155号住の北側に近接して検出された。規模は、長軸1.00m・短軸0.78m・深さ0.34mを測ることができる。平面形は楕円形を呈する。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかったが、埋没土中に多数の円礫が検出された。

B-19号土坑 (第326図)

Bc-17グリッドの東南隅に位置する。4A号・4B号住に近接して検出された。重複関係はもたない。規模は、長軸0.88m・短軸0.84m・深さ0.12mを測ることができる。平面形は円形を呈する。底面はほぼ平坦である。遺物は出土していない。

B-20号土坑 (第326・328図、P L65・102)

Bq-21グリッドの南西隅に位置する。60号住(弥生)の東壁を切って構築している。規模は、長軸1.64m・短軸1.20m・深さ0.13mを測ることができる。平面形は隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。遺物は東壁近くに集中する。須恵器埴2点(1・2)、灰陶器埴1点(3)の3点を図化することができた。

B-21号土坑 (第326図、P L65)

Bq-21グリッドの東南隅に位置する。60号住(弥生)の南側に近接して検出された。規模は、長軸1.54m・短軸0.90m・深さ0.14mを測ることができる。平面形は隅丸長方形を呈する。底面はほぼ平坦である。遺物

第3章 検出された遺構と遺物

は出土していない。

B-22号土坑 (第327図、P L65)

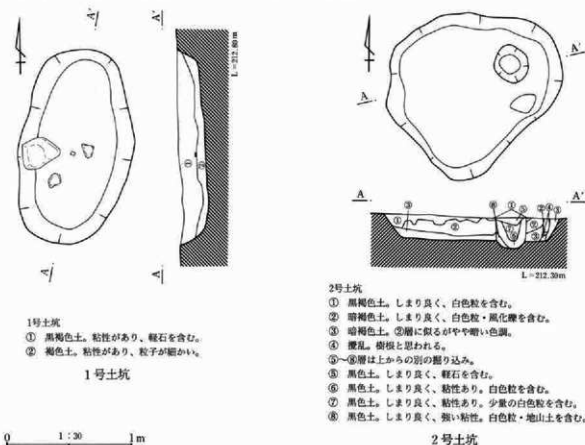
調査区の東南隅、Bc-16グリッドの西側に位置する。64号住の北壁を切って構築している。規模は、長軸0.96m・短軸0.90m・深さ0.29mを測ることができる。平面形は円形を呈する。底面は、南に向かって傾斜が認められる。遺物は出土していない。

B-23号土坑 (第327図、P L66)

Ba-15グリッドの南西隅に位置する。1号住の南側に近接して検出された。重複関係はもたない。規模は、長軸0.91m・短軸0.52m・深さ0.18mを測ることができる。平面形は歪みのある楕円形を呈する。埋没土中に多量の炭化物を含み、壁面及び底面は広い範囲にわたって熱を受け赤化していた。遺物は検出されなかった。

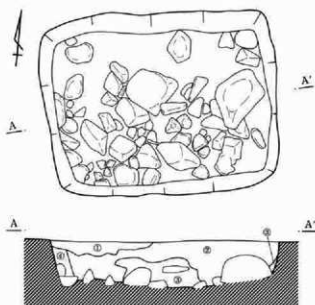
B-26号土坑 (第327・328図、P L66・103)

Bd-18グリッドに位置する。13号住(古墳)と重複関係をもち、13号住の東南隅を切って構築したものと思われるが、調査時には新旧の関係をつかむことができず13号住を先行して掘ってしまった。13号住の東南隅に本土坑に伴う遺物が多数検出されている。規模・形状等の詳細は不明である。図化可能な遺物は、土師器坏4点(1~4)・小型台付甕(5・6)・甕(7・8)の8点である。



第323図 1・2号土坑

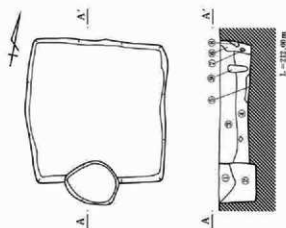
第4節 土坑・集石と出土遺物



3号土坑

- ① 黒褐色土。しまり良く、少量の白・黄色粒を含む。
- ② 暗褐色土。しまり良く、白・黄色粒を含む。
- ③ 暗褐色土。②層に似るが暗い色調。
- ④ 暗褐色土。しまり良く、粘性あり。

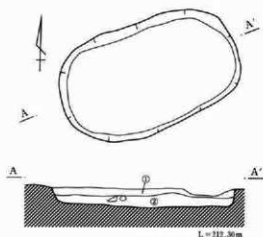
3号土坑



8号土坑

- ①・②層は重複するビット
- ① 暗褐色土。しまり良く、白・黄色粒を含む。
- ② 暗褐色土。しまり良く、粘性あり。少量の白・黄色粒を含む。
- ③ 褐色土。しまり良く、強い粘性。白・黄色粒、黄色粘土を含む。
- ④ 黄褐色土。しまり良く、強い粘性。少量の白・黄色粒を含み、黄色粘土を多量に含む。
- ⑤ 暗褐色土。しまり良く、強い粘性。少量の白・黄色粒を含む。
- ⑥ 暗褐色土。しまり良く、粘性あり。白・黄色粒を含む。
- ⑦ 褐色土。⑥層に似るが混入物が殆どない。
- ⑧ 黄色粘土。
- ⑨ 褐色土。樹根か？

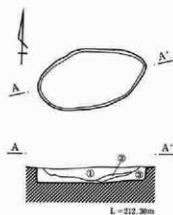
8号土坑



5号土坑

- ① 黒褐色土。しまり良く、白・黄色粒を含む。
- ② 褐色土。しまり良く、白・黄色粒を含む。

5号土坑



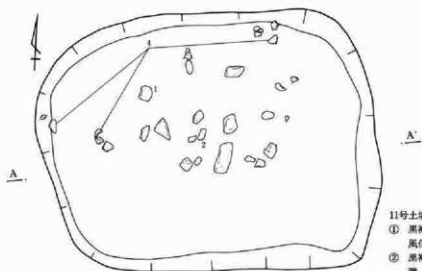
10号土坑

- ① 暗黄褐色土。しまり良く、白・黄色粒を含む。
- ② 暗赤褐色土。しまり良く、粘性あり。粘土を多く含み、少量の白・黄色粒混入。
- ③ 暗褐色土。しまり良く、白・黄色粒、風化層を含む。

10号土坑

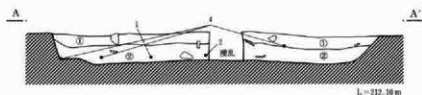
0 1:30 1m

第324図 3・5・8・10号土坑

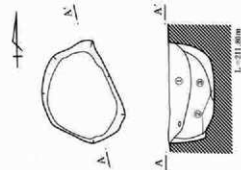


11号土坑

- ① 黒褐色土。しまり良。少量の白・黄色粒、炭化櫛を含む。
- ② 黒褐色土。しまり良。白・黄色粒、炭化櫛、地山土を少量含む。



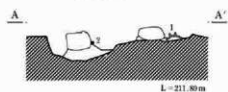
11号土坑



12号土坑

- ① 暗褐色土。黄色粒・焼土粒を含む。
- ② 暗褐色土。黄色粒・焼土粒・炭化物を僅かに含む。
- ③ 暗褐色土。暗褐色土をベースに少量の黄褐色土を含む。

12号土坑

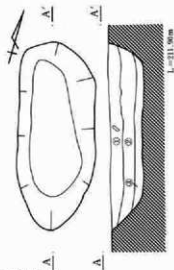


13号土坑

- ① 暗褐色土。焼土粒・炭化物を僅かに含む。
- ② 暗褐色土。暗褐色土をベースに黄褐色土ブロックを僅かに含む。
- ③ 暗褐色土。②層よりも黄褐色土ブロックを多く含む。
- ④ 暗褐色土。焼土粒・黄色粒・炭化物を僅かに含む。

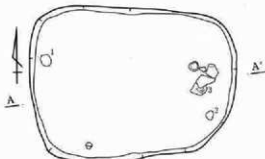
13号土坑

第325図 11~13号土坑



- 14号土坑
 ① 暗褐色土。黄色粒・白色粒・焼土粒・炭化物・軽石を含む。
 ② 暗褐色土。少量の黄色粒・白色粒・焼土粒・軽石を含む。
 ③ 暗褐色土。白・黄色粒を僅かに含む。

14号土坑



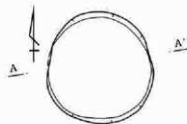
- 15号土坑
 ① 暗褐色土。炭化物を多量に含み、橙色粒・黄色粒を僅かに含む。
 ② 暗褐色土。炭化物・黄色粒・橙色粒を僅かに含む。
 ③ 暗褐色土。黄色粒を僅かに含む。

15号土坑



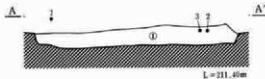
- 16号土坑
 ① 暗褐色土。炭化物・橙色粒・黄色粒・軽石を僅かに含む。
 ② 暗褐色土。軽石・黄色粒を僅かに含む。
 ③ 褐色土。黄色粒を僅かに含む。粘性あり。

16号土坑



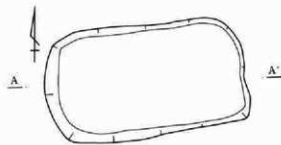
- 19号土坑
 ① 灰黒色土。少量の黄色粒と焼土を含む。

19号土坑



- 20号土坑
 ① 黒褐色土。少量の炭化物・焼土・軽石を含む。

20号土坑



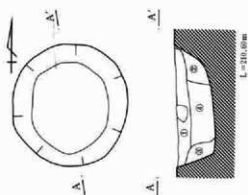
- 21号土坑
 ① 黒褐色土。少量の焼土・炭化物・軽石・黄褐色粒を含む。

21号土坑



第326図 14～16・19～21号土坑

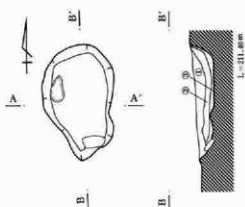
第3章 検出された遺構と遺物



22号土坑

- ① 灰黒色土。若干の焼土・軽石を含む。
- ② 灰黒色土。焼土・軽石・黄褐色粒を含む。
- ③ 黄褐色土。地山の黄褐色土に若干の黒色土を混入。
- ④ 暗黄褐色土。地山の黄褐色土ブロックと焼土・軽石を若干含む。

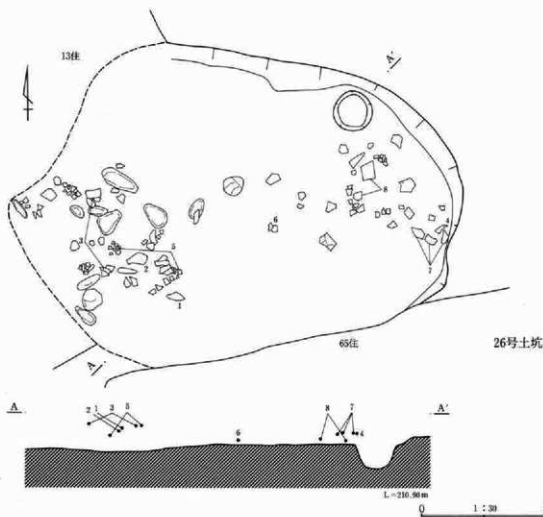
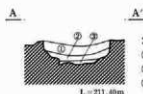
22号土坑



23号土坑

- ① 暗褐色土。しまりなし。
- ② 炭化物。
- ③ レンガ状に焼けた焼土層。

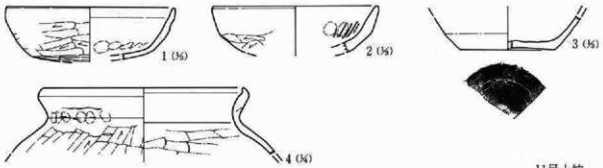
23号土坑



26号土坑

第327図 22・23・26号土坑

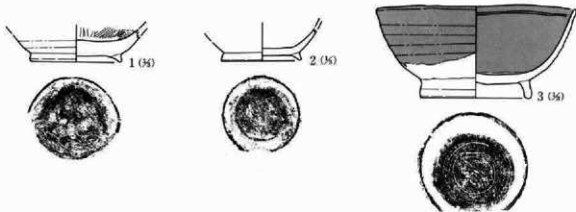
第4節 土坑・集石と出土遺物



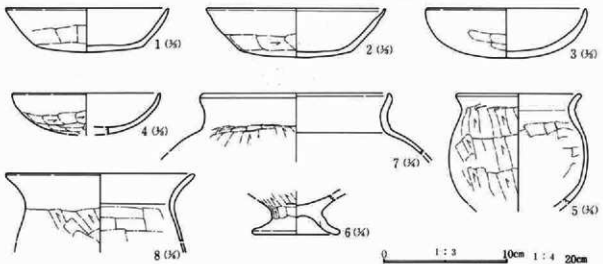
11号土坑



13号土坑



20号土坑



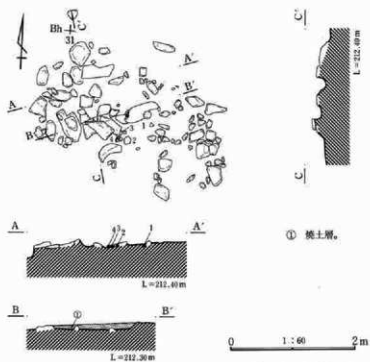
26号土坑

第328図 11・13・20・26号土坑出土遺物実測図

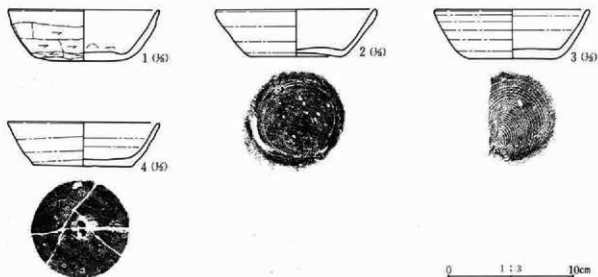
第3章 検出された遺構と遺物

B-2号集石 (第329・330図、P L66・103)

Bm-30グリッドの北西隅に位置する。長軸3.00m・短軸1.60mの範囲にわたって大小さまざまな礫が数十点検出されている。特に西側では板状に加工された砂岩十数点が熱を受け赤化した状態でまともって検出されている。また、砂岩の下からは熱を受けて赤化した焼土面が1.30m×0.70mの範囲にわたって検出された。掘り込みは不明瞭で、底面は礫層となっている。集石内から須恵器環3点(2~4)、土師器環1点(1)が検出されている。



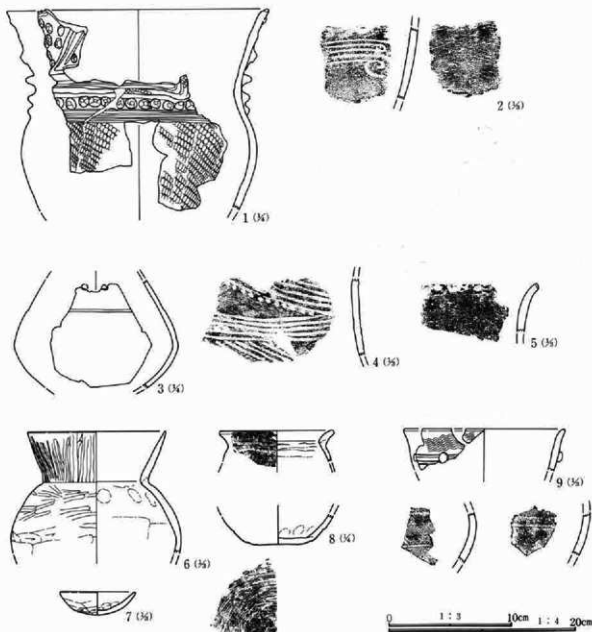
第329図 2号集石



第330図 2号集石出土遺物実測図

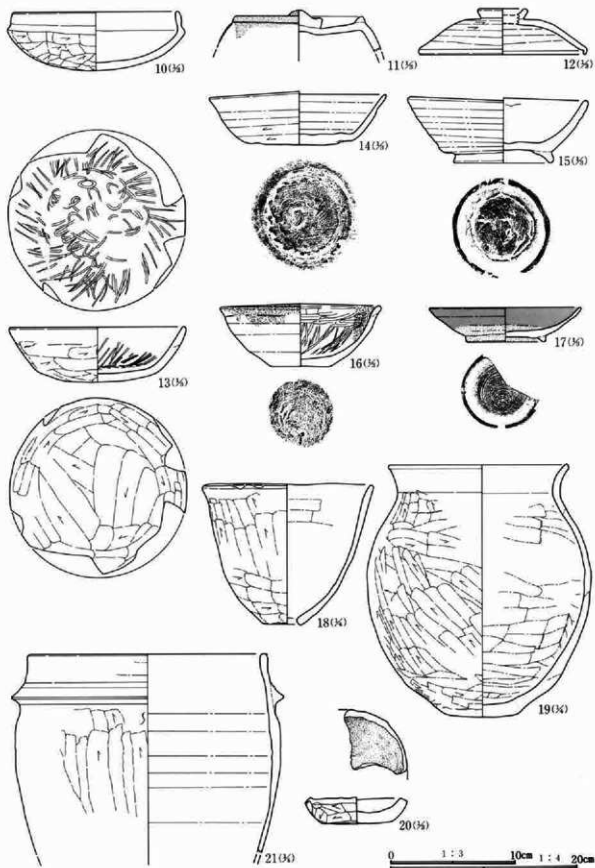
第5節 遺構外出土遺物 (第331～335図、P L103～106)

本調査では、多量の遺物が遺構確認面から出土した。グリッド出土遺物・表採遺物のうち、土師器7点、須恵器8点、灰釉陶器皿1点、土鍾2点、石器及び石製品18点(白玉1点・打製石鏃5点・石鎌1点・石匙2点・剃片1点・打製石斧1点・石鏃1点・磨石1点・石皿1点・砥石4点)、板碑1点、縄文土器2点、弥生土器3点を図化した。縄文土器2点と弥生土器3点については、本来ならば前回報告分の「南蛇井増光寺遺跡1」の縄文・弥生時代編の中で記載すべきであるが、前回の報告でもれたため今回の報告で記載することにした。また、今回記載した石器の内、縄文・弥生時代のものと思われる25・26・28～35の10点はいずれも古墳時代以降の住居跡の覆土中より検出されたものである。



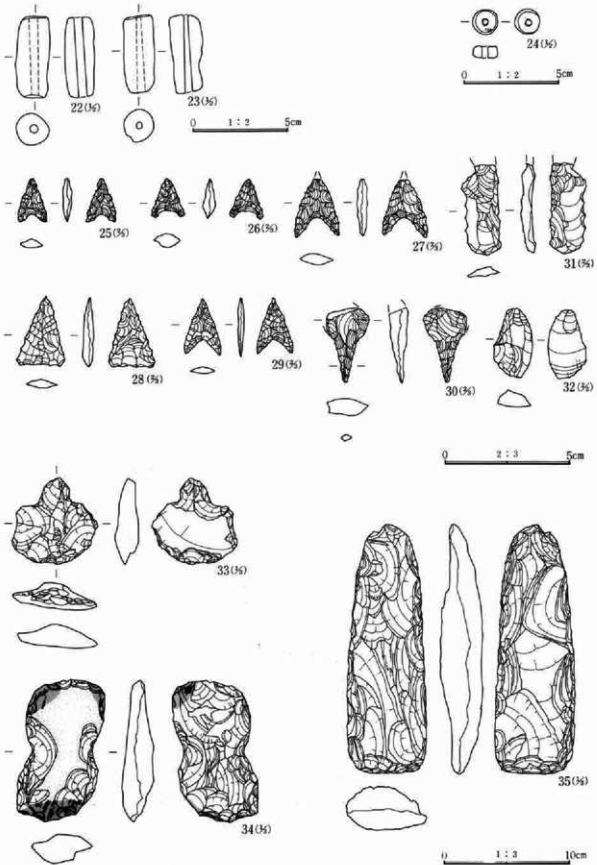
第331図 グリッド出土遺物実測図(1)

第3章 検出された遺構と遺物



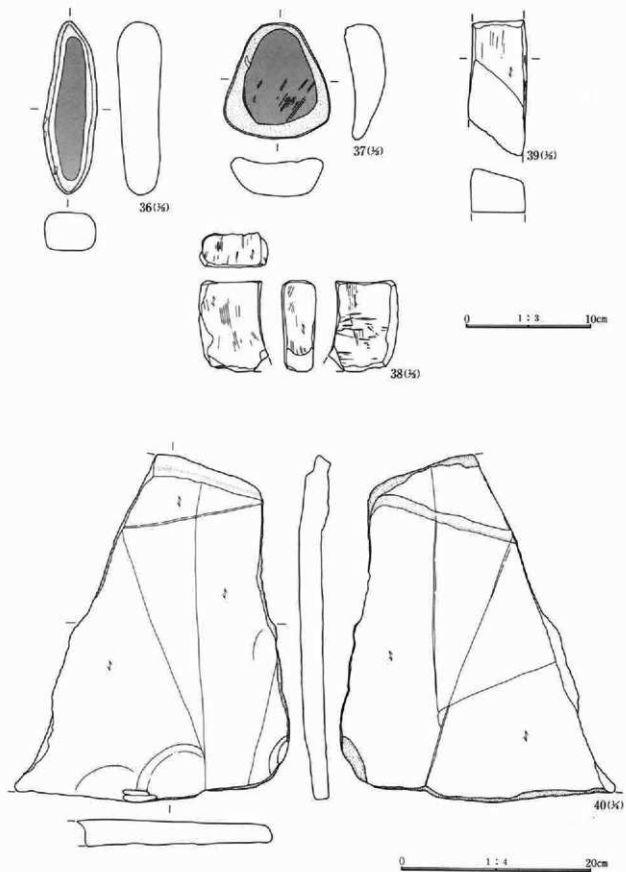
第332図 グリッド出土遺物実測図(2)

第5節 遺構外出土遺物

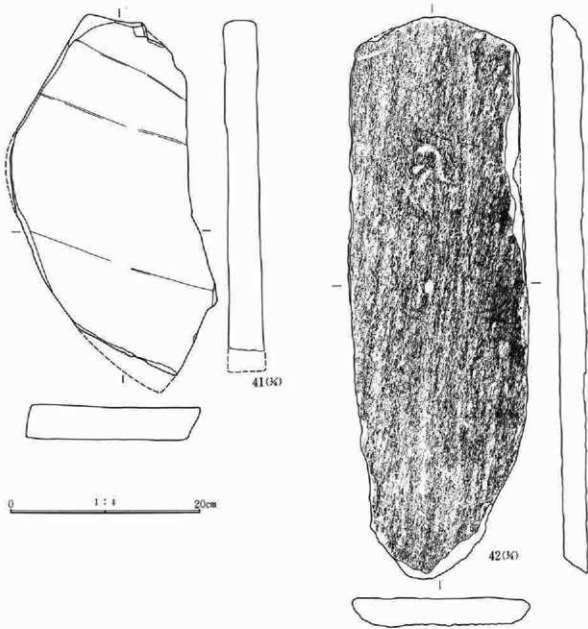


第333図 グリッド出土遺物実測図(3)

第3章 検出された遺構と遺物



第334図 グリッド出土遺物実測図(4)



第335図 グリッド出土遺物実測図(5)

第4章まとめ

第1節 検出された遺構について

遺構の検出状況

今回報告する南蛇井増光寺遺跡B区から検出された竪穴住居跡は古墳時代後期53軒、奈良時代31軒、平安時代36軒である。その他の遺構としては掘立柱建物跡8棟、土坑21基、集石1基等があげられる。集落は国道254号線以北に大きく広がり、古墳～平安時代の住居跡の総数は約535軒に及んでいる。

B区は南に向かって緩やかに傾斜している。住居跡の残存状況は比較的良好であったが、平安時代の住居跡は掘り込みが浅く、残存状況は悪い。住居跡の分布状況を見るといずれの時代とも中央部が多く、北部の分布が少ない傾向が窺える。北部の西側には礫の堆積が見られ、住居を構築しにくかったものと思われる。

時期別の住居面積の変化について

古墳時代から平安時代の住居規模の変化について検討してみた。

古墳時代の竪穴住居跡のうちで面積の限定できるものは45軒を数えることができる。最小は15号住の8.17㎡、最大は6号住の73.46㎡であり、住居規模には大きな差があることが認められる。面積が限定できた45軒のうち、16㎡未満（一辺が基本的に4m以下）の小規模住居が19軒（42%）と最も多い。16㎡～25㎡未満の住居がこれに続き15軒（33%）を占める。25㎡以上（一辺が基本的に5m以上）の大規模住居は11軒（24%）である。大規模住居の中には36㎡（一辺が基本的に6m以上）を超えるものも6軒検出されている。6号住・81号住の2軒は73.49㎡と65.01㎡と特に大きい。いずれも6世紀代の住居跡である。総体的に見ると住居規模は段階的にかんがりのバラツキを見せる傾向が窺える。

奈良時代の住居跡は31軒を数えることができる。このうちで面積を限定できるものは26軒である。16㎡～25㎡の平均的規模の住居が最も多く11軒（42%）を数えることができる。16㎡以下の小規模住居は7軒（27%）、大規模住居は8軒（31%）で、その割合はほぼ等しい。古墳時代と同様に住居の規模は小規模～大規模住居まで広範囲にわたって認められる。

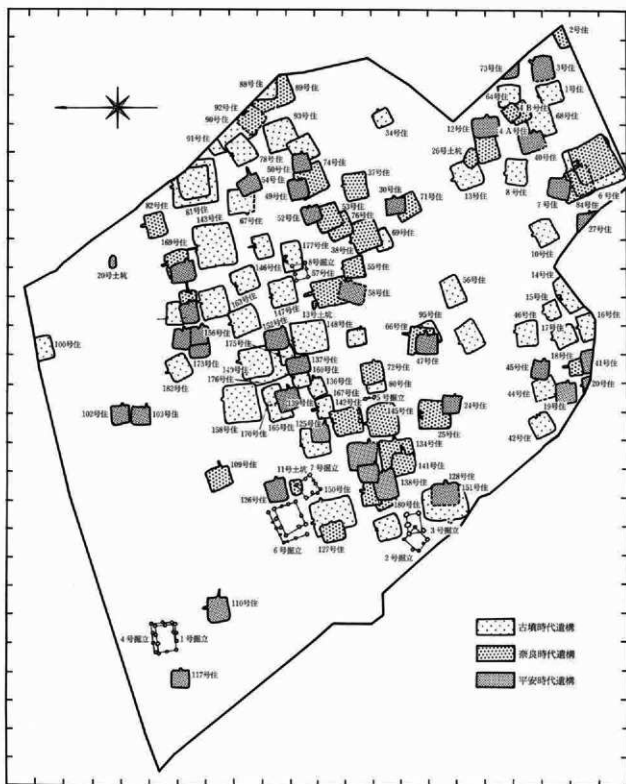
平安時代の住居跡は36軒を数えることができる。このうち面積を限定できるものは30軒を数えることができる。古墳・奈良時代とは異なった様相を示し、16㎡未満の小規模住居の割合が最も多く21軒（70%）を占める。15㎡～25㎡未満の中規模のものが8軒（27%）とこれに続き、25㎡を超える住居は僅かに135号住1軒（3%）を数えるにすぎない。平安時代の住居は、古墳・奈良時代と比べ小型化する傾向が顕著である。

形状について

古墳時代の住居跡53軒のうち、形状を明瞭に確認できたのは46軒である。このうち、長方形を呈する住居は30軒（65%）、正方形を呈する住居は16軒（35%）である。長方形を呈する住居は小規模なものに多く、正方形を呈する住居は中～大規模住居に多い傾向が認められる。奈良時代の住居跡で形状を明瞭に確認できたのは27軒である。18軒（67%）が長方形を呈し、9軒（33%）が正方形を呈する。大規模住居は正方形を呈するものが多いが、小～中規模住居は長方形を呈するものが多い。平安時代の住居跡で形状が明瞭なものは30軒検出された。このうち、21軒（70%）は長方形、9軒（30%）は正方形を呈する。

柱穴について

古墳時代の住居跡は53軒が検出されたが、このうち、柱穴が確認されたのは31軒（58%）である。面積16



第336図 古墳～平安時代遺構分布図

㎡未満の小規模住居については19軒中、柱穴が検出されたのは僅かに5軒（26%）に過ぎない。16㎡以上の中規模～大規模住居になると26軒中21軒（81%）と、ほとんどの住居に柱穴が検出されている。調査範囲が限られており2基のみが検出された住居跡も数軒あるが、いずれも4本柱構造になるものと思われる。奈良時代になってもこの傾向は続き、16㎡未満の小規模の住居で柱穴が検出されたのは僅かに1軒で、柱穴がないものが多い。中規模～大規模住居では17軒中14軒（82%）から柱穴が検出されている。古墳時代と同様に住居プランのほぼ対角線上に方形配置された主柱穴4本を基本とする。平安時代の住居跡は36軒が検出されているが柱穴が検出されたのは12号住と110号住の僅かに2軒であり、柱穴が伴わないものが一般的である。

竈について

古墳時代の住居跡46軒から竈が検出されている。北壁に竈を構築した住居が多く、39軒（85%）を占める。東壁に竈が造られた住居は僅かに6軒で、いずれも16㎡未満の小規模住居である。西竈が1軒あるが、焼土等も検出されておらず竈とするには疑問が残る。この時代の竈は一般的には北壁に造られることが多く、東壁に造られるのはまれである。竈の構造は、両袖が住居内に張り出し、両袖及び天井部に板状の砂岩を使用した例が多い。煙道は、住居外に1m前後の長さで延びている。奈良時代は25軒の住居跡から竈が検出されている。北壁に造られたものが最も多く18軒（72%）を占める。東壁に造られたのは僅かに6軒（24%）で、北壁及び東壁に竈が造られた住居も1軒（134号住）検出されている。竈の造り替えが想定され、北竈を廃棄後東壁に新たに竈を構築したものと思われる。竈の構造は、古墳時代と同様に両袖が住居内に張り出し、煙道が住居外に延びるものが多い。平安時代は33軒から竈が検出されている。東壁に造られたものが圧倒的に多く30軒（91%）を占める。北壁に竈が造られる例は僅かに2軒（6%）である。16㎡未満の小規模住居では竈はすべて東壁に構築される。110号住居1軒のみは北壁・東壁に竈があり、竈の造り替えが考えられる。30号住居は東壁に新旧2基の竈が構築されている。竈の構造は、古墳・奈良時代とは異なり、壁を大きく掘り込んで構築した例が多い。両袖及び天井部には板状の砂岩の切石を使用している。この時期には住居が小型化し、竈も東壁に造られる傾向が顕著である。この地域は、風の強い冬季には西及び北西方向からの風がほとんどである。こうした気象条件を考慮して竈の位置も限定されたのであろう。

貯蔵穴について

古墳時代の住居跡53軒中21軒（40%）から貯蔵穴が検出されている。竈の右脇の北東隅に造られる例がほとんどで20軒中14軒を数えることができる。34号住と136号住は東壁に竈を持ち、貯蔵穴も竈の右脇東南隅に造られている。148号住・182号住・130号住はやや変則的で竈から遠く離れた東南隅から検出されている。奈良時代の住居跡31軒中8軒（26%）から検出されている。いずれも竈の右脇の北東隅あるいは東南隅から検出されている。134号住では、北竈に伴うものと東竈に伴うものが1基ずつ検出されている。平安時代では36軒中13軒（36%）から検出されている。103号住は南西隅・117号住は竈の左側に造られやや変則的であるが、他の11軒はすべて竈の右脇の東南隅に造られている。

壁下周溝について

周溝が検出された住居跡は大変少なく、古墳時代1軒（154号住）、奈良時代2軒（145号住・180号住）平安時代6軒（24号住・102号住・110号住・138号住・153号住・156号住）のあわせて9軒があげられる。全周するものは認められず、西・北・南壁下の一部で検出された住居は24号住・102号住・138号住の3軒が、西・南・東壁下で検出された住居は145号住が、南壁下で検出された住居は180号住があげられる。153号住・154号住・156号住の3軒は西壁下で検出されている。いずれの時代も検出数は極めて少ない。

第3表 古墳時代住居跡一覧表

面	積(m ²)	住居No	規模(m)	主軸方位	形状		カマド位置	貯蔵穴位置	竈穴形状	柱穴	周溝	
					長方形	正方形						
①0m ² ~16m ² 未満	8.17	15	3.15×2.79	N-21°W	○		北	—	—	—	—	
	14.78	17	3.84×4.17	N-21°W	○		北	—	—	—	—	
	9.93	34	3.51×3.15	N-64°E	○		東	—	—	—	—	
	14.17	42	3.90×3.96	N-60°E	○	○	東	東南隅	円形	○	○	
	13.74	44	3.45×3.90	N-78°E	○		東	—	—	—	—	
	15.63	64	4.05×3.90	N-4°W	○	○	東	—	—	—	—	
	11.33	69	3.36×3.24	N-23°W	○	○	北	—	—	—	—	
	(14.57)	95	4.35×3.21	N-26°W	○	○	北	—	—	—	—	
	8.62	136	3.69×3.90	N-60°E	○	○	東	東南隅	円形	○	○	
	12.98	144	4.62×3.36	N-11°W	○	○	北	—	—	—	—	
	10.05	159	3.09×3.45	N-83°E	○	○	北	—	—	—	—	
	(15.86)	160	4.83×3.51	N-22°W	○	○	北	—	—	—	—	
	12.62	165	3.69×4.20	N-78°E	○	○	北	東隅	2:25傾	—	—	
	12.30	167	4.65×3.20	N-17°W	○	○	北	東隅	楕円形	—	—	
	13.45	170	3.15×4.35	N-77°E	○	○	北	—	—	—	—	
	14.25	172	4.60×3.60	N-3°W	○	○	北	—	—	—	—	
	(9.19)	175	3.45×3.06	N-18°W	○	○	北	—	—	—	—	
	(13.28)	177	4.65×3.12	N-9°W	○	○	北	東隅	円形	○	○	
	15.73	182	4.29×3.80	N-27°W	○	○	北	東隅	楕円形	—	—	
	②16m ² ~25m ² 未満	17.03	1	4.69×4.35	N-12°W	○		北	—	—	○	—
17.02		8	4.44×3.90	N-5°W	○		北	—	—	—	—	
16.88		10	4.50×3.93	N-29°W	○		北	—	—	—	—	
22.51		13	4.92×4.80	N-17°W	○	○	北	東隅	楕円形	—	—	
21.74		26	5.55×4.05	N-31°W	○	○	北	—	—	—	—	
17.07		46	4.49×4.10	N-17°W	○	○	北	—	—	—	—	
29.20		56	5.10×4.90	N-28°W	○	○	北	—	—	—	—	
(29.08)		67	4.56×4.85	N-1°W	○	○	北	—	—	—	—	
19.23		70	4.59×4.80	N-28°W	○	○	北	東隅	楕円形	○	○	
19.59		78	4.99×4.10	N-34°W	○	○	北	—	—	—	—	
(23.18)		80	5.49×3.70	N-13°W	○	○	北	東隅	楕円形	○	○	
18.71		130	4.23×4.50	N-13°W	○	○	北	—	—	—	—	
17.50		146	4.35×4.41	N-21°W	○	○	北	東隅	楕円形	○	○	
21.26		147	4.56×4.80	N-14°W	○	○	北	—	—	—	—	
22.04		163	4.65×4.80	N-24°W	○	○	北	東隅	円形	○	○	
③25m ² ~36m ² 未満	30.06	93	5.49×5.70	N-16°W	○	○	北?	—	—	○	—	
	30.18	140	5.25×5.75	N-12°W	○	○	北	東隅	楕円形	○	○	
	35.71	148	5.85×6.30	N-7°W	○	○	北	東隅	楕円形	○	○	
	26.17	149	5.19×4.98	N-10°W	○	○	北	—	—	—	—	
	26.68	154	5.43×5.10	N-14°W	○	○	北	東隅	楕円形	○	○	
④36m ² 以上	73.46	6	9.12×9.39	N-29°W	○	○	北	—	—	—	—	
	65.01	81	7.95×7.95	N-9°W	○	○	北	—	—	—	—	
	49.81	143	7.35×6.87	N-9°W	○	○	北	東隅	楕円形	○	○	
	(54.35)	151	6.30×8.70	N-95°W	○	○	北	—	—	—	—	
	41.30	158	6.89×6.30	N-4°W	○	○	西?	北	東隅	楕円形	○	○
	(42.61)	176	6.15×7.05	N-15°W	○	○	北	東隅	楕円形	○	○	
	—	14	6.45×?	N-26°W	—	—	北	東隅	楕円形	○	○	
	—	16	4.90×?	N-14°W	—	—	北	東隅	楕円形	○	○	
—	68	—	N-20°W	—	—	北	—	—	—	—		
—	88	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
—	90	—	—	—	—	—	—	—	○	—		
—	91	—	—	—	—	—	—	—	○	—		
—	100	4.00×?	N-20°W	—	—	—	—	—	○	—		
—	150	—	—	—	—	北	—	—	○	—		

第4表 奈良時代住居跡一覧表

面	積(m ²)	住居No	規模(m)	主軸方位	形状		カマド位置	貯蔵穴位置	竈穴形状	柱穴	周溝
					長方形	正方形					
①0m ² ~16m ² 未満	(6.61)	4A	2.58×2.49	—	○		—	—	—	—	—
	(13.74)	4B	4.09×3.60	—	○		—	—	—	—	—
	(7.48)	18	3.09×2.46	N-10°W	○		北	—	—	—	—
	13.95	55	3.69×4.08	N-6°W	○		北	—	—	—	—
	14.33	82	4.14×3.60	N-17°W	○		北	—	—	—	—
	13.04	127	3.66×4.40	N-86°E	○		北	東隅	円形	○	—
	10.03	171	3.51×3.90	N-109°E	○		東	—	—	—	—
	②16m ² ~25m ² 未満	19.90	37	4.89×4.35	N-11°W	○		北	—	—	○
29.40		53	4.86×4.20	N-13°W	○		北	—	—	○	—
(17.72)		65	?×3.84	—	○		北	—	—	○	—
(21.33)		66	4.89×4.50	N-5°E	○		北	—	—	○	—
20.21		71	4.90×4.35	N-27°W	○		北	—	—	○	—
(17.75)		72	4.14×4.41	N-75°E	○		北	—	—	○	—
(19.73)		76	4.59×4.50	N-19°W	○	○	東	—	—	○	—
16.14		109	3.66×4.44	N-76°E	○		東	東南隅	円形	○	—

第4章 まとめ

面	積(m ²)	住居No	規模(m)	主軸方位	形		カマド位置	貯蔵有	竈位置	穴形状	柱穴	周溝
					長方形	正方形						
	23.89	142	4.50×5.50	N-10°-W	○		北	○	北東隅	楕円形	○	—
	19.65	169	4.80×4.35	N-9°-W	○		北	○	北東隅	楕円形	—	○
	(16.48)	180	4.02×4.17	N-27°-W		○	北	—	北東隅	—	—	○
①25m ² ~36m ² 未満	27.18	25	4.80×5.55	N-7°-W	○		北	—	—	—	○	—
	25.71	38	5.25×5.25	N-25°-W		○	北	—	—	—	○	—
	28.61	57	4.86×5.90	N-16°-W	○		北	—	—	—	○	—
	26.43	74	5.10×5.10	N-25°-W		○	北	—	—	—	○	—
	(27.48)	84	5.19×5.34	N-20°-W		○	北	—	—	—	○	—
	30.03	145	5.79×5.49	N-4°-W		○	北	○	北東隅	楕円形	—	○
①36m ² 以上	37.22	134	6.30×6.06	N-79°-E	○		東・北	○	球・楕圓	形・楕圓	○	—
	(59.30)	83	7.59×8.58	N-29°-W	○		北	—	—	—	○	—
計画不可能	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	89	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
	—	92	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—
	—	133	? ×3.78	N-7°-W	○	—	—	—	—	—	—	—
—	—	141	—	N-79°-E	—	—	—	○	東南隅	楕円形	—	—

第5表 平安時代住居跡一覧表

面	積(m ²)	住居No	規模(m)	主軸方位	形		カマド位置	貯蔵有	竈位置	穴形状	柱穴	周溝
					長方形	正方形						
①0m ² ~16m ² 未満	(15.49)	7	3.90×4.50	N-100°-E	○		東	—	—	—	—	—
	13.40	19	3.65×3.75	N-50°-E		○	東	—	—	—	—	—
	10.42	24	3.30×3.21	N-101°-E		○	東	○	東南隅	円形	—	○
	10.80	30	3.00×3.78	N-79°-E	○		東・北	—	—	—	—	—
	10.54	45	3.45×3.15	N-101°-E	○		東	—	—	—	—	—
	13.47	47	3.45×4.11	N-88°-E	○		東	—	—	—	—	—
	10.95	49	3.30×3.51	N-76°-E	○		東	—	—	—	—	—
	10.25	50	3.15×3.30	N-76°-E	○		東	—	—	—	—	—
	11.06	52	3.45×3.69	N-73°-E	○		東	—	—	—	—	—
	11.53	54	3.68×3.78	N-62°-E	○		東	—	—	—	—	—
	11.49	102	3.45×3.45	N-85°-E	○		東	○	東南隅	楕円形	—	○
	11.01	103	3.69×3.60	N-87°-E	○		東	○	南西隅	楕円形	—	—
	(10.50)	117	3.15×3.36	N-94°-E	○		東	—	左	円形	—	—
	11.13	125	2.85×3.96	N-79°-E	○		東	—	—	—	—	—
	13.33	126	3.90×3.75	N-73°-E	○		東	○	東南隅	楕円形	—	—
	14.07	129	3.45×3.78	N-89°-E	○		東	○	東南隅	楕円形	—	—
	12.51	137	3.15×4.20	N-78°-E	○		東	—	—	—	—	—
12.20	153	3.69×3.45	N-100°-E	○		東	○	東南隅	楕円形	—	○	
(11.13)	155	3.72×3.30	N-82°-W	○		東	—	—	—	—	—	
10.26	156	3.42×3.36	N-93°-E	○		東	○	東南隅	楕円形	—	○	
14.96	157	3.51×4.41	N-85°-E	○		東	○	東南隅	楕円形	—	—	
②16m ² ~25m ² 未満	16.05	3	4.41×4.11	N-1°-W	○		北	○	東南隅	楕円形	○	—
	17.60	12	3.51×4.92	N-82°-E	○		北	—	—	—	—	—
	(16.91)	40	3.75×4.50	N-75°-E	○		北	—	—	—	—	—
	18.54	110	4.50×4.05	N-4°-W	○		北・東	—	—	—	○	○
	16.38	139	3.90×4.50	N-73°-E	○		東	○	東南隅	楕円形	—	—
	17.08	152	3.63×4.90	N-102°-E	○		東	○	東南隅	楕円形	—	—
	(23.50)	138	5.55×4.30	N-82°-E	○		東	○	東南隅	楕円形	—	○
	20.34	173	5.28×3.96	N-96°-E	○		東	—	—	—	—	—
	(25.77)	135	4.71×5.80	N-86°-E	○		東	—	—	—	—	—
	計画不可能	—	20	2.79×?	N-15°-W	—	—	北	—	—	—	—
—		27	—	N-91°-E	—	—	北	—	—	—	—	—
—		41	3.90×?	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—		58	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—		73	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第2節 南蛇井増光寺遺跡B区出土の灰軸陶器について

1. はじめに

南蛇井増光寺遺跡B区の平安時代の竪穴住居跡からは、在地の土師器・須恵器に混じって比較的多くの灰軸陶器が検出された。本稿では、南蛇井増光寺遺跡B区から出土した灰軸陶器の集成をおこない、在地土器との共存関係の様相を探るとともに、遺跡内の時間的変遷を探ろうとするものである。

2. 灰軸陶器を出土した住居跡

平安時代の住居跡は36軒検出されているが、このうち図化不可能な小破片を含めて灰軸陶器を出土した住居跡は24軒（67%）を数えることができる。

灰軸陶器は9世紀後半より出現し、11世紀まで出土する。しかし、各住居跡からの灰軸陶器の出土数を土師器・須恵器と比べると極めて少なく、さらに破片のみの出土例が多い。9世紀後半の住居跡12軒のうち、9軒（75%）から灰軸陶器が出土している。器種は埴・皿・長頸壺が認められる。10世紀前半の住居跡は6軒検出されているが、4軒（67%）から灰軸陶器が出土している。検出された器種は埴・皿・小瓶があるが、埴の出土が圧倒的に多い。10世紀後半の住居跡からは、11軒中9軒（82%）から灰軸陶器が出土している。58号住・157号住からは比較的良好な灰軸陶器が4点ずつまとまって出土している。器種は埴・皿・小瓶・長頸壺がある。11世紀代の住居跡は5軒検出されている。灰軸陶器は7号住と40号住の2軒（40%）より検出されたがいずれも小破片で図化することはできなかった。灰軸陶器を所持する住居軒数は9世紀後半から10世紀後半までは67%から82%を占め、高い割合を示しているが、11世紀には大きく減少する傾向が窺える。

第6表 「灰軸陶器を出土した住居跡」一すべての破片数と灰軸陶器破片数一

9世紀後半12軒中9軒				10世紀前半6軒中4軒				10世紀後半11軒中9軒			
住居No.	土師器	須恵器	灰軸陶器	住居No.	土師器	須恵器	灰軸陶器	住居No.	土師器	須恵器	灰軸陶器
20住	121	2	1	19住	148	53	1(図1)	12住	629	60	8(図3)
41住	772	90	7(図2)	30住	526	61	1(図1)	27住	262	71	4(図4)
45住	779	98	1	47住	513	62	2(図2)	52住	221	51	1(図1)
49住	1255	107	1	137住	140	14	2(図2)	58住	262	71	4(図4)
100住	53	120	3(図1)	11世紀代5軒中2軒				125住	324	23	1(図1)
135住	812	118	6	住居No.	土師器	須恵器	灰軸陶器	126住	814	157	4(図1)
138住	925	187	3(図3)	7住	1117	4	8	128住	120	40	5(図1)
139住	1176	183	1(図1)	40住	851	42	2	152住	254	26	1(図1)
155住	156	11	2(図1)					157住	134	110	4(図4)

灰軸陶器の出土数は以上のように非常に少なく、破片数から見ると全体の1%にも満たない。本遺跡出土の灰軸陶器はほとんど東濃地方のもので、その地方からの移入品と思われる。

3. 灰軸陶器の検討

黒笹14号(K-14)竈式期

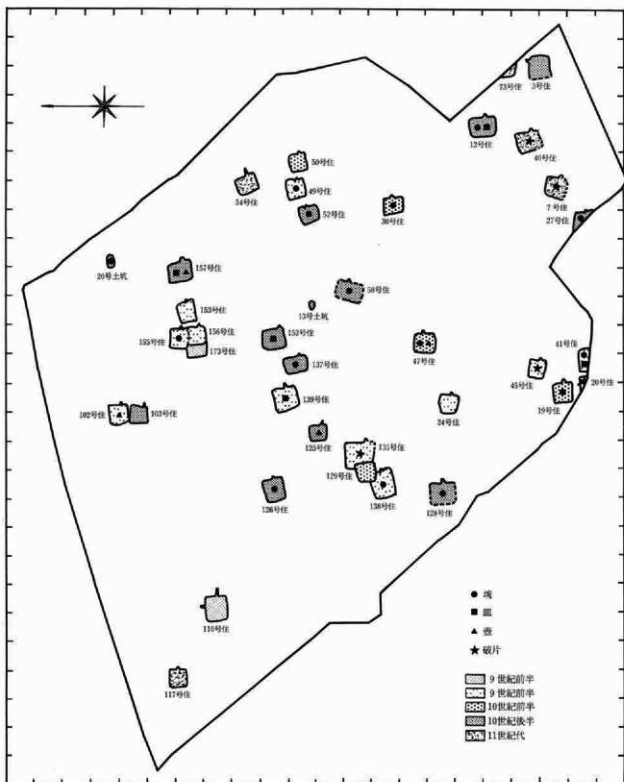
竈投窯のK14号竈式期の出土は、138住-7の埴僅か1点である。口縁部を欠き、器形は明瞭ではないが低く小さい角高台で黒笹14号竈式期の形態的特徴を示している。また、施軸も内面のみに施されている。

光ヶ丘1号竈式期

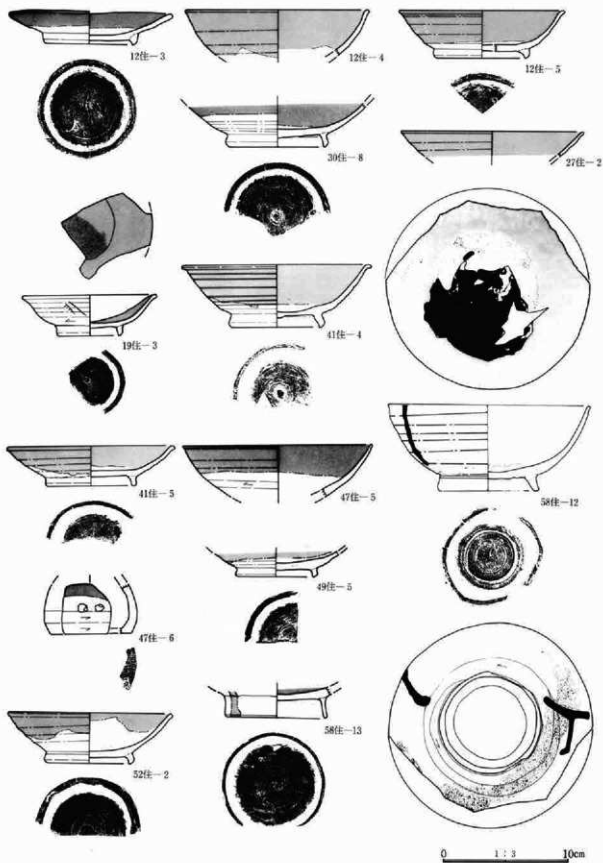
本竈式期の灰軸陶器は、埴4点（30住-8、41住-3、138住-6、139住-9）、皿1点（41住-4）の5点あげられる。以上5点の内、器形が明瞭なものは、41住-3、41住-4、138住-6の3点である。41住

第4章 まとめ

一3は、口縁部が水平に大きく引き出され、口縁部は強く屈曲する。高台は三ヶ月を呈する。軸は厚く掛けられ、発色も良い。41住一4の皿は、口縁部の屈曲が弱く丸みを持って外反する。高台部の外稜も弱く、や

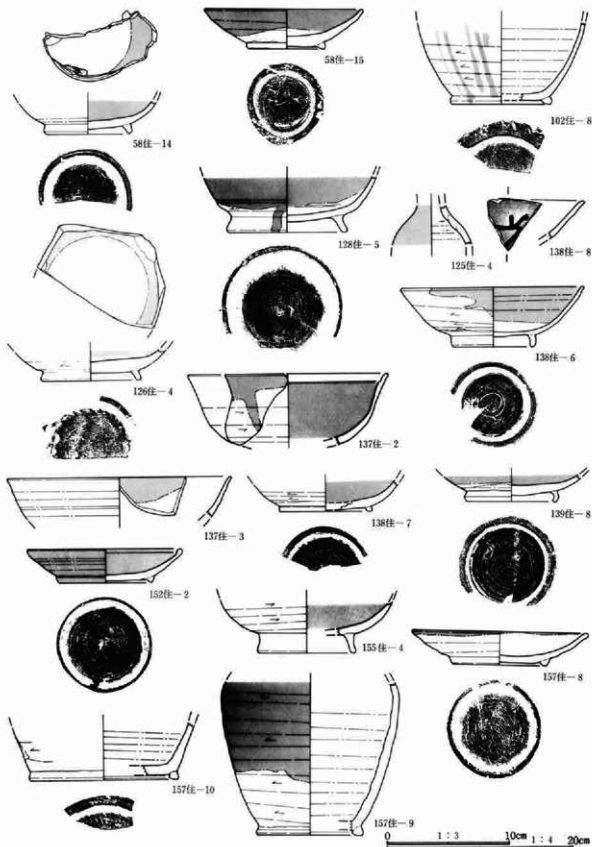


第337図 灰釉陶器出土住居分布図



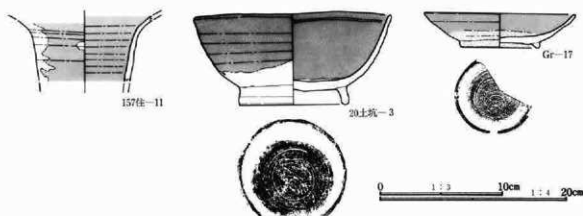
第338図 灰軸陶器集成図(1)

第4章 まとめ



第339図 灰釉陶器集成図(2)

第2節 南蛇井増光寺遺跡B区出土の灰軸陶器について



第340図 灰軸陶器集成図(3)

第7表 灰軸陶器観察表

住No	器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形・整形の特徴	備考
12住 -3	高台付皿	電左軸 +11cm ほぼ完形	口 12.8 底 7.0 高 2.5	①白色微細砂粒を含む。 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	右回転ロクロ成形。底部未切り。高台貼付。施軸は漬け掛け。	虎沢山1号窯式
12住 -4	高台付椀	電左軸部 +15cm 片	口 (14.5) 底 — 高 —	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。施軸は漬け掛け。	大原2号窯式
12住 -5	高台付椀	覆土 片	口 (13.2) 底 (7.2) 高 3.8	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。底部未切り。施軸は漬け掛け。	大原2号窯式
19住 -3	高台付椀	+6cm 片	口 (10.5) 底 (4.8) 高 3.2	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。底部回転へつ削り調整。高台貼付。内外面の一部に朱あり。体部外面に刻字か。高台部及び内面に施軸。施軸は漬け掛け。	大原2号窯式
27住 -2	高台付椀	未壁下 床密着 口縁片	口 (14.5) 底 — 高 —	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。施軸は漬け掛け。	
30住 -8	高台付椀	覆土 口縁部欠 片	口 — 底 (7.6) 高 —	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③にぶい黄褐色	ロクロ成形。底部は回転へつ切り後回転へつ削り調整。施軸は刷毛掛け。	光ヶ丘1号窯式
41住 -4	高台付椀	+21cm 片	口 (14.8) 底 (7.2) 高 5.0	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。体部は内割し、口縁部は外反する。体部下平ナゲ調整。底部回転へつ切り後ナゲ調整。高台貼付。高台内外面横ナデ。施軸は刷毛掛け。	光ヶ丘1号窯式
41住 -5	高台付皿	+21cm 片	口 (13.2) 底 (6.9) 高 3.1	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。口縁部は外反する。底部ナゲ調整。高台貼付。施軸は刷毛掛け。	光ヶ丘1号窯式
47住 -5	高台付椀	覆土 片	口 (15.1) 底 — 高 —	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。体部外面回転へつ削り。施軸は漬け掛け。	
47住 -6	小瓶	覆土 片	口 — 底 (6.4) 高 —	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。胴部下平回転へつ削り。底部静止未切り。胴部外面に貼付痕2カ所。	
49住 -5	高台付椀	覆土 体部~底 部片	口 — 底 (6.9) 高 —	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。高台貼付。施軸は漬け掛け。	
52住 -2	高台付椀	+3cm 片	口 (12.9) 底 (6.6) 高 4.0	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。高台貼付。底部回転へつ削り調整。施軸は漬け掛け。	大原2号窯式
58住 -12	高台付椀	覆土 片	口 16.0 底 8.0 高 6.8	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	体部内割。ロクロ成形。体部下平回転へつ削り。底部ナゲ調整。内外面に朱あり。内面に褐色の付着物。施軸は漬け掛け。	虎沢山1号窯式
58住 -13	高台付椀	電左 高台部	口・高 — 底 8.0	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。高台貼付。	虎沢山1号窯式

第4章 まとめ

住No.	器種	出土状況 残存状況	法量(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成形・整形の特徴	備考
58住 -14	高台付埴	覆土 高台部	口・高— 底 6.5	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。高台貼付。施釉は掛け掛け。	
58住 -15	高台付埴	覆土	口 (12.5) 底 6.1 高 3.2	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。高台貼付。底部ナブ調整。施釉は掛け掛け。	虎渓山1号窯式
102住 -8	長頸壺	床番着 胴下半～ 底部片	口— 底 (10.5) 高 (8.5)	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰色	ロクロ成形。胴部外面及び底部は回転ヘラ削り。高台貼付。	
125住 -5	小瓶	覆土 胴部～胴 上半片	口 (2.4) 底— 高—	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。外面に施釉。	
126住 -4	高台付埴	床番着 底部片	口— 底 (7.5) 高—	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。体部下半～底部回転ヘラ削り調整。高台貼付。高台部内外面横ナブ。内部は摩耗。2カ所に朱の痕跡。	
126住 -5	高台付埴	覆土 底部	口— 底 9.2 高—	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。高台貼付。高台部横ナブ。内面に重ね焼き痕。施釉は掛け掛け。	虎渓山1号窯式
137住 -2	高台付埴	覆土 口縁～体 部	口 (15.8) 底— 高—	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。体部下半部回転ヘラ削り調整。体部は内湾する。施釉は掛け掛け。	
137住 -3	高台付埴	覆土 片	口 (17.6) 底— 高 3.2	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	口縁部小破片。ロクロ成形。	
138住 -6	高台付埴	+1cm ほぼ球面 片	口 14.5 底 6.3 高 4.7	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰色	ロクロ成形。体部は内湾する。体部及び底部回転ヘラ削り調整。高台貼付。施釉は刷毛掛け。	光ヶ丘1号窯式
138住 -7	高台付埴	+7cm 体部～底 部片	口— 底 (7.4) 高—	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰色	ロクロ成形。体部及び底部回転ヘラ削り調整。内面に灰釉。施釉は刷毛掛け。	K-14号窯式
138住 -8	高台付埴	覆土 口縁部片	口— 底— 高—	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰色	ロクロ成形。口縁部及び内面施釉。	黒書か
139住 -8	高台付埴	覆土 底部片	口— 底 7.0 高—	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③明褐色	ロクロ成形。底部回転ヘラ削り。高台(三ヶ月)貼付。施釉は刷毛掛け。	光ヶ丘1号窯式
152住 -2	高台付埴	+2cm 片	口 (12.2) 底 (10.2) 高—	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。底部回転ヘラ削り調整。高台貼付。施釉は掛け掛け。	丸石2号窯式
152住 -4	高台付埴	覆土 体～底部 片	口— 底 (7.6) 高—	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。体部外面回転ヘラ削り調整。高台貼付。高台部内外面横ナブ。内面に灰釉。施釉は掛け掛け。	虎渓山1号窯式
157住 -8	高台付埴	貯蔵穴土 部-6cm 片	口 (14.0) 底 7.3 高 2.6	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。底部右回転糸切り。高台貼付。施釉は掛け掛け。	虎渓山1号窯式
157住 -9	長頸壺	床番着 胴下位～ 底部片	口— 底 (11.2) 高—	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③褐色	ロクロ成形。胴部外面回転ヘラ削り調整。	
157住 -10	長頸壺	甕内 +3cm 底部片	口— 底 (15.5) 高—	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。胴下部手持ちヘラ削り調整。	
157住 -11	長頸壺	北東隅 床番着 口縁片	口— 底— 高—	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。	
39土坑 -3	高台付埴	+12cm 片	口 (15.4) 底 (8.5) 高 (7.3)	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③灰白色	ロクロ成形。体部は内湾する。底部は右回転糸切り。高台貼付。高台部横ナブ。施釉は掛け掛け。	虎渓山1号窯式
Gr -17	高台付埴	Bh-19G 片	口 (12.0) 底 (6.2) 高 2.7	①緻密 ②還元焰、堅緻 ③に黄褐色	ロクロ成形。底部糸切り。高台貼付。体部下半～底部に内外面横ナブ。施釉は掛け掛け。	虎渓山1号窯式

や丸みを持つ。138住-6は口縁部の屈曲は弱く、軸も薄く、発色も悪い。

大原2号窯式期

本窯式期の灰軸陶器は、埴4点(12住-4・5, 19住-3, 52住-2)があげられる。口縁部は、僅かに外反するが、外反部分の器肉は均一で、全体的に前段階より厚手となる。体部のヘラ削りは僅かである。高台は三月月であるが外面の稜は弱い。施軸は漬け掛けで、前段階より薄い。

虎溪山1号窯式期

本窯式期の灰軸陶器は、埴6点(58住-12・13・14, 128住-5, 155住-4, 20土坑-3)、皿3点(12住-3, 58住-12, 157住-8)の9点が出土しており、量的には最も多い時期である。埴は、体部が丸味をおび、器肉は前段階よりさらに厚手となる。特に底部が厚手になる。口縁部は外反せずに、端部は丸味をおびる。皿類は高台が小さく、端部は丸味をもつものが多い。底部は、回転糸切り未調整のものと、回転糸切りナゲ調整のものが見られる。埴・皿ともに軸は薄く、発色も悪く、透明なものが多い。

丸石2号窯式期

丸石2号窯式期の灰軸陶器の出土は極めて少なく、152号住出土の皿1点のみである。口径は、12.2cmと小さく、高台も小さい。軸の発色は悪く、透明に近い。

4. 在地土器との共存関係について

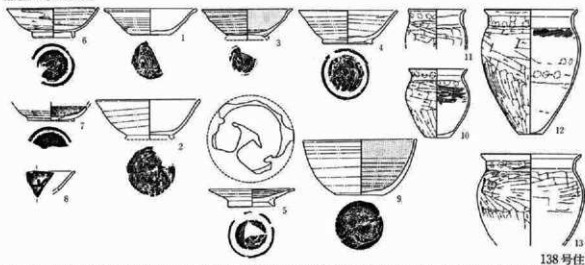
ここでは前項で検討してきた各窯式の資料から、出土状況の比較的良好な例を取り上げ、各窯式に比定されている年代観と共存する在地土器との年代観が、整合性を有しているか否かについて検討してみたい。

黒笹14号窯式期の製品の共存例としては、138号住があげられる。129号住・133号住・134号住・141号住・180号住と重複関係をもつ新旧関係は、129号住が最も新しく、本住居の北東隅を切って構築している。他の住居は、いずれも本住居よりも古い。問題となるのは129号住との重複による遺物の混入であるが、ここに提示した遺物は重複部分からは検出されておらず、129号住の遺物が混入した可能性は少ない。黒笹14号窯式期の灰軸陶器は住居のほぼ中央で床面からやや浮いた状態で検出されている。6の灰軸陶器は光ヶ丘1号窯式のもので西壁下の床面より検出された。1の須恵器環・4の埴・9の鉢、12の土師器甕は貯蔵穴付近の床面上より、10の土師器小型甕は床面よりやや浮いた状態で検出されている。3の須恵器埴、11の土師器小型甕・13の甕は西壁下の床面付近からの出土である。2の須恵器埴は中央の床面付近より検出されている。これらの遺物は、一括性が高く共存遺物として問題はないものと考えられる。12・13の甕は典型的な「コ」字状口縁の形態を示し、須恵器の環・埴等と合わせて考えると9世紀後半の時期が想定される。

光ヶ丘1号窯式期の良好な共存例としては、前述の138号住及び30号住・41号住の3軒があげられる。30号住は、70号住と重複するが、70号住は時期的に古く遺物が混入する可能性は少ない。灰軸陶器は覆土中の出土である。須恵器環1・4・6、埴7、小形甕11は住居の東南部で床面からやや浮いた状態で検出されている。須恵器環2は旧竈床面、埴5はやや浮いた状態で出土している。3の埴、9の土師器甕、10の羽釜はいずれも新竈内からやや浮いた状態で検出されている。9の甕は「コ」字状口縁の退化形態を示すものと思われる。10の羽釜とともに10世紀前半の時期が想定される。41号住は住居の南半が調査区外であり、北側で18号住と重複するが、18号住は古い段階の住居であり、遺物が混入する可能性はない。7の須恵器甕と3の埴が東壁下のほぼ床面より、2の埴が東壁近くで床面からやや浮いた状態で検出されている。6の甕・1の埴はいずれも、中央部の床面付近からの出土である。4・5の灰軸陶器は北東部の覆土中からの出土である。6の甕は「コ」字状口縁の退化形態を有し、9世紀後半の時期に位置付けられる。以上のように光ヶ丘1号窯式期の製品は9世紀後半から10世紀前半までの時期が想定される在地土器と共存することが確認された。

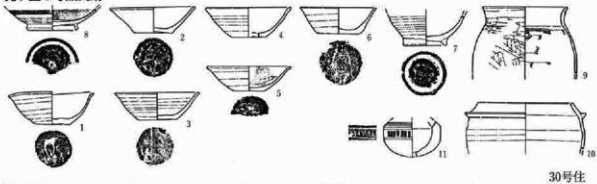
第4章 まとめ

黒笹14号窯式期

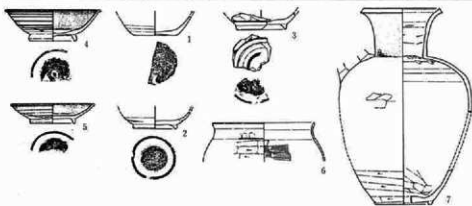


138号住

光ヶ丘1号窯式期

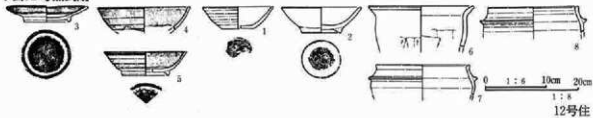


30号住



41号住

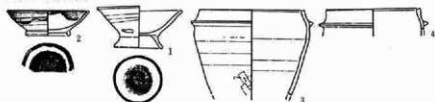
大原2号窯式期



12号住

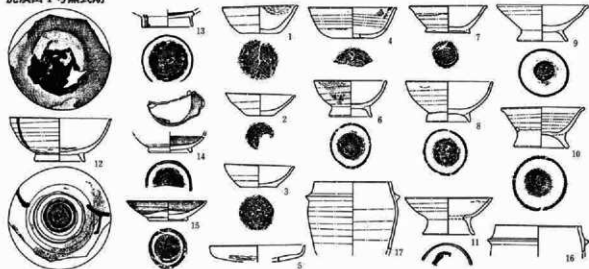
第341図 共伴の在出土器(1)

大原2号窯式期

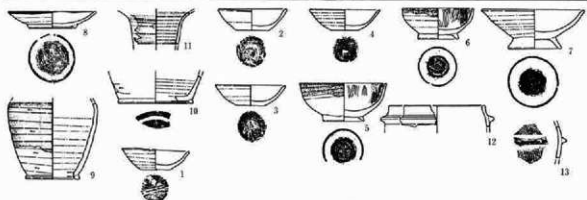


52号住

虎溪山1号窯式期



58号住



157号住

丸石2号窯式期



0 1 : 6 10cm 1 : 2 20cm

152号住

第342図 共伴の在出土器(2)

第4章 まとめ

大原2号窯式期の比較的良好的な共存例としては、12号住・52号住の2軒があげられる。このうち12号住では、大原2号窯式と虎渓山1号窯式の灰軸陶器が共存する。12号住は33号住・65号住と重複するが、いずれも本住居よりも古い段階の住居である。竈左袖より灰軸陶器皿3・埴4が、覆土中より埴5が検出された。3の皿はほぼ完形に近く、他の2点と異なり虎渓山1号窯式期のものである。須恵器埴2・羽釜8は竈の左袖より出土している。竈の右袖からは須恵器埴1が、竈奥上部からは羽釜7が検出された。住居の東南隅からは土師器壺6が検出されている。器内の厚い土師器壺、埴・埴等のありかたを考えると10世紀代の時期が想定される。52号住は53号住と重複するが、53号住は古い段階の住居であり遺物が混入する可能性は少ない。1の須恵器埴、2の灰軸陶器埴は東壁下で床面からやや浮いた状態で出土している。3の羽釜は住居の中央部の床面下からの出土である。3・4の羽釜、1の足高台の埴のあり方を考えると10世紀後半の年代観が想定される。

虎渓山1号窯式期の製品の良好な共存例としては、58号住と157号住があげられる。58号住は大変掘り込みが浅く、遺構の残存状態は良好ではない。しかし、重複する住居が古い段階の住居であること等を考慮すると、提示した資料を58号住の一括遺物とすることは妥当である。12・14・15の灰軸陶器はいずれも覆土中からの出土であるが、13の灰軸陶器、1・2の須恵器埴、6・9・11の埴、16の羽釜は竈内および竈周辺、8・10の埴は住居の北西隅、3の須恵器埴は北東隅、7の埴は南東隅のいずれも床面付近からの出土であり極めて一括性の高い遺物である。6・8・9～11の埴に見られる足高台は10世紀後半に位置付けられる。157号住は、169号住の西半を切って構築しており、遺物の出土状態も良好であることから、提示した資料が157号住に所属することは確実である。8の灰軸陶器皿、1～4の須恵器埴、5の須恵器埴、7の高台付埴はいずれも貯蔵穴内からの出土であり、6の須恵器埴、10の灰軸陶器長頸壺、12の羽釜は竈内および竈周辺からの出土である。9・11の灰軸陶器長頸壺も床面からの出土であり、157号住の一括遺物であることは確実である。5・6の埴は内黒で、7は足高台を呈する。これらのことを考慮すると10世紀後半の時期に位置付けられる。以上のように虎渓山1号窯式期の製品は10世紀後半の時期が想定される在土器と共存する。

丸石2号窯式期の製品が出土した住居跡は152号住1軒のみである。西側で140号住・175号住・176号住と重複するがいずれよりも新しく、提示した資料は一括性が高い。2の灰軸陶器は、共存遺物は少ないが、1の須恵器埴は貯蔵穴内より、3の羽釜は床面よりやや浮いた状態で、4の羽釜は床面からの出土である。いずれも10世紀末～11世紀初頭の遺物と考えられる。

5. おわりに

以上、南蛇井増光寺遺跡B区出土の灰軸陶器について、資料紹介という形で若干の検討を試みた。筆者の力不足により詳細な検討を加えることができず、十分な成果をあげることができなかった。しかし、在土器との関係では、ほぼ土器の変遷に沿って各窯式の灰軸陶器が供給されていることがわかった。また、138号住では、黒笹14号窯式と光ヶ丘1号窯式の灰軸陶器の共存が、12号住では、大原2号窯式と虎渓山1号窯式の共存が確認された。これらの例は、生産時期の異なる灰軸陶器が比較的長期間に渡って使用されたことを示すものとして注目される。

今後、国道17号以北の南蛇井増光寺遺跡C区・DN区・DS区・E区及び隣接する中沢平賀界戸遺跡等の灰軸陶器の集成を行い、瀬川流域の他の遺跡との比較検討を試みるとともに、県内の他地域との比較を試み、灰軸陶器の消費地としての在り方を探って行きたい。

最後に本稿を作成するにあたって、灰軸陶器の窯式については、神谷佳明氏に、在土器の年代観については中沢悟氏に有益なご教示をいただいた。記して、御礼に代わせていただきたい。

第3節 南蛇井増光寺遺跡 B区 Gr-31縄文土器について

器種 深鉢 色調 暗褐色 焼成 良好 胎土 含繊維・少量の粗砂粒

関山Ⅰ終末～Ⅱ式初期期に併行するのであろう。類例は少なく、特異な土器である。

口縁部の遺存が乏しいため、平縁か波状縁か判然としなが、僅かに外反し鋸歯状口縁を呈す。口縁部文様帯は頸部の2条の隆起線によって分帯され、上位の隆起線より派生する隆起線が斜位に伸びる。おそらく文様帯内を大型鋸歯状区画するのであろう。区画内の空白部には瘤状貼付が充填される。

また、下位の隆起線と上位の隆起線も連結する兆しを見せ、頸部においても区画帯が設けられるようだ。頸部下位隆起線の下端に瘤状貼付文が横位に付され、さらに貼付文下位には半截竹管による平行沈線が4条沿う。この平行沈線は頸部の区画帯及び口縁部区画隆起線にも割線として施される。

体部は、0段3条～多条のRL縄文が施され、羽状構成をとらない。縄文は、鋸歯状口縁の押圧にも使用され、一部隆起線上までにも施文されている。

本資料の特徴としては

- 1 瘤状貼付文が付けられる。
- 2 体部縄文が羽状構成をとらず、斜縄文施文である。原体幅も比較的長く、節も丸みを帯びる。
- 3 口縁部文様帯内が大型の鋸歯状区画構成をとる。
- 4 頸部に幅狭の区画帯を設ける。

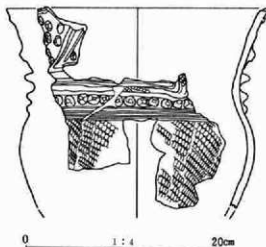
などの要素が挙げられるが、上記特徴のうち2・3は黒浜式に見られる要素であり、1にみられた、頸部隆起線下と口縁部文様帯内に充填される瘤状貼付文とは共伴する要素ではない。特に瘤状貼付文は、関山Ⅰ式の標識的な文様要素であり、体部が羽状構成をとらない本資料にはそぐわない要素である。

このように複雑な要素が伴っており、確定的な時期判断はできない。類例に乏しく、形式帰属には困難が

伴う。敢えて他県に例を求めるとなれば、横浜市三枚町遺跡Ⅰ-1号住例に先行する段階と思われる。関山式から黒浜式への移行期において、有尾式系土器群などが関与する前期中葉段階で、別系譜の土器群も想定しなければならないだろう。

参考文献

『横浜市 三枚町遺跡発掘調査報告書』横浜市三枚町埋地予定地内遺跡発掘調査団 1988年



第343図 Gr-31縄文土器実測図

第4章 まとめ

南蛇井増光寺遺跡旧整理参考文献

- (1) 群馬県埋蔵文化財調査事業団「矢田遺跡」Ⅰ～Ⅳ 1990～1993年
- (2) 群馬県埋蔵文化財調査事業団「長根引田倉遺跡」 1990年
- (3) 群馬県埋蔵文化財調査事業団「南蛇井増光寺遺跡」Ⅰ・Ⅱ 1992～1993年
- (4) 群馬県埋蔵文化財調査事業団「清里・陣場遺跡」 1981年
- (5) 群馬県埋蔵文化財調査事業団「多胡蛇馬遺跡」 1993年
- (6) 群馬県埋蔵文化財調査事業団「大原Ⅱ・村主遺跡」 1986年
- (7) 群馬県埋蔵文化財調査事業団「内匠諏訪前・内匠日影岡地遺跡」 1992年
- (8) 群馬県埋蔵文化財調査事業団「下東西遺跡」 1987年
- (9) 三浦京子「群馬県における平安時代後期の土器様相」一灰輪陶器を中心として一『群馬の考古学』
- 00 1988年依田怡雄「群馬野北原遺跡出土の灰輪陶器」『群馬の考古学』 1988年
- 01 船貫邦男・神谷佳明・板岡正信「群馬県における灰輪陶器の様相について(1)」『研究紀要9』 1992年
- 02 富岡市教育委員会「富岡市史 自然編 原始・古代・中世編」 1987年
- 03 富岡市教育委員会「本宿・郷土遺跡」 1981年
- 04 富岡市教育委員会「前知遺跡・内出Ⅰ遺跡・丹生城西遺跡・五分一遺跡・千足遺跡」 1992年
- 05 群馬県教育委員会「群馬県遺跡台帳Ⅱ(西毛編)」 1972年
- 06 群馬町教育委員会「北原遺跡」 1986年
- 07 坂口 一・三浦京子「奈良・平安時代の土器の編年」『群馬県史研究24』
- 08 神奈川考古同人会「古代末期～中世における在地系土器の諸問題」『神奈川考古第21号』 1986年

写 真 图 版



航空写真 南蛇井增光寺遺跡全景



航空写真 南蛇井増光寺遺跡全景



航空写真 南蛇井増光寺遺跡全景（東から）



航空写真 南蛇井増光寺遺跡全景（南から）



1号住居跡全景（南から）



1号住居跡窟（南から）



2号住居跡・24号土坑遺物出土状況（西から）



3号住居跡全景（南から）



3号住居跡床下全景（南から）



3号住居跡作業状況（南から）



3号住居跡窟（南から）



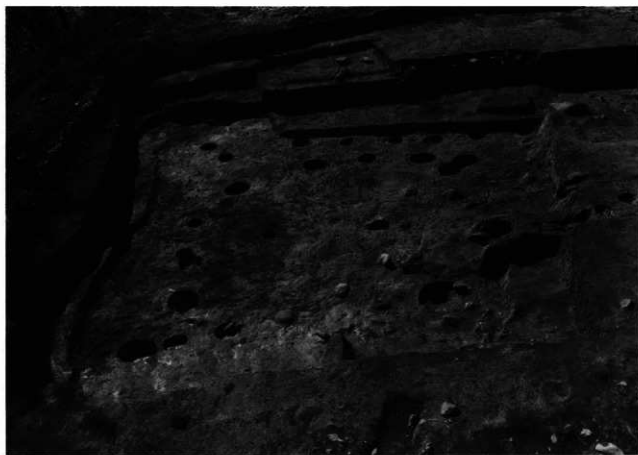
4A・4B号住居跡全景（西から）



4 A・4 B号住居跡遺物出土状況 (東から)



4 A号住居跡遺物出土状況



6・83号住居跡全景 (東から)



6・83号住居跡遺物出土状況全景 (東から)



6・83号住居跡遺物出土状況 (東から)



83号住居跡窟 (南から)



6号住居跡窟 (南から)



7号住居跡全景 (西から)



7号住居跡全景 (西から)



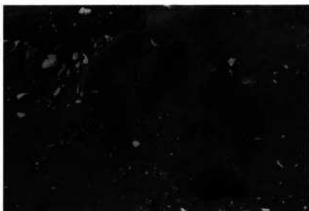
7号住居跡窟周辺遺物出土状況 (西から)



7号住居跡遺物出土状況



8号住居跡全景 (南から)



8号住居跡窟 (南から)



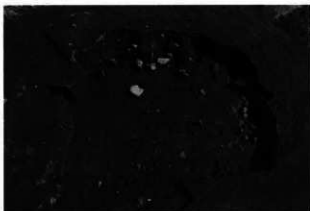
10号住居跡全景 (南から)



10号住居跡床下全景 (南から)



11号住居跡全景 (南から)



12号住居跡全景 (西から)



12号住居跡全景 (西から)



12号住居跡竈周辺遺物出土状況 (北から)



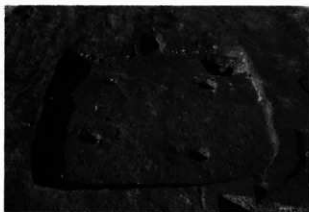
12号住居跡竈周辺遺物出土状況 (西から)



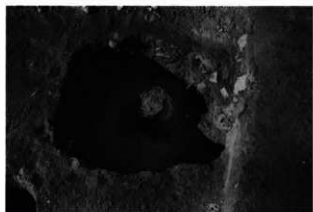
12号住居跡竈 (西から)



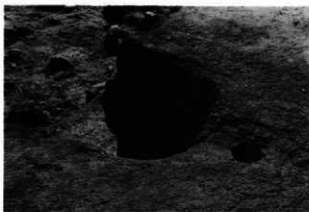
13号住居跡・遺物出土状況全景 (南から)



13号住居跡全景 (南から)



13号住居跡貯蔵穴 (南から)



13号住居跡竪 (北東から)



14号住居跡遺物出土状況全景 (南西から)



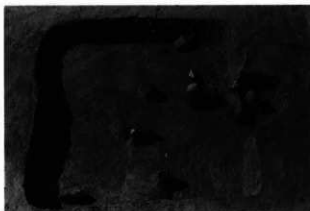
14号住居跡全景 (北東から)



14号住居跡遺物出土状況 (東から)



14号住居跡遺 (南から)



15号住居跡遺物出土状況全景 (東から)



15号住居跡全景 (南から)



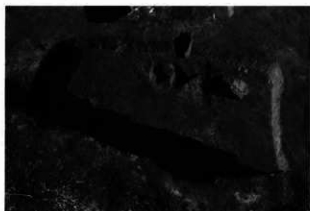
15号住居跡遺物出土状況 (南東から)



15号住居跡遺物出土状況 (西から)



15号住居跡遺 (南から)



16号住居跡全景 (南から)



16号住居跡竈 (南から)



17号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



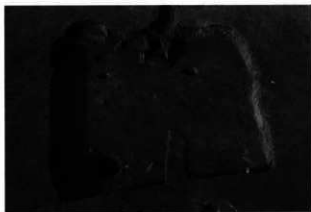
17号住居跡遺物出土状況 (南から)



17号住居跡遺物出土状況 (東から)



17号住居跡作業状況 (南から)



17号住居跡全景 (南から)



17号住居跡床下全景 (南から)



17号住居跡竈 (南から)



18号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



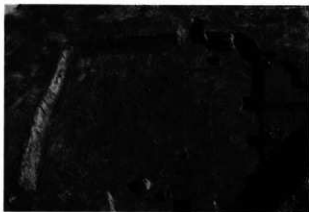
18号住居跡全景 (南から)



18号住居跡遺物出土状況 (西から)



18号住居跡竈 (南から)



19号住居跡遺物出土状況全景（西から）



19号住居跡床下全景（西から）



19号住居跡室（西から）



20号住居跡遺物出土状況全景（北東から）



20号住居跡室（北から）



21号住居跡全景（南から）



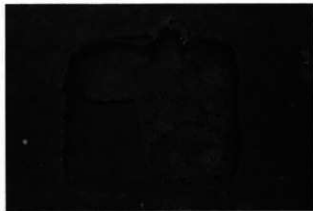
21号住居跡室（南から）



24号住居跡遺物出土状況全景（西から）



24号住居跡全景（西から）



24号住居跡床下全景（西から）



24号住居跡周辺遺物出土状況（西から）



24号住居跡竈（西から）



25号住居跡遺物出土状況全景（東から）



25号住居跡全景（南から）



25号住居跡礎出土状況全景（東から）



25号住居跡遺物出土状況（南から）



26・77号住居跡全景（南から）



26号住居跡（南から）



27号住居跡遺物出土状況全景（北から）



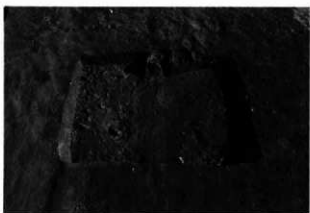
27号住居跡周辺遺物出土状況（北西から）



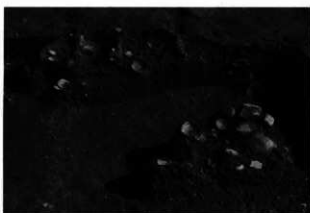
27号住居跡（西から）



30号住居跡遺物出土状況全景（西から）



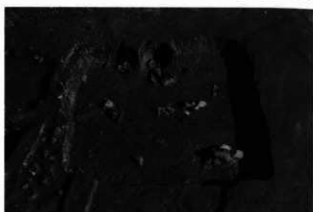
30号住居跡全景（西から）



30号住居跡遺物出土状況（西から）



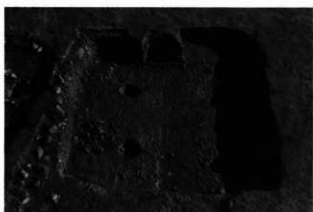
30号住居跡竈 (西から)



34号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



34号住居跡全景 (西から)



34号住居跡床下全景 (西から)



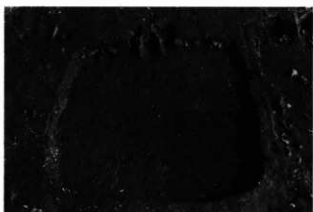
34号住居跡遺物出土状況 (西から)



34号住居跡竈周辺遺物出土状況 (西から)



34号住居跡竈 (西から)



35号住居跡全景 (西から)



35号住居跡床下全景 (西から)



35号住居跡窟 (南から)



37号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



37号住居跡全景 (南から)



37号住居跡遺物出土状況 (南から)



37号住居跡窟 (南から)



38号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



38号住居跡全景 (南から)



38号住居跡竈（南から）



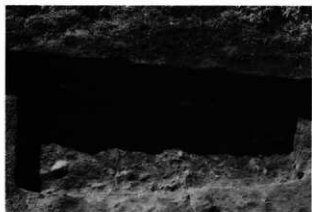
40号住居跡全景（西から）



40号住居跡竈（西から）



41号住居跡遺物出土状況全景（北から）



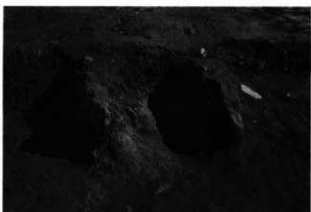
41号住居跡全景（北から）



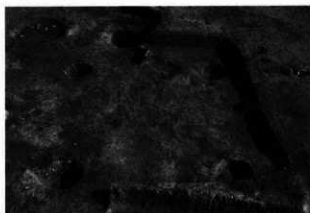
41号住居跡遺物出土状況（北から）



42号住居跡全景（西から）



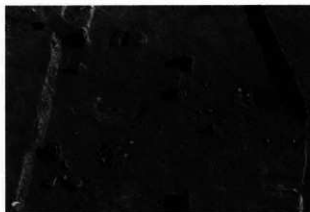
42号住居跡竈（西から）



43号住居跡全景 (西から)



43号住居跡竈 (西から)



44号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



44号住居跡全景 (西から)



44号住居跡遺物出土状況



45号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



45号住居跡床下全景 (西から)



45号住居跡遺物出土状況 (西から)



45号住居跡竈 (西から)



46号住居跡全景 (南から)



46号住居跡竈 (南から)



47号住居跡全景 (西から)



47号住居跡床下全景 (西から)



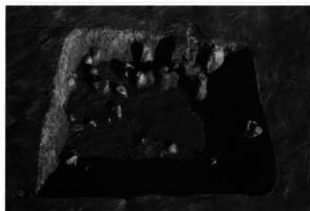
47号住居跡遺物出土状況



47号住居跡竈 (西から)



48号住居跡全景 (南から)



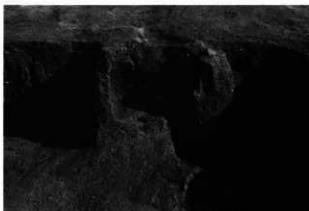
49号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



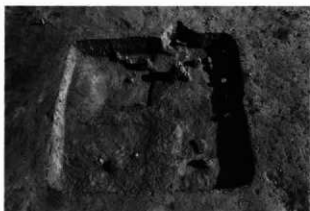
49号住居跡全景 (西から)



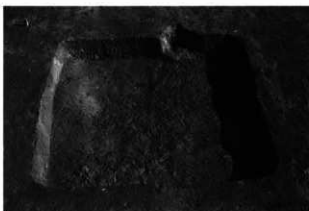
49号住居跡遺物出土状況 (西から)



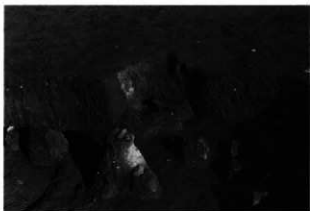
49号住居跡竈 (西から)



50号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



50号住居跡全景 (西から)



50号住居跡竈周辺遺物出土状況 (西から)



50号住居跡竈 (西から)



52号住居跡遺物出土状況全景（西から）



52号住居跡全景（西から）



52号住居跡竈（西から）



53号住居跡遺物出土状況全景（南から）



53号住居跡全景（南から）



53号住居跡作業状況



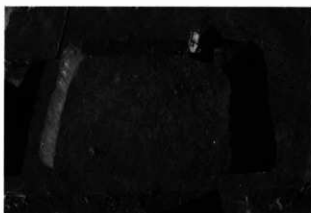
53号住居跡遺物出土状況（南から）



53号住居跡竈（南から）



54号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



54号住居跡全景 (西から)



54号住居跡竈 (西から)



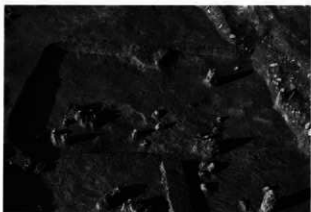
55号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



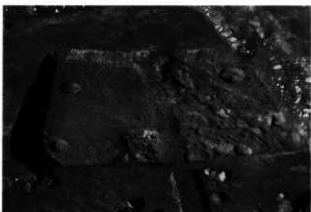
55号住居跡床下全景 (南から)



55号住居跡竈 (南から)



56号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



56号住居跡床下全景 (南から)



56号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



57号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



57号住居跡全景 (南から)



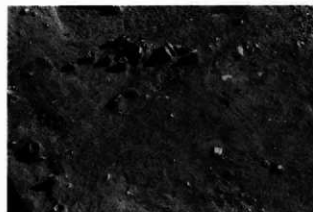
57号住居跡東壁石積み (西から)



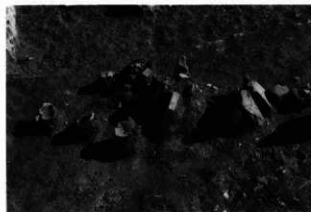
57号住居跡周辺遺物出土状況 (南から)



57号住居跡 (南から)



58号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



58号住居跡周辺遺物出土状況 (南から)



58号住居跡遺物出土状況（東から）



58号住居跡竈（西から）



64号住居跡全景（南から）



64号住居跡竈（南から）



66号住居跡全景（南から）



66号住居跡全景（南から）



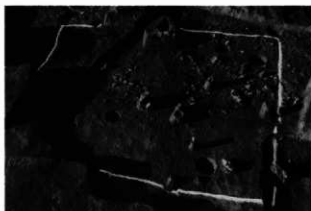
66号住居跡竈（南から）



67号住居跡全景（南から）



67号住居跡遺物出土状況 (西から)



68号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



68号住居跡竈 (南から)



69号住居跡竈・遺物出土状況全景 (南から)



69号住居跡全景 (南から)



69号住居跡竈 (南から)



70号住居跡遺物出土状況全景 (南東から)



70号住居跡全景 (南東から)



70号住居跡遺物出土状況（南から）



70号住居跡遺物出土状況（南から）



71号住居跡遺物出土状況全景（南から）



71号住居跡全景（南から）



71号住居跡炭化材出土状況（北から）



71号住居跡竈（南から）



72号住居跡全景（北から）



73号住居跡（南西から）



74号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



74号住居跡全景 (南から)



78号住居跡遺物・炭化材出土状況 (南から)



78号住居跡全景 (南から)



78号住居跡周辺遺物出土状況 (南から)



78号住居跡遺 (南から)



80号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



80号住居跡全景 (南から)



80号住居跡遺物周辺遺物出土状況 (南から)



80号住居跡貯蔵穴周辺遺物出土状況 (南から)



80号住居跡窟（南から）



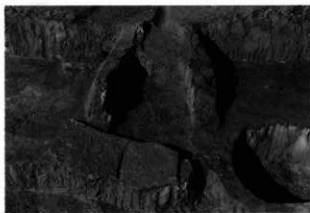
81号住居跡全景（南から）



81号住居跡全景（南から）



81号住居跡遺物出土状況（南から）



81号住居跡窟（南から）



82号住居跡遺物出土状況全景（南から）



82号住居跡竈内遺物出土状況（南から）



82号住居跡全景 (南から)



82号住居跡遺 (南から)



88・89号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



88・89号住居跡全景 (南から)



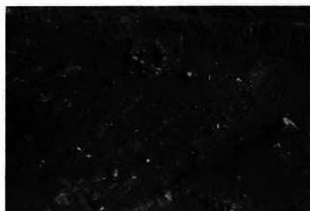
90・91・92号住居跡全景 (南から)



90号住居跡炭化材出土状況 (南から)



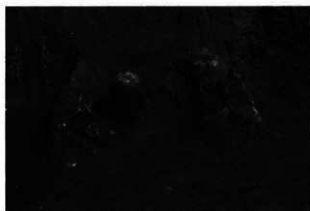
90号住居跡炭化材出土状況 (北から)



92号住居跡遺物出土状況全景 (南西から)



92号住居跡竈周辺遺物出土状況 (南西から)



92号住居跡竈 (南西から)



93号住居跡全景 (南から)



94号住居跡全景 (西から)



95号住居跡全景 (西から)



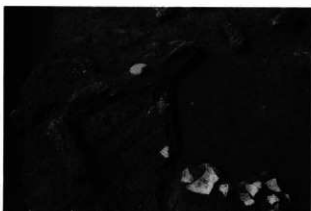
100号住居跡遺物・炭化材出土状況（南から）



100号住居跡全景（南から）



100号住居跡遺物・炭化材出土状況（東から）



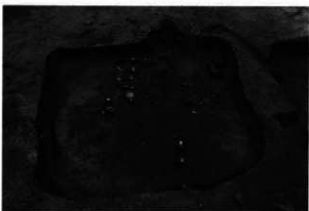
100号住居跡遺物・炭化材出土状況（南から）



100号住居跡炭化材出土状況（南から）



100号住居跡炭化材出土状況（北から）



102号住居跡遺物出土状況全景（西から）



102号住居跡全景（西から）



102号住居跡周辺遺物出土状況 (西から)



102号住居跡竈 (西から)



103号住居跡全景 (西から)



103号住居跡竈 (西から)



109号住居跡全景 (西から)



109号住居跡竈 (西から)



110号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



110号住居跡全景 (西から)



110号住居跡全景 (南から)



110号住居跡北竈 (南から)



110号住居跡東竈 (西から)



117号住居跡全景 (西から)



117号住居跡竈周辺遺物出土状況 (東から)



117号住居跡竈 (西から)



123号住居跡竈 (南から)



125号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



125号住居跡全景（西から）



125号住居跡床下全景（西から）



125号住居跡竈周辺遺物出土状況（西から）



125号住居跡竈（西から）



126号住居跡遺物出土状況全景（西から）



126号住居跡床下全景（西から）



126号住居跡遺物出土状況（北から）



126号住居跡竈（西から）



127号住居跡全景 (西から)



127号住居跡遺物出土状況 (西から)



127号住居跡窟 (西から)



128号住居跡全景 (西から)



128号住居跡窟 (西から)



129号住居跡全景 (西から)



129号住居跡床下全景 (西から)



129号住居跡窟内遺物出土状況 (西から)



129号住居跡竈（西から）



130号住居跡全景（南から）



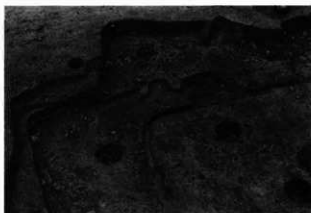
130号住居跡竈（南から）



130・131号住居跡全景（南から）



133号住居跡遺物出土状況全景（南から）



133・138・180号住居跡重複状況（南から）



133号住居跡竈周辺遺物出土状況（南から）



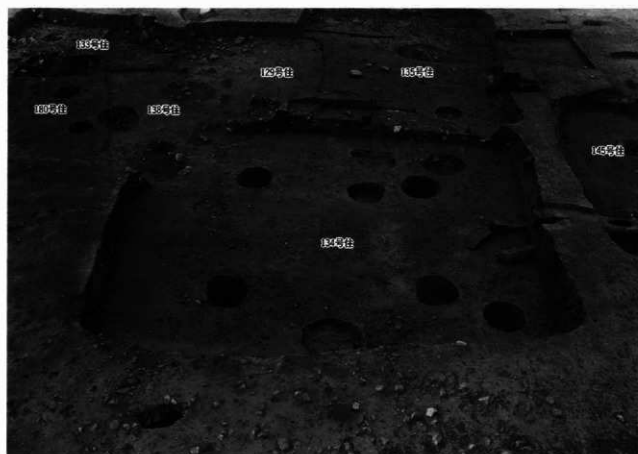
133号住居跡竈（南から）



134・141号住居跡遺物出土状況全景（西から）



134号住居跡全景（西から）



134号住居跡周辺重複状況 (南から)



134号住居跡 (西から)



134号住居跡 (西から)



134号住居跡竈奥壁 (西から)



134号住居跡竈煙道断面 (南から)



134・141号住居跡重複状況 (西から)



141号住居跡遺物出土状況 (西から)



141号住居跡遺物出土状況 (西から)



141号住居跡遺物出土状況 (東から)



141号住居跡遺蹟 (西から)



135号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



135号住居跡全景 (西から)



135号住居跡遺蹟 (西から)



135号住居跡周辺重複状況 (南から)



136号住居跡全景 (西から)



136号住居跡窟 (西から)



137号住居跡全景 (西から)



137号住居跡窟 (西から)



138号住居跡遺物出土状況 (西から)



138号住居跡全景 (西から)



138号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



138号住居跡遺物出土状況 (東から)



138号住居跡竈周辺遺物出土状況 (西から)



138号住居跡竈 (西から)



139号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



139号住居跡全景 (西から)



139号住居跡遺物出土状況 (西から)



139号住居跡遺 (西から)



140号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



140号住居跡全景 (南から)



140号住居跡遺 (南から)



140号住居跡遺 (東から)



142号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



142号住居跡全景 (南から)



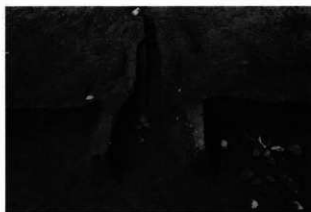
142号住居跡窟 (南から)



143号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



143号住居跡全景 (南から)



143号住居跡窟 (南から)



144号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



144号住居跡全景 (南から)



144号住居跡遺物出土状況 (西から)



144号住居跡窟周辺遺物出土状況 (南から)



144号住居跡窠 (南から)



145号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



145号住居跡全景 (南から)



145号住居跡遺物出土状況 (南から)



145号住居跡窠 (南から)



146号住居跡全景 (南から)



146号住居跡窠周辺遺物出土状況 (南から)



146号住居跡窠 (南から)



147号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



147号住居跡全景 (南から)



147号住居跡竈 (南から)



148号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



148号住居跡全景 (南から)



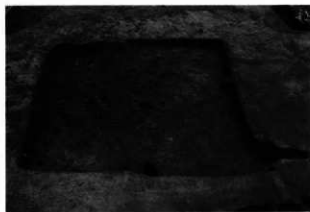
148号住居跡貯蔵穴 (東から)



148号住居跡竈 (南から)



149号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



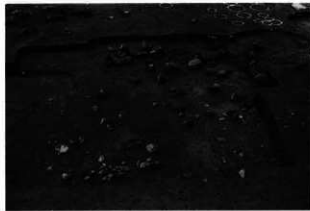
149号住居跡全景 (南から)



149号住居跡遺物出土状況 (南から)



149号住居跡遺 (南から)



150号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



150号住居跡全景 (南から)



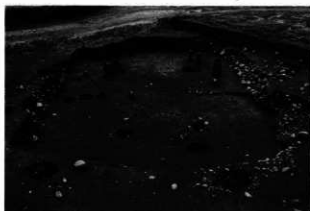
150号住居跡遺物周辺遺物出土状況 (南から)



150号住居跡遺物出土状況 (南西から)



150号住居跡遺 (南から)



151号住居跡遺物出土状況全景（北から）



151号住居跡全景（北から）



151号住居跡竈？（東から）



152号住居跡遺物出土状況全景（西から）



152号住居跡全景（西から）



152号住居跡貯蔵穴上部遺物出土状況（南から）



152号住居跡貯蔵穴（西から）



152号住居跡竈（西から）



153号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



153号住居跡全景 (西から)



153号住居跡周辺遺物出土状況 (西から)



153号住居跡 (西から)



154号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



154号住居跡全景 (南から)



154号住居跡 (南から)



155号住居跡全景 (西から)



155号住居跡竈（西から）



156号住居跡遺物出土状況全景（西から）



156号住居跡全景（西から）



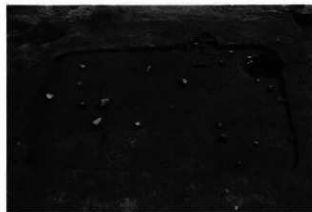
156号住居跡竈周辺遺物出土状況（西から）



156号住居跡竈（西から）



173号住居跡全景（西から）



157号住居跡遺物出土状況全景（西から）



157号住居跡全景（西から）



157号住居跡貯蔵穴周辺遺物出土状況（東から）



157号住居跡竈周辺遺物出土状況（西から）



157号住居跡貯蔵穴（東から）



157号住居跡竈（西から）



158号住居跡全景（南から）



158号住居跡遺物出土状況 (西から)



158号住居跡竈 (南から)



159号住居跡全景 (西から)



159号住居跡竈 (西から)



160号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



160号住居跡全景 (南から)



160号住居跡竈 (南から)



161号住居跡全景 (南から)



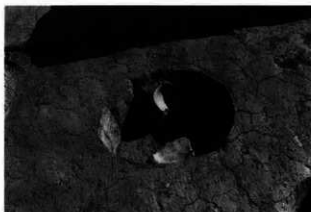
163号住居跡曝出土状況全景（南から）



163号住居跡全景（南から）



163号住居跡遺物出土状況（北から）



163号住居跡貯蔵穴（西から）



163号住居跡周辺遺構検出状況（東から）



165号住居跡全景（西から）



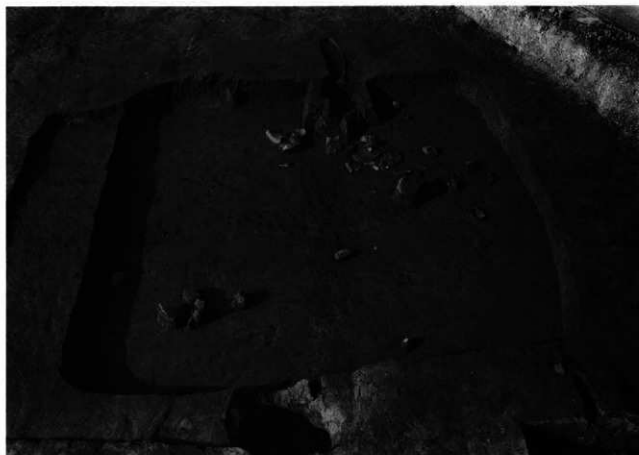
167号住居跡遺物出土状況全景（南から）



167号住居跡全景（南から）



167号住居跡竪（南から）



169号住居跡遺物出土状況全景（南から）



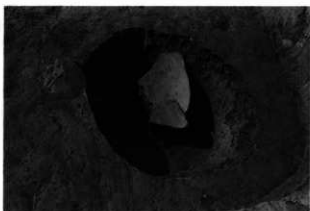
169号住居跡作業状況 (南から)



169号住居跡全景 (南から)



169号住居跡周辺遺物出土状況 (南から)



169号住居跡貯蔵穴 (東から)



169号住居跡 (南から)



170号住居跡全景 (西から)



170号住居跡 (西から)



171号住居跡遺物出土状況全景 (西から)



171号住居跡全景 (西から)



171号住居跡竪 (西から)



172号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



172号住居跡全景 (南から)



172号住居跡竪 (南から)



173号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



175号住居跡全景 (南から)



175号住居跡遺物出土状況 (南から)



175号住居跡曝出土状況全景（南から）



175号住居跡遺物出土状況（北から）



175号住居跡室内遺物（南から）



175号住居跡室内（南から）



176号住居跡遺物出土状況全景（南から）



176号住居跡全景 (南から)



176号住居跡遺物出土状況 (南から)



177号住居跡遺物出土状況全景 (南から)



177号住居跡全景 (南から)



177号住居跡遺物出土状況 (南から)



176号住居跡遺 (南から)



180号住居跡全景 (南から)



180号住居跡遺 (南から)



182号住居跡遺出土状況全景（南から）



182号住居跡全景（南から）



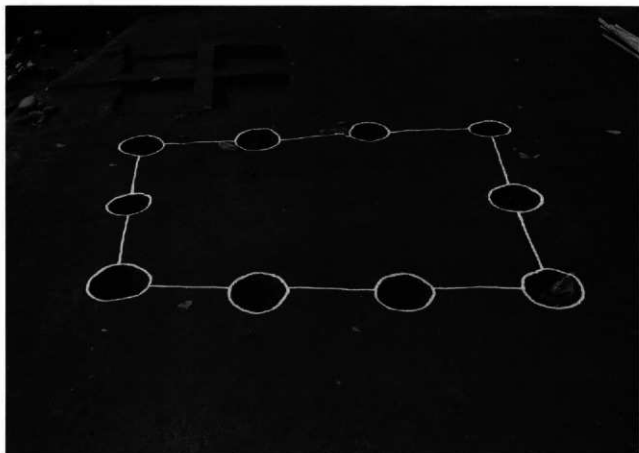
182号住居跡貯蔵穴上部遺物出土状況（西から）



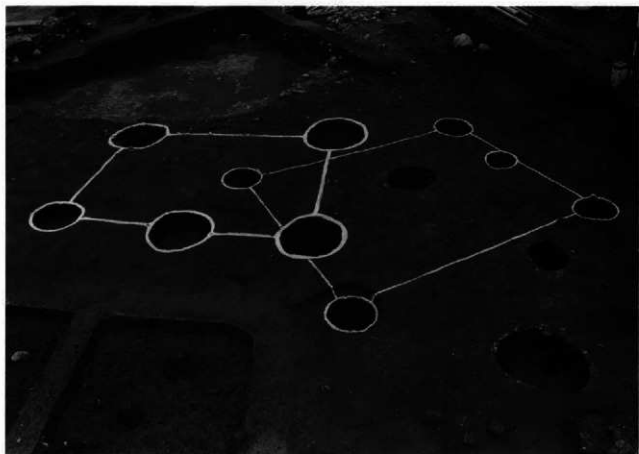
182号住居跡貯蔵穴（北から）



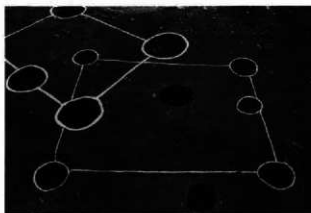
182号住居跡遺（南から）



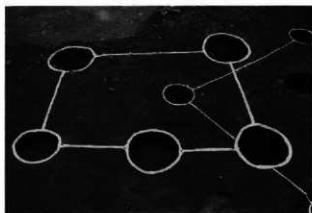
1号掘立柱建物跡（南から）



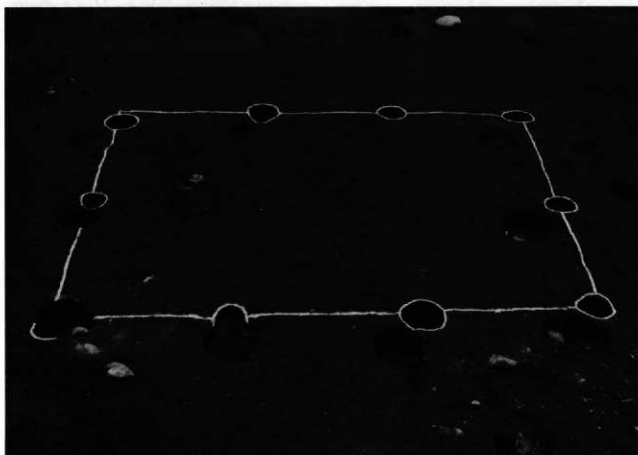
2・3号掘立柱建物跡（北から）



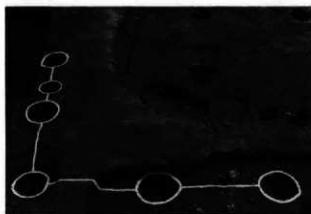
2号掘立柱建物跡 (北西から)



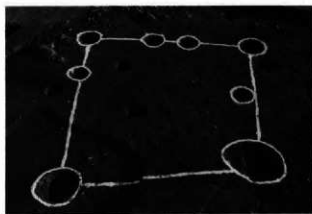
3号掘立柱建物跡 (北から)



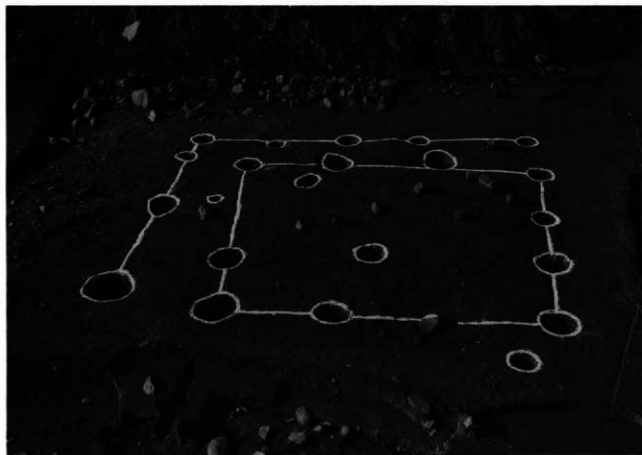
4号掘立柱建物跡 (南から)



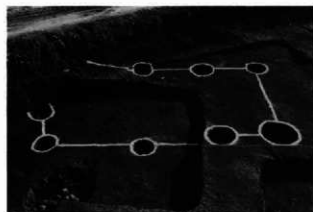
5号掘立柱建物跡 (北から)



7号掘立柱建物跡 (北から)



6号掘立柱建物跡 (南から)



8号掘立柱建物跡 (北から)



1号土坑 (東から)



2号土坑 (南から)



3号土坑 (南から)



4号土坑罐・遺物出土状況(南から)



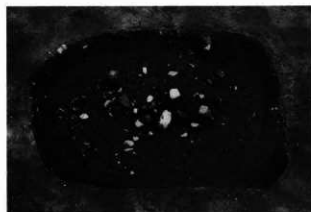
4号土坑(南から)



5号土坑(南から)



10号土坑(北から)



11号土坑遺物出土状況(南から)



11号土坑(南から)



12号土坑(北から)



13号土坑(南から)



14号土坑 (西から)



15号土坑 (南から)



16号土坑 (南から)



20・21号土坑 (北から)



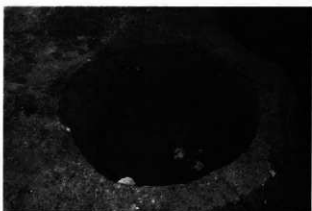
20号土坑遺物出土状況 (東から)



20号土坑 (北から)



21号土坑 (北から)



22号土坑 (東から)



23号土坑 (南から)



25号土坑 (東から)



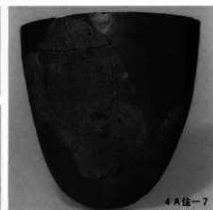
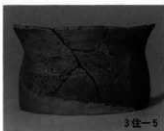
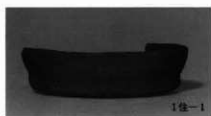
24号土坑 (北から)

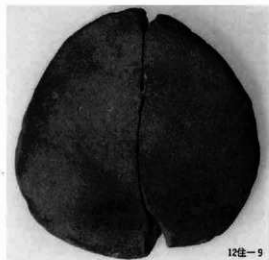
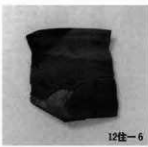
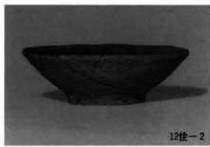
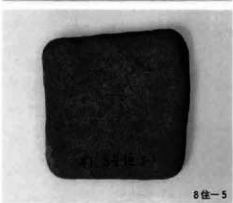
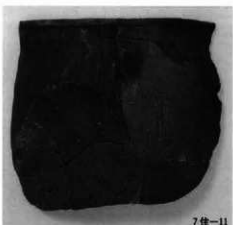
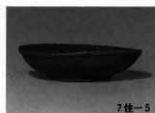


26号土坑 (西から)



2号集石 (西から)



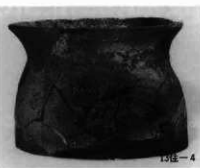




13位-1



13位-2



13位-4



13位-5



13位-6



14位-1



14位-2



14位-4



14位-5



14位-3



15位-1



15位-4



15位-5



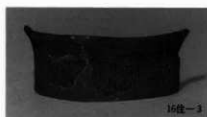
16位-1



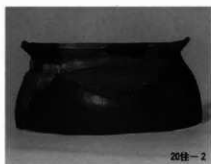
15位-3



15位-2



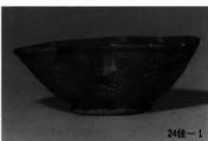




20住-2



20住-3



24住-1



24住-2



24住-5



24住-4



24住-6



25住-1



25住-2



25住-3



25住-8



25住-9



25住-15



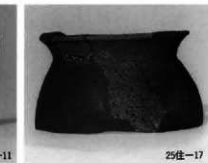
25住-16



25住-10

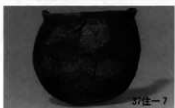
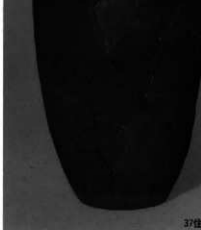
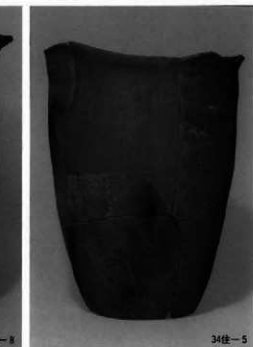
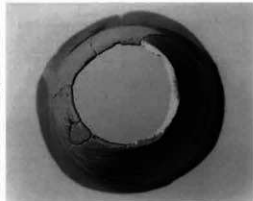


25住-11



25住-17







37住-9



37住-11



38住-1



38住-4



40住-3



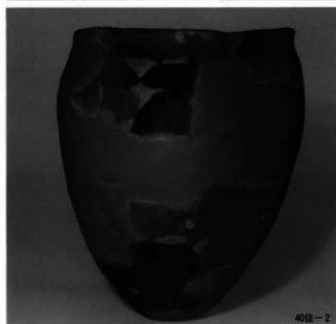
38住-2



38住-6



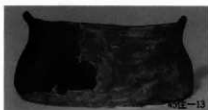
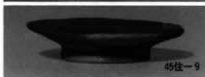
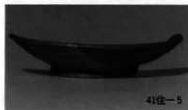
40住-1



40住-2



38住-7







53住-4



53住-5



53住-7



55住-2



53住-6



56住-1



56住-3



56住-8



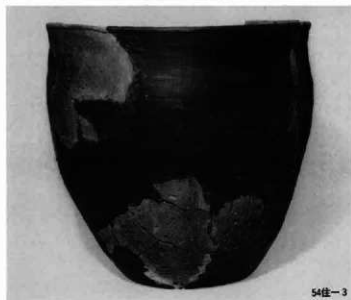
56住-10



54住-1



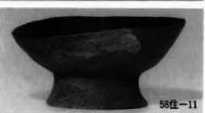
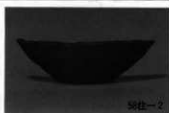
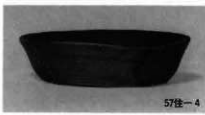
54住-2

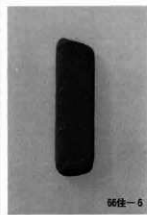


54住-3



56住-11







67住-9



67住-10



67住-11



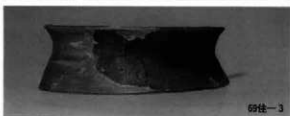
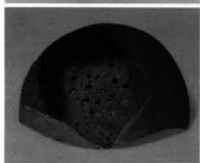
67住-12



67住-13



69住-1



69住-3



70住-1



70住-2



69住-1



70住-3



70住-5



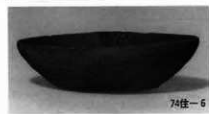
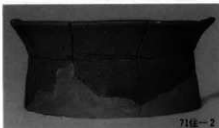
69住-5

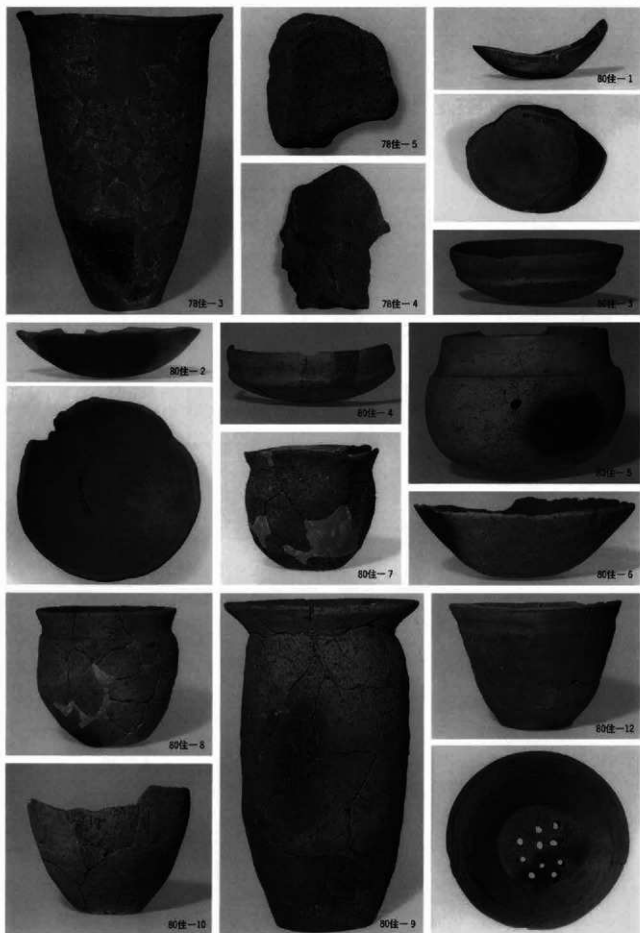


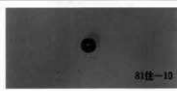
70住-6



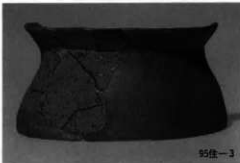
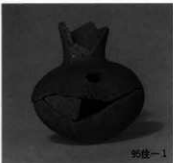
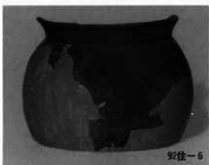
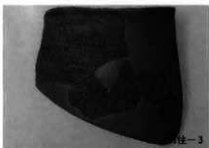
70住-7

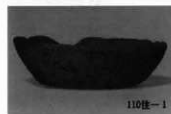
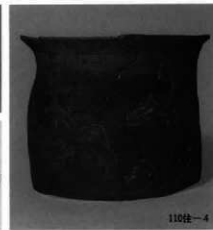
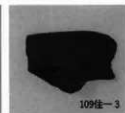
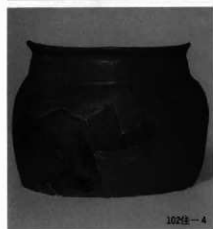


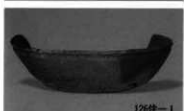
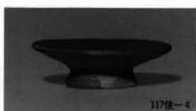


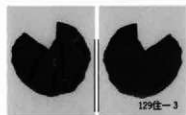
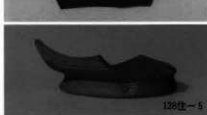


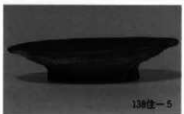


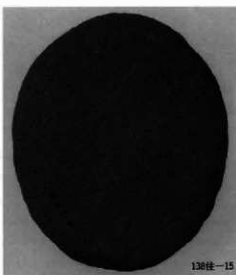
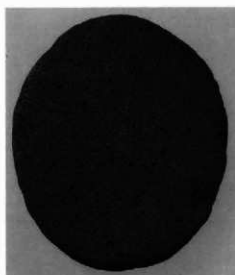












138住-15



139住-8



139住-9



139住-1



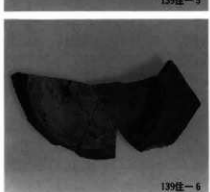
139住-5



139住-11



139住-2



139住-6



139住-14



139住-15



139住-4



139住-12



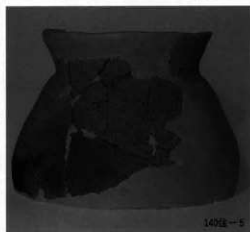
139住-7



140住-2



140住-3



140住-5



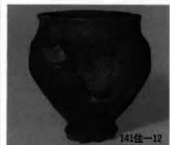
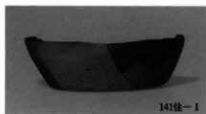
140住-1

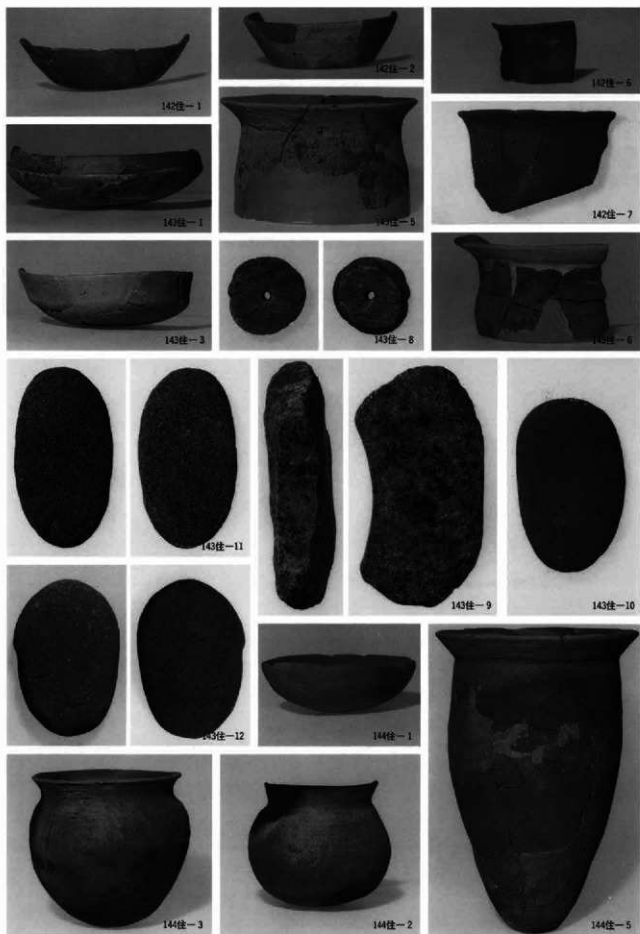


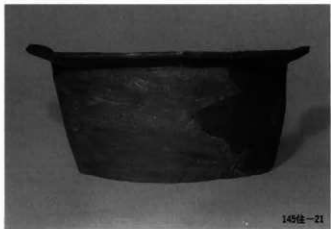
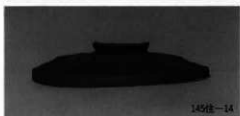
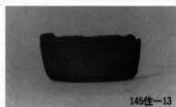
140住-8



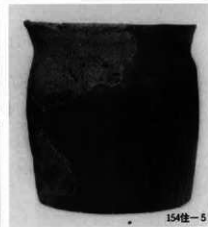
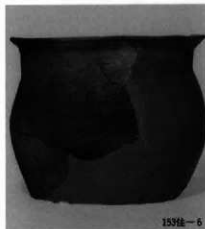
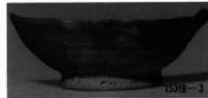
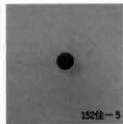
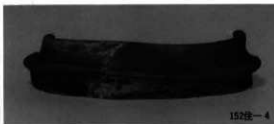
140住-9

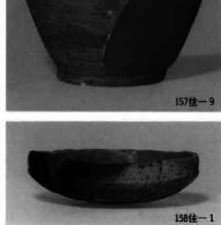
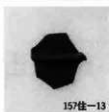
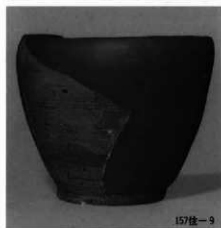
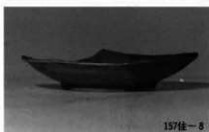
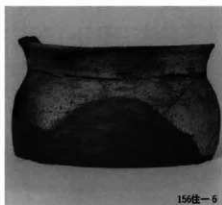
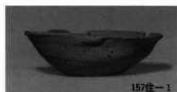
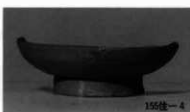






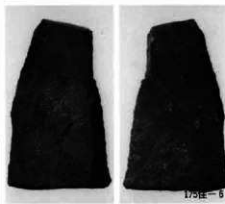
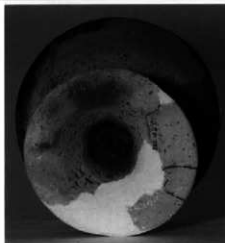


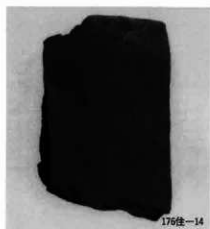
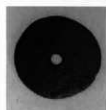
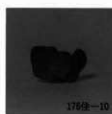
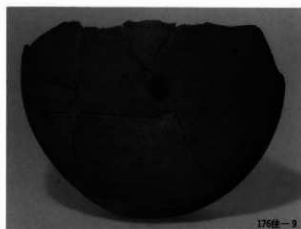


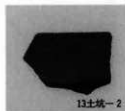






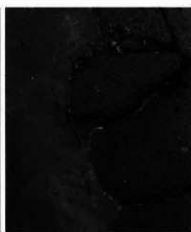








25土坑-1



26土坑-1



26土坑-6



26土坑-7



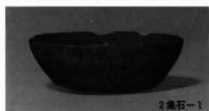
26土坑-2



26土坑-3



26土坑-8



2集石-1



2集石-2



2集石-3



2集石-4



Gr-2



Gr-3



Gr-1



Gr-4



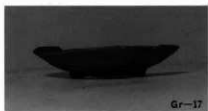
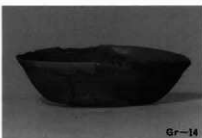
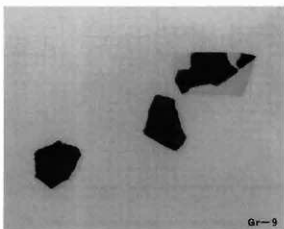
Gr-6

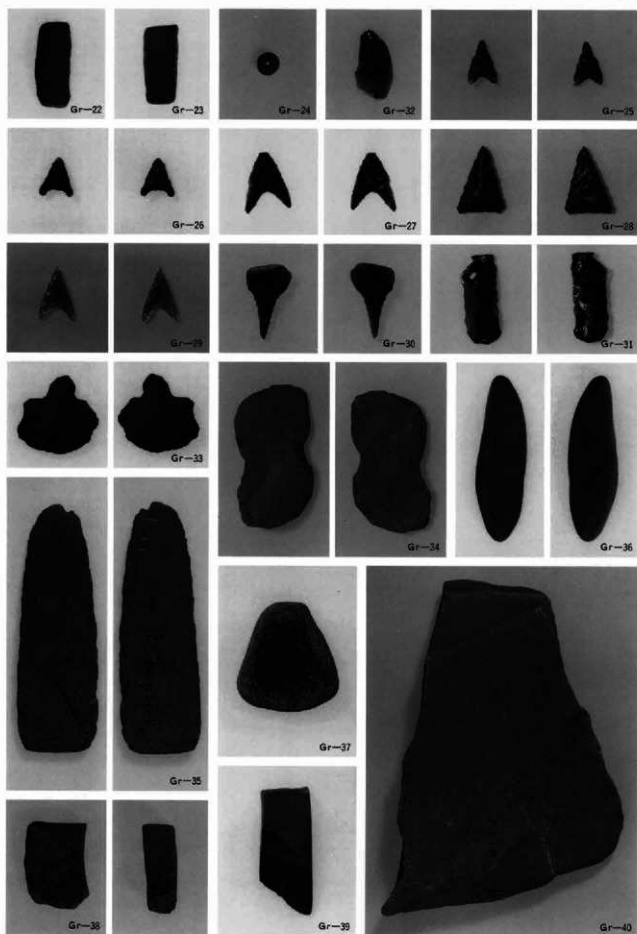


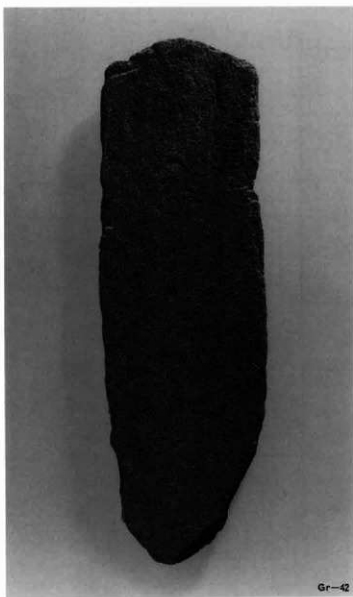
Gr-5



Gr-7







群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告第168集

南蛇井増光寺遺跡Ⅲ

(本文編)











関越自動車道(上越線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第22集

平成6年3月20日 印刷

平成6年3月25日 発行

編集・発行/群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北郷村大字下箱田784-2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷/朝日印刷工業株式会社

	誤	正
290頁 第337図	 9世紀前半  9世紀前半  10世紀前半  10世紀後半  11世紀代	 9世紀前半  9世紀後半  10世紀前半  10世紀後半  11世紀代

訂正

第4章第2節「南蛇井増光寺遺跡B区出土の灰釉陶器について」の4.、在地土器との供伴関係についての項において、138号住居跡を黒笹14号窯式期と認定したが、138号住居跡からは黒笹14号窯式期の碗と光ヶ丘1号窯式期の碗が共伴して出土しており、黒笹14号窯式期の碗は伝世品と考えられ、本住居跡の時期と鑑別のないのは光ヶ丘1号窯式期のものである。また、138号住居跡の光ヶ丘1号窯式期の碗と同じく光ヶ丘1号窯式期の碗を供伴する30号住居跡・41号住居跡の碗を比較すると、138号住居跡のほうが古い様相がみられる。よって138号住居跡は光ヶ丘1号窯式期の前期、30号住居跡・41号住居跡は光ヶ丘1号窯式期の後期にあたる。

なお、296頁の黒笹14号窯式期は光ヶ丘1号窯式期前期、光ヶ丘1号窯式期は光ヶ丘1号窯式期後期に、また4項中のものも前述のように訂正願いたい。